

# 講義概要

— 2024 —



山口学芸大学  
Yamaguchi Gakugei University

# 目 次

## (1) 教養科目

1 リベラルアーツ .....	7
2 文系DX .....	25

## (2) 専門科目

1 学科目 .....	34
2 子ども学 .....	151
3 グローバル学 .....	158
4 DXによる地域課題解決 .....	162
5 教育実習 .....	166
6 保育実習 .....	177
7 実践演習 .....	184
8 ゼミナール .....	186

# シラバスの見方

山口学芸大学

シラバス(講義概要):シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

授業科目名	A	教員名	E	免許・資格等との関係	保育士		H									
					幼稚園教諭		H									
					小学校教諭		H									
					中学校教諭(英語)		H									
					高等学校教諭(英語)		H									
ナンバリングコード	B	年次担当	F	特別支援学校教諭		H										
授業形態	C			SPARC教育プログラム		H	H									
単位数	D	授業科目の取扱い	G	卒業要件	初等幼児教育専攻		I									
					英語教育専攻		I									
教科及び教職に関する科目	J教科及び教職に関する科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)															
各科目に含めることが必要な事項	J															
教科目	J必修科目・選択必修科目(保育士)															
系列	J															
授業テーマ	K															
授業概要	L															
到達目標	M															
学修成果との関係	①	N	②	N	③	N	④	N	⑤	N	⑥	N	⑦	N	⑧	N
履修条件・注意事項	O															
授業計画	P					到達目標										
						P		P								
アクティブ・ラーニング	Q															
成績評価基準	評価の方法:R 評価の基準:															
フィードバックの方法	S															
時間外の学習について	予習:T 復習:															
教材にかかわる情報	テキスト:U 参考書: 参考資料等:															
実務経験について	V															
担当者からのメッセージ等	W															

- A 授業科目名を記載しています。
- B 科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- C 授業形態を記載しています。 講義・演習・実技・実習等。
- D 単位数を記載しています。
- E 担当教員名を記載しています。
- F 履修年次と開講期間を記載しています。
- G 面接授業科目または遠隔授業科目かを記載しています。(※卒業要件として修得すべき単位の内、遠隔授業科目は60単位以内)
- H 免許・資格等を取得するために必要な科目として必修・選択を記載しています。  
また、SPARC教育プログラムで身につける資質・能力について記載しています。  
※詳しくはSPARC教育プログラム〇〇〇〇を確認してください。
- I 卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- J 免許・資格を取得するために必要な科目について必要事項・科目区分・系列を記載しています。
- K 授業のねらいやテーマについて記載しています。
- L 授業のあらましを記載しています。
- M ディプロマ・ポリシーに関する到達目標を記載しています。
- N 卒業までに修得することが期待される資質・能力である①～⑧の「学修成果」との関係を示しています。  
※詳しくは5ページの卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を確認してください。  
関係性がある項目に「・」、関係性が強い項目に「○」、関係性が特に強い項目に「◎」を記載しています。
- O 履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。
- P 授業スケジュール(各回で扱う内容等)、到達目標、授業の方法(面接・オンデマンド・同時双方向)を記載しています。
- Q 主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
- R 成績の評価の方法と評価の基準を記載しています。
- S 課題等(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法について記載しています。
- T 担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- U 教科書及び補助教材について記載しています。
- V 実務経験をいかした教育内容について記載しています。
- W 担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。

## 教育課程ナンバリング・システムについて

教育課程ナンバリング・システムは、山口学芸大学で開講されている全ての授業科目(教養科目・学部専門科目・大学院専門科目)に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格等との関係性等に応じて特定の記号や数字を付与し、ナンバリングコードとして示すことにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

ナンバリングコードは、「CM1-1001-2111100」のように表記され、以下の①～④のとおり構成されています。

CM	1	-	1001	-	2111100
①学部等領域コード	②学年水準コード		③科目区分識別コード		④免許・資格等コード

①学部等領域コード	科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。 UM: 大学院教育学研究科 (University+Master) CM: 教育学部共通開設科目 (Common) UC: 初等幼児教育専攻開設科目 (University+Childhood) UL: 英語教育専攻開設科目 (University+Language)
②学年水準コード	科目の開講学年を示す1桁の数字で表しています。数字と授業レベルは必ずしも一致するものではありません。 1: 1年次開設科目 2: 2年次開設科目 3: 3年次開設科目 4: 4年時開設科目 5: 大学院1年次開設科目 6: 大学院2年次開設科目 7: その他
③科目区分識別コード	教育課程の科目区分(1桁)と授業科目の通し番号(3桁)で表しています。 1: 教養科目 2: 学科目 3: 子ども学 4: グローバル学 5: 教育実習 6: 保育実習 7: 実践演習 8: ゼミナール 9: その他
④免許・資格等コード	桁数で学校種等を示し、番号で必修・選択を表しています。 <b>【桁数】</b> 1桁目 保育士資格に関する科目 2桁目 幼稚園教諭免許に関する科目 3桁目 小学校教諭免許に関する科目 4桁目 中学校教諭免許に関する科目 5桁目 高等学校教諭免許に関する科目 6桁目 特別支援学校教諭免許に関する科目 7桁目 SPARC 教育プログラムに関する科目 <b>【番号】</b> 0: 免許・資格等に関係なし 1: 必修科目 2: 選択科目  <b>※表記例(日本国憲法の場合)</b> 保育士資格としては「選択科目」→ 1桁目は、2 幼稚園教諭免許としては「必修科目」→ 2桁目は、1 小学校教諭免許としては「必修科目」→ 3桁目は、1 中学校教諭免許としては「必修科目」→ 4桁目は、1 高等学校教諭免許としては「必修科目」→ 5桁目は、1 特別支援教諭免許としては「免許・資格等に関係なし」→ 6桁目は、0 SPARC 教育プログラムとしては「免許・資格等に関係なし」→ 7桁目は、0 したがって、日本国憲法の免許・資格等コードは、2111100 と表記される。

## I. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

本学では、建学の精神「至誠」のもと、新しい社会の変革の中で、強い存在感を示す教育者・保育者の養成に向けて、以下に示す学修成果(学士力)を身につけ、かつ、所定の在学期間を満了し、基準となる単位を修得した者に対して卒業を認定し、学士(教育学)の学位を授与します。

### (1) 知識理解と実践力

各学問分野における基本的な知識や幅広い教養を修得することで豊かな人間性や広い見識を身につけ、人間の成長・発達・学びについての専門的知見と技能をもって子どもを理解し、豊かな学びへ導く実践力を有している。

### (2) 汎用的能力

論理的思考力、情報技術活用能力、表現力、コミュニケーション力などの諸能力をもち、多様性や柔軟性を備えて社会生活や職業生活に応用できる。

### (3) 態度・志向性

教育者・保育者としての使命感と深い教育的愛情、生涯にわたって自ら学び続けようとする意志をもつとともに、地域社会において多様な人々と連携・協働し、地域コミュニティをつなごうとする態度と志向性を有している。

### (4) 総合的な学修経験と創造的思考力

グローバルな視野をもって社会の事象や困難な課題、新しい課題に向き合い、大学での学びを総合的に活用して創造的に考え、取り組むことができる。

## 教育者・保育者として身につけるべき資質・能力(学修成果)

本学では、学生が卒業までに修得することが期待される資質・能力を「学修成果」として次のように示しています。

実践力	(1) 知識理解と	①豊かな人間性と広い見識	教育者・保育者の基盤となる基本的知識や幅広い教養を修得し、豊かな感性や高い倫理観、広い見識を身につけている。
		②教育・保育に関する専門的知識・技能と教育的実践力	人間の成長・発達・学びについての専門的知見や技能をもって子どもを理解し、教育的実践にいかすことができる。
(2) 汎用的能力		③専門職としての論理的思考力、情報技術活用能力	事象や課題について、文献や資料、ICT・数理データ等を活用し、多面的に分析・考察し、解決する意識と対応力をもつ。
		④教育・保育現場で求められる表現力・コミュニケーション力	積極的に他者と関わり、気持ちや考えを伝え合うとともに、喜びや感動を他者と共有することができる。
(3) 態度・志向性		⑤教育者・保育者としての使命感と教育的愛情	教育者・保育者としての責任と使命感を自覚して、生涯にわたって自ら学び続ける意志をもつとともに、子どもの人権と個性を尊重し、一人ひとりに寄り添って学びを支援することができる。
		⑥地域社会の一員としての自覚	地域社会において他者と連携・協働し、地域コミュニティをつなぎながら教育・保育・子育てに関わろうとする態度と志向性を持ち続けることができる。
と創造的思考力	(4) 総合的な学修経験	⑦グローバルな視野	グローバルな視野をもって社会の事象や諸課題に向き合い、解決に向けて取り組むことができる。
		⑧創造的思考力と実践力	大学での学びを総合的に活用して、子どもの豊かな学びの実現に向けて創造的に取り組むことができる。

# 教 養 科 目

## Ⅰ リベラルアーツ

日本国憲法	7
心理学	8
哲学	9
文学	10
郷土史	11
情報処理	12
データ科学とプログラミング	13
暮らしのなかの科学	14
日本語コミュニケーション	15
英語コミュニケーションⅠ	16
英語コミュニケーションⅡ	17
音楽概論	18
美術概論	19
大学教育基礎演習	20
地域理解	22
体育〈実技〉	23
体育〈講義〉	24

## Ⅱ 文系DX

データ科学のための基礎数学入門	25
データ科学のための基礎数学	26
データ科学と社会Ⅰ	27
データ科学と社会Ⅱ	28
統計学概論	29
人工知能概論	30
知的財産入門	31

授業科目名	日本国憲法	教員名	香川 智弘 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-1001-2111100	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	日本国憲法															
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業テーマ	国民主権、基本的人権															
授業概要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。															
到達目標	1. 市民としての法感覚を養う。 2. 憲法の基本理念を知る。 3. 人権感覚を養う。 4. 憲法的視点から今日の社会を学ぶ。															
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	・	④	・	⑤	○	⑥	○	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 日本国民の要件 国籍法					1,3,4	面接									
	2. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原則①国民主権					1,2	面接									
	3. 日本国憲法の基本原則②平和主義、基本的人権の尊重					1,2,3	面接									
	4. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 平等権・労働条件の男女平等					1,3,4	面接									
	5. 日本国憲法の人権規定①法の下での平等 尊属殺重罰事件					1,3,4	面接									
	6. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 内心の自由、信教の自由、学問の自由					1,3,4	面接									
	7. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 表現の自由					1,3,4	面接									
	8. 日本国憲法の人権規定③身体的自由権					1,3,4	面接									
	9. 日本国憲法の人権規定④経済的自由権					1,3,4	面接									
	10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権					1,3,4	面接									
	11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権					1,3,4	面接									
	12. 新しい人権①生命に対する権利					1,3,4	面接									
	13. 新しい人権②プライバシーの権利					1,3,4	面接									
	14. 国民主権と統治機構①立法権、行政権					1,2,4	面接									
	15. 国民主権と統治機構②司法権、地方自治					1,2,4	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(80%)、②授業態度(20%)で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：講義内容についての質問に解答できる。 ②関心・意欲、態度：授業後のレポートの記述内容が適切である															
フィードバックの方法	理解度を確認するために授業後に小テスト(レポート)を行い、採点して返却する。															
時間外の学習について	予習：次回の内容にあたるテキストの箇所を目を通す。各回90分程度 復習：内容を復習する。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：香川智弘「憲法講義」 参考資料等：六法全書															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	世の中の動きに関心を持って下さい。 担当者の連絡先・E-mail：kagawa@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	心理学	教員名	田邊 敏明 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1002-2000000	年次配当	1年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	教養科目(保育士)															
系 列	教養科目															
授業テーマ	行動の科学、知覚・認知・学習のメカニズム、思考・知能の様態、発達の原理、人格の形成、社会心理															
授業概要	行動の科学としての「心理学」について、広範囲の領域にわたり基礎的に理解するための授業である。人間行動の見方と理解について、行動の基礎としての知覚・認知及び学習のメカニズム、思考・知能の様態、発達の原理、人格の形成や適応、社会心理、といった幅広い領域に関して、科学的学問としての立場から概観する。日常生活の中で一般的に見られる、また体験されるような現象について、心理学的な見地から理解を深める。															
到達目標	1. 行動の基礎となる知覚や認知といった情報の処理過程について理解する。															
	2. 行動の習得と学習の理論について理解する。															
	3. 思考や知能の様態について理解する。															
	4. 発達の原理について理解する。															
	5. 個人差と人格の形成および適応について理解する。															
	6. 社会的な心理や集団による影響について理解する。															
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 心をどのように捉えるか(科学としての心理学)					1	面接									
	2. 感覚の見方と理解					1	面接									
	3. 知覚の見方と理解					1	面接									
	4. 認知の見方と理解					1	面接									
	5. 日常生活に見られる知覚や認知の現象について					2	面接									
	6. 記憶の見方と理解					2	面接									
	7. 学習の見方と理解					2	面接									
	8. 欲求の見方と理解					2	面接									
	9. 思考の見方と理解					3	面接									
	10. 知能の見方と理解					3	面接									
	11. 発達の見方と理解					4	面接									
	12. 人格の見方と理解					5	面接									
	13. 人格の適応の見方と理解					5	面接									
	14. 社会心理の見方と理解					6	面接									
	15. 社会心理に見られる現象について					6	面接									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション：毎回講義中に、ディスカッションを用いた意見交換を展開する。															
成績評価基準	評価の方法：①中途でのレポート提出(30%)、②期末試験(70%)により総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断、知識・理解、関心・意欲：根拠を明確にして自説を述べている ②知識・理解：授業内容についての問題に解答できる															
フィードバックの方法	レポートについては優れている事例をあげて解説を加える。試験の結果については、希望者に期末試験後に応答する。															
時間外の学習について	予習：テキストを中心にして配布した資料にも目を通しておくこと。(各回90分程度) 復習：講義資料(テキスト準拠)と配付資料に基づいて資料集やノートを作成して理解を深める。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：比喩から学ぶ心理学－心理学理論の新しい見方－(田邊敏明著)2000 北大路書房 参考資料等：特には指定しないが、講義内容に関する資料を適宜配布する。															
実務経験について	国立大学附属中学校長(3年間)の経験に基づいて、子どもたちの心理発達に関する課題を提供します。大学の臨床心理センターの研修指導員としての経験やスクールカウンセラーの経験から得た心理学に関する情報を提供します。															
担当者からのメッセージ等	配付資料を資料集としてまとめたり、書き込みを行ったりした自筆の「心理学資料集・ノート」の作成が課せられます。配布する資料を順次資料集としてまとめ、すべてを授業時に持参して下さい。定期試験では資料への書き込みを含む自筆のノートの持ち込みを許可します。 担当者の連絡先・E-mail：ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp															

授業科目名	哲学	教員名	岡村 康夫 (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1003-0000001	年次配当	1年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修 ①-a										
授業テーマ	人生とは、社会とは、歴史とは何か															
授業概要	「人間の生涯ということ」を、教材をもとに理解し、そこに述べられている種々の問題について考える授業である。今回は、上田閑照著『西田幾多郎～人間の生涯ということ～』を教材として、毎回音読しながら、互いに意見を述べ合い、一人一人が主体的に考え、表現することを中心に授業を展開する。															
到達目標	1. 「人間の生涯といこと」について知ることができる。 2. 「人間の生涯」について「人生」、「歴史的社会的生」、「境涯」から理解することができる。 3. 「人間の生涯ということ」について、主体的に考えることができる。 4. 考えたことについて説明し、それに対する他者の意見を聞いて議論し、発表できる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	◎	⑧	◎
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 授業の進め方、受講上の注意、第一章 人間の生涯ということ 「西田幾多郎」, 「世界と海」				1,4	面接										
	2. 第一章の続き 「或教授の退職の辞」				1,4,	面接										
	3. 第一章の続き (1) 『『人生』ということ』、(2) 「歴史的社会的生」				1,2,4	面接										
	4. 第一章の続き 「近時代と巨時代」				2,4	面接										
	5. 第一章の続き 「境涯といこと」				2,4	面接										
	6. 第二章 明治の青年 「庄屋の総領に生まれる」、「北条時敬先生」				2,4	面接										
	7. 第二章の続き 「我尊会仲間の交わり」、「『黙々として独り』の選科生時代」				2,4	面接										
	8. 第二章の続き 「帰郷と就職、西田家の没落」、「結婚」、「書物好き、読書好き」				2,4	面接										
	9. 第三章 或る一日 明治三十八年一月五日 「金沢時代」、「生涯の縮図としての或る一日」				2,4	面接										
	10. 第三章の続き 「旅順陥落に幾多の犠牲を思う」、「前途の遠慮を思う」、「黒船から日露戦争まで」				2,4	面接										
	11. 第三章の続き 「近代日本の二重の課題」、「日露戦争」、「日露戦争以後の近代日本」				2,4	面接										
	12. 第三章の続き 「夏目漱石と西田幾多郎」				2,4	面接										
	13. 第三章 禅と哲学 「坐禅の日々」、「坐禅と参禅」				2,4	面接										
	14. 第三章の続き 「寸心居士を賜る」、「無字を許さる。されども・・・」、「球が転ずる」				2,3,4	面接										
	15. 第三章の続き 「哲学への関心」				2,3,4	面接										
◎最終課題																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・代表者によるプレゼンテーション：キーワードの取り出し、理解、考察、意見発表															
成績評価基準	評価の方法：①最終課題(40%)、②講義への参加態度(30%)、③毎回の課題提出(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：「人間の生涯とは何か」についての多面的見方を知り、理解できる。 ②関心・意欲、態度：グループ討論で自分の意見を積極的に発言する ③思考・判断、関心・意欲：各回の内容について、自分の見解を表現することができる。															
フィードバックの方法	講義内に、グループ討論を繰り返し、毎回その考察を課題とします。その内容については、次回の講義において紹介します。															
時間外の学習について	予習：次回該当箇所の音読、理解(各回90分程度)。 復習：講義内で指示(各回90分程度)。															
教材にかかわる情報	テキスト：『西田幾多郎一人間の生涯ということ』 参考書：上田閑照著『私とは何か』『禅仏教』、『十牛図』 参考資料：上田閑照著『ことばの実存』、『実存と虚存』															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	哲学は「己事究明」に尽きます。講義では、上田閑照著『西田幾多郎一人間の生涯ということ』をテキストに、その人間理解を通して、「自己に真摯に向き合うこと」を考えて頂きたいと思っております。授業への積極的な参加を期待します！ 担当教員の連絡先・E-mailアドレスは、授業内で周知します。															

授業科目名	文 学	教員名	森野 正弘 (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-1005-0000000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	日本文学作品															
授業概要	日本文学作品を読解するための基本的な知識を身につけるとともに、読解を通じて豊かな人間性を培うための授業である。日本文学にはさまざまな主題が展開し、それぞれの作品において個性ある表現世界が作り出されている。授業では、古典の物語や近現代の小説を取り上げ、本文を講読しながら各作品の主題と特質を把握し、そこに描かれている価値観や心理の多様性と普遍性について検討する。なお、前半は教員による講義、後半は受講生による発表形式とする。															
到達目標	1. 日本文学の主題や表現上の特質を発見するための基本的知識や教養を身につけることができる。 2. 日本文学作品に描かれた登場人物の心情を通じて高い倫理観を身につけることができる。 3. 日本文学作品の読解を通じて豊かな感性を身につけることができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 文学が拓く世界：詩的言語に関する講義。					1	面接									
	2. 物語文学の誕生①：『竹取物語』を読解し、分析する。					1	面接									
	3. 物語文学の誕生②：『竹取物語』の主題を検討する。					1,3	面接									
	4. 物語文学の展開①：『伊勢物語』を読解し、分析する。					1	面接									
	5. 物語文学の展開②：『伊勢物語』の主題を検討する。					1,3	面接									
	6. 物語文学の達成①：『源氏物語』「帚木」巻を読解し、主題を検討する。					1,3	面接									
	7. 物語文学の達成②：『源氏物語』「夕顔」を読解し、主題を検討する。					1,3	面接									
	8. 小説が描く子どもたち①：芥川龍之介の短編小説を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
	9. 小説が描く子どもたち②：谷崎潤一郎の短編小説を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
	10. 小説が描く子どもたち③：安岡章太郎の短編小説を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
	11. 小説が描く子どもたち④：菊池寛の戯曲を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
	12. 現代の小説を読む①：村上春樹『パン屋再襲撃』を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
	13. 現代の小説を読む②：村上春樹『回轉木馬のデッド・ヒート』の主題を検討する。					1,2,3	面接									
	14. 現代の小説を読む③：村上春樹『中国行きのスロウボート』を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
	15. 現代の小説を読む④：山田詠美『晩年の子供』を読解し、主題を検討する。					1,2,3	面接									
◎定期試験					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション：各作品の主題を検討する際には、適宜レスポンスカードを作成し、それに基づいてディスカッションを行う。															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(80%)、②授業態度(20%)により評価する。 評価の基準：①知識・理解：作品の主題や表現上の特質についての問題に解答できる。 ②思考・判断：レスポンスカードにおいて登場人物の心情理解や読解を通じて得た感動が主題や表現に即して記述されている。															
フィードバックの方法	レスポンスカードにコメントを付けて返却する。															
時間外の学習について	予習：授業で取りあげる作品の作者について、文学史上の位置づけを調べておくこと。各回90分程度 復習：作品の主題について200字程度に要約しておくこと。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	主要な場面を抜粋したプリントを配付します。なお、古典作品を読む際は、現代語訳を参照します。 E-mail: morino@yamaguchi-u.ac.jp (森野正弘)															

授業科目名	郷土史	教員名	河合 良房(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1005-0000000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	文化財、郷土愛、プレゼンテーション、評価能力、地域活性化															
授業概要	建学の精神や松下村塾について理解することで、本学で学ぶ目的を意識化し、学びの動機づけを行う。文化財を中心に、郷土の歴史や文化、自然などについて学び、各自設定したテーマで調査・研究を行う。課題レポート及びプレゼン資料を作成し、調査研究の成果を自分の言葉で伝える表現方法を修得する。発表を相互に評価し合うことで、学び合う姿勢や評価能力を高める。文化財を教材化する上でのポイントについて考える。															
到達目標	1. 建学の精神について理解することで本学で学ぶ意欲を高め、文化財を通して郷土に誇りと愛着を持てる。															
	2. 山口県の歴史や文化について理解を深め、自分の言葉で郷土について語るができる。															
	3. 調査、研究の成果を資料にまとめて発表するとともに、互いに発表を評価し合うことでブラッシュアップできる。															
	4. 文化財を中心とした地域資源を生かして、地域の活性化に取り組む意欲を高める。															
	5. 郷土の文化財を教材として活用する視点を持つことができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	○	④	・	⑤	・	⑥	○	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 建学の精神と松下村塾					1	面接									
	2. 空間軸で捉えた山口県					2	面接									
	3. 時間軸で捉えた山口県					2	面接									
	4. 山口県の国宝					2	面接									
	5. 山口県の重要文化財Ⅰ(建造物)					2	面接									
	6. 山口県の重要文化財Ⅱ(絵画・彫刻・工芸品)					2	面接									
	7. 山口県の史跡・名勝					2	面接									
	8. 山口県の特別天然記念物					2	面接									
	9. 山口県の重要民俗文化財					2	面接									
	10. 山口県の人間国宝					2	面接									
	11. 山口県の重要伝統的建造物群保存地区					2	面接									
	12. 山口県の登録文化財					2	面接									
	13. 文化財の価値と活用Ⅰ(発表及び相互評価)					3,4	面接									
	14. 文化財の価値と活用Ⅱ(発表及び相互評価)					3,4	面接									
15. 郷土の文化財の教材化					5	面接										
定期試験																
アクティブ・ラーニング	フィールドワーク、プレゼンテーション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①課題レポート(10%)②授業態度・授業への参加度(10%)③調査研究・発表(40%)④定期試験(40%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解及び思考・判断：調査研究の成果を簡潔にまとめ、自分の言葉で表現できる。 ②思考・判断及び関心・意欲：教員の説明や他学生の発表に関心を持って聴き、疑問点は質問できる。 ③関心・意欲及び技能・表現：主体的に設定したテーマでプレゼンするとともに、互いに評価し合える。 ④知識・理解及び思考・判断：授業に関する基本事項について理解し、基礎的問題に解答できる。															
フィードバックの方法	質問については適宜対応し、プレゼンは相互評価によりコメントを出し合うことで、長所や課題を認識して改善に繋げる。															
時間外の学習について	予習：テーマについて事前に調べておく。「文化財の価値と活用」のテーマを決め、調査・研究に取り組む。(各回90分程度) 復習：分かりやすいプレゼン資料と課題レポートを作成する。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし(プリント配付) 参考書：山口県の歴史散歩(山川出版社)、山口県の歴史(山川出版社)、山口県文化財(山口県文化財愛護協会) 参考資料：山口県史及び各市町発刊の市・町史、文化財関連HP															
実務経験について	高校教員(日本史)の経験：文化財を通して郷土を再発見し、地域への理解と愛着が高まる話をします。															
担当者からのメッセージ等	郷土の歴史について学ぶことで、皆さん自身や児童が郷土への誇りと愛着を持ち、地域の活性化への意欲を高めるようになることをめざします。連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	情報処理	教員名	成富 敬 (単独)	免許・資格 との関係	保育士	選択		
					幼稚園教諭	選択		
ナンバリングコード	CMI-1007-211110	年次配当	1年前期		小学校教諭	選択		
					中学校教諭(英語)	選択		
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	選択		
					特別支援学校教諭			
単位数	2			卒業要件	SPARK教育プログラム			
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目 (幼稚園・小学校・中学校・高等学校)							
各科目に含める ことが必要な事項	教養科目							
教科目	教養科目(保育士)							
系列	教養科目							
授業テーマ	情報化社会、情報リテラシー							
授業概要	情報化社会で必要となる情報リテラシー、倫理、セキュリティについて修得する授業である。情報に関連する一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力の修得を目指す。授業は講義と演習を組み合わせで行う。内容理解のため授業中や時間外に演習課題を出す。							
到達目標	1. 情報機器やネットワークに関する基本的事項を説明できる。							
	2. パソコンで情報を取り扱うための情報リテラシーを身に付ける。							
	3. 文章作成、表計算、プレゼンテーション、インターネットおよび電子メールを理解し、活用できる。							
	4. 情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。							
学修成果との関係	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
履修条件・注意事項								
授業計画						目標	方法	
	1. オリエンテーション：機器の操作(コンピュータの基本)、ネットワークと情報モラル						面接	
	2. 電子メールの使い方、Windowsの基本操作等					1,2	面接	
	3. 文章作成(Wordの基本操作)					2,3	面接	
	4. 文章作成(書式、図・表の挿入)					2,3	面接	
	5. 文章作成(文章課題の作成)					2,3	面接	
	6. 表計算(Excelの基本操作)					2,3	面接	
	7. 表計算(ワークシート、参照)					2,3	面接	
	8. 表計算(式と関数1)					2,3	面接	
	9. 表計算(式と関数2、グラフ作成)					2,3	面接	
	10. Excel活用のノウハウ					2,3	面接	
	11. 情報化社会における諸問題(SNS・モラル・セキュリティ)					4	面接	
	12. プレゼンテーション1:(PowerPointの基本操作)					3	面接	
	13. プレゼンテーション2:(スライド作成、アニメーション効果)					3	面接	
	14. プレゼンテーション3:(自己紹介プレゼン資料作成・発表)					3	面接	
	15. プレゼンテーション4:(自己紹介プレゼンII)					3	面接	
	定期試験(プレゼンテーション資料の完成・発表によって試験に代えることがある)							
アクティブ・ラーニング	講義で課題を課し、提出物に対し留意点を示し指導する。プレゼンテーションでは、質疑応答に際し、学生が主体的に質問を構成し、誠実に応答する姿勢を重視する。							
成績評価基準	評価の方法：①課題(50%)、②授業への取り組み(20%)、③定期試験(30%)として総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、関心・意欲：各回の課題の記述内容が適切である。 ②思考・判断、態度：自己紹介プレゼンテーションの発表、質疑応答が積極的である。 ③知識・理解：授業で扱った内容についての問題に解答できる。							
フィードバックの方法	課題の留意点を示し指導する。 指導は個別の留意点や共通の留意点を含む。							
時間外の学習について	予習：次回の講義内容を把握し、予習しておくこと。(各回90分程度) 復習：前回の講義での留意点等を把握し、疑問があれば次回の講義等で質問すること。(各回90分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。資料を配布する。 参考書：授業時に適宜提示する。							
実務経験について								
担当者からのメッセージ等	情報処理(1年前期)、ICTを活用した教育の理論と方法(1年後期)、暮らしの中の科学(3年前期)、及びデータ科学とプログラミング(3年後期)の一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。(授業中に作成した各種データの保存のため、USBメモリを準備してください。また、USBメモリの管理に注意すること。)							

授業科目名	データ科学とプログラミング	教員名	成富 敬 長 篤志 【オムニバス】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-1007-0000001	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修 ①-a										
授業テーマ	情報科学、データサイエンス、プログラミング教育															
授業概要	小学校へのプログラミング教育の導入に対応し、プログラミングやICT機器活用の基礎を理解するための授業である。自然科学が物質やエネルギーの科学であるのに対して、情報科学は20世紀に登場した新しい科学である。講義では、まず、計算の歴史としくみ、計算する機械の歴史としくみについて学ぶ。次に探索や並べ替えのアルゴリズムを理解し、考える機械について考える。さらに情報科学の成果及びデータサイエンスが躍動する空間としての社会基盤に触れた後、データサイエンスの基礎を学び、最後にプログラミング教育に必要な言語・機器について体験する。															
到達目標	1. 計算の歴史、情報科学の概略を理解し、説明できるようになる。 2. 数値や文字情報などを表現する方法について理解し、活用できるようになる。 3. データサイエンスの基本を学び、データ処理の実際を理解し、扱えるようになる。 4. コンピュータの基本的な構造・動作とアルゴリズムを理解し、活用できるようになる。 5. 簡単なプログラミング言語を理解・活用し、教育に必要な機器の基本を理解し、扱えるようになる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 授業内容の説明(担当:成富敬)						面接									
	2. 情報科学の概要Ⅰ:計算の歴史としくみ(情報量,2進数,表現形式など)(担当:成富敬)					1,2	面接									
	3. 情報科学の概要Ⅱ:計算する機械の歴史としくみ(ハードウェアとソフトウェア)(担当:成富敬)					2,4	面接									
	4. 情報科学の概要Ⅲ:アルゴリズム(探索,並べ替えなど)(担当:成富敬)					2,4	面接									
	5. 情報科学の概要Ⅳ:考える機械(人工知能,シミュレーション,予測など)(担当:成富敬)					2	面接									
	6. 情報科学の概要Ⅴ:情報科学と社会基盤(IoT,Society5.0など)(担当:成富敬)					3	面接									
	7. データサイエンスの基礎とリテラシーⅠ:社会におけるデータ・AI利活用(担当:成富敬)					3	面接									
	8. データサイエンスの基礎とリテラシーⅡ:データ・AI利活用における留意事項(担当:成富敬)					3	面接									
	9. プログラミングの基礎:コーディングとデバッグの基本(担当:長篤志)					4,5	面接									
	10. ビジュアルプログラミング言語によるプログラミングⅠ:音楽の演奏(担当:長篤志)					4,5	面接									
	11. ビジュアルプログラミング言語によるプログラミングⅡ:図形の描画(担当:長篤志)					4,5	面接									
	12. Python言語によるプログラミングⅠ:Pythonの基礎(担当:長篤志)					4,5	面接									
	13. Python言語によるプログラミングⅡ:Pythonによるデータサイエンス演習Ⅰ(担当:長篤志)					3,5	面接									
	14. Python言語によるプログラミングⅢ:Pythonによるデータサイエンス演習Ⅱ(担当:長篤志)					3,5	面接									
	15. Python言語によるプログラミングⅣ:Pythonによるデータサイエンス演習Ⅲ(担当:長篤志)					3,5	面接									
定期試験(開発した教材の完成・プレゼンテーションにより、試験に代えることがある)																
アクティブ・ラーニング	前半の講義では、課題に対しミニレポートを作成し提出する。また、後半の講義では、ビジュアルプログラミング言語で音楽の自動演奏等のソフトを作成した後、Python言語を用いてデータサイエンスの基礎的な演習をおこなう。															
成績評価基準	評価の方法:①課題に対するミニレポートの評価(30%)、②制作されたソフトの評価(30%)、③定期試験の評価(40%)を総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解・関心・意欲:ミニレポートの記述内容が適切である(4段階評価) ②技能・表現・思考・判断:要件を満たしたアプリケーションソフト制作できる(3段階評価) ③知識・理解:授業で扱った内容についての問題に解答できる。															
フィードバックの方法	前半の講義では、提出されたミニレポートに対しコメントし、学生の理解を深める。後半では、学生が制作した作品を紹介させ、学生を交えて質疑応答を行う。															
時間外の学習について	予習:教科書は使用しない。2回目以降、次のプリントを配布するなどし、事前の予習を義務付ける。 次回の講義の最初に学生に質問し、予習状況を確認する。(各回90分程度) 復習:課題や制作物の評価・コメントを踏まえ、自ら改善し理解を深める。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:授業時に適宜提示する。 参考資料等:数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム(数理データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	情報処理(1年前期)、ICTを活用した教育の理論と方法(1年後期)、暮らしの中の科学(3年前期)、及びデータ科学とプログラミング(3年後期)の一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。(授業中に作成した各種データの保存のため、USBメモリを準備してください。また、USBメモリの管理に注意すること。) 担当者のE-mail:授業内で周知します(成富) osaa@yamaguchi-u.ac.jp(長)															

授業科目名	暮らしのなかの科学	教員名	開地 元典(実務経験) 山田 哲也(実務経験) 【オムニバス】	免許・資格等 との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	CM3-1008-0000001	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修 ①-a
					初等幼児教育専攻	選択
					英語教育専攻	選択
授業テーマ	自然現象の理解、科学的発想、人々の暮らしと自然科学との関わり					
授業概要	自然の理解並びに物理学、化学、生物学、地学等の自然科学の基本的な法則や現象の理解を図るとともに、身近な暮らしの中の事物や現象をもとに自然科学的な見方や考え方を養う。					
到達目標	1. 自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを理解し、説明できるようになる。 2. 身のまわりの自然現象に目を向け、科学的な視点及び自然科学に関する基本的な知識や概念を習得する。 3. 自然科学的な見方、考え方など、自然と共生することの大切さを理解し、正しい自然観を身に付ける。 4. 気象現象や気候変動の現況を理解し、自然災害への対応力を身に付ける。					
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	○
履修条件・注意事項	④	・	⑤	・	⑥	・
授業計画					目標	方法
	1. 自然科学へのまなざしー自然科学的な見方・考え方についてー				(担当：山田哲也)	1 面接
	2. 錯覚の科学				(担当：開地元典)	2,3 面接
	3. 手品の科学				(担当：開地元典)	2,3 面接
	4. 葉の科学				(担当：開地元典)	2,3 面接
	5. 種子の科学				(担当：開地元典)	2,3 面接
	6. 遺伝子の科学				(担当：開地元典)	2,3 面接
	7. バイオミクリー (動物分野)				(担当：開地元典)	2,3 面接
	8. バイオミクリー (植物分野)				(担当：開地元典)	2,3 面接
	9. 天体の動きと時間				(担当：山田哲也)	2,3 面接
	10. 岩石・鉱物の科学				(担当：山田哲也)	2,3 面接
	11. 身のまわりの地形や地質構造				(担当：山田哲也)	2,3 面接
	12. 力と光の科学				(担当：山田哲也)	2,3 面接
	13. 日常生活や自然界における電気と磁気				(担当：山田哲也)	2,3 面接
	14. 気象現象にみる水や大気のかかわり				(担当：山田哲也)	2,3 面接
15. 気候変動の理解と自然災害(地震、津波、台風、火山、土砂災害等)への対応				(担当：山田哲也)	4 面接	
アクティブ・ラーニング	各領域の特定のテーマについてディスカッションやグループワークなどを取り入れる。また、各回の授業の中で毎回「調査課題」を課し、インターネットや図書館を利用したレポートを作成し、次回の講義において意見交換を行う。					
成績評価基準	評価の方法：①各回レポート及び最終課題(60%)、②授業時での内容理解や取組状況(40%)で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲：レポート・課題の量(字数)と質(解答的確性)が適切である。 ②知識・理解、思考・判断、関心・意欲：授業及び授業内での活動において、積極的な参画により必要な知識を理解するとともに、適切な思考や判断が行われている。					
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートについては時間内あるいは次週に解説する。					
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト(北海道大学オープンコースウェア等)を閲覧する。(各回90分程度) 復習：授業において習得した内容についてまとめるとともに、更なる気づきや疑問点について調べる。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書： <a href="https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy1-2009">https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy1-2009</a> (北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力)及び配布プリントや紹介図書・記事等の参考資料					
実務経験について	高等学校教員の経験をもとに、暮らしのなかの事物・現象やその要因の理解について科学の視点から支援します。					
担当者からのメッセージ等	暮らしのなかの科学に目を向け、抱いた疑問や不思議をもとに、図書やインターネット情報を活用して主体的に課題に取り組み、レポート作成やディスカッション等を通して、自分なりの自然科学的な見方・考え方を養ってください。 担当教員の連絡先メールアドレス tyamada@yamaguchi-jca.ac.jp(山田)、mkaichi@y-gakugei.ac.jp(開地)					

授業科目名	日本語コミュニケーション	教員名	上田 保明(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1009-0000000	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	コミュニケーションの成立、コミュニケーションに関わる諸条件、敬語コミュニケーション															
授業概要	日本語を媒体としたコミュニケーションのあり方を認識するとともに、様々な事例を引用し、主体的な体験をとおして一人一人のコミュニケーション能力を培う。															
到達目標	1.日本語コミュニケーションの成立過程を理解する。															
	2.日本語コミュニケーションに関わる諸条件を理解する。															
	3.コミュニケーション力を高める方法を活動をとおして学ぶ。															
	4.文学の名作に秘められたコミュニケーションを高めるヒントを学ぶ。															
	5.コミュニケーションを取り巻く要素を見出す。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. コミュニケーションの成立 (1) ことばによるコミュニケーションの現れ	自己紹介	1	面接												
	2. コミュニケーションの成立 (2) 挨拶から会話へ	小一国語教科書	1,2	面接												
	3. 幸せになる方法 「手紙文化」を学ぶ。		3,4	面接												
	4. コミュニケーション力の心理的メカニズム 言葉を育む要因 音読集4『すいしゃ』を読む		2	面接												
	5. コミュニケーションと「間」を考える。世阿弥のことばに学ぶ。		2,3	面接												
	6. 想像力とコミュニケーションの関係を夏目漱石『三四郎』(一)から読み取る。		4,5	面接												
	7. 恩師へあてて「手紙」を書く。		3,5	面接												
	8. 想像力とコミュニケーションの関係を夏目漱石『三四郎』(二)から読み取る。		4,5	面接												
	9. 敬語の文化(1) 敬語の体系を理解する。尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語		1,3,5	面接												
	10. 敬語の文化(2) テーマ「敬語は必要か」でディベートの実施(1)		3,5	面接												
	11. 敬語の文化(3) テーマ「敬語は必要か」でディベートの実施(2)		3,5	面接												
	12. 敬語コミュニケーションにおける「丁寧さ」の原理		2	面接												
	13. コミュニケーション力を磨く コミュニケーション力を磨く工夫		3	面接												
	14. コミュニケーションを深める表情の体験		3	面接												
15. まとめ 心を開くコミュニケーション		1,2,5	面接													
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ ディベート															
成績評価基準	評価の方法:①ノート提出(50%)、②小テスト(30%)、③授業態度・取組(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①思考・判断:自ら課題を見つけ、課題解決ができる。 ②知識・理解:講義で学んだ知識で解答できる。 ③関心・意欲、思考・判断:グループワークで積極的な発言ができる。															
フィードバックの方法	発表や演技について学生同士お互いが指摘し合う。															
時間外の学習について	予習:小説の読み、各回に出す課題について調べる。(各回90分程度) 復習:「日本語コミュニケーション」に関わる自分の問題点をまとめる。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:夏目漱石『三四郎』 音読集4『すいしゃ』 プリント配布 参考書:その都度紹介する。 参考資料等:特になし															
実務経験について	小学校教員経験:実務経験をもとに日本語を媒体とした国語教育のあり方について話をします。															
担当者からのメッセージ等	最初の声かけ一つで、人の印象は変わるものです。幼児、児童、生徒。保護者、同僚等と好ましい人間関係を築く人との接し方、かわり方を体験を交えて学びましょう。 担当者の連絡先・メールアドレス yueda@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	教員名	檜垣 英夫(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-1010-2111100	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校・高等学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教養科目															
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業テーマ	グローバル社会、英語コミュニケーション力、英語の「聞く力」・「話す力」・「読む力」・「書く力」、英語の文法															
授業概要	ユニットごとに設定された文法を確認した上で、基本的な英文を読んだり書いたりするとともに、日常会話に必要なフレーズや語彙を、聞いたり話したりする活動を通して学ぶ。															
到達目標	1. 英語で自分自身を表現することができる。															
	2. 身近な話題で相手とコミュニケーションを図ることができる。															
	3. 演習を通して英語で積極的に話したり聞いたりする態度を身に付けることができる。															
	4. 英語の4技能をバランスよく身に付けることができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業との併用															
授業計画						目標	方法									
	1. On My Way to Silicon Valley [現在分詞]					1,2,3,4	面接									
	2. Welcome to San Francisco [代名詞]					1,2,3,4	面接									
	3. First Day of Internship [前置詞(時・場所)]					1,2,3,4	面接									
	4. Fun Times, but . . . [過去時制]					1,2,3,4	面接									
	5. They Look Good on You [可算・不可算名詞]					1,2,3,4	面接									
	6. Tech Talk [WH疑問文]					1,2,3,4	面接									
	7. You're Sitting on it . . . [進行形]					1,2,3,4	面接									
	8. Going Green [助動詞]					1,2,3,4	面接									
	9. Time to Work [Will & Be going to]					1,2,3,4	面接									
	10. Know Your Business [比較級・最上級]					1,2,3,4	面接									
	11. The Job Interview [現在完了]					1,2,3,4	面接									
	12. Is Your Company Right for You? [不定詞]					1,2,3,4	面接									
	13. Email Matters [動名詞&不定詞]					1,2,3,4	面接									
	14. On the Move [受動態]					1,2,3,4	面接									
15. Good News [関係詞]					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション 等															
成績評価基準	評価の方法：①小テスト・課題テスト等60%、②授業の参加度等(レポート、発表、授業における積極性等)40%により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解・技能：テキストに掲載の語彙や文法等の基礎知識及び4技能を扱った問題に解答できる。 ②関心・意欲・表現：ペアワーク、グループワーク及び発表に積極的に参加し、自己表現ができる。															
フィードバックの方法	小テスト等において個別還元指導															
時間外の学習について	予習：指定されたLessonについて、付属CD等で内容を確認しておく。各回90分程度 復習：既習Lessonの目標となる表現を円滑に使用できるように、文法を含め反復的に学習をする。 各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：『English Booster!』金星堂 参考書：適宜紹介 参考資料等：随時プリント配布															
実務経験について	学校現場等で担当していた国際交流や外国訪問等の体験等をもとに英語の重要性についても触れます。															
担当者からのメッセージ等	グローバル社会において、英語で自分自身を表現したり、海外からの訪問者に身近な話題でコミュニケーションを図ったりすることができることは、学校現場等で国際交流を担当していた経験から、非常に重要であると実感しています。世界の様々な人々と英語でコミュニケーションを図ることができるよう、その基盤を築いていきましょう。 Email:hhigaki@y-gakugei.ac.jp(檜垣)															

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	教員名	中垣 謙司(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1011-2000000	年次配当	1年後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	教養科目(保育士)															
系列	教養科目															
授業テーマ	英語コミュニケーション、英語表現、プロソディ(リズム・アクセント・抑揚)															
授業概要	実践的な英語コミュニケーション能力を育成するため、様々な場面での英語表現、プロソディ(リズム・アクセント・抑揚)などを取り扱う。電子黒板等を活用し、様々な話題や場面で使われる英語表現を習得し、聞くことや話すことを中心とした会話演習を行う。															
到達目標	1. 日常会話に必要な語彙・表現を身につける。															
	2. 実践的な表現を理解し、聞き取ることができる。															
	3. 自分の考えを、習得した英語表現を使って、はっきりと発表できる。															
	4. 課題に主体的に取り組み、学習意欲をもって授業に積極的に参加することができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	場合によっては遠隔授業															
授業計画						目標	方法									
	1. Meeting and greeting: 自己紹介・あいさつの仕方/Be動詞・一般動詞						1,2	面接								
	2. Family and friends: 友人へ家族の紹介方法/Be動詞短縮形						1,2	面接								
	3. Likes and dislikes: 好き嫌いの伝え方/主語と一般動詞の呼応						1,2,3	面接								
	4. Good habits and bad habits: 日頃の習慣の話し方/頻度を表す表現・時刻の表し方						1,2,3	面接								
	5. Review Unit 1-4: 第1回~第4回の復習						2,3,4	面接								
	6. Summer and fun: 夏休みの計画の話し合い方/規則動詞・不規則動詞						1,2,3,4	面接								
	7. Here and there: 行き先の尋ね方/主語とBe動詞の呼応						1,2,3,4	面接								
	8. Giving and receiving: 贈り物や買い物の仕方/名詞の単数形・複数形						1,2,3,4	面接								
	9. Parties and Fashion: パーティでの服装の伝え方/可算名詞・不可算名詞						1,2,3,4	面接								
	10. Review Unit 5-8: 第5回~第9回の復習						2,3,4	面接								
	11. Physical Education and health: 保健体育に関する表現/動詞のdo・go等の慣用表現						1,2,3,4	面接								
	12. Nursery school and daycare: 幼稚園等でのボランティア活動の紹介方法/肯定文・否定文						1,2,3,4	面接								
	13. Educating and caring: 障害のある子どもの支援についての話し合い方/形式主語のIt						1,2,3,4	面接								
	14. Bullying and other problems: いじめ等の問題についての話し合い方/使役動詞						1,2,3,4	面接								
	15. Review Unit 9-12: 第9回~第12回の復習						2,3,4	面接								
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等															
成績評価基準	評価の方法: ①課題テスト・パフォーマンステスト(60%)、②授業の参加度(小テスト、発表、授業態度)(40%)により、総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解・技能・表現: 既習表現を身につけ、積極的に英語でコミュニケーションを図っている。 ②関心・意欲・思考・判断等: 英語を使って目的・場面・状況に応じたやりとりができる。															
フィードバックの方法	小テスト時等において個別還元指導															
時間外の学習について	予習: 指定された Lesson について、付属CD等を活用して内容を確認しておく。各回90分程度 復習: 既習 Lesson の目標表現が円滑に使用できるようにする。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト: 『Student Teacher』南雲堂 参考書: 適宜紹介 参考資料等: 随時プリント配布															
実務経験について	高校教員・県教委指導主事の実務経験をもとに聞く・話すことを中心とした演習を行います。															
担当者からのメッセージ等	授業で「わかった」ということと、それが「できる、身につけている」ということは全く別物です。毎日の着実な学習の積み重ね無しには、英語におけるコミュニケーション力は身につけません。反復練習等を通して、重要表現を確実に活用できるよう、毎回の予習・復習を徹底してください。 Email:nakagaki@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	音楽概論	教員名	河北 邦子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1012-2000000	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	教養科目(保育士)															
系 列	教養科目															
授業テーマ	音・音楽の感受、音楽鑑賞、音楽史の概要、音楽理論・創作・演奏に関する基礎知識と技能															
授業概要	音楽理論、創作、演奏の基礎知識を実践的に学ぶ。音楽鑑賞及び実践的な学びを通して、音楽への感性高める。音楽のもつ可能性に気づき、創造的に社会や教育に生かす方法について考える。															
到達目標	1. 種々の音楽を、心身を通して感受する。音楽表現、鑑賞に関する基礎知識、技能を実践的に学ぶ。 2. 音楽の基礎理論を理解し、読譜・記譜、聴唱・視唱等により、音楽表現やコミュニケーション能力の基礎を身に付ける。音楽表現を楽しみ、また音楽を通して他者と思いを共有できる。 3. 音楽の美に触れ、生涯にわたって音楽を愛好しようとする意志をもち、音楽を通して他者とつながろうとする態度と志向性を身に付ける。 4. 人と人をつなぐ音楽の特性や可能性に気づく。豊かな社会生活を構築できるよう、創造的に音楽を活用する方法について考えることができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 音楽の特徴と起源〈生活の中の音・音楽、時間の長さの視覚化、拍、音楽の起源、古代の音楽〉					1.2	面接									
	2. 音の長さの理解と楽譜化1 拍の演習 〈音価、音符、縦線と小節、拍子〉					1.2.3	面接									
	3. 音の長さの理解と楽譜化2 リズムの演習 中世の音楽〈リズム、パレストリーナなど、ポリフォニーとホモフォニー〉					1.2.3	面接									
	4. 音の高さの理解と楽譜化 音の高さの演習 〈譜表、音部記号〉					1.2.3	面接									
	5. 音名と階名、バロック音楽の鑑賞 〈音名、階名、幹音・派生音、J.S.バッハなど〉					1.2.3	面接									
	6. 強弱の理解と記号、及び効果 強弱の演習 〈強弱記号〉					1.2.3	面接									
	7. 速度の理解と標語、及び効果、速度の演習、古典派音楽の鑑賞〈速度標語、モーツァルト・ベートーヴェンなど〉					1.2.3	面接									
	8. 1~7回授業の復習と確認、中間試験					1.2	面接									
	9. 音の間隔の理解 ロマン派の音楽 〈音程、順次進行、跳躍進行、シューベルトなど〉					1.2.3	面接									
	10. 音階の理解1 長音階の理解と演習、国民楽派の音楽 〈長音階、チャイコフスキーなど〉					1.2.3	面接									
	11. 音階の理解2 短音階の理解と演習 〈短音階〉					1.2.3	面接									
	12. 音階の理解3 日本音階の理解と演習、日本の音楽の歴史〈五音音階、雅楽、箏曲など〉					1.2.3	面接									
	13. 楽曲形式の理解と演習 〈唱歌形式、ソナタ形式〉					1.2.3.4	面接									
	14. 演奏形態の理解と演習 近代・現代の音楽〈声・楽器の演奏形態、ドビュッシー、ガーシュウィンなど〉					1.2.3.4	面接									
15. 生活と音楽 〈ポピュラー音楽、わらべうたなど〉 9~14回授業の復習と確認					1.2.3.4	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(40%)、②中間試験(40%)、③課題レポートおよび参加度(20%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①②知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ③関心・意欲、態度：鑑賞課題、ディスカッション等において、レポートや積極的な発問や発言ができています。															
フィードバックの方法	演習については都度、課題・レポートについては次回授業内にコメントします。															
時間外の学習について	予習：テキストの次回内容に関わる部分を読み込んでおくこと(各回60時間程度) 復習：授業での学びの確認、音楽理論課題、オンラインによる鑑賞課題に対応すること(各回120時間程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：『最新 学生の音楽通論』 伊田武嘉津著 (音楽之友社) 参考資料等：適宜プリントを作成し配布する。															
実務経験について	高等学校教員経験：音楽活動において、他者と共に学ぶことの有効性について話をします。															
担当者からのメッセージ等	オンラインを活用し、課題の提示、レポート等を求めます。 Email : kwkts@orange.ocn.ne.jp (河北邦子)															

授業科目名	美術概論	教員名	武田 雅行 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1013-2000001	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修   ①-a										
教 科 目	教養科目(保育士)															
系 列	教養科目															
授 業 テ ー マ	美術史、鑑賞、表現方法、作家論、美的感性															
授 業 概 要	優れた芸術に触れることは人間の精神をより一層豊かにしてくれる。この授業では、現代社会・文化の源流でもある古代美術から現代に至る西洋美術の歴史的な流れを中心に、様式、運動、主義、芸術概念など「美術の見方」について概説する。「美術は時代を映す鏡である」とも言われ、各時代の社会背景を踏まえた上で、作家や作品、技法の知識を得ることも視野に入れ、パワーポイント、DVD等の視聴覚機器を使用した美術鑑賞を中心に授業を展開する。															
到 達 目 標	1. 西洋を中心とした美術の歴史の流れを理解できる。															
	2. 芸術の様式・主義・運動とともに各時代の社会的背景を理解できる。															
	3. 素晴らしい芸術作品に触れ、それらの作品や技法についての知識を習得する。															
	4. 学んだことをノートに記録して、美術作品への思いや、知識の定着を図ることができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授 業 計 画						目標	方法									
	1. 導入 授業概要の説明 西洋美術の流れ 古代オリエント美術					1,2,4	面接									
	2. 美術史 エジプトの美術					1,2,3,4	面接									
	3. 美術史 ギリシャの芸術Ⅰ					1,2,3,4	面接									
	4. 美術史 ギリシャの芸術Ⅱ					1,2,3,4	面接									
	5. 美術史 ローマ・中世の美術					1,2,3,4	面接									
	6. 美術史 イタリア初期ルネッサンス					1,2,3,4	面接									
	7. 美術史 イタリア盛期ルネッサンスⅠ					1,2,3,4	面接									
	8. 美術史 イタリア盛期ルネッサンスⅡ					1,2,3,4	面接									
	9. 美術史 バロック・北方ルネッサンス					1,2,3,4	面接									
	10. 美術史 ロココ(18世紀フランス)					1,2,3,4	面接									
	11. 美術史 近代絵画(新古典・ロマン・写実)					1,2,3,4	面接									
	12. 美術史 近代絵画(印象派)					1,2,3,4	面接									
	13. 美術史 近代絵画(後期印象派)					1,2,3,4	面接									
	14. 美術史 現代の美術Ⅰ(セザンヌ以降)					1,2,3,4	面接									
	15. 美術史 現代の美術Ⅱ(20世紀美術)					1,2,3,4	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①期末試験(80%)、②ノート提出(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：テキストおよび講義等での知識を扱った問題に解答できる。 ②関心・意欲、思考・判断：授業内容とその学びについてノートに整理できている。															
フィードバックの方法	試験終了後、答え合わせとともに、解説を行なう。															
時間外の学習について	予習：テキストを読んでおく。各回90分程度 復習：学んだ作家や作品について更に調べ、配布のプリントにまとめる。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：『鑑賞のための西洋美術史入門』 著者：早坂優子 出版社：株式会社視覚デザイン研究所 参考書：授業の中で適宜資料を配布する。 参考資料等：特になし															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	最終授業終了後、A4ファイルにまとめたノートを提出。 担当者の連絡先・E-mail：takeda@y-gakugei.ac.jp(武田)															

授業科目名	大学教育基礎演習	教員名	佐藤 真澄 他 (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1014-0000001	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修 ①-a										
授業テーマ	初年次教育、キャリア教育															
授業概要	大学での学修に必要な知識や技能、大学生に求められる常識・生活態度などを身につけるための授業である。また、本大学の歴史や教育理念について理解するとともに、本学の学びの特色である「リベラルアーツ」や「文系DX」、「子ども学」、「グローバル学」について基本的な考え方を学ぶ。また、見学実習を通して、子どもと関わる資質を修得する。															
到達目標	1. 大学での学修に必要な知識・技能について理解することができる。 2. 大学生に求められる常識や生活態度を身につけることができる。 3. 体験的・協働的な学習を通じて、コミュニケーション力を形成することができる。 4. 自分が体験し考えたことを表現し、他者に伝えることができる。 5. 大学教育・大学生活に対する動機や心構えを形成し、自身の課題や目標を設定することができる。															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	4時間2単位で開講する。															
授業計画						目標	方法									
	1. イントロダクション：大学における初年次教育の意義(担当教員：佐藤)					5	面接									
	2. 山口学芸大学の「建学の精神」「教育理念・ビジョン」(担当教員：岡村)					5	面接									
	3. 学生生活における時間管理と学習習慣(担当教員：川野)					2,5	面接									
	4. 教育学部のカリキュラム構成と履修モデル①履修上の留意点(担当教員：佐藤)					1,5	面接									
	5. 教育学部のカリキュラム構成と履修モデル②履修モデルの考え方(担当教員：佐藤)					1,5	面接									
	6. 文系DX教員とSPARC教育プログラム(担当教員：坂本)					1,5	面接									
	7. 本学における「子ども学」の考え方と学びの体系(担当教員：川野)					1,5	面接									
	8. 本学における「グローバル学」の考え方と課題解決型学習(PBL)(担当教員：高下)					1,5	面接									
	9. 造形表現の基礎(担当教員：武田)					1,4	面接									
	10. 音楽表現の基礎(担当教員：本廣)					1,4	面接									
	11. 英語コミュニケーションの基礎(担当教員：二五)					1,4	面接									
	12. 社会の一員として求められること(担当教員：川野)					2,5	面接									
	13. キャリア形成の考え方(担当教員：南野)					2,5	面接									
	14. 「社会人」に向けて、今、身につけておきたいこと(担当教員：外侮講師)					2,5	面接									
	15. 本学におけるICT環境とその活用(担当教員：松村・山本)					1	面接									
	16. 図書館の活用と文献検索(担当教員：松村)					1	面接									
	17. 大学での学びにおけるノートの活用方法(担当教員：上田)					1	面接									
	18. 論理的思考および問題発見・解決能力(担当教員：河村)					1	面接									
	19. レポート・論文の書き方と文章作法(担当教員：松村)					1	面接									
	20. プレゼンテーション・スキルの基礎(担当教員：山本)					1,4	面接									
	21. 大学生の学びとしてのメンタルヘルス(担当教員：森)					2	面接									
	22. 学修のための環境整備の意義と方法(担当教員：大田)					2	面接									
	23. 実習等の学外活動での心構え・マナー(担当教員：大田)					1,2,5	面接									
	24. 「保育所」「幼稚園」について知る(担当教員：山本)					1	面接									
	25. 「小学校」について知る(担当教員：森)					1	面接									
	26. 乳児期の子どもの理解(担当教員：大田)					1,3	面接									
	27. 幼児期の子どもの理解(担当教員：大田)					1,3	面接									
	28. 学童期の子どもの理解(担当教員：森)					1,3	面接									
	29. 進路選択と履修計画：免許・資格と専攻(担当教員：佐藤)					5	面接									
30. 総括：グループ討議					2,3,5	面接										

アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：①レポート等の提出課題（50%）、②授業への参加度（50%）で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：学んだ内容を踏まえて自説を述べている。 ②態度、関心・意欲：ディスカッションやグループワークで積極的に発言できている。 各講義内容についてノートに適切に整理されている。
フィードバックの方法	レポート等については授業中にコメントする。個人の課題については、チューターによる個別指導等に反映させる。
時間外の学習について	予習：討論や話し合いが予定されている場合には、各自で意見をまとめておく（各回15分程度） 復習：各回の要点と自身の学びについて整理し、ノートにまとめる（各回30分程度） 表現系の授業については、時間外に自主練習を行い、技術の修得に努める。 見学実習については、事前に実習園について情報収集を行い、事後には学んだ内容についてまとめる。 基礎学力テストの結果を踏まえて、基礎学力の向上のための自主学習を行う。
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：適宜紹介する 参考資料等：適宜紹介する
実務経験について	
担当者からのメッセージ等	大学での学びを円滑に進めていくための体系的なプログラムです。授業以外に見学実習や基礎学力テストも実施します。複数の教員がオムニバス形式で担当します。開講の順序は上記の授業計画から変更が生じることがあります。 sato@y-gakugei.ac.jp（佐藤）※各回の講義内容等に関する連絡・質問等は担当教員に直接連絡すること

授 業 科 目 名	地域理解	教 員 名	福屋 利信(実務経験) (単独)	免許・資格等 との 関係	保 育 士											
					幼 稚 園 教 諭											
ナンバリングコード	CMI-1015-0000001	年次配当	1 年前期	卒業要件	小 学 校 教 諭											
					中 学 校 教 諭 (英 語)											
授 業 形 態	講 義	授 業 科 目 の 取 扱 い	面接授業科目	卒業要件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)											
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	2				SPARC 教育プログラム	必修 ①-a										
授 業 テ ー マ	グローバル思考、創造的思考力、地域貢献、課題解決能力															
授 業 概 要	山口県は、地理的に韓半島、中国大陸、台湾島と近く、過去から現在に至るまで、親密な相互関係を維持してきた。その独自性への理解を深める。加えて、山口県が日本の近代化に果たした役割を正確に把握し、現在の政治・経済・文化交流を分析し、未来の「山口のあるべき姿」をシュミレーションする。															
到 達 目 標	地域学は、その地域の文化や特徴を学ぶとともに、今日のグローバル社会においては、地域と世界がどうかかわっていたか、あるいはどうかかわっていく可能性があるかを学ぶことが重要。															
	1. 下関と釜山の関係を学び、東京・ソウル間にはない交流の存在を理解する															
	2. 周南と台湾の関係を学び、地域外交の基本概念を理解する															
	3. 周防大島とハワイの関係を学び、日本人が海外に移住していた時代の精神を理解する															
	4. 山口県の特徴を学び、地域理解の一助とする															
学修成果との関係	①	◎	②	・	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	◎	⑧	◎
履修条件・注意事項																
授 業 計 画						目標	方法									
	1. ガイダンス (地域学の定義、例: 地域学から見た BTS の地域性)					4, 5	面接									
	2. 下関と釜山					1	面接									
	3. 関釜連絡船の社会背景					1	面接									
	4. 関釜フェリーの社会背景					1	面接									
	5. 映画『チルソクの夏』鑑賞					1	面接									
	6. 映画『チルソクの夏』に関するディスカッション					1, 5	面接									
	7. 周南と台湾					2	面接									
	8. 周南と児玉源太郎					2	面接									
	9. 日台関係の今後					2	面接									
	10. 台湾の近代化に対する長州人たちの貢献					2	面接									
	11. 新台湾人意識に関するディスカッション					2, 5	面接									
	12. 周防大島とハワイ移民					3	面接									
	13. 周防大島出身のハワイ移民の今					3	面接									
	14. 周防大島の活性化に関する PBL 活動事例					3, 5	面接									
	15. 地域課題と PBL に関するプレゼンテーション					4, 5	面接									
◎定期試験 (最終レポート提出)																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、課題解決型学習															
成績評価基準	評価の方法: ①最終レポート (50%)、②授業への参加度 (50%) により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解、思考・判断: 序論、本論、結論の構成に沿って書いている ②態度、関心・意欲: 授業内のアクティブ・ラーニングにおいて、積極的に発言する。															
フィードバックの方法	授業時に質問を受ける。															
時間外の学習について	予習: 次回の授業の内容について調べて理解しておくこと。 各回 90 分程度 復習: 本時のまとめを復習しておくこと。 各回 90 分程度															
教材にかかわる情報	テキスト: 福屋利信『海峽から聞こえてきたブルース: 関釜連絡船と関釜フェリーが帯びた記号論』(大学教育出版社) *第2回目の授業で販売 (1250円: 著者価格) 福屋利信『台湾の表層と深層: 台湾人のホンネと長州人の熱情』(かざひの文庫) *第2回目の授業で販売 (1250円: 著者価格) 山口大学国際総合科学部周防大島 PBL アロハプロジェクト「ハワイ移民の歴史とこれから」 (周防大島歴史教育副教材に採用) *必要な部分をプリント配布															
実務経験について	PBL 指導の実務経験及び自著『PBL 進化論: 大学教授よ、書を捨てよ、街に出よう』に基づいて授業する。															
担当者からのメッセージ等	Think Globally, Act Locally!!! 担当者の連絡先・メールアドレス fukuya@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	体育〈実技〉	教員名	原井 進(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-1016-1111100	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	実技	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	特別支援学校教諭											
					SPARC教育プログラム											
単位数	1				初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻	選択										
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	体育															
教 科 目	教養科目(保育士)															
系 列	教養科目															
授業テーマ	学校体育の目標、生涯スポーツ、体を動かす楽しさ、コミュニケーション能力、協調性															
授業概要	子どもたちが自ら体を動かす楽しさや心地よさを実感させるために、教育者自らが体感し、指導法等を習得する。															
到達目標	1. スポーツの知識を得る															
	2. 体を動かす楽しさを体感し、その知識を習得する。															
	3. レクリエーション・スポーツ(昔遊び、ゲーム)の理解と指導技術の向上を図る															
	4. 球技系スポーツ(ゴール型、ネット型)の理解と指導技術の向上を図る															
	5. スポーツイベント等の企画・管理・運営ノウハウを習得する															
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画														目標	方法	
	1. オリエンテーション													1,2	面接	
	2. レクリエーション・スポーツ(昔遊び、ゲーム)基礎													1,2,3	面接	
	3. レクリエーション・スポーツ(昔遊び、ゲーム)試合													1,2,3	面接	
	4. レクリエーション・スポーツ(昔遊び、ゲーム)基礎・演習・試合													1,2,3	面接	
	5. 球技(ネット型)基礎													1,2,4	面接	
	6. 球技(ネット型)試合													1,2,4	面接	
	7. 球技(ネット型)基礎・演習・試合													1,2,4	面接	
	8. 球技(ゴール型)基礎													1,2,4	面接	
	9. 球技(ゴール型)試合													1,2,4	面接	
	10. 球技(ゴール型)基礎・演習・試合													1,2,4	面接	
	11. スポーツ大会(企画)													1,2,5	面接	
	12. スポーツ大会(管理・運営)													1,2,5	面接	
	13. スポーツ大会(実践1)													1,2,5	面接	
	14. スポーツ大会(実践2)													1,2,5	面接	
15. まとめ													1,2,5	面接		
アクティブ・ラーニング	実技、ディスカッション															
成績評価基準	評価の基準:①授業態度(20%)、②関心・意欲(20%)、③レポート(20%)、④授業課題(40%)により総合的に評価する。 評価の方法:①関心・意欲:レポートの記述内容が適切である。 ②知識・理解:参考資料等の知識を基に適切に活動ができる。 ③思考・判断:実践する中で課題を明確にし、自ら解決に向けた取組を行うことができる。															
フィードバックの方法	授業中に随時質問に対する回答や技術に対するアドバイス															
時間外の学習について	予習:運動・スポーツへの知識・ルール等の学習(各回45分) 復習:運動・スポーツ、ゲーム、大会等の審判、運営法(各回45分)															
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考資料:学習指導要領解説(小学校体育編、中学校保健体育編、高校保健体育編) 「JASP-ACP アクティブチャイルドプログラム」、公益財団法人日本スポーツ協会															
実務経験について	高校保健科教員及び教育委員会事務局職員としての経験を活かして、体を動かすことの楽しさを伝えていきます。															
担当者からのメッセージ等	自らが体を動かして楽しさや心地よさを体感するとともに、仲間との協調性・社会性を身につけてほしい。 E-mail: sharai@yamaguchi-jca.ac.jp															

授業科目名	体育〈講義〉	教員名	原井 進(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	CMI-1017-1111100	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭	必修												
					中学校教諭(英語)	必修												
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修												
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))																	
各科目に含める ことが必要な事項	体育																	
教科目	教養科目(保育士)																	
系列	教養科目																	
授業テーマ	学校体育・スポーツ、発育発達の特性、運動の特性、安心・安全な活動、事故防止、救急法、熱中症の予防																	
授業概要	子どもの発育発達と運動との関わりについて学習する。特に、発育発達の特性と運動との関係をメインとし、体を動かすことの楽しさを味わわせるため、さらには、運動好きな子どもたちを育てるためにはどのような点に留意すればよいか、文部科学省及び日本スポーツ協会等の資料を活用しながら理解を深める。あわせて、体育活動中の事故発生状況や防止対策等の課題を取り上げ、考察する。																	
到達目標	1. 体育・スポーツの変遷を理解する																	
	2. 発育発達の特性と運動との関係を理解する																	
	3. 運動の特性を踏まえた運動の楽しさを理解する																	
	4. 体育的活動中の事故防止への配慮事項等を理解する																	
学修成果との関係	①	◎	②	○	③	○	④	.	⑤	.	⑥	.	⑦	.	⑧	.		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 体育・スポーツの変遷、発育発達の特性															1	面接	
	2. 子どもの体力の現状と課題															1 2	面接	
	3. 運動の特性															2 3	面接	
	4. 小・中学校期における体力向上の取組															2 3	面接	
	5. 体育活動中における事故の現状															2 3 4	面接	
	6. 体育活動中の事故防止															2 3 4	面接	
	7. 学校管理下における重大事故の発生状況及び防止対策															2 3 4	面接	
	8. 体育活動中の事故を記事や判例等から学ぶ															2 3 4	面接	
試験																		
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法：①授業態度・授業意欲(10%)、②レポート(10%)、③試験(80%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：意欲的に授業に参加している。グループワーク等に積極的に取り組んでいる。 ②知識・理解：授業で学んだ内容等を理解し、それらに関する知識等を身につけられたか。 ③思考・判断：発育発達の特性と運動との関係等の授業の内容に関する問題に解答できる。																	
フィードバックの方法	授業ごとの内容に対する意見等を協議する時間を設ける。																	
時間外の学習について	予習：スポーツや健康問題に対して興味や関心を持つ。(各回90分) 復習：授業レポート等により課題を実践する。(各回90分)																	
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：「幼児期運動指針ガイドブック」、文部科学省、株式会社サンライフ企画 学習指導要領解説(小学校体育編、中学校保健体育編、高校保健体育編) 「JASP-ACP アクティブチャイルドプログラム」、公益財団法人日本スポーツ協会																	
実務経験について	高校保健体育科教員及び教育委員会事務局職員での経験を活かして、体力向上及び事故防止の視点について話をします。																	
担当者からのメッセージ等	安心・安全への配慮を忘れずに、心身の発育発達及び運動の特性等を理解し、運動好きな子どもたちの育成に資するとともに、自らの健康寿命の延伸に取り組んでほしい。 E-mail : sharai@yamaguchi-jca. ac. jp																	

授業科目名	データ科学のための 基礎数学入門	教員名	関口 靖広 (単独)	免許・資格 等との関 係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1018-0000000	年次配当	1年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC連携プログラム											
授業テーマ	データサイエンス, 数学															
授業概要	データサイエンスの理解と活用の背景となる数学を修得する準備として, データサイエンスに関わる数学の基本的な見方・考え方を学ぶ。本講義では, データサイエンスをこれから学んでいく上で前提となる数学的な見方・考え方を身に着け, 同時に, 社会生活において課題解決を図る際にもそれらを柔軟に役立てることができるようにする。															
到達目標	1. 数列や級数およびそれらの極限の考えについて理解する。															
	2. いろいろな関数とそのグラフについて, 基本的な性質を理解する。															
	3. 微分と積分の基本的な考え方を理解する。															
	4. ベクトルと行列の基本的考え方とその幾何学的意味を理解する。															
	5. 確率の基本的な考え方を理解し, 不確実な事象に対する分析的な見方・考え方ができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション				1	面接										
	2. 10年積み立てるといくらになるか				1	面接										
	3. GeoGebraで簡単グラフ				2	面接										
	4. ウイルス感染の増え方を考える				2	面接										
	5. 変化の割合を調べる				3	面接										
	6. 変化の割合をさらに調べる				3	面接										
	7. 変化の割合についての応用				3	面接										
	8. 変化量を細かく刻んで積み重ねる				3	面接										
	9. ハジキの公式よりずっと深い関係				3	面接										
	10. 多量のデータをシンプルに表す				4	面接										
	11. 「おすすめ」の仕組みを調べる				4	面接										
	12. 図形がどう変わるか調べる				4	面接										
	13. 可能な場合を数える				5	面接										
	14. 不確実性の中にあるきまり				5	面接										
	15. クジを何回も引くとどうなるか				5	面接										
	定期試験															
アクティブ・ラーニング	毎回授業内で課題を出し, グループワークで解決に取り組む。講義内容や課題についての疑問点は全体でディスカッションをして, 理解を深める。毎回授業終了時には, 理解確認のための小テストに取り組む。毎回授業終了後に課される授業外レポートに次回までに取り組む。															
成績評価基準	評価の方法: ①授業参加度(20%), ②授業外レポートの評価(30%), ③定期試験の評価(50%)を総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解・関心・意欲: 授業・グループワークに積極的に参加しているか。 ②技能・表現・思考・判断: 授業外レポートの記述内容が適切であるか。 ③知識・理解: 授業で扱った内容についての問題に解答できるか。															
フィードバックの方法	毎回授業後にレポートの課題を出し, 次回にレポートを提出させ, コメントを付けて返却し学生の理解を深める。															
時間外の学習について	予習: 2回目以降は前の講義の最後に次回のプリントを配布し, 事前の予習を義務付ける。(各回90分程度) 復習: 授業外レポート課題は復習の内容なので, それに取り組む中で, 講義内容の復習をする。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 「文系のためのめっちゃやさしい微分積分」(山本昌宏監修, ニュートンプレス) 参考資料等: 「データサイエンスのための数学」(椎名他, 講談社) 「合格対策データサイエンティスト検定 リテラシーレベル教科書」(データサイエンティスト協会監修, リックテレコム)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	「データ科学のための基礎数学」(1年後期)の履修の準備となる数学の基本的考え方の理解と修得を目指します。ノートパソコンを使用する場合がありますので, 指示があったときは持ってきてください。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授 業 科 目 名	データ科学のための基礎数学	教 員 名	柳原 宏 (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士											
					幼 稚 園 教 諭											
ナンバリングコード	CMI-1019-0000001	年次配当	1 年後期	卒業要件	小 学 校 教 諭											
					中 学 校 教 諭 (英 語)											
授 業 形 態	講 義	授 業 科 目 の 取 扱 い	面接授業科目	卒業要件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)											
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	2				SPARC 連携プログラム	必修 ③										
授 業 テ ー マ	データサイエンス、数学															
授 業 概 要	<p>データ科学の基本技術である統計解析や機械学習などを学び、活用するためには、その背景にあるモデリングなどの数学的な考え方になじんでおくことが大変重要です。</p> <p>この講義では、これからデータ科学の学習を深めていく上で、基盤(=共通言語)となる数学の基礎を学びます。具体的には、様々な関数のおおよその性質やグラフの概念、集合の考え方や順列、組み合わせ、ベクトルや行列が表す幾何学的な意味など、数学的な概念を理解することを目標とします。</p> <p>授業では高等学校で習得した数学の方法に加え、それを基盤とした発展的な手法を新たに学び、それを実際に使いながら統計解析や機械学習で使う数学を説明します。</p>															
到 達 目 標	1. 一次不等式、連立不等式を図形的にとらえることができる。															
	2. 2次、3次関数、分数関数、指数・対数関数など様々な関数について、おおよその性質やグラフの概形を知る。															
	3. ベクトルの和や内積、行列が表す線形変換について幾何学的な意味を理解する。															
	4. 数列や関数の極限を理解する。															
	5. 微分と積分の関係を関数のグラフを通じて把握する。															
	6. 集合の考え方と記号の意味を理解する。															
	7. 順列、組み合わせの簡単な計算ができる。															
	8. 二項分布などの離散的な確率分布を理解し、正規分布との関係を把握する。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項	連携開設科目・SPARC教育プログラム履修者のみ履修可能															
授 業 計 画					目 標	方 法										
	1. 記号、数式の取り扱い (平方根、べき乗、有理数と無理数、整式の計算)				1.2	面接										
	2. 方程式とその変形 (連立一次方程式、二次方程式、高次方程式)				1.2.3	面接										
	3. 集合 (和集合、共通部分、差集合及びベン図)				6	面接										
	4. 不等式 (二次不等式、連立一次不等式とグラフ)				1,2	講義										
	5. 関数とグラフ (その1) (一次関数、二次関数、べき乗関数、分数関数のグラフ)				1,2	面接										
	6. 関数とグラフ (その2) (指数、対数関数と三角関数)				1,2	面接										
	7. ベクトルと行列 (その1) (ベクトルの演算、行列とベクトルの積)				3	面接										
	8. 中間試験 (前半:マークシート試験 後半:問題の解説)				1,2,3,6	面接										
	9. ベクトルと行列 (その2) (逆行列、行列の固有値、固有ベクトル)				3	面接										
	10. 数列と級数 (等差数列、等比数列、漸化式)				4	講義										
	11. 微分と積分 (その1) (関数のグラフの傾き)				4,5	面接										
	12. 微分と積分 (その2) (関数のグラフ下の面積)				4,5	面接										
	13. 偏微分、重積分 (偏微分と全微分、体積と重積分)				4,5	面接										
	14. 順列と組み合わせ (階乗関数と二項係数)				7	面接										
	15. 確率と統計学への応用に向けて (連続型確率分布とガウス関数、正規分布)				8	面接										
	定期試験 (前半:マークシート試験 後半:問題の解説)															
アクティブ・ラーニング	グループワーク:少人数のグループに分け、協同で問題を解いたり、幾つかの解法について検討を行う															
成績評価基準	<p>評価の方法:① 中間試験40%と期末試験40%、② 宿題を課し平常点として20% 以上により、総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:① 講義中に説明した事項を正確に理解し、問題に解答できる。</p> <p>② 宿題を怠ることなく提出し、関心・意欲が感じられ、学習態度が積極的であること。</p>															
フィードバックの方法	試験終了後に解答および問題の説明を行う。															
時間外の学習について	<p>予習:高校のときに使用した教科書で該当する事項をおさらいしておくこと(各回90分程度)</p> <p>復習:配布したプリントを参考にし、宿題に指定された問題やその他の問題を解くこと。(各回90分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト:特に設けません。</p> <p>参考書:</p> <p>参考資料等:毎回の講義前にプリントを配布する。</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	<p>オンラインを活用し、質疑応答等行います。</p> <p>Email:hiroshi@yamaguchi-u.ac.jp (柳原)</p> <p>:hkawamoto@y-gakugei.ac.jp (河本) ※SPARC教育プログラム担当者</p>															

授業科目名	データ科学と社会 I	教員名	木下 真 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	CMI-1020-022201	年次配当	1 年前期		小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム	必修 ③										
教科及び教職に関する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教養科目															
授業テーマ	データサイエンス、データリテラシー、ICT															
授業概要	現代ではICTを用いた様々なサービスが生み出され、「超スマート社会」が現実になりつつある。この礎は、広範囲かつ目的に整合したデータの取得と、これらのデータをもとにした問題解決を行う科学的な方法論、すなわちデータサイエンスにある。 この授業では、社会の発展のためにデータサイエンスを学ぶ意義を理解するとともに、その基礎となるデータリテラシー(データを的確に理解し、解釈し、分析する能力)を身に付けることを目標とする。															
到達目標	1. データサイエンスの概要とそれを学ぶ意義を理解する。 2. データサイエンスの基礎となるデータリテラシーを身に付ける。 3. 大学における学習に必要な基本的なツール(ネットワーク、パソコン、各種のソフトウェア(文書作成、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアを含む))の使い方を習得する。 4. 身近な情報源であるインターネットを用いて、データを検索・取得し、利用する方法を身に付ける															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	連携開設科目															
授業計画						目標	方法									
	1.	オリエンテーション、学内ITインフラの使用方法				1,3	面接									
	2.	インターネットを利用したデータの検索と取得およびデータの管理				3,4	面接									
	3.	データサイエンス講義				1	同時双方向									
	4.	データリテラシー演習①				2,3,4	面接									
	5.	データリテラシー演習②				2,3,4	面接									
	6.	データリテラシー演習③				2,3,4	面接									
	7.	データリテラシー演習④				2,3,4	面接									
8.	データリテラシー演習⑤				2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング																
成績評価基準	評価の方法:①レポート(70%)、②授業態度・授業への参加度(30%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②授業態度・授業への参加度:授業に意欲的に参加し、演習に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	対面もしくはLMS(Moodle)を通じて行う。															
時間外の学習について	予習・復習を行うこと(各回について予習90分・復習90分程度)。															
教材にかかわる情報	テキスト:書名:学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー 著者:FOM出版 出版社:富士通エフ・オー・エム株式会社 ISBN13: 9784865103434 参考書:特になし 参考資料等:特になし															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	オンラインと対面で演習中心の授業を行います。授業には各自のノートパソコンを持参して下さい。 授業で用いる主にソフトは、WordとExcelです。事前にパソコンにインストールを行っておいください。 なお、パソコンのOSはWindowsでもMacでも構いません(iPad、AndroidやChromeOSを搭載したタブレットやスマートフォンは不可。)。ただし、メーカーのサポートが終了しているアプリケーションソフト(WordやExcel)やOSは利用できません。 Email:kdev@yamaguchi-u.ac.jp (木下) :hkawamoto@y-gakugei.ac.jp (河本) ※SPARC教育プログラム担当者															

授 業 科 目 名	データ科学と社会Ⅱ	教 員 名	木下 真 (単独)	免許・資格等 との 関係	保 育 士											
					幼 稚 園 教 諭	選 択										
ナンバリングコード	CMI-1021-022201	年次配当	1 年前期		小 学 校 教 諭	選 択										
					中 学 校 教 諭 (英 語)	選 択										
授 業 形 態	講 義	授 業 科 目 の 取 扱 い	面 接 授 業 科 目	卒 業 要 件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)	選 択										
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	1				SPARC 教 育 プ ロ グ ラ ム	必 修 ③										
教 科 及 び 教 職 に 関 する 科 目	免 許 法 施 行 規 則 第 66 条 の 6 に 定 め る 科 目 ( 幼 稚 園 ・ 小 学 校 ・ 中 学 校 ( 英 語 ) ・ 高 等 学 校 ( 英 語 ) )															
各 科 目 に 含 め る こ と が 必 要 な 事 項	教 養 科 目															
授 業 テ ー マ	デ ー タ サ イ エ ン ス 、 デ ー タ リ テ ラ シ ー 、 I C T															
授 業 概 要	現 代 で は I C T を 用 い た 様 々 な サ ー ビ ス が 生 み 出 さ れ 、 「 超 ス マ ー ト 社 会 」 が 現 実 に な り つ つ あ る 。 こ の 礎 は 、 広 範 囲 か つ 目 的 に 整 合 し た デ ー タ の 取 得 と 、 こ れ ら の デ ー タ を も と に し た 問 題 解 決 を 行 う 科 学 的 な 方 法 論 、 す な わ ち デ ー タ サ イ エ ン ス に あ る 。 こ の 授 業 で は 、 社 会 の 発 展 の た め に デ ー タ サ イ エ ン ス を 学 ぶ 意 義 を 理 解 す る と と も に 、 そ の 基 礎 と な る デ ー タ リ テ ラ シ ー ( デ ー タ を 的 確 に 理 解 し 、 解 釈 し 、 分 析 す る 能 力 ) を 身 に 付 け る こ と を 目 標 と す る 。															
到 達 目 標	1. デ ー タ サ イ エ ン ス の 概 要 と そ れ を 学 ぶ 意 義 を 理 解 す る 。 2. デ ー タ サ イ エ ン ス の 基 礎 と な る デ ー タ リ テ ラ シ ー を 身 に 付 け る 。															
学 修 成 果 と の 関 係	①	○	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	連 携 開 設 科 目															
授 業 計 画						目 標	方 法									
	1. 情 報 の 流 通 と デ ー タ サ イ エ ン ス					1,2	面 接									
	2. デ ー タ サ イ エ ン ス の 基 本 技 術					1	面 接									
	3. 情 報 セ キ ュ リ テ ィ					2	面 接									
	4. デ ー タ ・ A I 利 活 用 の 法 規 と 倫 理 1					1,2	同 時 双 方 向									
	5. デ ー タ ・ A I 利 活 用 の 法 規 と 倫 理 2					1,2	オ ン デ マ ン ド									
	6. 企 業 で の デ ー タ サ イ エ ン ス 活 用 例					1,2	同 時 双 方 向									
	7. 専 攻 分 野 に お け る デ ー タ 活 用 研 究 例					1,2	面 接									
8. ま と め					1,2	面 接										
※2 回 目 以 降 の 授 業 の 順 番 は 、 入 れ 替 わ る こ と も あ る 。 そ の 際 は 授 業 で 事 前 に 周 知 を 行 う 。																
ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ																
成 績 評 価 基 準	評 価 の 方 法 : ① レ ポ ー ト ( 70% ) 、 ② 授 業 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度 ( 30% ) に よ り 、 総 合 的 に 評 価 す る 。 評 価 の 基 準 : ① 知 識 ・ 理 解 : 授 業 で 取 り 上 げ た 理 論 や 知 識 を 扱 っ た 問 題 に 解 答 で き る 。 ② 授 業 態 度 ・ 授 業 へ の 参 加 度 : 授 業 に 意 欲 的 に 参 加 し 、 演 習 に 取 り 組 む こ と が で き る 。															
フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	課 題 ( 試 験 や レ ポ ー ト 等 ) に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク は 対 面 も し く は M o o d l e を 通 じ て 行 う 。															
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と ( 各 回 に つ い て 予 習 90 分 ・ 復 習 90 分 程 度 ) 。															
教 材 に か か わ る 情 報	テ キ ス ト : 特 に な し 参 考 書 : 特 に な し 参 考 資 料 等 : 資 料 等 は 、 M o o d l e 上 に 準 備 す る 。 授 業 の 際 に 説 明 す る 。															
実 務 経 験 に つ い て																
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	ノ ー ト パ ソ コ ン を 持 参 し て く だ さ い 。 た だ し 、 メ ー カ ー ( M i c r o s o f t や A p p l e ) の サ ポ ー ト 期 限 が 切 れ て い る バ ー ジ ョ ン の ソ フ ト や O S は 利 用 で き ま せ ん 。 E m a i l : k d e v @ y a m a g u c h i - u . a c . j p ( 木 下 ) : h k a w a m o t o @ y - g a k u g e i . a c . j p ( 河 本 ) ※ S P A R C 教 育 プ ロ グ ラ ム 担 当 者															

授業科目名	統計学概論	教員名	杉野 弘明 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士										
					幼稚園教諭										
ナンバリングコード	CM2-1022-0000001	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭										
					中学校教諭(英語)										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)										
					特別支援学校教諭										
単位数	2				SPARC連携プログラム	必修 ③									
授業テーマ	統計、情報処理、データサイエンス、推定、仮説検定														
授業概要	データサイエンスの基本技術である統計解析や機械学習などを学び、そして活用するためには、その背景にあるモデリングなどの数学的な考え方になじんでおくことが重要である。 この講義では、データサイエンスに関する知識・技能として、これからデータサイエンスの学習を深めていく上で基盤(=共通言語)となる数学の基礎を学び、それらが結びついている統計学に触れる。具体的には、様々な関数のおおよその性質やグラフの概念、集合の考え方や順列、組み合わせ、ベクトルや行列が表す幾何学的な意味、確率分布などといった数学的な概念を理解し、標本調査の結果から如何に分析や推定を行うかを学ぶことを目的としている。														
到達目標	1. データの種類と収集・整理の方法を理解し、調査・観測の目的・対象に応じて選択できる。 2. 統計的諸量の数学的な意味を理解し、統計処理において適切に活用できる。 3. 統計的推定や検定の考え方を理解し、適切な方法を選択して活用できる。 4. コンピュータ等のツールを用いて基本的な統計処理を行うことができる。														
学修成果との関係	①	・	②	・	③	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	連携開設科目・SPARC教育プログラム履修者のみ履修可能														
授業計画						目標	方法								
	1. オリエンテーション					1	面接								
	2. データに親しむ・データを整える					1, 2	面接								
	3. データの代表指標1:平均					1, 2, 3, 4	面接								
	4. データの代表指標2:分散					1, 2, 3, 4	面接								
	5. 相関と回帰について					1, 2, 3, 4	面接								
	6. 母集団と標本					2, 3, 4	面接								
	7. 確率に親しむ					2, 3, 4	面接								
	8. 確率分布とその利用					2, 3, 4	面接								
	9. 離散型確率分布					2, 3, 4	面接								
	10. 連続型確率分布					2, 3, 4	面接								
	11. 無作為標本					2, 3, 4	面接								
	12. 推定					2, 3, 4	面接								
	13. 統計的仮説検定					2, 3, 4	面接								
	14. 質的データ分析とノンパラメトリック検定					2, 3, 4	面接								
15. 回帰分析について					2, 3, 4	面接									
アクティブ・ラーニング	本授業では座学に加えて、学生同士のディスカッションを行うパートを各回に設け、また個人ワークおよびグループワークによる成果のプレゼンテーション資料の作成を行うことを予定している。														
成績評価基準	評価の方法:①授業態度・授業への参加度(20%)、②宿題・授業後レポート(80%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲および態度:各回のレスポンスカードへの適切な記述ができる。 ②知識・理解、思考・判断、技能・表現:個人ワークおよびグループワークの成果が講義内容を十分に反映している。														
フィードバックの方法	課題(個人ワークおよびグループワーク)のフィードバックは授業中に行う														
時間外の学習について	予習:指定された課題を行い、必要に応じて配布される資料の次回内容に関わる部分を読み事前学習を行う(各回90分程度) 復習:各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する(各回90分程度)														
教材にかかわる情報	テキスト:講義内で適宜配布する。 参考書:もし統計学について本を手元に置いて勉強したい場合は、「中原治(著)基礎から学ぶ統計学(羊土社 2022)」をお勧めします。 参考資料等:														
実務経験について															
担当者からのメッセージ等	統計学は学んですぐに身に付いたり、力を発揮できるものではありませんが、統計学を学ぶことで得られる知識や態度は、皆さんが大学を卒業するまでに経験する課題や研究、そして卒業した後の人生のどこかで、必ず役に立つものです。講義内容全て、本に書かれていること全てを完璧に理解することは求められません。まずは恐れずに適切にデータに対峙できる態度を身に着ける気持ちで、本講義に参加してください。講義外での質問などについては、下記のメールアドレスにいつでもご連絡ください。 Email:hsugino@yamaguchi-u.ac.jp(杉野) :hkawamoto@y-gakugei.ac.jp(河本)※SPARC教育プログラム担当者														

授業科目名	人工知能概論	教員名	栗原 俊之 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-1023-0000001	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い			高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC連携プログラム	必修 ③										
授業テーマ	情報科学、情報化社会、最新技術															
授業概要	データサイエンスに関する知識・技能として、人工知能とは何か、様々な目的に応じた機能を実現するために、どのような仕組みでデータを処理しているのか、機械による学習とは何を行うことか、またその概要や人工知能の得意なところ、苦手なところについて理解する。また、人工知能が実際にどのような場で活用されているか、実現できる機能を利用事例とともに学び、人間社会に対する影響を知る。															
到達目標	1.人工知能とは何か理解している。															
	2.人工知能で実現できる機能を利用例とともに説明できる															
	3.人工知能が様々な機能を実現する仕組みの概要を理解している。															
	4.人工知能の得意なところ、苦手なところを理解している。															
	5.人工知能が社会にどのように活用され、新たな価値を生んでいるかを理解している。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	連携開設科目・SPARC教育プログラム履修者のみ履修可能															
授業計画					目標	方法										
	1. イントロダクション：人工知能とは				1	面接										
	2. 身近にある人工知能				1,2,3	同時双方向										
	3. 人工知能の歴史				1,3	同時双方向										
	4. 人工知能が得意なことと苦手なこと				1,4	同時双方向										
	5. 人工知能の仕組み：何をしているのか？				1,3	同時双方向										
	6. 機械学習				1,3	同時双方向										
	7. ニューラルネットワーク				3	同時双方向										
	8. 深層学習 Deep Learning				3	同時双方向										
	9. 人工知能による文字認識				2,3,5	面接										
	10. 人工知能による画像認識				2,3,5	面接										
	11. 人工知能による音声認識				2,3,5	面接										
	12. 生成型AI：Chat GPT				2,3,5	面接										
	13. 人工知能の実用例まとめ				2,4,5	面接										
	14. 人工知能が社会に与える影響				2,4,5	面接										
	15. これからの人工知能				1,2,3,4,5	面接										
	定期試験															
アクティブ・ラーニング	授業内で毎回課題を出す。インターネットで検索したり、パソコンで簡単なプログラムを作成して実行してみたり、などの課題に対するレポートをオンラインで提出させる。 テーマによってはグループワークやディスカッションを行い、理解を深める。															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(40%)、②宿題・授業内レポート(40%)、③授業態度・授業への参加度(20%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②技能・表現：課題・レポートで根拠を明確にして自説を述べている。 ③関心・意欲・態度：ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができています。															
フィードバックの方法	毎回の課題にコメントをつけて返却する。															
時間外の学習について	予習：教科書は使用しないが、次回の資料を配布するので、事前に予習しておくように。(各回90分程度) 復習：授業の内容に関する課題に取り組む。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。授業内で資料を配布する。 参考書：世界一カンタンで実践的な文系のための人工知能の教科書(福馬智生/加藤浩一著：2020年、ソシム株式会社)、 文系のためのめっちゃやさしい人工知能(松原仁著：2022年、ニュートンプレス) 参考資料等：特になし															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	オンラインを積極的に活用し、課題提示、質疑応答等を行います。 Email：t-kurihara@yamaguchi-u.ac.jp(栗原) ：hkawamoto@y-gakugei.ac.jp(河本)※SPARC教育プログラム担当者															

授業科目名	知的財産入門	教員名	陳内 秀樹 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-1024-0000001	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC 連携プログラム	必修 ②										
授業テーマ	知的財産、著作権、特許、意匠、商標															
授業概要	知的財産は、土地や机・椅子のように形がある財産 (有体物) とは異なり、同時に別の場所で使用することも可能であり直接的支配が難しい無体物 (アイデア等の情報) として存在している。従って、権利の獲得、保護、活用の各局面で無体物としての特性に応じた権利者側のコントロールが必要になる。また、知的財産の受け手側にも、何処に知的財産が存在しどこまで利用できるのかという適切な判断が求められている。本講義では、受講者が知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに概念の理解や初歩的な知的財産対応力の形成を図る。															
到達目標	1. 知的財産の全体像を理解すること 2. レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマに初歩的な知的財産対応能力を形成すること 3. 社会活動における知的財産の価値を実感すること															
学修成果との関係	①	○	②	○	③	◎	④	.	⑤	.	⑥	.	⑦	.	⑧	.
履修条件・注意事項	連携開設科目															
授業計画					目標	方法										
	1. 知的財産の全体像				1,3	面接										
	2. 著作権の基礎知識				1,3	面接										
	3. 著作権法に定められた権利				1,3	面接										
	4. 著作権の権利制限・研究者マナー				1,2	面接										
	5. 産業財産権の基礎知識 (主に特許制度) 知財情報検索・解析・活用				1,3	面接										
	6. 意匠制度				1,3	面接										
	7. 商標制度				1,3	面接										
	8. 総括				1,2,3	面接										
定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①試験(50%)、②小レポート・ワークシート(40%)、宿題レポート(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に、試験や宿題レポートで解答できる。 ②関心・意欲、態度：小レポート・ワークシート等において積極的な取組が見られ、知財マインドの醸成が見られる。															
フィードバックの方法	宿題レポートについては、次の講義開始時に解答例を示し解説する。 小レポート等で質問があった際には講義時に回答する															
時間外の学習について	予習：新聞、インターネット等で、知的財産に関するニュースや話題を確認しその事柄に関して学修した成果を活かして自分なりの考えを述べるができるようにする。(各回 90 分程度) 復習：各回のテキストを復習し、宿題レポートに取り組む。(各回 90 分時間程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：これからの知財入門～変革の時代の普遍的知識～ (第4版) ISBN 978-4-296-20195-2 日経BP社 参考書：特になし 参考資料等：新しいモノ・コトを楽しく創る知財創造教育 未来を創る授業ガイド すべての教科ですぐに始められる学習指導案事例とヒント <a href="https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/zaisanken-seidomondai/2018_05_hint_zentai.pdf">https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/document/zaisanken-seidomondai/2018_05_hint_zentai.pdf</a>															
実務経験について	高等学校教員の経験から、学校内での著作権の扱い方、児童・生徒の創作作品 (著作物) の尊重や生かし方についても触れます。															
担当者からのメッセージ等	テキストは、正規ルートで購入ください。フリマサイト等で中古を求めると提出すべきワークシート等が欠損している場合があります。 メールで連絡ください。複数の科目を担当している都合上、メールには、必ず科目名、大学名、学部、氏名を必ず記入ください。 Email : h-jinnai@yamaguchi-u.ac.jp (陳内) : hkawamoto@y-gakugei.ac.jp (河本) ※SPARC 教育プログラム担当者															

# 専 門 科 目

学 科 目	ペー ジ	学 科 目	ペー ジ
教育原論 .....	34	Creative English I .....	73
教職概論 .....	35	Creative English II .....	74
教育制度論 .....	36	Applied English I .....	75
教育心理学 .....	37	Applied English II .....	76
特別支援教育概論 .....	38	Basic English Expression .....	77
教育課程論 .....	39	Intermediate English Expression .....	78
道徳教育の指導法 .....	40	Upper-Intermediate English Expression .....	79
総合的な学習の時間の指導法 .....	41	Advanced English Expression .....	80
特別活動の指導法 .....	42	異文化理解 .....	81
教育方法論 .....	43	英語科教育法Ⅰ .....	82
ICTを活用した教育の理論と方法 .....	44	英語科教育法Ⅱ .....	83
生徒・進路指導論 .....	45	英語科教育法Ⅲ .....	84
教育相談 .....	46	保育内容の理解と方法・健康Ⅰ .....	85
国語(書写を含む) .....	47	保育内容の理解と方法・健康Ⅱ .....	86
社会 .....	48	保育内容の理解と方法・人間関係 .....	87
算数 .....	49	保育内容の理解と方法・環境 .....	88
理科 .....	50	保育内容の理解と方法・言葉Ⅰ .....	89
生活 .....	51	保育内容の理解と方法・言葉Ⅱ .....	90
初等音楽 .....	52	保育内容の理解と方法・音楽表現 .....	91
図画工作 .....	53	保育内容の理解と方法・造形表現 .....	92
家庭 .....	54	子どもと芸術表現Ⅰ .....	93
初等体育 .....	55	子どもと芸術表現Ⅱ .....	94
初等英語 .....	56	保育内容の指導法・健康 .....	95
国語科教育法 .....	57	保育内容の指導法・人間関係 .....	96
社会科教育法 .....	58	保育内容の指導法・環境 .....	97
算数科教育法 .....	59	保育内容の指導法・言葉 .....	98
理科教育法 .....	60	保育内容の指導法・音楽表現 .....	99
生活科教育法 .....	61	保育内容の指導法・造形表現 .....	100
音楽科教育法 .....	62	保育内容指導法 .....	101
図画工作科教育法 .....	63	幼児教育概論 .....	102
家庭科教育法 .....	64	保育者論 .....	103
体育科教育法 .....	65	保育の心理学 .....	104
英語科教育法(小・中) .....	66	保育方法論 .....	105
英語学概論 .....	67	子どもの理解と援助 .....	106
英語史 .....	68	保育原理 .....	107
英文法演習 .....	69	子ども家庭福祉 .....	108
英語音声学 .....	70	社会福祉 .....	109
第二言語習得論 .....	71	子ども家庭支援論 .....	110
英語文学概論 .....	72	社会的養護Ⅰ .....	111

学科目	ページ	学科目	ページ
子ども家庭支援の心理学	112	子ども学	
子どもの保健	113	子ども表現実践演習	151
子どもの食と栄養	114	子ども実地研究Ⅰ	152
保育の計画と評価	115	子ども実地研究Ⅱ	153
保育内容総論	116	子どもと英語	154
乳児保育Ⅰ	117	子どもと教育	155
乳児保育Ⅱ	118	子どもの遊びと心理	156
子どもの健康と安全	119	子どもと福祉	157
障害児保育Ⅰ	120	グローバル学	
障害児保育Ⅱ	121	地域課題解決演習(PBL)Ⅰ	158
社会的養護Ⅱ	122	地域課題解決演習(PBL)Ⅱ	159
子育て支援	123	Global English	160
特別支援教育総論	124	国際論	161
知的障害児の心理・生理・病理	125	DXによる地域課題解決	
肢体不自由児の心理・生理・病理	126	DX概論	162
病弱児の心理・生理・病理	127	地域学	163
発達障害の心理アセスメント	128	DXによる地域課題解決(PBL)Ⅰ	164
知的障害教育論	129	DXによる地域課題解決(PBL)Ⅱ	165
肢体不自由教育論	130	教育実習	
病弱教育論	131	教育実習指導(幼・小)	166
知的障害教育指導論	132	教育実習(幼・小)Ⅰ	167
発達障害・重複障害教育総論	133	教育実習(幼・小)Ⅱ	168
視覚障害児教育総論	134	教育実習指導(小・中)	169
聴覚障害児教育総論	135	教育実習(小・中)Ⅰ	170
現代教育課題Ⅰ	136	教育実習(小・中)Ⅱ	171
現代教育課題Ⅱ	137	教育実習指導(中・高)	172
資格英語Ⅰ	138	教育実習(中・高)Ⅰ	173
資格英語Ⅱ	139	教育実習(中・高)Ⅱ	174
障害の理解と支援	140	特別支援教育実習指導	175
自主課題演習Ⅰ	141	特別支援教育実習	176
自主課題演習Ⅱ	142	保育実習	
デザインと造形	143	保育実習指導Ⅰ	177
器楽アンサンブル	144	保育実習Ⅰ	179
ピアノ奏法Ⅰ	145	保育実習指導Ⅱ	180
ピアノ奏法Ⅱ	146	保育実習Ⅱ	181
即興伴奏法Ⅰ	147	保育実習指導Ⅲ	182
即興伴奏法Ⅱ	148	保育実習Ⅲ	183
子どもとリトミックⅠ	149	実践演習	
子どもとリトミックⅡ	150	教職実践演習	184
		保育・教職実践演習(幼稚園)	185
		ゼミナール	
		卒業研究	186

授業科目名	教育原論	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-2001-1111100	年次配当	1年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想															
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	教育の理念および目的、教育の思想、現代教育課題の検討															
授業概要	教育の基本的概念、教育の目標、教育を成立させている要因(子ども、教員、家庭、学校、地域)、代表的な教育思想について学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。さらに歴史や思想を踏まえた上で現代の教育課題についても考察する。															
到達目標	1. 教育の基本的概念・本質・目標、教育が成立する要因(学校や家庭等)とその関係を理解する。															
	2. 教育の歴史についての基礎的知識を身に付け、家族・社会・近代的教育制度の歴史の変遷を理解する。															
	3. 教育に関する代表的な思想を理解する。															
	4. 思想や歴史を踏まえた上で、現代の教育課題について理解し、考察する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 教育学の概念、教育の理念と思想を学ぶことの意義について。					1	面接									
	2. 人間とは何か、人間と動物の違い、遺伝、人権と差別について。					1,4	面接									
	3. ルソーの教育思想と近代教育について。(子どもの発見、近代以前から近代への教育の変遷)					2,3	面接									
	4. ペスタロッチの教育思想について。(調和的発達、メトーテ)					2,3	面接									
	5. フレーベルの教育思想について。(恩物、子どもの遊び、保育、家庭のあり方)					2,3	面接									
	6. 近代教育制度の成立と展開について。(産業革命、国家と教会、モニトリアルシステム)					2,3	面接									
	7. デューイの教育思想について。(経験、児童中心主義、発問)					2,3	面接									
	8. 教育課程の変遷について。(昭和30年代の学習指導要領の定着、学力テスト)					2	面接									
	9. 教育課程の変遷について。(昭和から平成にかけて、受験競争、ゆとり、学力向上)					2	面接									
	10. 学校教育の本質と課題について。(特別活動、個性伸長、学級会、地域との関係)					1,4	面接									
	11. 学校教育の本質と課題について。(生徒指導、人権尊重、いじめ、不登校、家庭との連携)					1,4	面接									
	12. 学校教育の本質と課題について。(教育者の資質、リーダーシップ、研修、教員免許)					1,4	面接									
	13. 学校教育の本質と課題について。(教育者の資質、褒める、叱る、学級崩壊、体罰)					1,4	面接									
	14. 学校教育の本質と課題について。(保護者との関係、コミュニティスクールの導入)					1,4	面接									
	15. 現代の教育課題について考察する。ディスカッション					1,2,3,4	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを取り入れる。															
成績評価基準	評価の方法：①確認テスト(80%)、②毎時の小課題(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：教育学の基本的概念、教育の理念、代表的な思想、歴史の変遷等の基本的事項についての説明できる。歴史や思想を踏まえて現代の教育課題について考察できる。②関心・意欲：興味関心を持って自分なりに考察できる。															
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。															
時間外の学習について	予習：事前に配布したプリントを読み、用語について調べること、関連する書籍を読む。(90分程度) 復習：プリント、ノートを見て確認すること、授業内容についてスピーチが出来るように練習する。(90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：田代直人・佐々木司編著『新しい教育の原理』ミネルヴァ書房、2010年。 川野・阿川・栗原『小学校授業入門 山口学芸大学』															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	E-mail:kawano@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	教職概論	教員名	佐々木 司 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-2002-0011100	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)															
授業テーマ	教職の意義・役割、職務内容、資質能力、研修、服務・身分保障、教員養成制度、教師の専門職性、進路選択と教職論															
授業概要	この講義で教員としての基本的な資質を養うとともに、教職に就くにあたって基礎的・基本的事項を考察する。教師をとりまく状況、教職の意義と魅力、学校教育活動の諸場面における教員の役割、職務内容、組織として「チーム学校」の一員として諸課題に対応することについて話題を提供し、ディスカッションやグループプレゼンテーション等を通じて教職への意欲を高める。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解できている。(公教育の目的を踏まえ、その担い手である教員の存在意義、教職の職業的特徴を語るができる)</li> <li>2. 教員の役割・資質能力を理解できている。(教職観の変遷を踏まえ、現在求められている教員の役割、今日の教員に求められる基礎的な資質能力を語るができる)</li> <li>3. 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解できている。(教員の職務の全体像、生涯にわたって学び続けることの必要性、職務上及び身分上の意義及び身分保障を語るができる)</li> <li>4. 学校内外の専門家と連携・分担して対応する必要性を理解できている。(チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を語るができる)</li> </ol>															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	テキスト等を事前に読んで、授業に臨むこと。															
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション、教職の位置づけー公教育の目的と教員					1,2	面接									
	2. 教育実習とそこへ至る学びー教職課程、教育実習について					1,2	面接									
	3. 教員免許状と教職への進路					1,2,3	面接									
	4. 授業をつくるー「教える」ということの意味					1,2,3	面接									
	5. 学級通信からみた学級経営					1,2,3,4	面接									
	6. 生き方の指導としての生徒指導・進路指導					2,3	面接									
	7. 特別活動の意義とその指導					1,2,3,4	面接									
	8. 「困っている子」として捉える特別支援教育					1,2,3,4	面接									
	9. すべての教師が参画する学校経営(チームとしての活動)					1,2,3,4	面接									
	10. 研修と教師のライフステージ					1,2,3	面接									
	11. 小学校の教師に求められる資質・能力					1,2,3	面接									
	12. 中学校・高等学校の教師に求められる資質・能力					1,2,3	面接									
	13. グローバル化社会における教師と教師教育					2,3,4	面接									
	14. 私(受講者)の進路選択と教職論～発表と指導(Aグループ)					1,2,3,4	面接									
	15. 私(受講者)の進路選択と教職論～発表と指導(Aグループ)					1,2,3,4	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、模擬授業															
成績評価基準	<p>評価の方法: ①授業内レポート(30%)、②定期試験(70%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準: ①知識・理解、関心・意欲: 教職に対する適性や意欲を表明できる。</p> <p>②知識・理解、思考・判断: 教職に関する基礎的・基本的事項(教員の存在意義、教職に求められている役割、職務内容、学校内外の多様な専門性を持つ人材との効果的な連携・分担のあり方など)を修得している。</p>															
フィードバックの方法	希望者には、毎回、授業終了時刻から質問への応答、課題に対するコメント等を行う。															
時間外の 学習について	<p>予習: テキストの事前通読、不明箇所のノートへの書き出し(各回90分)</p> <p>復習: ノートの充実化、個別発展学習(各回90分)</p>															
教材にかかわる 情報	<p>テキスト: 佐々木司・三山緑(編)『これからの学校教育と教師』ミネルヴァ書房、2014</p> <p>参考書: 授業中、適宜紹介する。</p>															
実務経験について	教育委員会委員、国立教育政策研究所研究協力者、学校運営協議会委員等の経験を活かして、教職の意義等を話します。															
担当者からのメッセージ等	<p>座席は出席番号順の固定制とする。予習=90分、授業=90分、復習=90分を基本とする。担当者への連絡方法は授業で伝える。</p> <p>担当者の連絡先・E-mail tsasaki@yamaguchi-u.ac.jp</p>															

授業科目名	教育制度論	教員名	川野 哲也 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CM3-2003-0111100	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)															
授業テーマ	教育制度、教育法規、教育制度改革の歴史の変遷、現代的教育課題															
授業概要	戦前から戦後、現在に至る教育制度の変遷をとらえ、現代的教育制度についての基礎的な知識、学校と地域との連携に関する基礎的な知識、学校安全への対応に関する基礎的な知識を身に付ける。さらに教育制度に関連する教育課題について考察する。															
到達目標	1. 公教育の原理・理念、教育関係法規、教育行政の仕組みについて理解し、説明できるようになる。															
	2. 学校と地域との連携について理解し、説明できるようになる。															
	3. 学校安全への対応について理解し、説明できるようになる。															
	4. 教育制度をめぐる教育課題について理解し、考察する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 公教育の原理、教育制度の歴史の変遷について。(明治時代における学制、教育令、等)					1	面接									
	2. 公教育の原理、教育制度の歴史の変遷について。(戦後の改革、日本国憲法、教育基本法、等)					1	面接									
	3. 教育制度の歴史の変遷について。(教育基本法の改正、現在における法体系、等)					1	面接									
	4. 義務教育について。(就学義務、費用、国庫負担、教育財政、等)					1,4	面接									
	5. 各学校の目的について。(一条学校、私立学校と宗教の問題、等)					1,4	面接									
	6. 教育行政の仕組みについて。(中央と地方の役割分担、教育委員会、総合教育会議、等)					1,4	面接									
	7. 教育水準の維持向上について。(ゆとりから学力向上策へ、中央教育審議会の役割、等)					1,4	面接									
	8. アメリカにおける教育制度について。(公設民営学校:チャータースクール、等)。					1,2,4	面接									
	9. 学校選択制度の導入について。(学区制、保護者の教育要求、等)					1,2,4	面接									
	10. 学校の教員組織、開かれた学校づくりについて。(学校評議員、地域運営学校、等)					1,2,4	面接									
	11. 教員の養成と研修について。(免許制度、教員の任用と免職、服務、研修制度、等)					1,4	面接									
	12. 出席管理と記録について。(不登校、出席停止、指導要録、健康診断、等)					1,4	面接									
	13. 学校生活の安全について。(安全な学校施設、事件や事故の対応、安全教育、等)					1,3,4	面接									
	14. 自然災害への対応について。(各学校における取組)					1,3,4	面接									
15. 現代的教育制度をめぐる課題について。ディスカッション。					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを取り入れる。															
成績評価基準	評価の方法:①確認テスト(80%)、②毎時の小課題(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解、思考・判断:教育制度の基本的事項を説明できる。現代の課題、今後の教育制度について考察できる。 ②関心・意欲、思考・判断:興味関心を持って自分なりに考察できる。															
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。															
時間外の学習について	予習:事前にプリントを配布するので、用語については各自調べておくこと、現状の課題について考察しておくこと。(90分程度) 復習:授業で扱った内容については復習し、さらに図書館等で関連書籍を読むこと。(90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:河野和清編『現代教育の制度と行政』福村出版、2017年。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	E-mail:kawano@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	教育心理学	教員名	大田紀子 田邊敏明(実務経験) (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2004-0011100	年次配当	1年後期		小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARK教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程															
授業テーマ	発達の過程と教育心理学の意義、学習、動機づけ、学級集団															
授業概要	教育という行為は、人間社会の多様な場面で行われるものである。大人と子ども、先生と生徒、先輩と後輩、障害のある子どもと適応困難を示す子ども、など、教える側の人と教えられる側の人の関係は様々な形態となっている。また、教育の内容や方法も複雑多様で、単純な手引き書的な原理だけでは効果的な教育が期待できない場合が多い。望ましい教育関係の背景には、適切な理論的基盤に立脚した指導や実践が伴っている。本講では、心理学的な立場から子どもの発達や特性を理解し、子どもと関わる場合に必要となる教育の基本的な知識や技術について概説し、教育実践における効果の向上についての理解を深める。															
到達目標	1. 人間発達の概念及び教育心理の意義について理解する。 2. 発達の過程及び特徴を理解する。 3. 学習の領域と過程について理解する。 4. 記憶と学習の転移について理解する。 5. 学習過程と動機づけについて理解する。 6. 学級集団の力学と構造について理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 人間発達の概念と教育心理学の概念(担当:大田紀子)					1,2	面接									
	2. 発達の過程と教育心理学の意義/【小テスト】(担当:大田紀子)					1,2	面接									
	3. 教育心理学的研究方法(担当:田邊敏明)					1	面接									
	4. 学習の概念と領域(担当:田邊敏明)					3	面接									
	5. 各時期における発達の特徴及び言語学習・思考的学習・社会的学習(担当:田邊敏明)					2,3	面接									
	6. 各時期における発達の特徴及び記憶と忘却(担当:田邊敏明)					2,4	面接									
	7. 学習の転移(担当:田邊敏明)					4	面接									
	8. 学習と動機づけ・レディネス(担当:田邊敏明)					5	面接									
	9. 教授-学習過程と学習指導(担当:田邊敏明)					5	面接									
	10. 個人差に応じた学習(担当:田邊敏明)					5	面接									
	11. 教育評価(担当:田邊敏明)					5	面接									
	12. 人格の発達と適応(担当:田邊敏明)					1,2	面接									
	13. 学級集団の特徴(担当:田邊敏明)					6	面接									
	14. 学級集団の構造の理解(担当:田邊敏明)					6	面接									
	15. 学級集団の指導(担当:田邊敏明)					6	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①レポート(20%)、②小テスト(20%)、③定期試験(60%)により総合的に評価する。 評価の基準:①思考・判断:身につけた知識や理論を反映させて自分なりの意見を述べることができる。 ②③知識・理解:授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。															
フィードバックの方法	レポート課題について全体でコメントを出し、優れている事例を挙げて解説を加える。															
時間外の学習について	予習:配布資料に目を通し、授業内容の予習を行う。(各回90分程度) 復習:授業中に書き込み等を行った配布資料をまとめ、ノートを作成する。小テスト・定期試験は自筆のノートのみ持ち込み可とする。(各回90分程度) 日頃から教育や教育問題に関するニュースに関心を持ち、テレビやネット、新聞記事等から情報を得ること。															
教材にかかわる情報	テキスト:特になし、適宜資料を配布する。 参考書:「明日から教壇に立つ人のための教育心理・教育相談」田邊敏明・大石英史・沖林洋平・小野文典・押江隆 2014年 北大路書房 その他、講義の進行に応じてその都度提示する。 参考資料等:適宜資料を配布する。															
実務経験について	教育相談の経験を加味しながら、現場の教育に関する諸課題についての課題を提供します。国立大学附属中学校長(8年間)の経験に基づいた子どもたちの発達に関する課題を提供します。(田邊敏明)															
担当者からのメッセージ等	配布資料を順次ファイルとしてまとめノートを作成し、毎回持参してください。 担当者の連絡先・E-mail:ota@y-gakugei.ac.jp(大田) ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp(田邊)															

授業科目名	特別支援教育概論	教員名	河村 佐和子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-2005-0111100	年次配当	1年前期		小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解															
授業テーマ	特別支援教育、インクルーシブ教育、障害															
授業概要	多様なニーズのある子どもの特性と支援について理解するための授業です。様々な障害のある幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程や学習上または生活上の困難について解説するとともに、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについても触れます。また、障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性についても講義します。その上で、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた方策について検討します。															
到達目標	1. 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の障害特性や発達について理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の教育課程及び支援方法について理解する。 3. 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の実態や支援方法について理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	○	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション・特別支援教育の理念					1,2	面接									
	2. 特別支援教育の制度と仕組み・インクルーシブ教育システム					1,2	面接									
	3. 障害の個人モデルと社会モデル・合理的配慮					1,2	面接									
	4. 様々な障害の理解 (1) — 視覚障害・聴覚障害・盲ろう					1,2	面接									
	5. 様々な障害の理解 (2) — 知的障害・肢体不自由					1,2	面接									
	6. 様々な障害の理解 (3) — 病弱・重度重複障害					1,2	面接									
	7. 様々な障害の理解 (4) — 発達障害・軽度知的障害等					1,2	面接									
	8. 貧困・人種・国籍・母国語・性の多様性等の理解					1,2	面接									
	9. 特別支援教育の教育課程と自立活動					1,2	面接									
	10. 個別の指導計画と個別の教育支援計画					1,2	面接									
	11. 交流及び共同学習・センター的機能					1,2,3	面接									
	12. 通級による指導・特別支援学級					1,2	面接									
	13. 通常の学級におけるインクルーシブな学級・授業づくり					1,2,3	面接									
	14. 特別支援教育コーディネーターの役割・校内(園内)委員会・家庭や関係機関との連携					1,2,3	面接									
15. 特別支援教育とインクルーシブ教育の課題と展望					1,2,3	面接										
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループワーク・グループディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①授業内の取組・リアクションペーパー(50%)、②定期試験(50%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①思考・判断、技能・表現:授業で扱った内容について考察し、説明することができる。 ②知識・理解:特別支援教育に関する基本的事項を理解できる。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。															
時間外の学習について	予習:テキストの授業内容に関連する部分を読み込んでおく。各回90分程度 復習:授業で配布した資料を中心に復習する。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:小林倫代編・著(2022)『改訂版 教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる。』Gakken 参考書:湯浅恭正・新井英晴・吉田茂孝編(2019)『よくわかるインクルーシブ教育』ミネルヴァ書房 木村泰子(2019)『「ふつうの子」なんて、どこにもいない』家の光協会 参考資料等:各授業において適宜資料を配布する。															
実務経験について	特別支援学校教員経験:実践的な話を交えて進めます。															
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	教育課程論	教員名	松村 納央子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	CM2-2006-0111100	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭	必修												
					中学校教諭(英語)	必修												
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修												
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))																	
各科目に含める ことが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)																	
授業テーマ	学校教育における教育課程の意義、教育課程編成の基本原則、教育課程編成の方法、教科等横断の視点、カリキュラム・マネジメント、指導と評価の一体化																	
授業概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。																	
到達目標	1. 学習指導要領の位置づけ、学校教育課程が社会において果たしている役割を理解する																	
	2. 教育課程編成の基本原則を理解する																	
	3. 教科・領域を横断して教育内容を選択・配置する方法、生徒の実態や学校が置かれている環境を踏まえた教育課程・指導計画を検討する重要性を理解する																	
	4. カリキュラム・マネジメントの意義、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 学校において教育課程はなぜ編成されるのかー公教育の目的を踏まえて																1	面接
	2. ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(1)ー昭和22年「試案」ならびに昭和26年改訂・昭和31年改訂																1,2	面接
	3. ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(2)ー昭和33年(中)・昭和35年(高)改訂ならびに昭和44年(中)・昭和45年(高)改訂																1,2	面接
	4. ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(3)ー昭和52年(中)・昭和53年(高)改訂ならびに平成元年改訂																1,2	面接
	5. ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(4)ー平成10年(中)・平成11年(高)改訂ならびに平成20年(中)・平成21年(高)改訂																1,2	面接
	6. ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領(5)ー平成29(小・中)・平成30(高)年改訂																1,2	面接
	7. 教科・領域横断的な視点とは																2,3,4	面接
	8. 教科・領域横断カリキュラムの事例(1)ー郷土や地域をテーマとしたカリキュラム																2,3,4	面接
	9. 教科・領域横断カリキュラムの事例(2)ー市民性をテーマとしたカリキュラム																2,3,4	面接
	10. 教科・領域横断カリキュラムの事例(3)ー防災を含む安全をテーマとしたカリキュラム																2,3,4	面接
	11. カリキュラム・マネジメント(1)ー教育目標の設定																1,2,3,4	面接
	12. カリキュラム・マネジメント(2)ー教育内容の選択と配列、人的・物的資源の組み合わせ																1,2,3,4	面接
	13. カリキュラム・マネジメント(3)ー指導と評価の一体化とは																1,2,3,4	面接
	14. カリキュラム・マネジメント(4)ー学習者自身の評価を促すには																1,2,3,4	面接
15. カリキュラム・マネジメント(5)ー「社会に開かれた教育課程」とするには																1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法:①毎回の授業後に取り組むレポート(30%)、②定期試験(70%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解、関心・意欲:毎回の授業後に取り組むレポートにおいてはその記述内容が適切である。 ②知識・理解、思考・判断:定期試験においては、毎回の授業で得た知識の定着度に加え、情報収集・取捨選択が妥当である。																	
フィードバックの方法	面接授業であるが、授業中だけではなく共有すべき受講生からの質問に対してTeams上にて適宜フィードバックを行う。																	
時間外の学習について	予習:指定された資料を読み、不明な用語について調べる。各回90分程度。 復習:授業中のキーワードを抽出し、解説を加える。各回90分程度。																	
教材にかかわる情報	テキスト:文部科学省2017a:小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編、文部科学省2017b:中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編、文部科学省2018:高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 参考書:授業中適宜紹介する。 参考資料等:授業中適宜紹介する。																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail:matsumura@y-gakugei.ac.jp																	

授業科目名	道徳教育の指導法	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	CM2-2007-001 200	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	必修												
					中学校教諭(英語)	必修												
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択												
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))																	
各科目に含める ことが必要な事項	・道徳の理論及び指導法																	
授業テーマ	道徳教育の理論、道徳の指導法																	
授業概要	道徳教育の意義や本質等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究と模擬授業等を通して適切な授業計画を立案する。																	
到達目標	1. 現代社会における課題、道徳教育の意義、道徳の本質について理解する。 2. 道徳教育の目標、内容、評価、児童生徒の道徳性発達について理解する。 3. 道徳の授業計画と指導方法を理解し、自らも立案することができる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 道徳の本質、現代における道徳教育の意義について。(いじめ、情報モラル、等)																1	面接
	2. 道徳の本質、古代ギリシアの思想について。(ソクラテスの議論、徳とは何か、等)																1	面接
	3. 道徳の本質、リベラリズムの思想について。(個人の自由とは何か、法と道徳、等)																1	面接
	4. 道徳の本質、カントの思想について。(結果と動機、自律と他律、普遍的法則、等)																1	面接
	5. 道徳教育の理論、コールバーグの理論について。(道徳性発達、等)																2	面接
	6. 道徳教育の理論、学習指導要領の変遷について。(現代的課題、道徳科の設置、等)																2	面接
	7. 道徳教育の理論、道徳教育の目標と内容について。(学習指導要領、全体計画と指導計画、等)																2	面接
	8. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：生活習慣、努力、希望)																2,3	面接
	9. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：誠実、善悪の判断、自由)																2,3	面接
	10. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：礼儀、親切、思いやり)																2,3	面接
	11. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：友情、相互理解、寛容)																2,3	面接
	12. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：勤労、公共の精神、学校生活)																2,3	面接
	13. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：家族愛、伝統文化、愛国心)																2,3	面接
	14. 道徳の指導法について。(指導計画と教材研究：生命の尊さ、動植物の命)																2,3	面接
15. まとめ																		面接
アクティブ・ラーニング	1～7回では、ディスカッション、8～14回では、模擬授業、ロールプレイを取り入れる。																	
成績評価基準	評価の方法：①確認テスト(80%)、②毎時の小課題(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：道徳教育に関する基本的事項について説明できる。 適切な指導計画を立案できる。 ②関心・意欲、知識・理解、思考・判断：興味関心をもって考察できる。																	
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。																	
時間外の 学習について	予習：次週の課題を予告するので、用語など調べ、自分なりに考察すること。(90分程度) 復習：よく復習しておくこと。関連する書籍を読むこと、道徳の教材を使った模擬授業を友人同士で行うこと。(90分程度)																	
教材にかかわる 情報	テキスト：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 参考書：西村正登著『現代道徳教育の構想』風間書房、2008年。 『新しい道徳』東京書籍(教科書) 『道徳 きみがいちばんひかるとき』光村図書(教科書)																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	E-mail : kawano@y-gakugei.ac.jp																	

授 業 科 目 名	総合的な学習の時間の指導法	教 員 名	藤上 真弓(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士											
					幼 稚 園 教 諭											
ナンバリングコード	CM2-2008-0011100	年次配当	2年前後期 (集中講義)	卒業要件	小 学 校 教 諭	必修										
					中 学 校 教 諭 (英 語)	必修										
授 業 形 態	講 義	授 業 科 目 的 取 扱 い	面接授業科目	卒業要件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)	必修										
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	総合的な学習の時間の指導法															
授 業 テ ー マ	総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の原理、果たすべき役割の理解															
授 業 概 要	総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の教育理念や教育原理、子どもに育む資質・能力、カリキュラム・マネジメントや単元開発、授業づくり等に必要視点を方法、考え方等について学ぶとともに、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を通じて、実践化を図るための資質・能力を高める講義を行う。															
到 達 目 標	1.総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の教育理念や教育原理 目標 内容 方法 課題等や、総合的な学習の時間の意義や果たすべき役割について、資質・能力の育成の視点から理解している。(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する) 2.総合的な学習の時間・総合的な探究の時間において、主体的・対話的で深い学びを生み出すためのカリキュラム・マネジメントや単元計画 授業づくりに必要な視点や方法 考え方等や、各教科等との関連、考えるための技法やワークシートの活用(あり方)について理解する。(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。) 3.探究的な学び・探究を生み出す教師の手立てや総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における評価方法について理解する。(総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。)															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	○	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授 業 計 画						目標	方法									
	1. 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の意義と果たす役割(目標、教育理念、教育原理、カリキュラム・マネジメント)					1,2	面接									
	2. 主体的・対話的で深い学びを生み出すカリキュラム・マネジメント、単元デザインのポイント					2,3	面接									
	3. 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間に身に付けたい資質・能力とカリキュラム・マネジメント、指導計画作成のあり方(各教科等との関連、考えるための技法やワークシートの活用(あり方))					1,2,3	面接									
	4. 目標を実現するためにふさわしい探究的な課題や探究的な学習の過程、探究課題や探究の過程を生み出すための手立て					1,2,3	面接									
	5. キャリア教育を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント					1,2,3	面接									
	6. 環境や福祉等、現代的課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント					1,2,3	面接									
	7. 地域や学校の特色に応じた課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント					1,2,3	面接									
	8. 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間における評価(見取り、グループモデレーション等) ◎定期試験					1,3	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法: ①定期試験(50%)、②授業終了時の授業内レポート(35%)、③授業の態度・授業への参加度[グループ活動、発表等](5%) ④受講者の発表(10%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解、思考・判断: 総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の存在意義や育むべき資質・能力、カリキュラム開発・単元づくり・授業づくり・評価等に関する知識・技能を修得している。 ②知識・理解、思考・判断: 講義内容を踏まえて総合的な学習の時間・総合的な探究の時間に対する考えを表明できる。 ③思考・判断、関心・意欲、態度: 意欲的に自分の考えを述べたり、活動に参加したりしている。 ④関心・意欲、技能・表現: グループディスカッションの過程や結果を論理的に説明できる。															
フィードバックの方法	授業内レポートへのコメント等															
時間外の学習について	予習: 講義内で提示した資料や参考文献を次の講義までに読んでおくこと。各回20分程度。 復習: 定期試験に備え、各回の講義内容の要旨を整理しておくこと。各回25分程度。															
教材にかかわる情報	テキスト: 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領 文部科学省「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」、文部科学省「高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間編」 参 考 書: 都留寛・藤上真弓「小学校プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」東洋館出版社、2012 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小学校編)」アイフィス、2021 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(中学校編)」アイフィス、2022 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(高等学校編)」アイフィス、2023 文部科学省教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[小学校総合的な学習の時間]」、東洋館出版社、2020 文部科学省国立教育政策所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[中学校総合的な学習の時間]」、東洋館出版社、2020 文部科学省国立教育政策所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[高等学校総合的な探究の時間]」、東洋館出版社、2021 文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」実業之日本社、2023 文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」、実業之日本社、2023 参考資料等: 授業中に適宜配布する。															
実務経験について	学校現場において、総合的な学習の時間の実践研究に取り組んでいた経験を活かして、理論と実践を往還させながら講義をおこないます。															
担当者からのメッセージ等	質問や相談はメールにて受け付けます。Email: fujikami@yamaguchi-u.ac.jp															

授業科目名	特別活動の指導法	教員名	森 俊博(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	CM3-2009-0211100	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	特別活動の指導法															
授業テーマ	特別活動, チーム学校, 合意形成, 意志決定															
授業概要	特別活動の意義や目標および内容と, 連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導を理解し, 基礎的な学習理論を踏まえた授業設計を行う方法を身に付ける。															
到達目標	1. 特別活動の意義や目標および内容を理解し, 説明できるようになる。 2. 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解し, 活用できるようになる。 3. 基礎的な学習理論を踏まえた授業設計を行う方法を身に付ける。 4. 特別活動における関係機関と連携した組織的な対応の在り方を理解し, 対応できるようになる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション・特別活動の目標と主な内容				1,2,4	面接										
	2. 特別活動はどんな学習活動か・教育課程上の位置づけ				1,2	面接										
	3. 特別活動の教育上の特性				2	面接										
	4. 特別活動の全体計画と指導計画				1,2	面接										
	5. 特別活動で教師に求められる力量				1,3	面接										
	6. 特別活動で教師に求められる力量の実際・特別活動の実践についてのグループワーク				1,3	面接										
	7. 学級活動における話し合い				1,3	面接										
	8. 学級活動における実際の話し合い				1,3	面接										
	9. 学校行事の指導				2,4	面接										
	10. 学級目標に関する指導				2,3	面接										
	11. 学級目標の活用				2,3	面接										
	12. 特別活動と学級経営				2,3	面接										
	13. 特別活動と集団づくり				2,3	面接										
	14. 特別活動の実践についてのグループワーク・小テスト				1,3,4	面接										
15. 特別活動における評価・特別活動の実践についてのグループワーク				2,4	面接											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク															
成績評価基準	評価の方法: ①小テスト(30%)、②授業内レポート(30%)、③受講者の発表(30%)、④参加態度(10%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解: 特別活動の指導に必要な基礎的な知識を理解することができる。 ②思考・判断: 根拠を明確にして論理的に自説を述べる。 ③技能・表現: 情報通信技術を活用して, 指導に関する理論を踏まえた基礎的な指導を例示できる。 ④態度: 積極的に話し合いに参加する。コメントカードの記述内容が適切である。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる															
時間外の学習について	予習: テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおく。授業内の発表の事前準備を行う。各回90分程度 復習: 授業内で紹介した特別活動の内容について書籍などで調べ, まとめる。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト: 特別活動の理論と実際(2018年 河村茂雄(編著) 図書文化社) 参考書: 平成29年告示 学習指導要領解説特別活動編 参考資料等: 授業中に適宜配布する。															
実務経験について	小学校教員経験: 自律性支援的な指導行動等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。															
担当者からのメッセージ等	グループワークを行うため, 欠席をする場合は事前連絡が望ましい。 担当者の連絡先・E-mail: tmori@gakugei.ac.jp(森)															

授業科目名	教育方法論	教員名	森 俊博(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-2010-0011100	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教育の方法及び技術															
授業テーマ	授業設計、指導技術、ICTの効果的な活用、主体的・対話的で深い学び															
授業概要	授業設計に関わる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICTの効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を身に付ける。															
到達目標	1.教育方法の基礎的理論と実践を理解する。 2.授業を構成する基礎的な要件を理解する。 3.基礎的な指導技術を理解し、例示する。 4.学習評価の基礎的な考え方を理解し、学習指導案を作成する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション・教育方法論の位置づけとICT活用					1,2	面接									
	2. 学力問題の世界的動向とICT活用					1,2	面接									
	3. 授業の基礎的技術					2,3	面接									
	4. 学びを引き出す指導技術					2,3	面接									
	5. 主体的・対話的で深い学び					1,2	面接									
	6. 学習評価					1,2	面接									
	7. 授業分析					1,3	面接									
	8. 教師の学習					1,2	面接									
	9. 学習指導案・模擬授業・ICTを活用した授業					1,2,4	面接									
	10. メディアリテラシーとICTリテラシー					1,2,4	面接									
	11. ICT活用 人 台端末時代に向けて					1,2,3	面接									
	12. 教育方法学の展望					1,2	面接									
	13. 受講生による模擬授業					2,4	面接									
	14. 受講生による模擬授業・小テスト					1,3,4	面接									
15. 受講生による模擬授業・レポート					1,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①小テスト(30%)、②授業内レポート(40%)、③模擬授業(30%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:教育方法の基礎的な理論と実践方法を理解できる。 ②思考・判断:基礎的な学習指導理論を踏まえて、指導案を作成することができる。 ③技能・表現:基礎的な学習指導の技術を活用することができる。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる															
時間外の学習について	予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおく。授業内の発表の事前準備を行う。各回90分程度 復習:授業内で紹介した教育方法の内容について書籍や論文などで調べ、まとめること。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:「教師と学生が知っておくべき教育方法論・ICT活用」(2022年 武田明典・村瀬公胤編者 北樹出版) 参考書:平成29年告示 学習指導要領解説総則編 参考資料等:授業中に適宜配布する。															
実務経験について	小学校教員経験:主体的・対話的で深い学び等の学校現場の今日的なテーマについての話を講義の中で行う。															
担当者からのメッセージ等	グループ活動を行うため、欠席をする場合は事前連絡が望ましい。 担当者の連絡先・E-mail:tmori@y-gakugei.ac.jp(森)															

授業科目名	ICTを活用した教育の理論と方法	教員名	南野 翔夫 (実務経験) 長 篤志 (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-2011-0111100	年次配当	1年後期		小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い		卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法(小・中・高) ・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)(幼稚園)															
授業テーマ	ICTを活用した教育の歴史、情報通信技術(ICT)、幼・小・中・高の教育・校務への活用、情報活用能力															
授業概要	①教育現場におけるICT活用について、その歴史的経緯や意義、最新の現状について学ぶとともに、②各教科の指導におけるICT活用の基本的な指導事例や指導法に加え、授業準備や学習評価への活用、校務システムへの活用、教育データの活用なども学ぶ。③また、児童生徒の情報活用能力の育成の意義や具体的な指導法、プログラミング教育の基本等を学ぶ。															
到達目標	1.教育現場における情報通信技術(ICT)の活用の意義と理論を理解している。															
	2.日進月歩を続ける情報通信技術(ICT)を幼・小・中・高の学習指導や校務の実際に活用するための方法や今後の在り方について理解している。															
	3.子どもたちの情報活用能力を育成する基礎理論及び育成方法を身に付けている。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	授業の実施方法：面接授業(状況により遠隔授業等との併用)															
授業計画					目標	方法										
	1.教育現場におけるICT活用の歴史的変遷と今日的な意義、今後の方向性(南野翔夫)				1	面接										
	2. ICT活用の指導法の基本理論と、対話的な学びを深める指導事例の理解(南野翔夫)				2	面接										
	3. 幼児や特別な支援を要する児童生徒に対するICT活用の意義と、個別最適な学びを支える基本的な指導事例や最新情報の理解(AIロボットの活用など)(南野翔夫)				1,2	面接										
	4. 教育データを活用した指導や学習評価、校務推進への活用の理解と、教育情報セキュリティの重要性の理解(南野翔夫)				1,2	面接										
	5. 子どもたちの情報活用能力(情報モラルを含む)の内容とその育成の指導事例の理解(南野翔夫)				3	面接										
	6. 遠隔授業の意義や関連システムの理解と、デジタル教材の作成・活用(子どもたちによるICT機器操作のための指導の基本を含む)(南野翔夫)				2,3	面接										
	7. 対面授業を想定したデジタル教材の作成・活用の実践I(子どもたちによるICT機器の活用や情報モラルの指導も含む)(南野翔夫)				2,3	面接										
	8. 対面授業を想定したデジタル教材の作成・活用の実践II(具体的なテーマ選択での講義資料作成・活用の発表(子どもたちの情報活用能力向上にかかる指導法の検討も含む)(南野翔夫)				2,3	面接										
	9. デジタル教材の作成・活用の発表と振り返り(グループ討議を含む)(南野翔夫)				1,2,3	面接										
	10. 外部人材の活用や外部機関との連携、学校におけるICT環境の整備等の在り方の基本と、情報活用能力の育成に向けた活用の在り方の理解(南野翔夫)				1,3	面接										
	11. プログラミング教育の意義と基本的なプログラミングの考え方、子どもたちへの指導方法(長篤志)				1,2	面接										
	12. 基本プログラミング言語による基本的教材開発と学習指導への活用の基本(長篤志)				2,3	面接										
	13. 基本プログラミング言語による開発ソフトの理解と学習指導への活用(長篤志)				2,3	面接										
	14. 興味関心を高める指導や情報活用能力向上に向けた教材開発Iと学習指導への活用(長篤志)				2,3	面接										
15. 興味関心を高める指導や情報活用能力向上に向けた教材開発IIと学習指導への応用(長篤志)				2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	デジタル教材のテーマを選択し、文献調査やネットでの情報収集・動画作成し、グループ毎の発表・質疑応答を行う。															
成績評価基準	評価の方法：①毎回の演習課題(50%)、②研究課題や開発教材のプレゼン評価(50%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：毎回提出する演習課題の内容が適切である。 ②関心・意欲、技能・表現：研究課題や開発教材のプレゼンが適切にできる。															
フィードバックの方法	毎回の課題等に、コメントをつけて返却し、指導する。															
時間外の学習について	予習：毎回の講義資料を前日までにTEAMSに掲示し予習を促す。可能であれば反転授業の形をとる。各回90分程度。 復習：前回の講義資料の閲覧を促し、次回の講義の始めに学生意見紹介または簡単な小テストを行う。各回90分程度。															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし(講義資料等を適宜配布する) 参考書：PC 人 台時代の間違えない学校ICT(堀田龍也著、小学館、2020年)															
実務経験について	30年間の企業経験を活かし、ICTの事例なども紹介します。															
担当者からのメッセージ等	毎回の講義において、事前に講義資料がTEAMSにアップロードされているので、予習復習に活用しよう。 Email: T0033_gakugei@y_gakugei.ac.jp(南野) osaa@yamaguchi-u.ac.jp(長)															

授業科目名	生徒・進路指導論	教員名	森 俊博(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-2012-0011100	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	生徒指導の理論及び方法															
授業テーマ	生徒指導, 集団指導, 個別指導, いじめ, 不登校, 関係機関との連携															
授業概要	生徒指導の意義や原理, 生徒指導の進め方を理解し, 関係機関等の校内外の連携を含めた対応の在り方についての知識と指導の実際を身に付ける。															
到達目標	1. 生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、説明できるようになる。 2. すべての児童・生徒を対象とした生徒指導・進路指導・キャリア教育の進め方を理解し、活用できるようになる。 3. 自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方, 課題に向き合う指導の在り方を例示する。 4. 関係機関等との校内外の連携を含めた対応の在り方を理解し、活用できるようになる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション・生徒指導とは				1	面接										
	2. 生徒指導の意義と原理				1,2	面接										
	3. 子どもの発達課題と心理・キャリア教育				1,2	面接										
	4. 教育活動における生徒指導と進路指導				1,2	面接										
	5. アンケート調査による児童生徒理解とその活用				1,2	面接										
	6. 学級集団の状態像に応じた指導				1,2	面接										
	7. 生徒指導体制と組織的な取組				3,4	面接										
	8. 生徒指導体制と組織的な取組の実際				3,4	面接										
	9. 進路指導とキャリア教育				1,2,4	面接										
	10. 不登校の理解と対応				1,3	面接										
	11. いじめの理解と対応				1,3	面接										
	12. 生徒指導に関する法令				1,2	面接										
	13. 生徒指導と特別支援教育				2,3	面接										
	14. 学級崩壊とキャリアカウンセリング・小テスト				1,2,3	面接										
15. 家庭・地域・関係機関との連携				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク															
成績評価基準	評価の方法: ①小テスト(30%), ②授業内レポート(30%), ③受講者の発表(30%), ④参加態度(10%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解: 生徒指導を進めていくために必要な知識を理解できる。 ②思考・判断: 根拠を明確にして論理的に自説を述べている。 ③技能・表現: 基礎的な指導技術を活用することができる。 ④態度: 積極的に話し合いに参加する。コメントカードの記述内容が適切である。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる															
時間外の学習について	予習: テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおく。授業内の発表の事前準備を行う。各回90分程度 復習: 授業内で紹介した生徒指導の内容について書籍や論文などで調べ, まとめること。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト: 生徒指導・進路指導の理論と実際 改訂版 (2019年 河村茂雄(編著) 図書文化社) 参考書: 平成29年告示学習指導要領 生徒指導提要 参考資料等: 授業中に適宜配布する。															
実務経験について	小学校教員経験: いじめ問題や不登校等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。															
担当者からのメッセージ等	グループワークを行うため, 欠席をする場合は事前連絡が望ましい。 担当者の連絡先・E-mail: tmori@y-gakugei.ac.jp (森)															

授業科目名	教育相談	教員名	森 俊博(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CM4-2013-0111100	年次配当	4 年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC 教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法															
授業テーマ	教育相談, カウンセリング, 幼児・児童・生徒の問題行動や障害, 関係機関															
授業概要	発達の状況に即しつつ, 個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え, 支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身につける。															
到達目標	1. 学校における教育相談の意義と内容を理解する。 2. 教育相談を進める際に必要な基本的な姿勢や技法を理解する。 3. 子どもの問題行動と対応について理解を深める。 4. 組織的な取り組みや園・学校内外の専門家との連携についての理解を深める。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション・教育相談の意義と課題					1,3	面接									
	2. 教育相談の背景(1)子どもの心理と発達課題					3	面接									
	3. 教育相談の背景(2)カウンセリングの基礎知識とカウンセリングマインド					2	面接									
	4. 教育相談の背景(3)カウンセリングの基本技法とアセスメント					1,2	面接									
	5. 教育相談の実際(1)校内体制と組織的な教育相談					1,2	面接									
	6. 教育相談の実際(2)学級集団づくりとともに進める教育相談					3,4	面接									
	7. 教育相談の実際(3)教育活動とともに進める教育相談					3	面接									
	8. 教育相談の実際(4)配慮が必要な子どもの理解と対応・小テスト					1,2,3	面接									
	9. 教育相談の実際(5)障害のある子どもの理解と対応					3	面接									
	10. 教育相談の実際(6)不登校の理解と対応					3,4	面接									
	11. 教育相談の実際(7)いじめの理解と対応					2,3,4	面接									
	12. 教育相談の実際(8)非行の理解と対応					2,3,4	面接									
	13. 教育相談の実際(9)子どもの発達とキャリア教育					3,4	面接									
	14. 教育相談の実際(10)家庭・地域・関係機関との連携・小テスト					1,3,4	面接									
15. まとめ・レポート					4	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション, グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①小テスト(50%),②授業内レポート(50%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:教育相談に関わる基礎的な知識を理解することができる。 ②思考・判断:根拠を明確にして論理的に自説を述べている。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる															
時間外の 学習について	予習:テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおく。授業内の発表の事前準備を行う。各回90分程度 復習:授業内で紹介したカウンセリングの内容について書籍や論文などで調べ,まとめること。各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト:教育相談の理論と実際 改訂版 (2019年 河村茂雄(編著) 図書文化社) 参考書:平成29年度告示 学習指導要領 参考資料等:授業中に適宜配布する。															
実務経験について	小学校教員経験:いじめ問題や不登校等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。															
担当者からのメッセージ等	グループ活動を行うため,欠席をする場合は事前連絡が望ましい。 担当者の連絡先・E-mail:tmori@y-gakuhei.ac.jp(森)															

授業科目名	国語(書写を含む)	教員名	上田 保明(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UCI-2014-0010000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項(小学校)															
授業テーマ	小学校学習指導要領国語編の理解、課題解決型の学習指導理論の理解															
授業概要	小学校学習指導要領国語編を理解し、小学校教材を資料として教材研究の仕方・教材の味わい方、さらに課題解決的な学習指導理論を学ぶ。															
到達目標	1. 小学校国語科の各領域の学習内容を理解する。 2. 小学校国語科の各領域の評価方法を知る。 3. 小学校国語科の指導案の作成の仕方を習得する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	◎	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 人格形成に関わる国語科教育の重要性と意義				1,2	面接										
	2. 小学校学習指導要領国語編「話すこと」自己紹介				1	面接										
	3. 小学校学習指導要領国語編「聞くこと」自己紹介				1	面接										
	4. 小学校学習指導要領国語編「書くこと」日記指導				1	面接										
	5. 物語を読み味わう価値と楽しさを体験する。志賀直哉『小僧の神様』を読む				1,2	面接										
	6. 小学校学習指導要領国語編「読むこと」「ためきの糸車」を読む				2,3	面接										
	7. 「書写」の指導(1) 書写指導の基本 硬筆・毛筆の実技				1,2	面接										
	8. 「書写」の指導(2) 毛筆の実技				1,2	面接										
	9. 国語科授業理論 壺井栄『二十四の瞳』を読む 感想の交流				1,2,3	面接										
	10. 『二十四の瞳』から課題解決的な学習理論を学ぶ				2	面接										
	11. 教材研究「ためきの糸車」				1,2	面接										
	12. 説明文を読む 「じどう車くらべ」				1,2	面接										
	13. 小学校国語科学習指導案の書き方 (1) 教材研究と授業構想 4年教材「ごんぎつね」				3	面接										
	14. 小学校国語科学習指導案の書き方 (2) 指導案作成 芥川龍之介『蜜柑』				3	面接										
15. 模擬授業 まとめ				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	問題解決型の学習 グループワーク 模擬授業															
成績評価基準	評価の方法:①ノート提出(50%)、②提出物(指導案)(30%)、③授業態度(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①思考・判断:課題解決型の学びが実践できる。 ②知識・理解:講義で学んだ知識・技能が定着している。 ③関心・意欲、思考・判断:グループワークで積極的に発言ができる。															
フィードバックの方法	授業初めに前回の学習を問答することで重要点を確認する。提出物の添削を参考にする。															
時間外の 学習について	予習:「小学校学習指導要領国語編」を項目ごとに整理する。(各回90分程度) 復習:添削項目を参考にして重要事項を確認する。(各回90分程度)															
教材にかかわる 情報	テキスト:平成29年告示『小学校学習指導要領国語編』(文部科学省)、壺井栄『二十四の瞳』、芥川龍之介『蜜柑』 参考書:上田保明編著『段落技能を磨く説明文の指導』『行間を読む力をつける物語文の指導』(明治図書)他 適宜資料配付する。 参考資料等:鷲田清一著『「くずくず」の理由』(角川選書)															
実務経験について	小学校教員経験・実務経験をもとに国語教育や教員としてのあり方について話をします。															
担当者からのメッセージ等	小学校教員として国語科の授業を実践してきた私とともに、「小学校学習指導要領解説国語編」をひもとう。 担当者の連絡先・メールアドレス yueda@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	社会	教員名	川野 哲也 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2015-0020000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	小学校社会科の特質、小学校社会科の教科内容、社会事象の見方・考え方															
授業概要	小学校社会科の教科内容の全体的傾向と特色を理解するとともに、社会科学的手法に裏付けられた社会事象のとらえ方を修得し、社会科指導に必要な知見を得る。															
到達目標	1. 小学校社会科の教科内容について、学習指導要領に即して理解し、説明できるようになる。 2. 社会科の教科内容や教材に関する明確な観点を持つ。 3. 社会科学的手法により社会事象をとらえる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 社会科の目標と内容。				1,2	面接										
	2. 地域学習(小学3年の内容)				1,2	面接										
	3. 地域学習(小学4年の内容)				1,2	面接										
	4. 日本の国土と産業(小学5年の内容)				1,2	面接										
	5. 日本の歴史と政治(小学6年の内容)				1,2	面接										
	6. 地理的内容①(気候、地形、地図)				3	面接										
	7. 地理的内容②(日本の産業、農業、工業)				3	面接										
	8. 地理的内容③(世界の産業、農業、工業)				3	面接										
	9. 歴史的内容①(古代の歴史)				3	面接										
	10. 歴史的内容②(中世の歴史)				3	面接										
	11. 歴史的内容③(近世・近代の歴史)				3	面接										
	12. 公民的内容①(日本国憲法、国会・内閣・裁判所)				3	面接										
	13. 公民的内容②(市場経済、景気変動、国際経済)				3	面接										
	14. 公民的内容③(安全保障、南北問題、環境問題)				3	面接										
15. まとめと補足。情報機器の活用について				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッションを取り入れる。															
成績評価基準	評価の方法：①確認テスト(80%)、②毎時の小課題(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：小学校社会科の教科内容を理解している。社会科学的手法に基づいて社会事象を説明できる。 ②関心・意欲、思考・判断：興味関心をもって考察できる。															
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。															
時間外の学習について	予習：事前に配布したプリントを読み、用語や内容について調べる。(90分程度) 復習：プリント、ノートを見て確認すること。資料を見ずに内容を語る。(90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：『小学校学習指導要領 社会』 参考書：適宜、プリントを配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	E-mail : kawano@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	算数	教員名	中村 浩司(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UCI-2016-0020000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項(小学校)															
授業テーマ	算数・数学の歴史、算数のよさや本質、日常の事象、考えることの楽しさ、数学的な見方・考え方															
授業概要	五つの領域の概要と課題を把握し、具体的な指導のあり方や楽しい算数教材に触れることで、考えることの楽しさを実感する。また、指導力向上のために、自己の算数・数学の力を高める。															
到達目標	1. 算数を学ぶことの意義と考えることの楽しさを理解する。また、自己の算数・数学の力を向上させる。															
	2. 五つの領域の概要と課題、課題解決に向けての教材・授業のあり方を理解する。															
	3. 児童のつまづきの内容と原因について考察し、つまづきを少なくするための指導法を考える。															
	4. グループ活動を通じて、思考力・コミュニケーション力を培い、指導力を高めることに生かす。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 算数を学ぶことの意義や考えることの楽しさについて					1,2	面接									
	2. 「A数と計算」領域の内容と課題、計算の原理について					2,3	面接									
	3. かけ算九九を活用した発展教材について					1,2,3,4	面接									
	4. 「B図形」領域の内容と課題、図形の見方について					2,3	面接									
	5. 図形をイメージする力を育む、楽しい教材について					1,2,3,4	面接									
	6. 「C測定」領域の内容と課題、測定の方法について					2,3	面接									
	7. 測定を使って日常の事象を解決する、考える問題について					1,2,3,4	面接									
	8. 「C変化と関係」の内容と課題、二つの数量の関係について					2,3	面接									
	9. 数量の規則性を見つけて解決する問題について					1,2,3,4	面接									
	10. 「Dデータの活用」の内容と課題、データの特徴と多面的な考察について					2,3	面接									
	11. 二つのグラフをもとに考察する、表現力が必要な問題について					1,2,3,4	面接									
	12. 指導が難しい教材・分数のわり算「なぜ、ひっくり返してかけるの?」					1,2,3,4	面接									
	13. 児童の定着の割合が低い教材・割合「割合は難しい?」					1,2,3,4	面接									
	14. 指導方法が一定しない教材・筆算「なぜ筆算するの?」「繰り上がりはどこに書くの?」					1,2,3,4	面接									
	15. 身近なところ(日常の事象)から算数の教材化を図る					1,2,3,4	面接									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①定期試験(70%)、②授業内レポート(10%)、③授業態度・授業への参加度・課題等の提出物(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:五つの領域の概要と課題について理解する。自己の算数・数学力を向上させる。 ②思考・判断:指導や定着に難のある教材の指導について理解する。 ③関心・意欲・態度:グループワークで協力し、よりよい教材を考えることができる。															
フィードバックの方法	学んだことを自分なりに整理し、次に生かせるようにする。															
時間外の学習について	予習:授業に関係する項目を「小学校学習指導要領解説算数編」で確認する。(各回90分) 復習:自己の算数・数学力の向上のため、苦手な部分を見直す(各回90分)															
教材にかかわる情報	テキスト:プリント等 参考書:小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示す。 参考資料等:算数の教科書(大学で準備します)															
実務経験について	小学校教員の経験をもとに、児童が一生涯考える教材や課題がある内容について話をします。															
担当者からのメッセージ等	児童は元来考えることが好きなのです。児童の知的好奇心を喚起する教材について学ぶとともに、児童の課題を把握することで、算数の指導力を高めましょう。また、指導力を高めるために、自分自身の算数・数学の力の向上も図りましょう。 Email:ekxsp1511@yahoo.co.jp(中村浩司)															

授業科目名	理科	教員名	開地 元典(実務経験) 山田 哲也(実務経験) (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2017-0020000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	小学校、理科4領域、物質、エネルギー、生命、地球、物理、化学、生物、地学															
授業概要	小学校教員として必要な、理科に関する基礎的・基本的知識を修得する。「A物質・エネルギー」、「B生命・地球」の各領域の内容を理解し、さらに小学校での授業との関連も理解する。															
到達目標	1. 物質概念(化学分野)に関する知識を修得できる。															
	2. エネルギー概念(物理分野)に関する知識を修得できる。															
	3. 生物概念(生物分野)に関する知識を修得できる。															
	4. 地学概念(地学分野)に関する知識を修得できる。															
	5. 小学校理科における基礎的な知識の活用や授業構成を考えることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項	状況によって面接授業と遠隔授業等の併用の可能性あり															
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション、小学校理科における内容とその系統性	(担当:山田哲也)			5	面接										
	2. 人の体のつくりと働き・運動について理解する	(担当:開地元典)			3	面接										
	3. 動物の発生について理解する	(担当:開地元典)			3	面接										
	4. 植物の発芽・成長・結実について理解する	(担当:開地元典)			3	面接										
	5. 生物と環境について理解する	(担当:開地元典)			3	面接										
	6. 物の重さや溶け方について理解する	(担当:開地元典)			1	面接										
	7. 金属・空気・水の性質について理解する	(担当:開地元典)			1	面接										
	8. 燃焼の仕組みについて理解する	(担当:開地元典)			1	面接										
	9. 力と運動(振り子・てこ)について理解する	(担当:山田哲也)			2	面接										
	10. 光・音・熱について理解する	(担当:山田哲也)			2	面接										
	11. 電気や磁気について理解する	(担当:山田哲也)			2	面接										
	12. 地層や岩石について理解する	(担当:山田哲也)			4	面接										
	13. 天気とその変化について理解する	(担当:山田哲也)			4	面接										
	14. 様々な天体(月・星・太陽)について理解する	(担当:山田哲也)			4	面接										
15. 星の特徴をもとにエネルギーについて理解する	(担当:山田哲也)			5	面接											
アクティブ・ラーニング	それぞれの領域毎に特定のテーマについてディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどを取り入れる。															
成績評価基準	評価の方法:①各回レポート及び最終課題(60%)、②授業時での内容理解や取組状況(40%)で総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解、思考・判断:自然現象の不思議さに自ら気づき、他者と共有できる。 ②関心・意欲、態度:ディスカッション、プレゼンテーション、グループワークなどを含め、授業に積極的に参加している。															
フィードバックの方法	授業内に出した課題等については時間内あるいは次週に解説する。															
時間外の学習について	予習:課題内容等に対して情報収集をするとともに、次回のアクティブ・ラーニングに係る準備をする。(各回90分程度) 復習:授業において習得した内容について調べ、それを小学生にもわかるようにまとめる(レポート等)。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	参考書:小学校学習指導要領解説(理科編)、高校教科書や参考書 参考資料等:別途資料を授業中に配布															
実務経験について	高等学校教員の経験をもとに、理科に関する基礎的な知識の定着とその応用方法について支援をします。															
担当者からのメッセージ等	担当教員の連絡先メールアドレス mkaichi@gakugei.ac.jp(開地)・ tyamada@yamaguchi-jca.ac.jp(山田)															

授業科目名	生活	教員名	岡崎 智利 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	UCI-2018-0220000	年次配当	1年後期		小学校教諭	選択										
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC 教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	大学が独自に設定する科目 (幼稚園)、教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項 (小学校)・生活															
授業テーマ	幼稚園から小学校へのスムーズな移行を旨とする生活の指導															
授業概要	幼稚園から小学校での生活科を核にしたスタートカリキュラムを試作するとともに、生活科の目標、内容、方法や他教科・領域との関連について学修し、実践的な指導能力の向上を目指す。															
到達目標	1. 生活科誕生の経緯を知り、生活科の目標、意義、大まかな内容等を理解する。															
	2. 幼児教育と小学校教育を接続する教科としての「生活科」の位置づけと特色を理解する。															
	3. 生活科への入門ともなるスタートカリキュラムや学級づくりについて、実践例を通して学修できる。															
	4. 生活科の目標・内容・方法、そして他教科・領域との関連について学修し、実践力を養う。															
	5. A4ノートを各自で準備し、アクティブな調査活動とノート作りを進め、表現力を養う。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	◎	⑤	○	⑥	○	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 戦後教育の変遷の概要を理解するとともに、生活科誕生の経緯を知る。					1,5	面接									
	2. 小学校における生活科の位置づけと教科の目標を知る。					1,2	面接									
	3. 生活科の学習内容の概要と学習活動の特徴を知る。					1,3	面接									
	4. 幼稚園のアプローチカリキュラムから、小学校のスタートカリキュラムの概要を知る。					2,3	面接									
	5. 主体的・対話的な生活科の授業の始まりと学習内容、学級経営との関連を知る。					3,4	面接									
	6. グループで上郷や出身小学校の地域の生活環境について、テーマを決めて調査活動に取り組む。					1,5	面接									
	7. テーマに沿って自然環境や社会環境についての調査活動の結果発表会に向け、グループワークを行う。					1,5	面接									
	8. 調査活動の発表会を行う。					5	面接									
	9. 幼児から小学校低学年の体験と表現 (言葉、絵、動作等) の必要性について考察する。					2,4	面接									
	10. 幼児教育と小学校教育の比較を通して、発達に応じた教育について探究する。					3,4	面接									
	11. 小学校低学年期の児童の実態について調べ、生活科を核にした学級経営の在り方を探る。					3,4	面接									
	12. 学年始めの生活科を核にしたスタートカリキュラムについて知り、試作する。					3,4	面接									
	13. 公共物や施設の利用についての単元例をもとに生活科の単元について話し合う。					3,4	面接									
	14. 1・2学年の生活科カリキュラムと教科書の概要を知る。					4,5	面接									
15. 1・2学年の生活科の学習内容をふり返し、3学年以降の総合的学習への発展的内容を概観する。					4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	① 事前に課した特定のテーマを調査し、発表する (パワーポイント使用可)。 ② ディスカッション、グループごとの発表等を行う。															
成績評価基準	評価の方法: ①受講態度、授業中の発表など (20%)、②毎回の授業終了時のミニレポート (30%)、③ノートづくり (40%) ④ミニテスト (10%) により総合的に評価する。 評価の基準: ①関心・意欲、態度: 積極的に発言する。 ②: 知識・理解、思考・判断: 幼児教育と深い関わりのある生活科の指導内容を理解し、自説を述べる ことができる。 ③知識・理解、意欲・関心、態度: 授業内容を理解し、わかりやすくまとめている。 ④知識・理解: 授業内容を理解し設問に解答できる。															
フィードバックの方法	①毎回のミニレポートの提出と評価。②自主的な調査活動 (課題の提出、ノートへの記録など)。															
時間外の 学習について	予習: テキストや資料を読んで講義に参加する。(事前に指示する) (各回90分程度) 復習: テキストや資料の一部を読んで、生活科ノートづくりをする。(各回90分程度)															
教材にかかわる 情報	テキスト: 特になし。授業の中で適宜資料を配布する。 参考書: 小学校学習指導要領解説 生活編 参考資料等: 資料等を配布して教師側から説明をしたり、学生の意見を求めたりする。															
実務経験について	小学校教員経験: 実務経験をもとに、学習指導要領に即した生活科教育のあり方や内容、そして学級経営や教師の資質・能力について話をします。															
担当者からのメッセージ等	出席回数、受講態度、グループ活動への参加の度合いや積極的な姿勢も重視する。毎回の講義でのノートづくり、講義外での自主的な調査活動等も進めてほしい。生活科ノートも重要な評価対象である。 担当者の連絡先・E-mail ok.chitoshi.55@gmail.com (岡崎)															

授業科目名	初等音楽	教員名	坂本 久美子 本廣 明美 竹田 礼子 (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2019-0020000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	発声、歌唱、楽器、奏法、鑑賞、創作、音楽基礎															
授業概要	歌唱では共通歌唱教材を中心に、CDやDVDの視聴を参考にしながら歌詞の内容や音楽の特徴を捉え、発声に留意しながら歌う。また、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、打楽器等の基礎的な奏法を学び、簡単な楽曲に合わせて演奏できる力を身に付ける。鑑賞においては、様々な楽曲を知ることで鑑賞教材を理解し、また音楽づくりではメロディーやリズムの創作を通して、基礎的な創作の仕方を習得する。これらにより、小学校教諭として必要な音楽の基礎知識や技術を学び、教材研究の視点を養う。															
到達目標	1. 自己の発声をコントロールし、メロディーや歌詞を正しく歌うことができる。															
	2. 楽器の音色や奏法の特徴を活かし、簡単な楽曲を演奏できる。															
	3. 楽曲の背景や曲の構造を理解し、曲を知ることができる。															
	4. 簡単なリズムやメロディーを作り、それを記譜することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画							目標	方法								
	1. 小学校学習指導要領における「歌唱」の内容と発声について(担当 坂本久美子)						1,3	面接								
	2. 歌唱教材の研究(低学年)(担当 竹田礼子)						1,3	面接								
	3. 歌唱教材の研究(中学年)(担当 竹田礼子)						1,3	面接								
	4. 歌唱教材の研究(高学年)(担当 坂本久美子・竹田礼子)						1,3	面接								
	5. 小学校学習指導要領における「器楽」の内容について(担当 竹田礼子)						2	面接								
	6. 鍵盤ハーモニカの導入方法と演奏法(担当 竹田礼子)						2	面接								
	7. リコーダーの導入方法と演奏法(担当 竹田礼子)						2	面接								
	8. 打楽器を用いた歌唱活動(担当 坂本久美子・竹田礼子)						2,3	面接								
	9. 小学校学習指導要領と鑑賞教材(担当 本廣明美)						3	面接								
	10. 様々な鑑賞法と教材を選択する観点(低学年教材)(担当 竹田礼子)						3	面接								
	11. 様々な鑑賞法と教材を選択する観点(中・高学年教材)(担当 竹田礼子)						3	面接								
	12. 鑑賞教材の楽曲分析と授業展開(担当 竹田礼子)						3	面接								
	13. 鑑賞と身体表現(担当 竹田礼子)						3	面接								
	14. リズム遊びと創作(担当 竹田礼子)						3,4	面接								
15. メロディーと歌詞、メロディー創作(担当 竹田礼子)						3,4	面接									
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①実技(歌唱・器楽)(50%)、②鑑賞レポート(30%)、③平常点(20%)を総合的に評価する。 評価の基準:①技能・表現:基礎的な歌唱や楽器の演奏技能が身についている。 ②知識・理解:鑑賞に必要な音楽基礎が理解できる。 ③意欲・態度:主体的、積極的に音楽活動に取り組んでいる。															
フィードバックの方法	実技試験後に、改善点をコメントする。															
時間外の学習について	予習:授業で学習する楽曲について調べ、実技が可能な曲については練習しておく。(各回90分程度) 復習:毎時間の演習の復習をする。(各回90分程度) 日常的に、様々な音楽を聴いたり、演奏したりするなど、音楽に親しむ習慣を身に付けておく。															
教材にかかわる情報	テキスト:『最新 初等科音楽教育法』(音楽之友社)、『小学生の音楽(1年~6年)』(教育芸術社) 参考書:『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・メールアドレス sakamoto@y-gakugei.ac.jp(坂本)・motohiro@y-gakugei.ac.jp(本廣)・t5505@c-able.ne.jp(竹田)															

授業科目名	図画工作	教員名	武田 雅行 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UCI-2020-0020000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭	選択												
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)																	
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項(小学校)																	
授業テーマ	色彩論、絵画、工作、立体表現																	
授業概要	豊かな感性や創造性を育てることは人間形成にとって重要である。作る喜びを味わい、それぞれの子どもが、個性を發揮しながら成長発達していくための基礎となる資質や能力を養うことが大切である。特に視覚表現の基礎となる「色と形」の仕組みを理論と演習を通して学習し、様々な平面および立体作品制作を通じて造形に関する技法や知識を身につける。																	
到達目標	1. 小学校教諭として図画工作を指導していく上において必要最低限の素養を身につける。																	
	2. 造視覚表現の基礎ともいえる色と形の仕組みについて理解する。																	
	3. 豊かな発想と色彩に対する感性を高める。																	
	4. 制作物をまとめ、学んだことを記録して、知識や技術の定着を図ることができる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○		
履修条件・注意事項	水彩絵の具や筆などの画材は、貸し借りせず各自で準備すること																	
授業計画																	目標	方法
	1. 導入	授業の概要と準備物の説明 「色・形」について													1,2	面接		
	2. 混色(3原色の混色)①	下図作成													1,2	面接		
	3. 混色(3原色の混色)②	完成													1,2	面接		
	4. トーン(手の色面構成)①	下図作成													1,2,3	面接		
	5. トーン(手の色面構成)②	完成													1	面接		
	6. 印鑑制作(篆刻)														1	面接		
	7. 絵手紙 身近なものをモチーフとして														1	面接		
	8. 人物表現(クロッキー)														1	面接		
	9. 細密画(シャープペン) 身近なものをモチーフとして														1	面接		
	10. 立体表現(躍動する人物)①	構想 芯づくり													1	面接		
	11. 立体表現(躍動する人物)②	紙粘土によるモデリング													1	面接		
	12. 立体表現(躍動する人物)③	着彩 仕上げ													1	面接		
	13. 木版画(年賀状)①	図案作成と彫り													1	面接		
	14. 木版画(年賀状)①	彫り 刷り													1	面接		
15. まとめ	作品ファイリング・自己評価													1,2,4	面接			
アクティブ・ラーニング	グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法:①提出作品(80%)、②授業中の態度、取り組みの姿勢(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①技能・表現:児童の発達と、材料用具の特性を理解して演習や作品作りに習得技能を發揮できる。 ②意欲・態度:創造性を發揮し積極的に授業に取り組むことができる。																	
フィードバックの方法	学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行う。																	
時間外の学習について	予習:前日に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等、準備をしておくこと。(各回90分程度) 復習:授業を振り返り、その都度課題をまとめる。なお、授業時間内に終わらなかった制作物は、次回に持ち越すことなく各自で完了させておく。(各回90分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:「デザインの色彩」 日本色彩研究所 <田中満雄・北島耀・細野尚志> 参考書:授業の中で適宜資料を配布する 参考資料等:随時参考資料及び課題についての説明資料を配付する																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	A3袋ファイルを各自で準備し、その都度、自己評価票と共にまとめる。立体物は写真に記録しファイリングすること。 担当者の連絡先・E-mail:takeda@y-gakugei.ac.jp(武田)																	

授業科目名	家 庭	教員名	森永 八重 【単独】	免許・資格等 との関係	保 育 士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2021-0020000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	家族と家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境															
授業概要	家族、家庭生活の基本的事項について知識・技術を学び、生活を総合的に捉えてそれらを活用できるようにするとともに、豊かな生活のあり方について追究する。															
到達目標	1.家庭科教育における各領域の基礎知識の手順について理解し、説明できるようになる。 2.家庭生活を総合的に捉えることができる。 3.知識や技能を児童の状況に応じて活用し、応用することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
20授業計画						目標	方法									
	1. ガイダンス(目標、内容、受講方法、評価について)と既習事項の確認					1	面接									
	2. 家族Ⅰ 数字で見る現代家族					1,2	面接									
	3. 家族Ⅱ 性別役割分業					1,2,3	面接									
	4. 家族Ⅲ 子ども・家族の生活時間					2,3	面接									
	5. 食物Ⅰ 子どもの食生活					1,2	面接									
	6. 食物Ⅱ 簡単な日本食の調理					1,2,3	面接									
	7. 食物Ⅲ 正しい栄養の知識					1,2,3	面接									
	8. 被服Ⅰ 衣服の素材と洗濯の科学					1,2	面接									
	9. 被服Ⅱ ミシンの基本操作					1	面接									
	10. 被服Ⅲ 身近な物の製作					1,3	面接									
	11. 住居Ⅰ 家族と住まいの発展					1,2	面接									
	12. 住居Ⅱ 住まいと環境					1,2	面接									
	13. 住居Ⅲ 家庭ごみと地域の環境					1,2,3	面接									
	14. 消費・環境 もの選び方と金銭の使い方					1,2,3	面接									
	15. まとめ 共生の社会					2,3	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	実習 ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①定期試験(60%)、②実習(20%)、③授業外レポート(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:授業内容に関する問題に解答できる。 ②思考・判断、技能・表現:生活を総合的にとらえる応用力を習得する。 ③思考・判断:根拠を明確にして自説を述べている。															
フィードバックの方法	コメントシートによる															
時間外の学習について	予習:授業計画にそって、学習者自身が課題を定め、授業で発言できる準備をしておく。(各回90分程度) 復習:毎週定めた課題をまとめる。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 参考書: 参考資料等: } 授業中に適宜資料を配付する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知する															

授業科目名	初等体育	教員名	船場 大資(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UCI-2022-0020000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭	選択												
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)																	
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項																	
授業テーマ	体育指導、スポーツの特性、ルール学習、スポーツ理解																	
授業概要	学年ごとの目標を理解し、指導上の基本的技能を学ぶ。また、集団行動、体操、ボール競技など演習ごとの基礎的知識、技能やスキルの向上のポイントや補助の技術、またレクリエーションによって楽しさと喜びを与えられる技術について学び、小学校教育の現場で生かせる知識技能を身につける。																	
到達目標	1. クラス運営等に役立つレクリエーションの技術の習得。 2. 体育の目標と意義の理解と基本的指導法の習得。 3. 各種目の理解と指導技能の習得。																	
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 体育の目標と意義、基本的指導法																1	面接
	2. レクリエーション(からだづくり運動)																2	面接
	3. レクリエーション(アイスブレイク、柔軟運動)																2	面接
	4. 演習(バレーボール)																2	面接
	5. 演習(バレーボール)																3	面接
	6. 演習(ジャベリックスロー)																3	面接
	7. 演習(ターゲット型スポーツ)																3	面接
	8. 演習(跳び箱・鉄棒)																3	面接
	9. 演習(ICTを活用したダンス作品企画)																3	面接
	10. 演習( ICT を活用したダンス作品作り)																3	面接
	11. 演習( ICT を活用したダンス作品作り)																3	面接
	12. 演習( ICT を活用したダンス発表会)																3	面接
	13. 演習(スポーツテスト)																3	面接
	14. 演習(バスケットボール)																3	面接
15. 演習(模擬授業(バスケットボール))																3	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション																	
成績評価基準	評価の方法:①ダンス作品発表(50%)、②レポート(30%)、③授業への参加度(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解、技能:子どもの体育活動について理解し、それらに関する知識や技能を身につけられたか。 ②思考・判断:スポーツコミュニケーションを理解して自説を述べている。 ③関心・意欲:意欲的に授業に参加している。グループワークに積極的に取り組んでいる。																	
フィードバックの方法	演習ごとに内容に対する意見や反省を言いあう時間をとる。																	
時間外の 学習について	予習:各種目の基礎理論の習得 各回90分程度 復習:技能の向上・実践 各回90分程度																	
教材にかかわる 情報	テキスト:適宜、資料を配布する。 参考書:『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省																	
実務経験について	教育現場での経験																	
担当者からのメッセージ等	担当者の教育現場での経験を基に、子どものつまずきのポイントを説明していきます。それを踏まえた上で、見本が示せる指導者になれるよう努力してください。また気候によって内容の順序が変わる場合があります。 担当者の連絡先・E-mail アドレス dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp																	

授業科目名	初等英語	教員名	渡部 靖徳 (実務経験) 二五 義博  【オムニバス】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-2023-0020000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC 教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	小学校学習指導要領 (外国語活動・外国語)、4技能5領域、英語の音声、第2言語習得、絵本や歌の活用、英語運用能力															
授業概要	英語に関する基本的な知識 (音声・語彙・文構造・文法等) を学ぶとともに、それをクラスルーム・イングリッシュや指示・説明などの授業場面に活用することができるなど、小学校外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身につける。また、小・中学校の連携を視野に入れ、小学校外国語活動・外国語の現状・背景的知識を理解し、CEFRでB1レベルの英語運用能力を身に付ける。															
到達目標	1. 小学校英語に必要なクラスルーム・イングリッシュ (教室英語) を使用できる。 2. カタカナ英語を卒業し、自分の発音に自信をもって表現できる。 3. 小学校英語の概要を理解し、デジタル教科書を使って模擬授業ができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	場合によっては遠隔授業															
授業計画						目標	方法									
	1. 小学校外国語活動・外国語科の現状と課題	卒業要件と本講義のゴール	フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2	面接										
	2. 学習指導要領から 外国語活動・外国語科		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2	面接										
	3. 音韻認識能力とアルファベット知識 「名前読みと音読み」		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2	面接										
	4. 英語の音声・英語にしかない音		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2	面接										
	5. 小学校のクラスルーム・イングリッシュ (教室英語)		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2	面接										
	6. デジタル教科書と小学校英語 「外国語科」		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	7. デジタル教科書と小学校英語 「外国語活動」		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	8. 文構造の違い 日本語と英語と		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	9. 模擬授業1 言語活動の授業 6年生		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	10. 模擬授業2 アルファベットの書き方 5年生		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	11. 模擬授業3 Let's Try 2 4年生		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	12. 模擬授業4 Let's Try 1 3年生		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	13. 小中連携の英語教育		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接										
	14. クリルと小学校英語		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 二五	1,2,3	面接										
15. 第二言語習得のプロセス		フォニックス指導 (帯時間)	担当: 渡部	1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等															
成績評価基準	評価の方法: ①課題・音声・小テスト・発表 (50%)、②授業への取組 (50%) により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解・思考・判断: 小学校学習指導要領における外国語活動・外国語科の目標・内容等を踏まえ、英語指導の技能・表現に関する基本的な知識 (音声・語彙・文構造・文法等) について理解して、クラスルーム・イングリッシュを活用した授業が実践できる。 ②関心・意欲等: 授業実践に必要な4技能を身につけるよう積極的に取り組んでいる。															
フィードバックの方法	随時個別還元指導															
時間外の 学習について	予習: 指定された単元を読んで、概要を理解しておく。各回90分程度 復習: 既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト: 教員による配付資料 参考書: 文部科学省著『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編』、ジョリーラーニング社編著『初めてのジョリーフォニックス』 (東京書籍)、文部科学省著『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、岡秀夫・金森強 編『小学校外国語活動の進め方』 (成美堂)、吉田研作編『小学校英語教科化への対応と実践プラン』 (教育開発研究所) 参考資料等: 随時プリント配付															
実務経験について	市町教委指導主事や児童自立支援施設、海外日本人学校での実務経験をもとに小学校英語授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。															
担当者からのメッセージ等	充実した「初等英語」を目指します。児童が英語に慣れ親しむことを第一に、「外国語が楽しい、面白い」と感じられるような授業づくりを目指しましょう。強い意志をもち、毎回の予習・復習を心がけてください。 Email: 授業内で周知します。															

授業科目名	国語科教育法	教員名	廣口 知世 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2024-0010000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法															
授業テーマ	国語科教育、学習指導法、授業デザイン、教師のコーディネート															
授業概要	小学校国語科で扱う教材を取り上げ、教材研究、学習指導の在り方などについて考究する。															
到達目標	1. 学習指導要領に示された小学校国語科の目標及び主な内容評価並びに全体構造を理解している。															
	2. 「知識及び技能」の重要性を理解し、小学校国語の授業を構想することができる。															
	3. 「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「話すこと・聞くこと」の授業を構想することができる。															
	4. 「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「書くこと」の授業を構想することができる。															
	5. 「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「読むこと」の授業を構想することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション(シラバス説明、国語科の目標と内容について等)						1	面接								
	2. 国語科の授業の見取り方						1	面接								
	3. 国語科学習指導案作成のポイントと単元構想						1,2	面接								
	4. 国語科学習における板書とワークシート作成のポイント						1,2	面接								
	5. 国語科学習における手立てと教師の役割、指導案作成の教材選定						1,2	面接								
	6. 学習指導案の作成						2,3,4,5	面接								
	7. 学習指導案の検討会I						2,3,4,5	面接								
	8. 模擬授業「読むこと(説明的文章)」および授業協議会						2,5	面接								
	9. 模擬授業「読むこと(説明的文章)」および授業協議会						2,5	面接								
	10. 模擬授業「話すこと・聞くこと(低・中学年)」および授業協議会						2,3	面接								
	11. 模擬授業「話すこと・聞くこと(中・高学年)」および授業協議会						2,3	面接								
	12. 模擬授業「書くこと(低・中学年)」および授業協議会						2,4	面接								
	13. 模擬授業「書くこと(中・高学年)」および授業協議会						2,4	面接								
	14. 模擬授業「言葉」および授業協議会						2	面接								
15. まとめ						1,2,3,4,5	面接									
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①最終レポート(30%)、②提出課題の内容(30%)、③授業参加態度等(40%)を考慮し、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：国語科の内容等について理解することができる。 ②思考・判断：国語科の指導を進める上で留意すべき点について説明することができる。 ③態度：積極的に参加している。															
フィードバックの方法	課題回収後、フィードバックを行う。															
時間外の 学習について	予習：次回までに課題が出た場合は、必ずそのことについて学習すること。 各回90分程度 復習：本時のまとめを復習しておくこと。 各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト：小学校学習指導要領、文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成29年度版) 参考書：特になし															
実務経験について	小学校教員の経験を活かし、自身が行った実際の国語科授業のVTRを教材にしたり、教育現場における授業協議会の形式を取り入れたりする。															
担当者からのメッセージ等	授業の際に、小テストを実施したり課題を出したりすることがある。 担当者の連絡先・E-mail：授業内で知らせる。															

授業科目名	社会科教育法	教員名	河合 良房 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	UC3-2025-0010000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
単位数	2				SPARC教育プログラム	
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)					
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)					
授業テーマ	小学校社会科の学習指導法、目標、学習内容、指導法、評価					
授業概要	現代社会における社会科教育の果たす役割と、社会科で育てる子供像を明らかにするとともに、小学校学習指導要領解説社会編に示された目標、内容、育成されるべき資質・能力について理解を深める。小学校社会科の教材研究、教材開発、指導方法、学習評価等の授業設計を、実践事例の考察と学習指導理論を踏まえた具体的な授業を構想することを通して理解する。いずれも学び合う中で自己との対話を促進し、授業実践の意欲を高める。					
到達目標	1. 社会科成立の歴史的経緯を知り、今日求められる社会科教育の役割と特質を理解し説明できるようになる。 2. 小学校社会科の学習指導要領における目標、内容、評価、全体構造を理解し、説明できるようになる。 3. 小学校社会科の授業構成と学習指導理論を理解して授業を設計し、具体的な学習指導案を作成できるようになる。 4. 模擬授業と振り返り、グループワーク等を通して、実践的な教材研究及び授業改善の視点を身に付ける。					
学修成果との関係	①	②	③	④	⑤	⑥
履修条件・注意事項	履修人数は、50名程度とする。					
授業計画					目標	方法
	1. 社会科教育の役割と社会科で育てる子供像・社会科のめざす方向について(教師の役割)				1	面接
	2. 小学校社会科の目標・内容・評価・全体構造について(教科用図書、副読本、資料集活用、演習:指導案の作成)	2.3				面接
	3. 第3学年の目標・内容と授業(1) -単元「学校のまわり」「市のようす」の授業について(地図帳の活用)	1.2.3				面接
	4. 第3学年の目標・内容と授業(2) 大単元「はたらく人とわたしたちのくらし」選択単元の構成と考え方について	1.2.3.4				面接
	5. 第3学年の目標・内容と授業(3) -単元「店ではたらく人」の授業について(フィールドワーク)評価の概観	1.2.3.4				面接
	6. 第3学年の目標・内容と授業(4) -単元「火事からくらしを守る」の授業構成(教材開発・フィールドワーク)	1.2.3.4				面接
	7. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅰ-指導内容と教材開発・教材研究について(情報機器の活用)	1.2.3.4				面接
	8. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅱ 第4学年の目標・内容と授業(1) -単元「ごみのゆくえ①」の計画、授業構成の実際について	1.2.3				面接
	9. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅲ 第4学年の目標・内容と授業(2) -単元「ごみのゆくえ②」の授業の実際、評価、振り返りについて	1.2.3				面接
	10. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅳ 第5学年の目標・内容と授業(1) 大単元「わたしたちの国土」:選択単元の構成について	1.2.3.4				面接
	11. 子どもの側に立つ社会科の授業Ⅴ 第5学年-単元「あたたかい土地のくらし」の立案(ロールプレイとプレゼン)	1.2.3.4				面接
	12. 第5学年の目標・内容と授業(1) -単元「米づくり①」授業展開と学び合いについて(模擬授業と振り返り)	1.2.3.4				面接
	13. 第5学年の目標・内容と授業(2) -単元「米づくり②」授業展開と自己との対話について(模擬授業と振り返り)	1.2.3.4				面接
	14. 第6学年の目標・内容と授業(1) -単元「わたしたちのくらしと日本国憲法①」ポスターセッション(模擬授業と振り返り)	1.2.3.4				面接
	15. 第6学年の目標・内容と授業(2) -単元「わたしたちのくらしと日本国憲法②」ポスターセッションからの学び合い 小学校社会科の学習指導法において確かな授業観・指導観・児童観をもつとは(模擬授業と振り返り)	1.2.3.4				面接
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習・ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・フィールドワーク・ロールプレイ・模擬授業					
成績評価基準	評価の方法:①毎回の授業の最後に提出するレポート(40%)②宿題・授業外レポート(20%)③模擬授業・演習(20%)④授業への参加態度(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・技能:根拠を明確にして論理的に自説を述べる ②思考力・判断力・表現力等:子どもが主体的に学ぶ社会科授業の学習指導法を例示することができる ③学びに向かう力、人間性等:積極的に参加している。					
フィードバックの方法	授業内レポート返却時等に講評及び質疑応答を行う。					
時間外の学習について	予習:参考資料および振り返りレポートを読み、レポートを含めた次回学習への準備をしておくこと。各回90分程度 復習:本時のまとめを復習しておくこと。各回90分程度					
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領解説社会編(平成29年告示)文部科学省 日本文教出版 定価142円 検定済み教科書:「新編 新しい社会3」東京書籍 定価725円、検定済み教科書:「楽しく学ぶ小学生の地図帳3・4・5・6年」帝国書院、帝国書院編集部 定価492円 参考書:山口県及び山口市小学校社会科副読本(こちらで用意する) 参考資料等:授業中に適宜資料を配付する。					
実務経験について	実務経験:高等学校教員、特別支援学校教員、山口県教育委員会での経験をもとに、基本的な社会科教育の指導方法のあり方について学生が互いに学び合う授業を行います。					
担当者からのメッセージ等	主体的で協働的な学習を通して、子どもは何を学びとるのか、教師が「授業力」を高めるとは何かを一緒に考えましょう。 社会科授業のあり方を学ぶことができます。 Email: ykawai@y-gakugei.ac.jp(河合)					

授業科目名	算数科教育法	教員名	中村 浩司(実務経験) (単独)	免許・資格 等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2026-0010000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	算数科教育の目標、算数科教育の内容、算数科教育の指導法(情報機器及びデジタル教科書・デジタル教材の活用を含む)															
授業概要	算数科教育の目標・学習内容、指導方法、児童の理解の仕方、児童のつまずき(課題)への対応について理解する。また、具体的事例をもとに、指導案作成や授業づくりについて学ぶことで、授業実践力を養う。															
到達目標	1. 学習指導要領に示された算数科教育の目標(数学的な見方・考え方、数学的活動、数学的に考える資質・能力の育成等)について理解する。															
	2. 1年生から6年生までの学習内容を把握し、様々な指導方法を学ぶことにより、授業づくりについて理解する。															
	3. 児童の発達段階や児童のつまずき(課題)への対応を理解し、主体的・対話的で深い学びのある算数授業の実現を目指した指導方法を学ぶ。															
	4. 1年生から6年生までの学習内容から選択した内容、評価について指導案・板書案、または板書型指導案を作成して、それらの検討及び模擬授業を通して指導方法を理解し、体得していく。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 学習指導要領と算数科教育の目標と内容について－6項目、領域の構成、数学的活動					1,2	面接									
	2. 各学年の目標及び内容と領域の系統について					1,2	面接									
	3. 授業の組み立て方、指導案、板書案の書き方、児童のノートの取り方について					1,2,3,4	面接									
	4. 指定された内容の板書型指導案の作成、班別内評価について					1,2,3,4	面接									
	5. 模擬授業の実施と評価、反省についてI					1,2,3,4	面接									
	6. 第1学年の教材と指導の実際					1,2,3,4	面接									
	7. 第2学年の教材と指導の実際					1,2,3,4	面接									
	8. 第3学年の教材と指導の実際					1,2,3,4	面接									
	9. 第4学年の教材と指導の実際					1,2,3,4	面接									
	10. 第5学年の教材と指導の実際					1,2,3,4	面接									
	11. 第6学年の教材と指導の実際					1,2,3,4	面接									
	12. 学年と内容を選択しての指導案の作成					1,2,3,4	面接									
	13. 模擬授業の実施と評価、反省についてII-1					1,2,3,4	面接									
	14. 模擬授業の実施と評価、反省についてII-2					1,2,3,4	面接									
15. 学習指導要領に対応した授業、授業づくりと学級経営					1,2,3,4	面接										
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験 60%、②授業態度・授業への参加度・授業内レポート 20%、③指導案・板書案の作成等の提出物 20%により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：算数科教育の目標、学習内容について理解している。 ②思考・判断：授業のあり方や指導方法、児童のつまずき(課題)について理解している。 ③態度：算数の楽しさやよさを意識して、授業案や板書案等の作成ができる。															
フィードバックの方法	常に児童が目の前にいることをイメージし、指導案の作成、課題の解決や見直しに取り組むようにする。															
時間外の 学習について	予習：必要に応じて指示する。授業内の発表の事前準備を行う。 各回90分程度 復習：必要に応じて指示する。テキストや適宜配布する資料を中心に復習する。 各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト：プリント等 参考書：小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示します。 参考資料等：算数の教科書(大学で準備します)															
実務経験について	小学校教員の経験をもとに、考えることが楽しい算数授業について話をします。															
担当者からのメッセージ等	授業は教師一人がするものではなく、児童とともに作るものです。主体的・対話的で深い学びのある楽しい算数授業について、一緒に考えていきましょう。 Email:ekxsp1511@yahoo.co.jp (中村浩司)															

授業科目名	理科教育法	教員名	開地 元典 (実務経験) 山田 哲也 (実務経験) 【オムニバス】	免許・資格 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2027-001000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARK 教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	理科教育の原則、理科教育の方法															
授業概要	この授業は、小学校における理科教育の目標やカリキュラムについて学習指導要領を通して理解を深めるとともに、理科の授業設計に必要な基礎的な内容と指導方法を理解できるようになることが主なねらいと内容です。															
到達目標	1. 学習指導要領における小学校理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解し、説明できるようになる。															
	2. 小学校理科の基礎的な内容を理解し、科学的に思考できる。															
	3. 小学校理科の基礎的な指導方法を理解し、授業設計を行う方法を身に付けている。															
	4. 積極的かつ主体的に授業に参加し、自ら振り返りと評価をすることができる。															
	5. 小学校理科の実験や観察についての技能を習得し、さらに探究・考察することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション、小学校理科における学習指導要領と学習評価、学習指導案について					(担当: 山田哲也)	1,3,4	面接								
	2. 小学校理科における問題解決的な授業づくりと情報通信技術の活用及び教材研究の進め方					(担当: 山田哲也)	1,3,4	面接								
	3. 物理領域の学習内容理解と実験や観察及び問題解決を可能にする授業設計					(担当: 山田哲也)	1,2,3,4,5	面接								
	4. 小学校3・4年の理科 (物理領域) の授業事例研究、学習指導案検討					(担当: 山田哲也)	1,2,3,4,5	面接								
	5. 小学校5・6年の理科 (物理領域) の授業事例研究、学習指導案作成と模擬授業協議					(担当: 山田哲也)	1,2,3,4,5	面接								
	6. 地学領域の学習内容理解と実験や観察及び問題解決を可能にする授業設計					(担当: 山田哲也)	1,2,3,4,5	面接								
	7. 小学校3・4年の理科 (地学領域) の授業事例研究、学習指導案検討					(担当: 山田哲也)	1,2,3,4,5	面接								
	8. 小学校5・6年の理科 (地学領域) の授業事例研究、学習指導案作成と模擬授業協議					(担当: 山田哲也)	1,2,3,4,5	面接								
	9. 生物領域の学習内容理解と実験や観察及び問題解決を可能にする授業設計					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接								
	10. 小学校3・4年の理科 (生物領域) の授業事例研究、学習指導案検討					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接								
	11. 小学校5・6年の理科 (生物領域) の授業事例研究、学習指導案作成と模擬授業協議					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接								
	12. 化学領域の学習内容理解と実験や観察及び問題解決を可能にする授業設計					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接								
	13. 小学校3・4年の理科 (化学領域) の授業事例研究、学習指導案検討					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接								
	14. 小学校5・6年の理科 (化学領域) の授業事例研究、学習指導案作成と模擬授業協議					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接								
15. 模擬授業の実践と振り返り、全体のまとめ (授業の総括)					(担当: 開地元典)	1,2,3,4,5	面接									
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、実験や観察を通じた協働的な活動、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法: 授業レポート (60%)、授業への取組 (40%) により総合的に評価する。 評価の基準: ①思考・判断: 小学校理科の基礎的な内容を科学的に思考することができる。②態度: 模擬授業や実験や観察に積極的に参加できる。③技能・表現: 小学校理科の内容について科学的に理解し、情報機器等を利用して説明することができる。															
フィードバックの方法	実験や観察、模擬授業等について、その都度助言を行い継続的な支援を行う。															
時間外の学習について	予習: 次の授業について学習指導要領や教科書等で調べて理解し、情報機器等を利用して整理しておく。(各回 90 分程度) 復習: 授業で扱った内容や具体的な教材について各自で調べまとめておく。(各回 90 分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 小学校学習指導要領解説理科編 (平成 29 年 7 月)、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【小学校理科】(国立教育政策研究所) 参考資料: 小学校理科検定教科書 参考となる資料は適宜配布する。															
実務経験について	現場教員経験から児童生徒が実験や観察を通してどのように自然科学を理解していくのかを解説します。															
担当者からのメッセージ等	初回の授業でグループ分けを行います。 担当教員のメールアドレス: mkaichi@y-gakugei.ac.jp (開地)、tyamada@yamaguchi-jca.ac.jp (山田)															

授業科目名	生活科教育法	教員名	岡崎 智利 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2028-0010000	年次配当	2年前期		小学校教諭	必修										
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	生活科に関する専門的事項及び指導法 (小学校生活、情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	生活科のカリキュラム、実践的な指導方法及び技術															
授業概要	低学年児童の活動できるカリキュラムの要件、具体例を知り、実践的な指導方法を学ぶ。															
到達目標	1. 生活科の教育理念や原理を理解し、学習指導要領の具現化のためのカリキュラムを作成できる。															
	2. 幼稚園から小学校へ、入学直後からのスタートカリキュラムの内容とあり方が分かり、試作できる。															
	3. 生活科授業と学級経営の関連を知るとともに、教材研究、単元づくり、授業づくりができる。															
	4. 具体的な活動や体験を通じた生活科の学習指導について、提案やプレゼンテーションを行い、対話や協議ができる。															
	5. A4 ノートを準備し、自主的な調査活動とノート作りを進め、表現力を養う。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	◎	⑤	○	⑥	○	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 生活科における基本的なキーワードについて理解する (オリエンテーション)。					1,5	面接									
	2. 子供たちの思いや願いを生かす単元づくり及びスタートカリキュラムについて理解し、試作する。					2	面接									
	3. スタートカリキュラムについてグループで協議し、互いに改善を図る。					1,2	面接									
	4. 学校の施設、学校で働く人等の学習対象を踏まえた単元づくりを行うための教師の資質能力について協議する。					2,3	面接									
	5. 身近な地域素材をもとに単元づくりを行うための教師の資質能力について協議する。					2,3	面接									
	6. 家庭生活にかかわる単元についての事例を通して、家庭との協力による学習指導の在り方を話し合う。					3	面接									
	7. 公共物や公共施設を利用する活動について調べ、パンフレットを作成する。					3	面接									
	8. 動物の飼育について調べ、教材研究の報告をする。(ICTを活用したプレゼンテーション)					3,4	面接									
	9. 植物の栽培について調べ、教材研究の報告をする。(ICTを活用したプレゼンテーション)					3,4	面接									
	10. 身近な自然やもので遊ぶ活動の単元づくりができる。(ICTの活用法の理解と指導案づくり)					3,4	面接									
	11. 身近な自然やもので遊ぶ活動の単元について発表し、予想する発揮できる資質能力について話し合う。					3,4	面接									
	12. 生活科の表現活動を通して、児童の何を見取り、どのように教師がフィードバックしていくか検討する。					1,4	面接									
	13. 主体的・対話的で深い学びにつながる生活科の学習指導の在り方について提案する。					1,4	面接									
	14. グループを作り、模擬授業の環境構成、板書、発問等、教師の働きかけや手立ての在り方を協議する。					1,4,5	面接									
15. グループで代表者を決めて模擬授業を行う。振り返りのミニテストを行う。					1,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	①事前に課した特定のテーマを調査し、ノートを提出する。発表もする (パワーポイント使用も含む)。 ②少人数グループを決めて、ディスカッション、グループ代表発表等を行う。															
成績評価基準	評価の方法: ①受講態度・プレゼンや発表など (20%) ②毎回講義終了時のミニレポート (40%) ③ノート (30%) ④ミニテスト (10%) により総合的に評価する。 評価の基準: ①態度: 積極的に取り組むことができる。②生活科の教育理念や原理等を踏まえてミニレポートを作成する。 ③技能・表現: 自主的な調査活動とノート作りを行うことができる。④知識・理解: 生活科に関する内容を理解する。															
フィードバックの方法	①毎回授業の最後にミニレポートを課し、次回の始めに返却、解説する。 ②生活科ノートの作成状況を把握し、到達度を確認する。															
時間外の学習について	予習: 前時に提示したキーワードや単元づくりの資料をインターネットや書籍で調べてノートに書く。(各回90分程度) 復習: 学習に即した発展的な課題について自主的な調査をしてノートにまとめる。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 小学校学習指導要領解説生活編 (平成29年7月) 参考文献: 生活科についての実践事例等の文献を、適宜、紹介する。 パワーポイントによる資料提示などによって、学修を深める。															
実務経験について	小学校教員経験: 実務経験をもとに学習指導要領に即した生活科教育の在り方や指導方法・内容等や学級経営、教員としての資質・能力について話をします。															
担当者からのメッセージ等	出席回数、受講態度も重視する。毎回A4ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。ノートも重要な評価対象とする。 担当者の連絡先・E-mail ok.chitoshi.55@gmail.com (岡崎)															

授業科目名	音楽科教育法	教員名	竹田 礼子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2029-0010000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	音楽科の目標、音楽科の指導内容、表現、音楽づくり活動、鑑賞、評価															
授業概要	学習指導要領に示される初等音楽科の目標や内容、全体構造、及び評価を理解する。小学校現場のDVD視聴により、指導計画の意義を知り、指導者の音楽や指導言語の在り方、表現力の必要性、板書や情報機器の用い方等を理解する。授業を構想し指導案作成、模擬授業実践、グループ(G)ディスカッションにより実践力を養う。															
到達目標	1. 学習指導要領に示された音楽科の目標や内容、全体構造を理解する。															
	2. 音楽科の学習内容について理解する。(指導上の留意点を理解/学習評価の考え方を理解)															
	3. 基礎的な学習指導理論を理解する。(子どもの認識や思考、学力などを考慮した授業設計を理解)															
	4. 授業場面を想定した授業設計を行う。(学習指導案の構成理解/具体的な授業を想定し学習指導案を作成/個別の学習内容理解/情報機器等の活用法の理解/他学問領域との関係を教材研究に活用)															
	5. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業との併用															
授業計画						目標	方法									
	1. 学習指導要領に示される初等音楽科の目標、内容、全体構造の理解					1	面接									
	2. 学習内容の流れ 共通事項の理解					1,2,3	面接									
	3. 歌唱教材の研究(低・中学年) 歌唱活動の実践					1,2,3	面接									
	4. 歌唱教材の研究(中・高学年) 教育現場DVDの視聴とGディスカッション					2,3,4	面接									
	5. 器楽教材の研究(低・中学年) 器楽活動の実践					1,2,3	面接									
	6. 器楽教材の研究(中・高学年) 教育現場DVDの視聴とGディスカッション					2,3,4	面接									
	7. 音楽づくり教材の研究(全学年) 教育現場DVDの視聴とGディスカッション					1,2,3,4	面接									
	8. 鑑賞教材の研究(全学年) 教育現場DVDの視聴とGディスカッション					1,2,3,4	面接									
	9. 電子教材の研究(全学年) デジタル教材の視聴と操作					3,4	面接									
	10. 音楽科の指導法(指導言語、板書、音楽表現等)					3,4	面接									
	11. 音楽学習の評価 学習指導案作成の在り方について					2,3,4	面接									
	12. 学習指導案作成					2,3,4	面接									
	13. 1~4G 歌唱活動系模擬授業とGディスカッション					2,3,4,5	面接									
	14. 5~8G 器楽活動系模擬授業とGディスカッション					2,3,4,5	面接									
15. 9~12G 音楽づくり・鑑賞系模擬授業とGディスカッション まとめ					2,3,4,5	面接										
	定期試験															
アクティブ・ラーニング	課題、及び模擬授業実践において、グループ・ディスカッションとグループを超えた意見交流を行う。															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(50%)、②指導案の作成と模擬授業の発表内容(30%) ③授業態度・授業への参加度(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：初等音楽科の基本的事項を理解している。 ②技能・表現：指導案を作成の上、模擬的に授業実践ができる。															
フィードバックの方法	提出物について、コメントを添えて返却する。 模擬授業について、改善点をコメントする。															
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。 各回90分程度 復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。 各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領『初等音楽科学習指導要領解説』文部科学省(平成29年度版) 『小学生の音楽1~6』教育芸術社 『最新 初等科音楽教育法』(音楽の友社) 参考書：指導者用音楽デジタル教科書「小学生の音楽1~6」教育芸術社DVD-ROM版															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・メールアドレス t5505@c-able.ne.jp(竹田)															

授業科目名	図画工作科教育法	教員名	小野 素子(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2030-0010000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む)															
授業テーマ	図画工作科の特性、図画工作科のねらい、学習指導要領															
授業概要	学習指導要領に示された図画工作科の表現領域や鑑賞領域と〔共通事項〕の内容について望ましい指導や評価のあり方を学ぶ。															
到達目標	1. 学習指導要領に示された表現の内容や鑑賞の内容の指導法について望ましい指導や評価のあり方を学ぶ。(教科の特性としての社会的意義とねらいを踏まえた内容について理解する) 2. 図画工作科の領域・年間指導計画等について理解し、計画を立てることができる。(全教科内の図画工作科の位置付けと役割について理解する) 3. 図画工作科の指導法や評価規準・評価の仕方等について理解し、活用できるようになる。(教科の特性を生かし、地域に合った教材の大切さや必要性を理解する) 4. 図画工作科の題材研究を通して指導案作成方法を修得する。(主に表現活動と鑑賞活動の題材研究を通して教科の魅力と楽しさを味わい意欲を高める)															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 授業説明(図画工作科の特性と内容及び授業計画等)について					1	面接									
	2. 図画工作科の目標と内容について					1	面接									
	3. 図画工作科の学年別目標と内容について					1	面接									
	4. ①図画工作科の領域について					1,2	面接									
	5. 表現領域の内容Ⅰ 造形あそびの活動について(情報機器及び教材の活用)					1,2	面接									
	6. 表現領域の内容Ⅱ 絵や立体、工作の活動について(情報機器及び教材の活用)					1,2	面接									
	7. 鑑賞領域の内容 作品などの鑑賞活動について(情報機器及び教材の活用)					1,2	面接									
	8. ②年間指導計画について					1,2	面接									
	9. 図画工作科の指導法Ⅰ 指導計画作成上の配慮事項について					1,3	面接									
	10. 図画工作科の指導法Ⅱ 内容の取扱いと指導上の配慮事項について					1,3	面接									
	11. 図画工作科の指導と評価について					1,3	面接									
	12. 評価規準と評価の仕方について					1,3	面接									
	13. 学習指導案の研究Ⅰ 表現領域について(模擬授業)					1,3,4	面接									
	14. 学習指導案の研究Ⅱ 鑑賞領域について(模擬授業)					1,3,4	面接									
	15. 授業のまとめ 模擬授業の反省及び事後評価					1,2,3,4	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・模擬授業															
成績評価基準	評価の方法: ①試験(50%)、②模擬授業(30%)、③授業やワークシートへの取り組み(20%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解: 学習指導要領に示された内容について理解できている。 ②思考・判断、技能・表現: 図画工作科の指導法や評価のあり方を踏まえた授業を構想・展開できている。 ③関心・意欲、思考・判断: 授業に意欲的に取り組み、ワークシートの記述内容が適切である。															
フィードバックの方法	授業後の振り返りのため、感想やレポートを提出し、知識・理解の定着を図る。															
時間外の学習について	予習: 学習指導要領(図画工作編)について解説予定範囲の下調べを行う。(各回90分程度) 復習: 解説内容の振り返りレポートを作成する。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説(図画工作編)(平成29年度版) 参考書: 造形教育の探求(林 建造著) これからの鑑賞指導を求めて(山口県造形教育研究会発行) 美術科教育の基礎知識(福田隆真・福本謹一・茂木一司著) 建帛社															
実務経験について	山口県小学校教諭(図画工作)専科教員としての実務経験をもとに指導法や評価について話をします。															
担当者からのメッセージ等	子どもの好きな図画工作科(教育法)を学ぶことで楽しい指導方法を身につけよう。 担当者の連絡先・E-mail: mokov3@ybb.ne.jp(小野)															

授業科目名	家庭科教育法	教員名	藤井 志保 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2031-0010000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	家庭科教育、歴史、目標、教材、指導法															
授業概要	小学校家庭科の歴史の変遷をたどり、教科の特徴を概観し、家庭科授業の目標、教材、指導法について学ぶと共に、これからの時代に求められる小学校家庭科の授業を構想し、教員としての資質・能力を高める。															
到達目標	1. 家庭科の本質及び小学校家庭科の学習指導要領に示された目標・内容を理解し、説明できるようになる。															
	2. 学習内容に応じた指導上の留意点を理解し、説明できるようになる。															
	3. 家庭科の教材研究の方法を理解し、教材の収集及び作成ができる。															
	4. 情報機器を活用した、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成ができる。															
	5. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善に努めるとともに授業づくりの方法を習得する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修人数は、50名程度とする。															
授業計画						目標	方法									
	1. 家庭科とは何か～これまでの学習経験を振り返り、自分の家庭科観を捉える					1	面接									
	2. 小学校学習指導要領の変遷から家庭科教育の歴史を読み解く					1,2	面接									
	3. 現行学習指導要領を読み解く					1,2	面接									
	4. ガイドランスの授業について～教材と指導法					1,2,3	面接									
	5. 家族・家庭生活の授業について～教材と指導法					1,2,3	面接									
	6. 家族の触れ合いと食生活について～教材と指導法					1,2,3	面接									
	7. 家族の触れ合いと衣生活について～教材と指導法					1,2,3	面接									
	8. 家族の触れ合いと住生活について～教材と指導法					1,2,3	面接									
	9. 消費生活と環境について～教材と指導法					1,2,3	面接									
	10. 家族・家庭生活の授業について～学習指導案の作成及び模擬授業と協議					1,2,3,4,5	面接									
	11. 家族の触れ合いと食生活について～学習指導案の作成及び模擬授業と協議					1,2,3,4,5	面接									
	12. 家族の触れ合いと衣生活について～学習指導案の作成及び模擬授業と協議					1,2,3,4,5	面接									
	13. 家族の触れ合いと住生活について～学習指導案の作成及び模擬授業と協議					1,2,3,4,5	面接									
	14. 消費生活と環境について～学習指導案の作成及び模擬授業と協議					1,2,3,4,5	面接									
15. まとめ～今後求められる家庭科の授業づくりをどう考えるか(模擬授業の振り返り)					1,2,3,5	面接										
アクティブ・ラーニング	模擬授業 ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①模擬授業の発表内容(40%)、②模擬授業に関するディスカッションやレポート(30%)、③試験(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断、態度：模擬授業における目標の達成、教材研究、指導の態度などが適切か ②思考・判断：授業の振り返りや授業改善の視点を適切に捉えているか ③知識・理解：学習指導要領の内容を理解しているか															
フィードバックの方法	授業時に説明する															
時間外の学習について	予習：テキストを読み込み、模擬授業の準備(資料収集、学習指導案作成、教具作成など)をすること。(各回120分程度) 復習：テキスト各章末の「考えてみよう」(課題)に取り組むこと。(各回60分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：小学校家庭科教科書『わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂 令和6年発行 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』文部科学省 『実践的指導力をつける家庭科教育法』多々納道子 伊藤圭子 編著 大学教育出版 2018 その他、授業で適宜資料を配付する。															
実務経験について	現場での家庭科教員の経験(幼小中一貫教育校勤務)をもとに、実践例、教材研究や学習指導法について共に考えます。															
担当者からのメッセージ等	連絡先：授業内で周知する。															

授業科目名	体育科教育法	教員名	船場 大資(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2032-0010000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	学校教育における体育授業の役割・体育方法論・学習指導要領の理解															
授業概要	本講義では、教員としての基本的な資質を身に付けるとともに、体育授業の方法論について学ぶことを目的とする。その中で、新たに学習指導要領に加わったダンス(表現運動)を始め、体育教育における黒板の活用など、子どもにとって分かりやすい体育とは何かを考察する。また、学校内で行われるスポーツイベントの運営も学ぶことで、学校運営における個人の役割や組織についても検討する。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国における今日の学校教育を理解する。(公教育の目的を理解し、その担い手である教員の存在意義を理解する。また現代社会の課題を理解し、学校教育に結び付けることができる。)</li> <li>2. 学校教育の歴史を理解し、学習指導要領に示された体育科の目的及び指導法を理解する。(日本の教育史の変遷、とりわけ体育史を学習した上で、体育教育の在り方を理解する。)</li> <li>3. 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。(学習指導要領に記載される指導領域及び目的を網羅し、指導要領に沿って指導案を作成できる。)</li> <li>4. 授業の実践及びその振り返りと授業評価(指導案や計画書に沿った授業実践とその反省を行えるようになり、かつ改善するための視野を身に付ける。また、体育授業における評価の方法を理解する。)</li> </ol>															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	◎	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 遊戯論—遊びとは何か。体育と何か。学習指導要領の運動遊びとは何か。—					1,2	面接									
	2. 学校教育史—戦前の教育から現代の教育まで。求められる現代教育とは—					1,2	面接									
	3. 体育教育史—現代体育の課題と変遷(体育におけるケガの予防や体罰問題など)—					1,2	面接									
	4. 体育科授業法—教室経営における体育の役割(自発的な準備が生み出す教室の規律)—					3	面接									
	5. 体育科授業法—体育の「わかる」と「できる」と評価—					3,4	面接									
	6. 体育科授業法—三つの球技、球技の目的と指導方法—(学習指導案の作成)					3,4	面接									
	7. 学習指導要領—ダンスの目的と指導方法—(グループ活動と指導法)					3,4	面接									
	8. 学習指導要領—ダンスの目的と指導方法—(グループ活動と指導法)					3,4	面接									
	9. ダンスサテライト運営—スポーツイベントの組織づくりとICT(動画撮影と映像分析)を利用した練習方法—(模擬授業と振り返り)					3,4	面接									
	10. ダンスサテライト運営—スポーツイベントの準備及びICT(音響とBluetooth・プロジェクターとタイトルの作成)の活用方法—(模擬授業と振り返り)					3,4	面接									
	11. ダンスサテライト運営—スポーツイベントの実践及び運営と反省—(模擬授業と振り返り)					3,4	面接									
	12. 学習指導要領—水泳の目的と指導方法—(学習指導案の作成方法)					1,2,3,4	面接									
	13. 学習指導要領—体づくり運動と陸上競技の目的と指導方法—(学習指導案の作成方法)					1,2,3,4	面接									
	14. 体育科授業法—体育授業の視点—(ICT及びマット運動を活用した指導法)					1,2,3,4	面接									
	15. 体育指導および総括—体育授業の模擬実践—(情報機器及び教材を活用した模擬授業と振り返り)					1,2,3,4	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①中間レポート(20%)②スポーツイベント運営の実践(50%)③期末レポート(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断：根拠を明確にして論理的に自説を述べている②関心・意欲：積極的に取り組むことができる。 ③知識・理解：体育科の内容について理解することができる															
フィードバックの方法	指導案作成等においての重要な部分は、通読して指示を行う。 また、前回の復習を行うことで、重要な部分を再確認できるようにする。															
時間外の学習について	予習：事前にテキストをよく読むこと(各回90分程度) 復習：テキストや適宜配布する資料を中心に復習する(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領 体育授業のためのやさしい教授学・学習指導要領小学校体育編解説(平成29年度版) 参考書：山口県ダンスサテライトDVD 内海和雄『戦後スポーツ体制の確立』・小林一久『体育の授業づくり論』・阪田尚彦『体育の授業と技術』 坂上康博『権力装置としてのスポーツ』															
実務経験について	学校教育現場での体育授業を実施した経験をいかしながら、体育の授業方法について指導します。															
担当者からのメッセージ等	天候や授業予定によってダンスの実技の順序が変わる場合があります。 担当者の連絡先・E-mail アドレス dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp															

授業科目名	英語科教育法(小・中)	教員名	ダグラス・パーキン(実務経験) 二五 義博 渡部 靖徳 (オムニバス)	免許・資格等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-2033-0011200	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校 英語) 大学が独自に設定する科目(高等学校 英語)															
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	小学校・中学校学習指導要領(外国語編)、第二言語習得、4技能の指導、ICTの活用、チーム・ティーチング、コミュニケーション能力の育成、小・中学校の連携、クラスルームイングリッシュ、学習指導案の作成、模擬授業															
授業概要	小学校における外国語活動・外国語及び中学校における英語の学習・指導に関する知識を身に付ける。第二言語習得研究の知見を取り入れた英語科指導、ICTの活用及びALTとのチーム・ティーチング等を視野に入れた模擬授業等を通して、実践的な授業指導について理解を深める。															
到達目標	1. 小学校における外国語活動・外国語及び中学校における外国語(英語)の学習指導要領について理解し、その学習・指導・評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。															
	2. 小・中・高等学校の連携の在り方及び教科書・教材の趣旨・構成・特徴を理解し、「3つの資質・能力」の育成を視野に入れた年間指導計画・単元計画等が理解できる。															
	3. 4技能5領域の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。															
	4. ICTの効果的な活用方法及びALTとのチーム・ティーチングによる指導の在り方や評価について理解し、授業指導に生かすことができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	場合によっては遠隔授業															
授業計画	授業計画				目標	方法										
	1. 学習指導要領の変遷及び小学校の外国語活動・外国語教育の目標の理解(二五義博)				1	面接										
	2. 中学校学習指導要領及び小中連携を通じた「3つの資質・能力」の育成(二五義博)				1,2	面接										
	3. 第二言語習得プロセスに基づいた指導(ダグラス・パーキン)				1,2	面接										
	4. 音声と文字の指導(ダグラス・パーキン)				2,3	面接										
	5. リスニング指導(二五義博)				2,3	面接										
	6. スピーキング(やり取り/発表)指導(二五義博)				2,3	面接										
	7. リーディング指導(二五義博)				2,3	面接										
	8. ライティング指導(二五義博)				2,3	面接										
	9. ICTの効果的な活用方法(二五義博)				1,2,4	面接										
	10. ALTとのチーム・ティーチングによる指導の在り方(ダグラス・パーキン)				1,2,4	面接										
	11. 授業準備:指導案作成・教材準備(ICT及び教材の活用)(ダグラス・パーキン)				1,2,3,4	面接										
	12. 受講生による模擬授業(導入)・振り返り(ダグラス・パーキン)				1,2,3,4	面接										
	13. 受講生による模擬授業(コミュニケーション活動)・振り返り(ダグラス・パーキン)				1,2,3,4	面接										
	14. 受講生による模擬授業(ICT/デジタルテキスト)・振り返り(ダグラス・パーキン)				1,2,3,4	面接										
	15. 授業についての振り返り・成果と課題の確認(渡部靖徳、ダグラス・パーキン、二五義博)				1,2,3,4	面接										
定期試験は実施しない。																
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等															
成績評価基準	評価の方法:① Question Crazy Card System(10%)・グループワーク等への参加態度と発表(20%)、②模擬授業(50%)、③レポート(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:英語での質問やグループワーク等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・技能:子どもの言語習得プロセスおよび小学校や中学校の英語指導法について理解し、適切な模擬授業ができる。 ③思考・判断:授業で扱ったテーマについてさらに深め、自分の意見を述べるができる。															
フィードバックの方法	模擬授業等への指導、助言、レポート等に対する随時個別還元指導															
時間外の学習について	予習:指定された単元等を読んで、概要を理解しておく。各回90分程度 復習:授業中に配布された資料の復習。授業で出てきた新しい表現等の習得。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』『中学校学習指導要領解説 外国語編』 文部科学省『Let's Try! 1/2』 東京書籍『New Horizon English Elementary Course 5/6』 参考書:佐藤久美子。(2017)『今すぐ教えられる小学校英語指導案集』朝日出版社 JACET教育問題研究会(編)『新しい時代の英語教育の基礎と実践』															
実務経験について	母国であるカナダでの小学校教員としての経験や国内小学校でのALTの経験を生かして、小学校英語教育に携わる上での英語運用能力や指導法の授業をします。また、e-ラーニングを活用し、個々人の習熟度に応じた学習を進めます。															
担当者からのメッセージ等	Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp(二五) parkin@y-gakugei.ac.jp(パーキン)															

授業科目名	英語学概論	教員名	西田 光一 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	ULI-2034-0001100	年次配当	1年後期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語学															
授業概要	英語学が対象とする範囲は広範囲に及ぶ。本講義では、1500年前までは僅か15万人しか話者人口がいなかった小言語が いかにして地球規模の言語(リンガフランカ)にまで成長してきたかをまず歴史的に概観し、以下、その進化の過程で起 こった諸々の事象を具体的に示し、最後は21世紀の、激変していく英語の姿を概観することにする。															
到達目標	1. 英語学の全体像が習得できる。 2. 英語学の基礎知識及び各項目における重要な鍵語が習得できる。 3. 毎回、教育現場で役立つであろう英語学の知識(発音、文法、言語接触、言語獲得等)が習得できる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 英語の時代区分：古英語、中英語、近・現代英語				1	面接										
	2. How languages work				1,2,3	面接										
	3. Put it in writing				1,2,3	面接										
	4. Still more about writing it down				1,2,3	面接										
	5. Passing the cranberry test				1,2,3	面接										
	6. Clustering beyond the cranberries				1,2,3	面接										
	7. Sentences grow on trees				1,2,3	面接										
	8. A middle ground				1,2,3	面接										
	9. How many languages can fit on a planet?				1,2,3	面接										
	10. Nuclear English				1,2,3	面接										
	11. Multiple meanings				1,2,3	面接										
	12. Languages in contact				1,2,3	面接										
	13. How humans learn their languages				1,2,3	面接										
	14. Geographical and diachronic linguistics				1,2,3	面接										
	15. A linguistic bestiary				1,2,3	面接										
	定期試験															
アクティブ・ラーニング	ディスカッションとロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(70%)、②毎回の授業での積極的姿勢(発表等)(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業内容に関する問題に解答できる。 ②関心・意欲：積極的に取り組んでいる。															
フィードバックの方法	それぞれの授業の次の回に要所の理解ができていないか確認する。															
時間外の 学習について	予習：毎回の授業内容分に一通り目を通しておくこと。とても大事なことです。各回90分程度 復習：授業で特に力説された部分を丸暗記するくらいにしっかり頭に叩き込むこと。各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト：What is Language? (三修社、2,052円) 参考資料等：教室でその都度、関連文献を提示します。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記しておいて欲しいです。 担当者の連絡先・E-mail：knishida@yamaguchi-pu.ac.jp (西田)															

授業科目名	英語史	教員名	松浦 加寿子 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-2035-0002200	年次配当	3年前期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語史															
授業概要	本講義では、英語を母語とするアングロ・サクソン人がブリテン島に渡来して、現代に至るまでの約1500年の間に起こった歴史的背景と英語の変遷について概観する。特に、古英語・中英語・近代英語における各時代の言語的特徴を学び、現代英語に対する理解を深めることを主な目的とする。また、英語の歴史を学ぶことで、将来教育現場で生徒からの英語の疑問に英語史的な観点から説明できるようになることを目指す。															
到達目標	1. 英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの特徴を習得できる。 2. 英語の歴史を概観することで、現代英語に対する理解を深めることができる。 3. 現代英語の言語事象について、将来教育現場で英語史の知識を活用して生徒に説明することができる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	.	⑦	.	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 英語のルーツ、グリムの法則					1,2,3	面接									
	2. ヴェルネルの法則、アングロ・サクソン人と英語の渡来					1,2,3	面接									
	3. ノルマン人のイングランド征服から英語の復権まで					1,2,3	面接									
	4. 英語のアルファベットと書体					1,2,3	面接									
	5. 英語の方言と標準語化					1,2,3	面接									
	6. 英語と外国語との接触					1,2,3	面接									
	7. 古英語・中英語の文字と音、大母音推移とその影響					1,2,3	面接									
	8. 名詞・代名詞・冠詞の語形変化					1,2,3	面接									
	9. 形容詞・副詞・動詞の語形変化					1,2,3	面接									
	10. 初期近代英語の言語的特徴					1,2,3	面接									
	11. 進行形・完了形・受動形・関係代名詞の発達、疑問文・否定文・非人称構文の歴史、語順の固定化					1,2,3	面接									
	12. アメリカ英語とイギリス英語					1,2,3	面接									
	13. 聖書の英語					1,2,3	面接									
	14. 発表の準備(既習事項からトピックを一つ選定)					1,2,3	面接									
	15. 発表・まとめ					1,2,3	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①レポート(50%)、②受講態度(30%)、③発表(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断：根拠を明確にして自説を述べている。 ②関心・意欲：積極的に取り組んでいる。 ③思考・判断、技能・表現：意欲的に発表している。															
フィードバックの方法	発表はその都度講評し、レポートは提出後コメントする。															
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容に一通り目を通しておくこと。各回90分程度 復習：既習内容について理解を深めておくこと。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：橋本功『英語史入門』(慶応義塾大学出版会) 参考書：堀田隆一『英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史』(研究社)															
実務経験について	なし															
担当者からのメッセージ等	英語の歴史を紐解きながら、現代英語をより深く理解していきましょう。 E-mail アドレス：matsuura@m.kurashiki-cu.ac.jp															

授業科目名	英文法演習	教員名	高橋 俊章 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL2-2036-0002200	年次担当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項 演習や発表を通じた体験的な活動や、他の生徒との意見交換を通して英文法に関する専門的知識や技能を得る。															
授業テーマ	文脈重視の英語教育															
授業概要	英文法の理解には、Form(形式)、Meaning(意味)、Function(機能)の理解が不可欠だと理解する 英文法を理解できないと英語母語話者の意図も理解できない。 どのような状況や場面で文法構造が使われるのかを体験的に理解する。															
到達目標	基本的な英文構造に関する正確な知識をもち、それが使用される場面や状況を理解している															
	1. 英文の基本構造に関して正確な理解を持っている															
	2. 適切な場面や状況で基本的な文法構造の練習課題を作成することができる															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画											目標	方法				
	1. ガイダンス：授業の進め方、コミュニケーションにつながる文法指導とは？、宿題・課題の説明										1,2	面接				
	2. be動詞(am/are/is)、句のまとまりの理解の大切さ(billy's test)										1,2	面接				
	3. 一般動詞、3単現の-s 普遍的な真理、習慣、予定										1,2	面接				
	4. 助動詞(must, should, have to)										1,2,3	面接				
	5. 進行形(現在進行形) will と be going to の違い										1,2,3	面接				
	6. 接続詞(when/if/that/because)										1,2,3	面接				
	7. 文型(SVOC, SVOO, SVC) Callの指導、tell me how to...										1,2,3	面接				
	8. 比較表現										1,2,3	面接				
	9. 受動態										1,2,3	面接				
	10. 現在完了形(過去形との違い)										1,2,3	面接				
	11. 分詞の後置修飾										1,2,3	面接				
	12. 関係代名詞										1,2,3	面接				
	13. 現在完了進行形										1,2,3	面接				
	14. 関係代名詞の what										1,2,3	面接				
	15. 仮定法過去										1,2,3	面接				
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	学生によるプレゼンテーション、学生間でのディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(50%)、②授業への参加度(つまり、演習への参加、発表、意見交換)(50%)により総合的に評価する。7.の文型以降、グループで発表(模擬授業の担当)をします。これは②の参加度として評価します。 評価の基準：①知識・技能： 期末テストで前期に学習した内容を理解しているか確認する。 ②思考・判断： 形式・意味・機能を理解した上で、適切な場面や状況で文法構造の練習課題を作成することができるかを確認する。 ③関心・意欲： 演習、意見交換に積極的に参加しているかどうか、コメント用紙に記入した内容で判断する。															
フィードバックの方法	授業中での質問に、答える															
時間外の学習について	予習：次回の授業の内容について調べて理解しておくこと。発表の担当者は発表資料を作成し、翌週の授業で発表すること。各回90分程度。 復習：本時の復習をしておくこと。各回90分程度															
教材にかかわる情報	教科書：Bennett, A., & Komiya, T. (2023). <i>Grammar Plus (Second Edition)</i> . 南雲堂 参考書： 卯城祐司 (2014) 『英語で教える英文法一場面導入、活動で理解』 研究社															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	"Success is the sum of small efforts, repeated day in and day out" 担当者の連絡先・E-mail：授業内で周知します。															

授業科目名	英語音声学	教員名	尊田 望 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2037-0022200	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
英 語 教 育 専 攻						選択										
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)															
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語のリズム、イントネーション															
授業概要	英語音声学の理論に基づき英語の音声的特徴について理解を深め、英語教師として相応しい発音を身に付ける。さらに小学生や中高生を対象とした効果的な発音指導について理解を深め、英語教師としての実践力を高める。															
到達目標	1. 英語の調音音声学に関する理論を理解できる。															
	2. 国際社会で通用する英語発音が習得できている。															
	3. 日本人英語学習者を対象として効果的に発音指導を行うことができる。															
	4. アルファベットと音の関係を体系的に説明することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 音声学とは					1	面接									
	2. 子音1					1,2,3,4	面接									
	3. 子音2					1,2,3,4	面接									
	4. 子音3					1,2,3,4	面接									
	5. 子音4					1,2,3,4	面接									
	6. 母音1					1,2,3,4	面接									
	7. 母音2					1,2,3,4	面接									
	8. 中間試験					1,2,3,4	面接									
	9. 母音3					1,2,3,4	面接									
	10. 母音4					1,2,3,4	面接									
	11. 音の連続					1,2,3,4	面接									
	12. アクセント					1,2,3,4	面接									
	13. リズム					1,2,3,4	面接									
	14. イントネーション					1,2,3,4	面接									
	15. 復習					1,2,3,4	面接									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	ペアやグループでプロジェクト活動に取り組む。															
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業での貢献(発表・ディスカッション)40%(=演習20%+プレゼンテーション20%)、②発音テスト30%(=宿題20%+中間テスト10%)、③定期試験30%により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識・理解・思考・判断・関心・意欲・技能・表現・態度：ディスカッションやプレゼンテーションに主体的に取り組んでいる。</p> <p>②知識・理解・思考・判断・関心・意欲・技能・表現：正しい発音をすることができる。</p> <p>③知識・理解・思考・判断・関心・意欲・技能・表現：授業に関する問題に解答できる。</p>															
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う；(教員)宿題を評価し、返却する；(履修生)授業後に振り返りコメントを提出する。															
時間外の学習について	<p>予習：テキストの指定された箇所を理解した上で、授業に臨んでください。各回90分程度</p> <p>復習：発音練習が復習(授業後の活動)として課されます。各回90分程度</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：竹林滋 他(2013)『初級英語音声学』大修館書店</p> <p>参考書：武田千代城(2011)『驚異のフォニックスワーク35』明治図書</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	対面授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	第二言語習得論	教員名	檜垣 英夫(実務経験) 二五 義博 (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2038-0022200	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	第二言語習得のメカニズム、インプット、アウトプット、動機づけ、学習方略、学習スタイル															
授業概要	第二言語習得研究は「人がどのようなメカニズムで第二言語を習得するのか」を科学的に明らかにする学問である。本講義では、人が第二言語を習得するメカニズムを理解し、その知見をいかに教育場面で役立てるのかについて考察を加える。															
到達目標	1. 第二言語習得研究がどのような学問であるのかを説明することができる。															
	2. 学習者の個人差を理解し各自に適した指導・学習方法を提案することができる。															
	3. 第二言語習得研究から得られた知見を英語教育に生かすことができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. ガイダンス(授業の概要・発表担当決定)(担当:二五)					1	面接									
	2. 第二言語習得とはどのような学問分野か?(担当:二五)					1	面接									
	3. 第二言語習得のプロセス(担当:二五)					1	面接									
	4. 第二言語習得に必要なインプット量とは?(担当:二五)					1,2,3	面接									
	5. インプットの「量」「質」を増やすための手段(担当:二五)					1,2,3	面接									
	6. アウトプットはなぜ必要か?(担当:二五)					1,2,3	面接									
	7. 第二言語習得におけるアウトプットの役割(担当:二五)					1,2,3	面接									
	8. アウトプットの「量」「質」を増やすための手段(担当:二五)					1,2,3	面接									
	9. 動機づけ(担当:二五)					1,2,3	面接									
	10. 動機づけの向上と下降(担当:二五)					1,2,3	面接									
	11. 自己決定理論:3つの心理的欲求を取り入れた学習活動(担当:二五)					1,2,3	面接									
	12. 学習方略(担当:二五)					1,2,3	面接									
	13. メタ認知・メタ認知をトレーニングする方法(担当:二五)					1,2,3	面接									
	14. 学習スタイルと指導スタイル(担当:二五)					1,2,3	面接									
	15. 日本人の英語運用能力の現状と課題(担当:檜垣)					1,2,3	面接									
	定期試験															
アクティブ・ラーニング	受講生による発表とディスカッションを中心とした授業を行う。															
成績評価基準	評価の方法:①発表やディスカッションなど授業での貢献(50%)、②定期試験(30%)、③レポート(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:発表やディスカッション等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・理解:第二言語習得のメカニズムや英語教育学の理論について理解し、その知識を説明できる。 ③思考・判断:授業で扱ったテーマについてさらに深め、自分の意見を述べるができる。															
フィードバックの方法	毎回の授業でワークシートを用いて理解度を確認します。															
時間外の学習について	予習:教科書以外の資料を授業内で配布します。内容を理解した上で授業に臨んでください。各回90分程度 復習:授業終了時に振り返りの指示を出します。指示に従って授業で学んだ内容をまとめ、提出してください。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:廣森友人(2015)『英語学習のメカニズム』大修館書店 参考書:白井恭弘(2012)『英語教師のための第二言語習得入門』大修館書店 鈴木渉(2017)『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店															
実務経験について	高校の英語教員の経験を踏まえ、日本の英語教育の現状と課題に言及する。															
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 担当者の連絡先・E-mail: ynigo@y-gakugei.ac.jp(二五) hhigaki@y-gakugei.ac.jp(檜垣)															

授業科目名	英語文学概論	教員名	藤本 幸伸 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL2-2039-0001100	年次配当	2年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語文学、英語圏文化															
授業概要	近代以降の代表的な英語文学を地域横断的に取り上げ、社会的課題にどのように向き合ったかをつかむ。様々な活字・映像資料や図表を使って物語の社会背景を理解し、英語文学が描く普遍的課題を多面的に読んで能動的に議論に参加する。また、英語文章の発音、語彙、文法や読み解き方など、英語教員に必要なとなる技能も養成していく。															
到達目標	1. 英語文学の概要と特徴を理解し説明することができる。 2. 英語文学に関心を持ち、その知識を活用することができる。 3. 複数の視点から物語を読む文学的読み方(クリティカル・リーディング)を実践することができる。															
履修条件・注意事項	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
授業計画															目標	方法
	1. 英語文学の歴史的概要と代表的英語文学について														1,2	面接
	2. 16世紀から17世紀の文学:『ロミオとジュリエット』その他														1,2	面接
	4. 19世紀前半の文学:『高慢と偏見』														1,2	面接
	5. 19世紀前半の文学:『嵐が丘』														1,2	面接
	6. 19世紀前半の文学:『緋文字』														1,2	面接
	7. 19世紀前半の文学:『白鯨』														1,2	面接
	8. 19世紀後半の文学:『大いなる遺産』														1,2	面接
	9. 19世紀後半の文学:『ハックルベリー・フィンの冒険』														1,2,3	面接
	10. 世紀末の文学:シャーロック・ホームズ、『ジキル博士とハイド氏』と映像														1,2	面接
	11. モダニズム文学:モダニズムの詩:パウンド、エリオット、e. e. カミングズ、プラスなど														1,2	面接
	12. 20世紀後半の文学:『1984』														1,2	面接
	13. 20世紀後半の文学:『ライ麦畑で捕まえて』														1,2	面接
	14. ポストモダニズムの文学:『スローターハウス5』														1,2	面接
	4. 19世紀前半の文学:『高慢と偏見』														1,2	面接
15. まとめ:英語文学が取り上げてきた社会的課題														1,2,3	面接	
評価は、授業外レポート(2回を予定)により行う。																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①授業外レポート(60%)、②授業態度・授業への参加度(40%)により総合的に評価する。 評価の基準:①思考・判断、表現・技術:根拠を明確にして自説を述べている。 ②関心・意欲:積極的に議論に参加する。															
フィードバックの方法	授業外レポートから英語文学への様々な反応をフィードバックする。															
時間外の学習について	予習:プリント又は資料を理解した上で授業に臨むこと。 :各回90分程度 復習:授業で学修した内容について理解を深めておくこと。 :各回90分程度															
教材にかかわる情報	授業はプリントあるいは事前に配信する資料を使って行う。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	物語は、作家が同時代の社会的課題(家父長制、結婚、人種差別、貧困、環境など)の解決を登場人物にゆだね、登場人物たちの試みがうまくいくかどうかを模索する思考実験の場です。過去の思考実験を英語文学から学んでください。 E-mail : fjmytknb@yamaguchi-u. ac. jp															

授業科目名	Creative English I	教員名	ダグラス・パーキン(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2040-0021100	年次配当	1年後期		小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校、中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション															
授業概要	授業内では認知負荷の高いアウトプット活動に従事します。受講生は個人、またはグループで課題に取り組みます。本授業によって「英語力の向上」、「チームで協力して課題に取り組む能力の向上」、「英語使用に対する自信の向上」がもたらされます。															
到達目標	1. 様々なジャンルの英語を聴きその内容を理解することができる。															
	2. 様々なジャンルの英語を読みその内容と構成を理解することができる。															
	3. 様々な話題について英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。															
	4. プロジェクト活動を通して英語で様々なトピックについて英語で書くことができる。															
	5. 4技能を統合した言語活動を遂行することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 授業についての説明					1,2,3	面接									
	2. 英語での自己紹介・他己紹介					1,2,3,4,5	面接									
	3. E-learning・英語での自己紹介・プレゼンテーション課題の説明					1,2,3	面接									
	4. E-learning・Question Crazy Card System・英語での自己紹介・振り返り					1,2,3,4	面接									
	5. E-learning・英語での自己紹介・プレゼンテーション準備					1,2,3,4,5	面接									
	6. E-learning・グループでのプレゼンテーション準備					1,2,3,4,5	面接									
	7. E-learning・英語での自己紹介・振り返り・グループでのプレゼンテーション準備					1,2,3	面接									
	8. E-learning・英語での自己紹介・相互評価・プレゼンテーション進捗状況確認					1,2,3	面接									
	9. E-learning・プレゼンテーション原稿作成					1,2,3,4,5	面接									
	10. E-learning・プレゼンテーション原稿完成・スライド作成					1,2,3,4	面接									
	11. E-learning・グループプレゼンテーションリハーサル					1,2,3,4	面接									
	12. グループプレゼンテーション(1)・自己評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
	13. グループプレゼンテーション(2)・自己評価・ピア評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
	14. グループプレゼンテーション(3)・自己評価・ピア評価・教師による評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
15. 授業全体の振り返り・各自の課題の確認					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	Students must create presentations as individuals, to introduce themselves to the class using ICT. They must proactively communicate in English with faculty members, using the Question Crazy Card System. The students must also work in groups to prepare original presentations supported by research, creative writing, and well-rehearsed performances.															
成績評価基準	評価の方法: ①授業内での貢献・予習・復習(10%)、②Tell Me More Software(10%)、③Question Crazy Card System(10%)、④自己紹介(10%)、⑤自己紹介振り返り(5%)、⑥プレゼンテーション(45%)、⑦プレゼンテーション振り返り(10%)により評価する。 評価の基準: ①-⑦関心・意欲・知識・技能・思考・判断・表現: English skill level ①⑥関心・意欲・表現: Group work skills ③⑥技能・思考・表現: Research ability ②③⑤⑥⑦知識・技能・思考・判断・表現: Ability to fully understand questions ⑥表現: Presentation skills															
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.															
時間外の学習について	予習: Students must prepare for presentations individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習: Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: Fittig, C., Najafi, K. (2014). Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ¥2,800 ISBN: 9781285177489 参考書: 授業内で資料を配付する。															
実務経験について	ネイティブの教員として、国内での十年以上の中学校、高等学校教員の経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業等により、英語科教員育成のための専門教育を指導します。															
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 parkin@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	Creative English II	教員名	ダグラス・パーキン (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL2-2041-0002200	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション															
授業概要	授業内では認知負荷の高いアウトプット活動に従事します。受講生は個人、またはグループで課題に取り組みます。本授業によって「英語力の向上」、「チームで協力して課題に取り組む能力の向上」、「英語使用に対する自信の向上」がもたらされます。															
到達目標	1. 様々なジャンルの英語を聴きその内容を理解することができる。															
	2. 様々なジャンルの英語を読みその内容と構成を理解することができる。															
	3. 様々な話題について英語で話すこと[やりとり・発表]ができる。															
	4. プロジェクト活動を通して様々なトピックについて英語で書くことができる。															
	5. 4技能を統合した言語活動を遂行することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 授業についての説明				1,2	面接										
	2. Microsoft Office Teams Review・1分間スピーチ・スキット説明				1,2,3,4,5	面接										
	3. 1分間スピーチ・1分間スピーチ振り返り・グループプレゼンテーション説明				1,2,3	面接										
	4. 1分間スピーチ・1分間スピーチ振り返り・スキット準備・グループプレゼンテーション説明				1,2,3,4	面接										
	5. 1分間スピーチ・QC Cards・スキット上演				1,2,3,4,5	面接										
	6. 1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション打合せ				1,2,3,4,5	面接										
	7. 1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション草稿完成				1,2,3,4	面接										
	8. 1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション草稿修正				1,2,3	面接										
	9. 1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーションスライド作成				1,2,3	面接										
	10. スキット上演・グループプレゼンテーション原稿スライドチェック				1,2,3,4,5	面接										
	11. スキット上演・グループプレゼンテーション準備物最終確認				1,2,3,4	面接										
	12. グループプレゼンテーションその1・アイコンタクト・振り返り				1,2,3,4,5	面接										
	13. グループプレゼンテーションその2・ジェスチャー・振り返り				1,2,3,4,5	面接										
	14. グループプレゼンテーションその3・聞き手に対する配慮・振り返り				1,2,3,4,5	面接										
15. 授業の振り返り・到達目標の確認				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	Students create individual presentations, prepare and perform group skits while using costumes and ICT, plus make a creative group presentation/performance which is presented in front of the class. Students actively engage in questioning and answering challenging questions, as part of their final presentation test. Students must be active to be successful!															
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業内での貢献・予習・復習(10%)、②Question Crazy Card System(10%)、③1分間スピーチ(10%)、④1分間スピーチ振り返り(5%)、⑤スキット(20%)、⑥グループプレゼンテーション(35%)、⑦グループプレゼンテーション振り返り(10%)により評価する。</p> <p>評価の基準：③-⑧知識・技能・思考・判断・表現：English writing skills ③④⑥⑦知識・技能・思考・判断・表現：Presentation skills ①⑥⑦関心・意欲・思考・表現：Group work skills ②④⑥⑦知識・技能・思考・表現：Ability to effectively use ICT and costumes to give presentations and performances.</p>															
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.															
時間外の学習について	<p>予習：Students must prepare for presentations individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary.</p> <p>復習：Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも90分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：Fettig, C., Najafi, K. (2018). Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning; 2nd edition ¥4,129 ISBN: 9781337562508</p> <p>参考書：授業内で資料を配付する。</p>															
実務経験について	ネイティブの教員として、国内での十年以上の中学校、高等学校教員の経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業等により、英語科教師育成のための専門教育を指導します。															
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 parkin@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	Applied English I	教員名	ダグラス・パーキン(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL2-2042-0002200	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション															
授業概要	この授業では英語運用能力を向上させると同時に望ましい英語指導方法について検討します。認知的負荷の高いアウトプット活動に従事することによって英語使用に対する自信を育てます。ペア、小グループでの活動を通して自律的な学習習慣を確立します。															
到達目標	1. 4技能を使って統合的な言語活動に従事することができる。															
	2. 自信を持って人前で英語のスピーチやプレゼンテーションを行うことができる。															
	3. 仲間と協力して英語のプロジェクト活動を行うことができる。															
	4. 英語で認知的負荷の高い活動に従事することができる。															
	5. 自信を持って英語を使うことができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 授業についての説明					1,2,5	面接									
	2. Microsoft Office Teams Review・プレゼンテーション準備・グループプレゼンテーション説明					1,3,4,5	面接									
	3. プレゼンテーションその1・グループプレゼンテーション打合せ					1,2,3,4,5	面接									
	4. プレゼンテーションその2・グループプレゼンテーション準備					1,2,3,4,5	面接									
	5. プレゼンテーションその3・グループプレゼンテーション進捗状況確認					1,2,3,4,5	面接									
	6. プレゼンテーション振り返り・グループプレゼンテーションスライド作成					1,2,3,4,5	面接									
	7. QC Card 進捗状況確認・グループプレゼンテーション進捗状況報告					1,2,3,4,5	面接									
	8. プレゼンテーションその4・グループプレゼンテーション草稿提出					1,2,3,4	面接									
	9. プレゼンテーションその5・グループプレゼンテーション内容確認					1,2,3	面接									
	10. プレゼンテーションその6・グループプレゼンテーション最終原稿完成					1,2,3	面接									
	11. グループプレゼンテーション最終準備(原稿・スライド・ICT)					3,4	面接									
	12. グループプレゼンテーションその1・自己評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
	13. グループプレゼンテーションその2・他己評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
	14. グループプレゼンテーションその3・教師による評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
15. 授業に対する振り返り・到達目標の確認					1,4	面接										
アクティブ・ラーニング	Students reflect on their past learning and experiences, project what they want and need for the future, and create an individual presentation to be given to the class. In groups they must create an original skit, then prepare and present it to the class. In groups they create a presentation/performance as teachers, who also give a test to the class.															
成績評価基準	評価の方法: ①授業での貢献(10%)、②Question Crazy Card System(10%)、③Reflect + Projectプレゼンテーション(10%)、④Reflect + Project・リフレクション(10%)、⑤Skit Acting(10%)、⑥最終グループプレゼンテーション(40%)、⑦最終リフレクション(10%)。 評価の基準: ①-⑧関心・意欲・知識・技能・思考・判断・表現: Reflect and apply information ①-④⑥⑦関心・意欲・知識・技能・思考・表現: Presentation skills ①-③④⑥⑦関心・意欲・知識・技能・思考・表現: Creativity ① ③④⑥⑦関心・意欲・知識・技能・思考・表現: Performance ability ② -⑧関心・意欲・知識・技能・思考・判断・表現: English skills ④⑦表現: Team work skills															
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.															
時間外の学習について	予習: Students must prepare for activities individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習: Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: Chase, B. (2018). Pathways I - Second Edition: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ¥4,129 ISBN: 9781337562515 参考書: 授業内で必要な資料を配布します。															
実務経験について	国内での中学校、高等学校での英語科教員やALTの経験を生かして、英語を用いたアクティブラーニングの手法やチームティーチングの基礎などの指導をします。															
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 parkin@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	Applied English II	教員名	ダグラス・パーキン(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-2043-0002200	年次配当	3年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション															
授業概要	この授業では受講生は英語を教授言語として英語指導を行うという活動に従事します。英語を用いて英語を教えるという活動に従事することによって、生徒の英語コミュニケーション運用能力向上をもたらす活動の在り方に対する理解を深めます。															
到達目標	1. 4技能を使って統合的な言語活動に従事することができる。 2. 英語を指導するスキルを実践することができる。 3. コミュニケーション能力を育てる英語指導を行うことができる。 4. 認知負荷の高いトピックについて英語で話すように生徒を動機づけることができる。 5. 英語を教授言語として自信を持って使用することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	○	⑥	○	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 授業概要についての説明					1,2	面接									
	2. Microsoft Office Teams Review・10分間授業の説明・Debate/Discussion フォーラム説明					1,2,3	面接									
	3. e-learning・10分間授業・Debate/Discussion フォーラム					1,2,3,4,5	面接									
	4. 10分間授業・Debate/Discussion フォーラム・チームティーチング説明					1,2,3,4,5	面接									
	5. 10分間授業・Debate/Discussion フォーラム・チームティーチング準備					1,2,3,4,5	面接									
	6. 10分間授業振り返り・Debate/Discussion フォーラム振り返り・チームティーチング準備					1,2,3,4,5	面接									
	7. e-learning 進捗状況確認・QC Card 進捗状況確認・チームティーチング進捗状況確認					1,2,3,4,5	面接									
	8. 10分間授業・Debate/Discussion フォーラム・チームティーチング指導案作成					1,2,3,4,5	面接									
	9. 10分間授業・Debate/Discussion フォーラム・チームティーチング指導案確認					1,2,3,4,5	面接									
	10. 10分間授業・Debate/Discussion フォーラム・チームティーチング実施詳細確認					1,2,3,4,5	面接									
	11. チームティーチング教材作成					1,2,3,4	面接									
	12. チームティーチング(グループ1・2)・自己評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
	13. チームティーチング(グループ3・4)・他己評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
	14. チームティーチング(グループ5・6)・教師による評価・振り返り					1,2,3,4,5	面接									
15. 授業に対する振り返り・到達目標の確認					2,4	面接										
アクティブ・ラーニング	Students become much more active as teachers, by conducting 10 minute mini lessons to the class. In pairs they also conduct a 25-30 minute debate or discussion with the class, being responsible for the creation and implementation of everything. The final test, is a 40 minute pair team teaching test, where students become either an ALT or a JTE.															
成績評価基準	評価の方法:①授業での貢献(10%)、②Question Crazy Card(10%)、③10分間授業(10%)、④10分間授業振り返り(10%)、⑤Debate/Discussion フォーラム(10%)、⑥チームティーチング(40%)、⑦授業振り返り(10%)により評価する。 評価の基準:①-⑧関心・意欲・知識・技能・思考・判断・表現:Critical thinking skills ⑥⑦思考・表現:Group work skills ①③-⑧関心・意欲・知識・技能・思考・判断・表現:Ability to state and support opinions ④⑦技能・表現:Ability to teach English at a junior and senior high schools using appropriate language levels															
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.															
時間外の学習について	予習:Students must prepare for activities individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. Understanding teaching methodology, is an import item to prepare for in this course. 復習:Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth. (予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:Chase, B. (2018). Pathways I - Second Edition: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ¥4,129 ISBN: 9781337562515 参考書:授業内で必要な資料を配布します。															
実務経験について	国内での中学校、高等学校での英語科教員やALTの経験を生かして、英語を用いたアクティブ・ラーニングの手法やチームティーチングの基礎などの指導をします。															
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 parkin@gakugei.ac.jp															

授業科目名	Basic English Expression	教員名	二五 義博 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL2-2044-0002200	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成、エッセイ、ディスカッション、プレゼンテーション															
授業概要	生徒に対して理解可能なインプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを勧めていく柔軟な調整能力を身に付ける。															
到達目標	1. 音声モードの英語インプットを理解することができる。															
	2. 文字モードの英語インプットを理解することができる。															
	3. 様々な話題について英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。															
	4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。															
	5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. ガイダンス(授業の進め方・課題について)					1,2,3,4,5	面接									
	2. パラグラフの構成					4	面接									
	3. エッセイ執筆: Choosing a Pet					2,4,5	面接									
	4. エッセイ評価・ディスカッション: Choosing a Pet					1,2,3,4,5	面接									
	5. エッセイ執筆: School Subjects					2,4,5	面接									
	6. エッセイ評価・ディスカッション: School Subjects					1,2,3,4,5	面接									
	7. エッセイ執筆: School Lunch Menu					2,4,5	面接									
	8. エッセイ評価・ディスカッション: School Lunch Menu					1,2,3,4,5	面接									
	9. エッセイ執筆: Best Friends					2,4,5	面接									
	10. エッセイ評価・プレゼンテーション: Best Friends					1,2,3,4,5	面接									
	11. エッセイ執筆: Person to Remember					2,4,5	面接									
	12. エッセイ評価・プレゼンテーション: Person to Remember					1,2,3,4,5	面接									
	13. エッセイ執筆: You Are the Teacher					2,4,5	面接									
	14. エッセイ評価・プレゼンテーション: You Are the Teacher					1,2,3,4,5	面接									
	15. プレゼンテーション: My Goals					1,3,5	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループでの話し合い、受講生による発表が授業活動の中心となる。															
成績評価基準	評価の方法: ①プレゼンテーション・ディスカッション(20%)・音読(10%)、②小テストおよび定期試験(50%)、③エッセイ(20%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①関心・意欲: プレゼンテーション・ディスカッションや音読等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・理解: テキストのリスニングおよびリーディング(語彙も含む)問題を解くことができる。 ③思考・判断: 自分の考えをライティングにて適切に英語で表現できる。															
フィードバックの方法	授業内で他の受講生及び授業担当者がフィードバックを提供する。															
時間外の 学習について	授業内でライティングの課題を提示する。原稿の作成は授業外で行う。(予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる 情報	テキスト: 日本国際教養学会(編著). The Intersection of Arts, Humanities, and Science: Fifteen Selected Passages for University Students. Tokyo: SEIBIDO. ISBN978-4-7919-4897-0 ¥2,000 参考書: 文法学習のためにE-learningを使用する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	Intermediate English Expression		教員名	二五 義博 (単独)	免許・資格等との関係	保育士										
						幼稚園教諭										
ナンバリングコード	UL2-2045-0002200		年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭										
						中学校教諭(英語)	選択									
授業形態	演習		授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択									
						特別支援学校教諭										
単位数	2					SPARC教育プログラム										
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション能力の育成、エッセイ、ディスカッション、プレゼンテーション															
授業概要	生徒に対して理解可能なインプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを勧めていく柔軟な調整能力を身に付ける。															
到達目標	1. 音声モードの英語インプットを理解することができる。															
	2. 文字モードの英語インプットを理解することができる。															
	3. 様々な話題について英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。															
	4. 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。															
	5. 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画							目標	方法								
	1. ガイダンス(授業の進め方・課題について)						1,2,3,4,5	面接								
	2. パラグラフの構成						4	面接								
	3. エッセイ執筆:Travel						2,4,5	面接								
	4. エッセイ評価・ディスカッション:Travel						1,2,3,4,5	面接								
	5. エッセイ執筆:Your School						2,4,5	面接								
	6. エッセイ評価・ディスカッション:Your School						1,2,3,4,5	面接								
	7. エッセイ執筆:Good Person						2,4,5	面接								
	8. エッセイ評価・ディスカッション:Good Person						1,2,3,4,5	面接								
	9. エッセイ執筆:Career Decisions						2,4,5	面接								
	10. エッセイ評価・プレゼンテーション:Career Decisions						1,2,3,4,5	面接								
	11. エッセイ執筆:Leadership						2,4,5	面接								
	12. エッセイ評価・プレゼンテーション:Leadership						1,2,3,4,5	面接								
	13. エッセイ執筆:Special Place						2,4,5	面接								
	14. エッセイ評価・プレゼンテーション:Special Place						1,2,3,4,5	面接								
	15. プレゼンテーション:Goals						1,3,5	面接								
定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループでの話し合い、受講生による発表が授業活動の中心となる。															
成績評価基準	<p>評価の方法:①プレゼンテーション・ディスカッション(20%)・音読(10%)、②小テストおよび定期試験(50%)、③エッセイ(20%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:①関心・意欲:プレゼンテーション・ディスカッションや音読等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>②知識・理解:テキストのリスニングおよびリーディング(語彙も含む)問題を解くことができる。</p> <p>③思考・判断:自分の考えをライティングにて適切に英語で表現できる。</p>															
フィードバックの方法	授業内で他の受講生及び授業担当者がフィードバックを提供する。															
時間外の学習について	授業内でライティングの課題を提示する。原稿の作成は授業外で行う。(予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる情報	<p>テキスト:日本国際教養学会(編著). The Intersection of Arts, Humanities, and Science: Fifteen Selected Passages for University Students. Tokyo: SEIBIDO. ISBN978-4-7919-4897-0 ¥2,000</p> <p>参考書:文法学習のためにE-learningを使用する。</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	Upper-Intermediate English Expression	教員名	ダグラス・パーキン(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-2046-0002200	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	英語コミュニケーション															
授業概要	授業ではまとまりのある量の英文を書いてその原稿をベースにして発表を行うという活動に従事します。自分の考えや意見を英語で表現する技術を修得します。個人、またはグループでの発表を通してリーディング力、ライティング力、スピーキング力、リスニング力の向上を目指します。															
到達目標	1. 文法と語彙に配慮して英文を書くことができる。															
	2. 各自の興味や関心のあるトピックを選んで英文で書くことができる。															
	3. 必要な情報を収集して英文を書くことができる。															
	4. 収集した情報を聞き手の理解を促すように構成し発表することができる。															
	5. 文字モード、音声モードで収集した情報を発表することができる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	○	⑤	○	⑥	○	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 授業説明・ライティングプロセス				1,2,4	面接										
	2. 日記・My Life(作文)・ニュース報告(ペアライティング)				1,2,3,4,5	面接										
	3. Pen Pals・My Life(発表)・ニュース報告(ペアでの発表)				1,4,5	面接										
	4. Pen Pals・My Life・ニュース報告・トークショーグループ決定				1,2,3,4,5	面接										
	5. 書き出し文・My Life・ニュース報告・トークショーグループワーク				1,2,3,4,5	面接										
	6. 書き出し文・Pen Pals・トークショー原稿作成				1,2,3,4,5	面接										
	7. ライティングプロセス・ピアエディティング・トークショー原稿完成				1,2,5	面接										
	8. Pen Pals・トークショー原稿提出				1,4,5	面接										
	9. Pen Pal・トークショー原稿書き直し				1,4,5	面接										
	10. Pen Pals・トークショーグループ練習				1,4,5	面接										
	11. トークショーリハーサル・準備物確認				3,4	面接										
	12. トークショー(グループ1/2)・自己評価				1,5	面接										
	13. トークショー(グループ3/4)・他己評価				1,5	面接										
	14. トークショー(グループ5/6)・教師による評価				1,5	面接										
15. 授業振り返り・到達目標の確認				1,2,3,4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	Students will work individually and in groups to express their thoughts and ideas in writing. They will create a class journal, a daily diary, write about their lives, write about news, and produce a final test on current events in the form of a talk show. Students will share many written pieces with the rest of the class in various ways.															
成績評価基準	評価の方法:①日記(25%)、②Pen Pals(10%)、③News Reporting(10%)、④My Life(作文・発表)(15%)、⑤トークショー(30%)、⑥振り返り(10%)により評価する。 評価の基準:①-⑥知識・技能:Strong English writing skills concerning grammar, vocabulary, and creativity ①-⑥思考・表現:Ability to clearly express thoughts and feelings															
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students will build a written portfolio of their work, which will be filled with feedback from the instructor, peers, and by the students themselves in the form of reflections. Regular meetings will occur between the course instructor and groups in the class.															
時間外の学習について	予習: Students must prepare for class by regularly writing in their diaries, conducting research for their individual and group assignments, plus practicing for any presentations they must give throughout the course. 復習: Students are required to review assignments given by the instructor, any key points covered in class, as well as their own work which they have created. Self-review and correction is a must in this course. (予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:授業内で必要な資料を配布します。 参考書:授業内で必要な資料を配布します。															
実務経験について	ネイティブの教員として、また国内での中、高校での英語科教員の経験、ハイレベルなスピーチコンテストの指導者の経験等を活かして、中・高校の英語教育に不可欠な4技能の総合力を高める指導をします。															
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境等を整えておくことが望ましい。 parkin@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	Advanced English Expression	教員名	ダグラス・パーキン(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	UL3-2047-0002200	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	選択
単位数	2				特別支援学校教諭	
					SPARC教育プログラム	
					初等幼児教育専攻	
					英語教育専攻	選択
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)					
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項					
授業テーマ	英語コミュニケーション					
授業概要	4技能を統合的に扱う上級レベルの授業です。自分で作成した英語の原稿を用いてプレゼンテーションを行います。聞き手を納得させるためにはどのような点に気をつけるべきかを体験的に学びます。個人、グループで様々なプロダクション活動に従事します。					
到達目標	1. 目的に焦点を合わせてその内容を文字モードで表現することができる。 2. 収集した情報を論理性に考慮しながら文字モードで表現することができる。 3. 内容を効果的に伝える方法に配慮しながら文字モードで表現することができる。 4. 聴衆の反応に配慮しながら伝えるべき意味内容を効果的に伝えることができる。					
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○
	④	○	⑤	○	⑥	○
	⑦	○	⑧	○		
履修条件・注意事項	授業の方法：英語のみを使用して授業を展開します					
授業計画					目標	方法
	1. ライティングプロセスについての説明				1,3	面接
	2. 自由日記・スピーチライティング				1,2,3	面接
	3. Mini Group Plays・ファンタジー・スピーチライティング				1,2,3,4	面接
	4. Mini Group Plays・スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays 準備				1,2,3,4	面接
	5. スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays 原稿作成				1,2,3,4	面接
	6. ファンタジー・Mini Group Plays・Final Group Plays 進捗状況確認				1,2,3,4	面接
	7. スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays 草稿完成				1,2,4	面接
	8. ファンタジー・スピーチ・自叙伝・Final Group Plays 原稿提出				1,4	面接
	9. ファンタジー・Final Group Plays 原稿修正				1,2,4	面接
	10. ファンタジー・Final Group Plays 準備物確認				1,4	面接
	11. Final Group Plays リハーサル・順番決定				3,4	面接
	12. Final Group Plays (グループ1/2)・自己評価・振り返り				4	面接
	13. Final Group Plays (グループ3/4)・他己評価・振り返り				4	面接
	14. Final Group Plays (グループ5/6)・教師による評価・振り返り				4	面接
15. 振り返り・到達目標の確認				1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	This course is advanced as students are to actively express themselves using every skill they have achieved in English writing and in creative expression. They will work individually and in groups to create a fictional daily diary, research and present a speech, produce a class manga fantasy book, and produce plays.					
成績評価基準	評価の方法：①自由日記(20%)、②ファンタジー(Manga)(10%)、③スピーチ(10%)、④Mini Group Plays(15%)、⑤Final Group Plays(35%)、⑥振り返り(10%)により評価する。 評価の基準：①-⑥知識・技能・表現：Student's ability to correctly express themselves in written and spoken form ①-⑤関心・意欲・思考・判断：Creativity ①-⑥知識・思考・技能：Ability to clearly express thoughts and feelings					
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students will build a written portfolio of their work, which will be filled with feedback from the instructor, peers, and by the students themselves in the form of reflections. Regular meetings will occur between the course instructor and groups in the class.					
時間外の学習について	予習：Students must prepare for class by regularly writing in their fictional diaries, conducting research for their individual and group assignments, plus practicing for any presentations they must give throughout the course. 復習：Students are required to review assignments given by the instructor, any key points covered in class, as well as their own work which they have created. Self-review and correction is a must in this course. (予習・復習とも90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：授業内で必要な資料を配布します。 参考書：授業内で必要な資料を配布します。					
実務経験について	ネイティブの教員として、また国内での中、高校での英語科教員の経験、ハイレベルなスピーチコンテストの指導者の経験等を活かして、中・高校の英語教育に不可欠な4技能の総合力を高める指導をします。					
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーキング環境等を整えておくことが望ましい。 parkin@y-gakugei.ac.jp					

授業科目名	異文化理解	教員名	永井 涼子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-2048-0021100	年次配当	2年後期		小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目															
各科目に含める ことが必要な事項	教科に関する専門的事項															
授業テーマ	異文化理解、異文化コミュニケーション、多文化共生、課題解決能力、学際的アプローチ															
授業概要	本授業では異文化理解をコミュニケーションや多文化共生、日本語教育という観点から実践的に学ぶ。また座学だけでなく、実際に起こった異文化摩擦を扱ったケーススタディを行い、ディスカッションを通して、異文化理解とは何かを実例からも学ぶ。さらに、外国人をゲストスピーカーとして呼び、異文化コミュニケーションの実践も行う。さらに、毎回宿題を課し、現代社会が抱える異文化理解の課題について考え当該授業のテーマと関連付けながら考察を行う。															
到達目標	自文化と異文化を理解する複眼的視点を養い、背景の異なる人々とのコミュニケーション・共生についての理解を深め、他者を尊重する姿勢を身につける。															
	1. 自分とは背景の異なる人々を尊重し、自分自身の考えやコミュニケーションを振り返ることができるようになる。															
	2. 自らを含む多文化を理解し、その場に応じたコミュニケーションについての知識・理解を得る。															
	3. 異文化理解を基盤とした多文化共生について基本的な知識を身に付け、現実問題として多文化共生を見つめ、その実現に向けた方向性について考えることができるようになる。															
	4. グループ内での自己の位置づけを見定め、多文化社会で円滑なコミュニケーションを行うための基礎を習得する。															
	5. 異文化理解を課題解決能力につなげるグローバルな視点を養い、グローバル人材の素養を獲得する															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション(コミュニケーションと文化)					1,2,5	面接									
	2. 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション					1,2,5	面接									
	3. 日本語コミュニケーションの特徴					1,2,5	面接									
	4. 日本語コミュニケーションと英語コミュニケーションの違い1					1,2,5	面接									
	5. 日本語コミュニケーションと英語コミュニケーションの違い2					1,2,5	面接									
	6. 異文化コミュニケーションと異文化コミュニケーション能力					1,2,4,5	面接									
	7. 異文化コミュニケーションの障壁					1,5	面接									
	8. カルチャーショックと異文化適応					1,5	面接									
	9. アイデンティティと異文化理解					1,5	面接									
	10. やさしい日本語					4,5	面接									
	11. 異文化コミュニケーションの実践(外国人ゲストスピーカー)					4,5	面接									
	12. 日本語教育から見た異文化理解					3,5	面接									
	13. 多文化共生と異文化理解					3,5	面接									
	14. 外国にルーツを持つ子どもの教育					3,5	面接									
	15. 地域日本語教育と異文化理解					3,5	面接									
◎定期試験(最終レポート提出)																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション(ケーススタディ)、課題解決型学習															
成績評価基準	評価の方法: ①最終レポート(50%)、②授業内レポート(20%)、③宿題(20%)、④授業への参加度(150%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①序論、本論、結論の構成に沿って書いている。引用、参考文献リストの作成が適切に行われている。締切等、条件を守っている。内容について客観的にとらえ、多角的に考察が行われている。 ②ケースの内容を理解し、質問に適切に答えている。締切を守っている。 ③課された課題に関して、参考文献などを参考にしながら多角的に考え、適切にまとめている。締切を守っている。 ④授業内のアクティブ・ラーニングにおいて、積極的に発言し、相手の話も聞いている。															
フィードバックの方法	授業時に質問を受ける。また、メールでの問い合わせにも随時対応する。															
時間外の学習について	予習: 次回の授業の内容について調べて理解しておくこと。 各回90分程度 復習: 宿題を通して、本時のまとめを復習しておくこと。 各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト: 久米昭元・長谷川典子著『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション: 誤解・失敗・すれ違い』2007年、有斐閣選書、1,980円(税込) 参考書: 各回で異なるため、授業スライドに記載する。															
実務経験について	国内外の大学や国際機関における日本語教育経験、県内の小中学校における外国人児童生徒の指導経験、山口県多文化共生推進指針策定委員等の山口県多文化共生に関する経験、教員免許状更新講習の講師経験、山陽小野田市日本語教育コーディネーターの経験等を生かして授業を行う。															
担当者からのメッセージ等	異文化理解は異なる他者を理解することですが、それは教育の根幹に共通するものです。外国人との共生が進んでいく日本社会で教職に就くにあたり、当該の子どもたちだけでなく、保護者とのコミュニケーションにも役立てられます。 担当者の連絡先・メールアドレス:nagair@yamaguchi-u.ac.jp															

授業科目名	英語科教育法 I	教員名	二五 義博 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL2-2049-0001100	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	中学校・高等学校学習指導要領(外国語編)、授業観察、英語教育学の理論、4技能の指導、ICTの活用、学習指導案の作成、模擬授業															
授業概要	本講義によって中学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身に付ける。ディスカッション、グループプレゼンテーション、授業観察、模擬授業を通して生徒がコミュニケーションのツールとして英語を使えるようになるためにはどのような授業を行うべきかについて理解を深める。また、英語の授業におけるICTの活用法についての基本的知識を身に付け、ICTを効果的に授業指導へ生かす方法を考える。															
到達目標	1. 中学校及び高等学校の外国語(英語)の学習指導要領と教科用図書について理解している。															
	2. 聞くことの指導と読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。															
	3. 話すことの指導と書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。															
	4. 学習到達目標に基づく授業の組み立てを理解し、授業指導に生かすことができる。															
	5. 教材及びICT機器の活用について理解し、授業指導に生かすことができる。															
履修条件・注意事項	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
授業計画															目標	方法
	1. 英語教育と英語科教育の違い・教科用図書とは?														1	面接
	2. 英語の授業構成・DVDによる授業観察														4	面接
	3. 音声と文字の指導														2	面接
	4. リスニング指導														2	面接
	5. スピーキング(やり取り)指導														3	面接
	6. スピーキング(発表)指導														3	面接
	7. リーディング指導														2	面接
	8. ライティング指導														3	面接
	9. 英語の授業におけるICT機器の活用														5	面接
	10. 授業担当者による模範授業に生徒として参加														4	面接
	11. 教室の使用言語														4	面接
	12. 授業の準備と計画・学習指導案の作成														4	面接
	13. 学生による模擬授業第一グループ・リフレクション														1,2,3,4,5	面接
	14. 学生による模擬授業第二グループ・リフレクション														1,2,3,4,5	面接
15. 現状と課題の確認														1,2,3,4,5	面接	
アクティブ・ラーニング	模擬授業、グループワークを取り入れる。															
成績評価基準	評価の方法:①グループワークやディスカッション等への参加態度と発表(25%)、②模擬授業および観察シートへの記入(50%)、③レポート(25%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:グループワーク等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・技能:英語教育学の理論や4技能の指導について理解し、適切な模擬授業ができる。 ③思考・判断:授業で扱ったテーマについてさらに深め、自分の意見を述べる事ができる。															
フィードバックの方法	課題等は授業担当者のコメントを添えて返却します。															
時間外の 学習について	予習:テキストの指定された箇所を読んで、内容をまとめた上で授業に臨んでください。各回90分程度 復習:振り返りのレポートが課されます。授業内の指示に従って作成し、提出してください。各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト:中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、文部科学省(著)『中学校学習指導要領解説 外国語編』 文部科学省(著)『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、笹島準一他『New Horizon English Course 1/2/3』 参考書:JACET教育問題研究会(編)『新しい時代の英語教育の基礎と実践』															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	英語科教育法Ⅱ	教員名	渡部 靖徳(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-2050-0001100	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	小学校・中学校学習指導要領(外国語編)、第二言語習得、異文化理解、ICTの活用、観点別評価、学習指導案の作成															
授業概要	小・中・高等学校の学習指導要領及び教科用図書等の教材について理解するとともに、3つの資質・能力の育成について理解する。また、学習者が第二言語を習得するプロセス及び英語でのインタラクション、異文化に関する指導について理解を深める。模擬授業を通してICTを実際の授業における指導に生かすことができるようにするとともに、観点別評価の在り方を理解する。															
到達目標	1. 小・中・高等学校の学習指導要領及び教科用図書等について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解し、説明できるようになる。 2. 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携を視野に入れた英語教育の在り方の基本について理解し、説明できるようになる。 3. 第二言語習得プロセス・異文化理解指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 4. ICTの効果的な活用及び指導の在り方について理解し、授業指導に生かすことができる。 5. 観点別学習状況の評価について理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	場合によっては遠隔授業															
授業計画					目標	方法										
	1. 小学校外国語活動・外国語科の現状と課題、小・中・高等学校の連携	学習指導要領		1	面接											
	2. 小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方	バックワードデザイン	発音の指導	1,2	面接											
	3. 第二言語習得プロセス/英語でのインタラクション	良質のインプット		1,2	面接											
	4. 第二言語習得プロセス/日英語の対比	意味順による指導		3	面接											
	5. ICTの効果的な活用・デジタル教科書を活用した指導			3	面接											
	6. 観点別学習状況の評価・ルーブリック評価と意欲化	ラウンドシステム		4	面接											
	7. 異文化理解・異文化に関する指導の方向性	フォニックス指導Ⅰ		5	面接											
	8. クラスルームイングリッシュの活用			1,2,3,4,5	面接											
	9. 小・中・高等学校連携を視野に入れた学習指導案(導入部分)の作成			1,2,3,4,5	面接											
	10. 学習指導案(展開部分)の作成			1,2,3,4,5	面接											
	11. 学習指導案(まとめ・振り返り部分)の作成			1,2,3,4,5	面接											
	12. 導入部分を中心とした模擬授業			1,2,3,4,5	面接											
	13. 展開部分を中心とした模擬授業			1,2,3,4,5	面接											
	14. まとめ・振り返り部分を中心とした模擬授業			1,2,3,4,5	面接											
15. 現状と課題の確認	フォニックス指導Ⅱ		1,2,3,4,5	面接												
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等															
成績評価基準	評価の方法：①模擬授業(30%)、②課題・小テスト(30%)、③授業への取組(40%)により総合的に評価する。 評価の基準：①技能・表現、思考・判断：クラスルームイングリッシュを活用し、小・中学校の連携を意識した授業が実践できる。 ②知識・理解：学習指導要領を踏まえた4技能を育成するための第二言語習得のプロセスやICTの効果的な活用の在り方を理解している。 ③関心・意欲等：教科書の活用・教材研究の在り方を積極的に学んでいる。															
フィードバックの方法	模擬授業後や配布プリント等で随時個別還元指導															
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を理解しておく。模擬授業等の円滑な実践に向けた準備をしておく。 各回90分程度 復習：既習内容を理解するとともに、模擬授業等のフィードバックを省察し実際に実践できるようにする。 各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：資料配付 参考書：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 文部科学省 著『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、文部科学省 著『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 著『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 レントランス社 デジタル教科書の使い方 参考資料等：随時プリント配布															
実務経験について	市町教委指導主事や児童自立支援施設、海外日本人学校での実務経験をもとに中高授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。															
担当者からのメッセージ等	英語はコミュニケーションの手段です。単なる言語材料(文法知識等)の詰め込みではなく、英語が苦手な生徒への配慮を忘れないこと。学習指導要領を理解し、英語が使用される目的・場面・状況等を意識した言語活動を想像するという姿勢を身につけてください。 Email：授業内で周知します。															

授業科目名	英語科教育法Ⅲ	教員名	渡部 靖徳(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-2051-0001200	年次配当	3年後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)															
授業テーマ	デジタル教科書を活用した授業づくり、ALT等とのT・T、指導と評価の一体化、英語教師の英語力															
授業概要	ICTの活用、ALT等とのT・Tの方法、生徒の特性や習熟度に応じた指導を学んだ上で、中・高等学校における年間を通じた学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、評定への総括の仕方について理解する。また、生徒が話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法等、言語能力の測定と評価の方法についても理解する。最終的に、指導と評価の一体化を視野に入れた学習指導案(ICT・ALT等の活用を含む)を作成し、その指導案に沿って授業ができることをめざす。															
到達目標	1. デジタル教科書の活用及びALT等とのチーム・ティーチングについて理解し、授業に生かすことができる。															
	2. 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。															
	3. 観点別学習状況の評価と評価規準の設定や総括、並びに言語能力の測定と評価(パフォーマンス評価等を含む)について理解し、指導に生かすことができる。															
	4. 4技能5領域の指導と評価の一体化を視野に入れた学習指導案の基本的な作成ができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	場合によっては遠隔授業															
授業計画						目標	方法									
	1. バックワードデザインとICTの活用					1,2,3,4	面接									
	2. デジタル教科書の活用					1,2,3,4	面接									
	3. ラウンドシステムの長所と課題と可能性					1,2,3,4	面接									
	4. 意味順による指導の長所と可能性					1,2,3,4	面接									
	5. 言語活動の授業づくり					1,2,3,4	面接									
	6. 観点別学習状況の評価及びそれに基づく評価規準の設定					1,2,3,4	面接									
	7. ICT・ALT等を活用した学習指導案(導入部分)の作成					1,2,3,4	面接									
	8. ICT・ALT等を活用した学習指導案(展開部分)の作成					1,2,3,4	面接									
	9. ICT・ALT等を活用した学習指導案(まとめ・振り返り)の作成					1,2,3,4	面接									
	10. 模擬授業①: 言語活動の授業づくり					1,2,3,4	面接									
	11. 模擬授業②: リスニングの授業づくり					1,2,3,4	面接									
	12. 模擬授業③: リーディングの授業づくり					1,2,3,4	面接									
	13. 模擬授業④: ライディングの授業づくり					1,2,3,4	面接									
	14. 模擬授業⑤: ラウンドシステムの授業づくり					1,2,3,4	面接									
15. 現状と課題の確認					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等															
成績評価基準	評価の方法: ①模擬授業(40%)、②課題・小テスト(20%)、③授業への取組(40%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①技能・表現、思考・判断: クラスルームイングリッシュを駆使し、意味内容・言語形式・言語機能を意識した授業が実践できる。 ②知識・理解: 評価の視点を持ち、4技能を育成するための教科書の活用・教材研究の在り方を理解している。 ③関心・意欲等: 授業実践にあたり、評価と指導の一体化の視点を忘れず実践的な指導力を身につけるために取り組んでいる。															
フィードバックの方法	模擬授業後や配布プリント等で随時個別還元指導															
時間外の学習について	予習: 指定された単元について概要を理解しておく。模擬授業等の円滑な実践に向けた準備をしておく。 各回90分程度 復習: 既習内容を理解するとともに、模擬授業等のフィードバックを省察し実際に実践できるようにする。 各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト: 資料配付 参考書: 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 英語トリオディスカッション指導ガイドブック 上山晋平著 明治図書 文部科学省著『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省著『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 参考資料等: 随時プリント配布															
実務経験について	市町教委指導主事や児童自立支援施設、海外日本人学校での実務経験をもとに授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。															
担当者からのメッセージ等	英語はコミュニケーションの手段です。単なる言語材料(文法知識等)の詰め込みではなく、英語が苦手な生徒への配慮を忘れないこと。学習指導要領を理解し、英語が使用される目的・場面・状況等を意識した言語活動を想像するという姿勢を身につけてください。 Email: 授業内で周知します。															

授 業 科 目 名	保育内容の理解と方法・健康 I	教 員 名	船場 大資 (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士	必修										
					幼 稚 園 教 諭	必修										
ナンバリングコード	UC1-2052-1100000	年次配当	1 年後期	卒業要件	小 学 校 教 諭											
					中 学 校 教 諭 ( 英 語 )											
授 業 形 態	演 習	授 業 科 目 の 取 扱 い	面接授業科目	卒業要件	高 等 学 校 教 諭 ( 英 語 )											
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	1				SPARC 教育プログラム											
教科及び教職に 関 する 科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項															
教 科 目	必修科目 (保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授 業 テ ー マ	子どもの健康理解、生活習慣と健康、子どもの体力、子どもの発育発達															
授 業 概 要	乳幼児期の発達段階に応じた心身の特徴や、基本的な生活習慣や運動の知識を身に付ける。また、5領域の中の「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成、運動遊びや危機管理など、保育に必要な専門的知識などについて考えていく。あわせて現場や自治体で行われている取り組みについても学び、子どもの健康的な生活習慣を考察する。															
到 達 目 標	1. 現代的な子どもの健康理解															
	2. 現代的な子どもの体力理解															
	3. 子どもの発育発達の理解															
	4. 5 領域と健康の理解															
	5. 子どもの遊びとケガへの理解															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	○	⑦	.	⑧	.
履修条件・注意事項																
授 業 計 画						目標	方法									
	1. オリエンテーション・領域「健康」と健康の概念について					1	面接									
	2. 現代における乳幼児期の健康課題—体力調査・生活調査から—					2, 3	面接									
	3. 乳幼児期の心と体の発育過程とその特徴					3	面接									
	4. 乳幼児期の基本的な生活習慣と援助方法					1	面接									
	5. 乳幼児期の健康的な生活習慣の改善事例—教育機関や各地域の取り組みから—					1	面接									
	6. 乳幼児期の健康管理や衛生に関する基本的な理解					4	面接									
	7. 起こりやすいケガの特徴や熱中症の理解と対策—安全な生活のための予防と処置—					2, 5	面接									
	8. 月齢毎における所作の習得とその意義について					3	面接									
	9. 乳幼児の生活にみられる動作と発育理解—粗大運動と微細運動を通じて—					3	面接									
	10. 神経系に関わる運動と巧緻性の獲得の重要性について					3	面接									
	11. 5領域と健康の関わり					4	面接									
	12. 乳幼児期の外遊びと教材の特性理解					5	面接									
	13. 乳幼児期の室内遊びと教材の特性理解					5	面接									
	14. ICTを活用した自由運動遊びへの誘いと理解					5	面接									
	15. 乳幼児期における基本的な生活について—まとめ—					4	面接									
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①レポート 20 点、②定期試験 80 点により総合的に評価する。 評価の基準：①②知識・理解：健康への理解度。子どもの発育発達の理解度															
フィードバックの方法	演習ごとに内容に対する意見や質問の確認時間をとる。															
時 間 外 の 学 習 について	予習：各回に相当する教科書の予習 20 分程度 復習：ノート整理・課題等 25 分程度															
教材にかかわる 情 報	テキスト：前橋明著『コンパス 保育内容健康』建帛社 参考書：出村慎一監修『幼児のからだところを育てる運動遊び』杏林書院 大西文子編著『子どもの健康と安全』中山書店 参考資料等：適宜配布する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	子どもの健康課題や対策は日々変化しています。まず基本をしっかりと理解して欲しいです。 担当者の連絡先・E-mail アドレス dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp															

授業科目名	保育内容の理解と方法・健康Ⅱ	教員名	船場 大資 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択													
					幼稚園教諭	選択													
ナンバリングコード	UC4-2053-2200000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭														
					中学校教諭(英語)														
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)														
					特別支援学校教諭														
単位数	1				初等幼児教育専攻	選択													
					英語教育専攻														
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																		
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項																		
教科目	選択必修科目(保育士)																		
系列	保育の内容・方法に関する科目																		
授業テーマ	運動環境、運動機能の理解と実践方法、データの読み方と理解、幼保小の連携と健康																		
授業概要	5領域における「健康」の内容について理解し、幼児期の子どもの健康的な生活を支援できる保育方法について学ぶ。また、遊びにおける人間関係の形成や自発的な遊びのメリットなどの遊びがもたらす成長について理解できるようになる。最終的に、幼児期の子どもの発育発達の種類や特性を理解し、領域「健康」を踏まえた環境構成や指導計画を作成することができるようになる。																		
到達目標	1. 運動環境構成を理解する。																		
	2. データを理解し、活用できるようになる																		
	3. 幼保小の連携理解																		
	4. 体力調査を理解し、活用できるようになる																		
	5. 環境構成の理解と活用																		
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・			
履修条件・注意事項																			
授業計画																	目標	方法	
	1. オリエンテーション・健康の定義と「健康」の領域について																	1	面接
	2. 発達障害に応じた乳幼児期の生活習慣の確立—睡眠や運動、食事が果たす役割—																	1	面接
	3. 園内および園外活動の環境構成—安全管理とリスクマネジメント—																	1	面接
	4. 発育・発達を踏まえた習得したい運動技能の理解																	2	面接
	5. 運動技能の習得を目指した保育目標の立て方と指導方法—教材理解—																	1	面接
	6. よく転倒する幼児の特徴と運動による改善方法—現代的健康課題—																	2	面接
	7. 多様なケガに対する応急手当とAEDの理解																	2	面接
	8. 子どもの健康を支える保育実践—地域の幼保小の活動をモデルに—																	3	面接
	9. 大規模調査からみる現代の子どもの発育課題と遊び仲間と地域の遊び場の理解																	4	面接
	10. ICT(動画と静止画)を活用した運動指導																	2	面接
	11. 幼児期の遊びを通じた人間関係の形成																	1	面接
	12. 自発性を重視する運動あそび実践例と環境構成																	5	面接
	13. MKS幼児運動能力調査における運動科学と発育理解																	4	面接
	14. 配慮が必要な子どもとアダプテッドな運動遊びの理解																	5	面接
	15. 健康的な子どもを育てるために—指導計画・環境構成の理解—																	5	面接
定期試験																			
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション																		
成績評価基準	評価の方法：①レポート40点、②定期試験60点により総合的に評価する。 評価の基準：①②知識・理解：健康への理解度。子どもの発育発達の理解度																		
フィードバックの方法	演習ごとに内容に対する意見や質問の確認時間をとる。																		
時間外の学習について	予習：各回に相当する教科書の予習20分程度 復習：ノート整理・課題等25分程度																		
教材にかかわる情報	テキスト：前橋明著『コンパス 保育内容健康』建帛社 参考書：出村慎一監修『幼児のからだを育てる運動遊び』杏林書院 大西文子編著『子どもの健康と安全』中山書店 参考資料等：適宜配布する																		
実務経験について																			
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail アドレス dfunaba@yamaguchi-jca.ac.jp																		

授業科目名	保育内容の理解と方法 ・人間関係	教員名	大森 洋子(実務経験) (単独)	免許・資格 等との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UC2-2054-1100000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項																	
教科目	必修科目(保育士)																	
系 列	保育の内容・方法に関する科目																	
授業テーマ	乳幼児を取り巻く人間関係、乳幼児の人間関係の発達、発達に即した指導、保育者の役割																	
授業概要	乳幼児を取り巻く人間関係の現代の特徴や課題を踏まえた上で、乳幼児期の人とかかわる力の育ちの重要性を理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する専門的知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基礎となる人間関係の発達について関係発達論的視点から学び、他者との関係や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを理解する。また、園生活のエピソードを通して人と関わる力の育ちを学び、具体的な場面を通して保育者の関わりや役割について考える。学生自身が、自分の乳幼児期の家族や地域の人との関係を振り返り、自分の人間関係と関連づけることで、学生生活の中で人とかかわる力を高めていけるようにする。																	
到達目標	1. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題、人とかかわる力の育ちの重要性を理解し、説明できる。																	
	2. 乳幼児期の人間関係の発達について、人との関係性(身近な大人、保育者、友達、個と集団など)から説明できる																	
	3. 乳幼児期の人と関わる力の育ちについて、発達の姿と合わせて理解し、説明できる(自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生えなど)。																	
	4. 乳幼児の発達に即した指導について適切に思考し、他者に分かりやすく自分の考えを述べるができる。																	
	5. 自分の人間関係を深めようとする態度をもち、積極的に他者と連携・協働し、主体的に協議や授業に参加することができる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	○	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題																1	面接
	2. 領域「人間関係」のねらい及び内容と、大学生活で求められる人と関わる力の関連																1,5	面接
	3. 3歳未満児における人間関係の発達～身近な大人との関係を基盤に育つ～																2	面接
	4. 遊びや生活の中で育まれる人間関係①～友達と触れ合う喜び～																2	面接
	5. 遊びや生活の中で育まれる人間関係②～仲間意識の強まり～																2	面接
	6. 乳幼児期の自立心の育ち～「自分で」から始まる自立～																2,3	面接
	7. 幼児期の協同性の育ち～共通の目的に向かって協力し、やり遂げようとする～																2,3	面接
	8. 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち～決まりの必要性に気づき、守ろうとする～																2,3	面接
	9. いざごぎを通して育つ～葛藤・気持ちを調整し、折り合いをつける～																2,3,4	面接
	10. 特別な配慮を必要とする子どもへの支援																2,3,4	面接
	11. 異年齢のかかわりと人間関係・豊かな人間関係を育む学級経営																2,3,4	面接
	12. 乳幼児期の人間関係の広がり～家族や地域とのかかわりを通して育つ～																2,4,5	面接
	13. 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿～																2,3,5	面接
	14. 人と関わる力を育む保育の実践・保育者の役割																2,4	面接
	15. 人と関わる力を育む保育者としての資質・学生生活で身に付けたい力																1,5	面接
	◎定期試験																	
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ・模擬保育																	
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(50%)、②課題・授業内レポート(30%)、③授業態度(20%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②思考・判断、関心・意欲：根拠を明確にして適切に思考・判断し、自説を述べている。 ③関心・意欲、態度：グループワーク等に課題意識を持ち、意欲的に取り組んでいる。ワークシートの記述が適切である。																	
フィードバックの方法	課題・授業内レポートは、その都度個別にアドバイス当を記入して返却するとともに、授業内で考え方や具体的方法を示して、理解が深まるようにする。																	
時間外の学習について	予習：授業内容に合わせて事前に調べ、次回講義内容の概要を把握しておく。(各回20分程度) 復習：配布資料を整理し、授業内容をまとめて、考察を深める。(各回25分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館) 参考書：『社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」～乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは～』無藤隆・古賀松香著(北大路書房)・その他適宜紹介する。 参考資料等：適宜紹介、配布する。																	
実務経験について	幼稚園教諭の経験をもとに、実際の子どもの発達の姿と援助がイメージしやすいように事例を用いて話をします。																	
担当者からのメッセージ等	人は、人によって人になります。領域「人間関係」に関わる実践を豊かにするために、人とかかわる力の育ちを保育に関連づけて読み解き、子どもの発達や発達に即した援助を考えていきましょう。また、自分自身と関連づけながら考えることで、学生生活の中で人間関係を豊かにしていくことを期待します。 E-mail : youko-o@yamaguchi-u.ac.jp																	

授業科目名	保育内容の理解と方法・環境	教員名	大森 洋子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修													
					幼稚園教諭	必修													
ナンバリングコード	UC2-2055-1100000	年次配当	2年後期		小学校教諭														
					中学校教諭(英語)														
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)														
					特別支援学校教諭														
単位数	1				SPARC教育プログラム														
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																		
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項																		
教科目	必修科目(保育士)																		
系 列	保育の内容・方法に関する科目																		
授業テーマ	乳幼児を取り巻く環境、乳幼児の発達と環境との関わり、発達に即した指導、保育者の役割																		
授業概要	乳幼児を取り巻く環境と現代的課題、乳幼児の発達や環境との関わり等、領域「環境」の指導の基礎となる専門的知識・技能について学び、身に付ける。また、事例検討や、身近な自然に触れ、調べたり観察したりする活動を通して、指導に必要となる保育者としての感性を養うとともに、発達や学びの過程を理解し、発達に即した指導や保育者の役割について考える。																		
到達目標	1. 乳幼児を取り巻く環境の諸側面と現代的課題、乳幼児の発達にとっての環境の重要性を理解し、説明できる。																		
	2. 乳幼児期の思考や認知的発達の特徴について説明できる(数量・図形、生物・自然とのかかわりの事象に対する興味・関心や理解の発達)。																		
	3. 乳幼児の標識・文字、情報・施設への興味・関心や関わり方について理解し、説明できる。																		
	4. 課題や体験活動を通して、乳幼児の発達に即した教材や指導方法について適切に思考し、自分の意見を述べるができる。																		
	5. 地域や自然とのかかわり、体験や教材の重要性に気づき、積極的に調べたり他者と協力したりして、主体的に取り組むことができる。																		
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	○	⑦	・	⑧	・			
履修条件・注意事項																			
授業計画																	目標	方法	
	1. 保育の基本と保育内容のとらえ方・領域「環境」に示されている保育内容																	1	面接
	2. 乳幼児を取り巻く環境の諸側面とその現代的課題																	1	面接
	3. 乳幼児期の体験の意義～しなやかな心と体を育む～																	1	面接
	4. 乳幼児の発達と環境との関わり																	1,2	面接
	5. 乳幼児期・児童期の思考や知的発達の特徴																	2	面接
	6. 乳幼児の自然との関わり(1)～自然に出会い、触れ、感じる(フィールドワーク)																	2,4,5	面接
	7. 乳幼児の自然との関わり(2)～動植物との関わりや飼育・栽培～																	2,4	面接
	8. 乳幼児の自然との関わり(3)～自然現象や季節による変化～																	2,4,5	面接
	9. 乳幼児の身近な物との関わり(1)～物と関わるなかで育つ～																	1,3,4	面接
	10. 乳幼児の身近な物との関わり(2)～身近な素材と関わる体験の実際(新聞紙を使って)～																	1,3,4	面接
	11. 乳幼児の数量や図形との関わり																	2,4	面接
	12. 乳幼児の標識や文字との関わり																	3,4	面接
	13. 乳幼児の身近な情報や施設との関わり・小テスト																	3,4,5	面接
	14. 幼児期の思考力の芽生え・小学校とのつながり																	2,3,5	面接
15. 環境にかかわる力を育む保育・環境構成と保育者の役割・まとめ																	4,5	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク・フィールドワーク・模擬保育																		
成績評価基準	評価の方法：①小テスト(20%)、②授業内レポート(20%)、③課題・授業外レポート(50%)、④授業態度・授業への参加度(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：基本的な問題に解答できる。 ②知識・理解、関心・意欲：授業内容を整理しながら学習事項を適切にまとめている。意欲的に取り組んでいる。 ③知識・理解、思考・判断：学んだことをもとに根拠を明確にして適切に思考・判断し、自説を述べている。 ④関心・意欲、態度：課題意識をもって、積極的に取り組んでいる。他者と協力して活動に取り組んでいる。																		
フィードバックの方法	小テストは、実施後にポイントを解説する。課題やレポートは個々にコメントを入れ、良い点・改善点などを示すと共に、授業内で課題に対する考え方や具体的方法を全体に示して共有する。																		
時間外の 学習について	予習：授業内容に合わせて事前に調べ、理解を深めておく。(各回20分程度) 復習：授業内容をまとめ、考察を深める。(各回25分程度)																		
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参考書：『幼稚園教育要領解説』文部科学省(フレーベル館)・『子どもと環境』神長美津子他編著(光生館)・その他適宜紹介する。 参考資料等：適宜紹介する。																		
実務経験について	幼稚園教諭の経験を活かし、事例に基づいた話をするこことで、子どもの姿がイメージしやすいようにします。																		
担当者からのメッセージ等	領域「環境」に関わる実践を豊かにするには、保育者自身が感性を磨くとともに、子どもの発達を理解し、それに応じた保育者の援助を考えるなど、資質・能力を高めることが大切です。フィールドワークや教材研究、グループ活動等も行いながら、子どもたちの健やかな発達を促す環境について一緒に考えましょう。 E-mail : youko-o@yamaguchi-u.ac.jp																		

授業科目名	保育内容の理解と方法・言葉Ⅰ	教員名	上田 保明 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UCI-2056-1100000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項															
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	乳幼児の言葉の発達特性の理解、言葉の意義や言葉の機能等の専門的知識の修得															
授業概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉」のねらい及び内容を究明し、さらに乳幼児が体験を通して身に付けていく内容と指導上の留意点、小学校教育とのつながりなどについて理論を学ぶ。															
到達目標	1. 幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 2. 領域「言葉」と小学校教育とのつながりを理解する。 3. 乳幼児の言語の発達過程や特性について理解する。 4. 絵本の読み聞かせの基礎理論を実践を通して修得する。 5. 言葉に関する現代的課題や保育実践の動向を学び、保育構想の向上に取り組む。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 乳幼児期の「言葉」の獲得に関する過程の概要について					1,2,3	面接									
	2. 社会における「言葉」の意義と役割を、乳幼児の「言葉」の獲得と関連づけてとらえる					1,2	面接									
	3. 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における「言葉」の比較検討					1	面接									
	4. 幼稚園要領における幼児教育の基本、育てたい資質能力について					1,3	面接									
	5. 幼稚園教育要領「言葉」の歴史の変遷について					1	面接									
	6. 領域「言葉」のねらい、内容、内容の取扱いについて					1,2	面接									
	7. 領域「言葉」と小学校教育とのつながりについて					2	面接									
	8. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について① 乳児期の言語発達					3	面接									
	9. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について② 幼児期の言語発達					3	面接									
	10. さまざまな言葉遊びを体験し、言葉遊びの意義や支援のあり方について					4,5	面接									
	11. 「言葉」と保育構想の基本的な考え方について					3,5	面接									
	12. 言葉遊びの意義や支援のあり方について					3,4	面接									
	13. 絵本の読み聞かせの基礎理論					4	面接									
	14. 「言葉」を育てる教材の種類や保育への取り入れ方について					5	面接									
15. 現代の子どもを取り巻く環境と領域「言葉」					5	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①レポート(50%)、②グループワーク(30%)、③授業態度(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断：根拠を明確にして自説を述べている。 ②知識・理解：積極的に参加し、友と声を掛け合い協議できる。 ③関心・意欲、思考・判断：進んで発言する姿勢や学んだ知識を盛り込んだ発言ができる。															
フィードバックの方法	ノート、レポートについて改善点を指摘する。															
時間外の学習について	予習：次時の予告をするので、事前に調べておく。(各回15分) 復習：講義内容をノートにまとめ、疑問点を調べてノートに記録する。(各回30分)															
教材にかかわる情報	テキスト：松川利弘監修『子どもの育ちと「ことば」』 参考書：「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」 参考資料等：必要に応じて適宜指示・配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	幼稚園、小学校を参観し、滑らかな接続の大切さを学ぶ。また、絵本や小説を読み合っ、自らの感性を高め、言葉を豊かにしよう。 担当者の連絡先・メールアドレス yueda@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	保育内容の理解と方法・言葉Ⅱ	教員名	吉鶴 修 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	UC4-2057-2200000	年次配当	4年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	幼児の言葉の獲得、言葉の育ちを小学校教育へとつなげる教育課程の編成、幼児教育の楽しさ															
授業概要	幼児の言葉の発達を踏まえ、言葉の育ちを小学校教育へとつなげる教育課程の編成について理解したことを基に、言葉を育てる教材を作成し、模擬保育で活用をすることを通して幼児教育の楽しさを実感する。															
到達目標	1. 言葉に関する現状と課題を明らかにし、幼児の言葉の発達を理解した上で、課題解決に向けた方策を考えノートにまとめ、発表することができる。															
	2. 幼児期の望ましい言葉の発達を実現していくための保育者の支援について、考えたことをノートにまとめることができる。															
	3. 言葉の育ちを小学校教育へとつなげる教育課程の編成について理解し、非認知能力や汎用的認知スキルの育成の視点から幼小の接続が大切な理由を3つ以上考え、ノートに書くことができる。															
	4. ペーパーサートや絵本のストーリー構成等を学び、簡易なペーパーサートや絵本の制作・上演・読み聞かせ等に主体的に取り組み、保育への関心を振り返りの中でノートに記述することができる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 幼稚園教育の基本～環境を通して行う教育～					1,2	面接									
	2. 国語教育における現状と課題～これからの時代に求められる国語力とは～					1,2	面接									
	3. 乳幼児期の言葉の獲得～豊かな言語感覚と表現力を養うための教師の支援～					1,2,3	面接									
	4. 言葉による伝え合い～小学校教育との関係～					1,3	面接									
	5. コミュニケーションにおける言葉の意味と感情～国語力の重要性～					1,2	面接									
	6. ペーパーサートの制作～教材作りの楽しさ～					2,3,4	面接									
	7. ペーパーサートを実演してNo.1を決定しよう！～ペーパーサートのよさ～					2,3,4	面接									
	8. 非認知能力(社会情動的スキル)と言葉の関係～ベリール幼稚園プログラムの追跡調査～					1,2,3	面接									
	9. 言葉の力につながる幼児期の思考の芽生え～(実験)浮く野菜と沈む野菜～					2,3,4	面接									
	10. 幼児期における思考の言語化～知的好奇心(非認知能力)が国語力を高める～					2,3,4	面接									
	11. 汎用的認知スキルの育成～小学校教育を視野に入れた教材の作成～					2,3,4	面接									
	12. 幼児の言葉の育ちを小学校教育へとつなげる教育課程の編成①～9年間を見通した教育課程の構築～					1,3	面接									
	13. 幼児の言葉の育ちを小学校教育へとつなげる教育課程の編成②～言葉を核とした接続期の教育課程の編成～					1,3	面接									
	14. 絵本作家にチャレンジ！～絵本の制作～					1,3,4	面接									
15. 絵本作家にチャレンジしてNo.1を決定しよう！～幼児教育における読み聞かせの効果～					1,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	問題解決的な学習 グループワーク ディスカッション 実験 模擬保育 制作 実演 読み聞かせ															
成績評価基準	<p>評価の方法：①ノート提出(50%)、②小テスト(30%)、③授業態度(20%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識・理解：言葉に関する現状と課題を踏まえ、幼児の言葉の発達に関する基本的な知識や課題の解明に向けた方策について、ノートに正確に整理し、問題に解答できる。</p> <p>②知識・理解：幼児期の望ましい言葉の発達を実現していくための保育者の支援について考えたことを、ノートに正確に整理し、問題に解答できる。</p> <p>②思考・判断：幼小の接続において、言葉の育ちの視点から非認知能力や汎用的認知スキルの育成が大切な理由を、根拠を明らかにして3つ以上考え、ノートに書くことができる。</p> <p>③関心・意欲：ペーパーサートや絵本の制作の制作に主体的に取り組み、模擬保育で上演・読み聞かせをすることを通して、保育への関心について振り返りの中でノートに記述することができる。</p>															
フィードバックの方法	小テストやノート、レポート等の評価を、授業において解説することで理解を深める。															
時間外の学習について	<p>予習：次時の参考資料や各回に示す課題について調べ、講義の内容を把握し、準備しておく。(各回15分程度)</p> <p>復習：授業で理解したことや考えたことなどを振り返る。また、授業後の自分の問題点を調べ、理解を広げ深める。(各回30分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：「幼稚園教育要領解説」</p> <p>参考書：「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」</p> <p>参考資料等：必要に応じて適宜指示・配付する。</p>															
実務経験について	私立幼稚園協会や幼稚園、小学校での実務をもとに、理論や具体的な事例に基づいた話をするこて、子供の姿がよりイメージしやすいようにします。															
担当者からのメッセージ等	子供は乳幼児期から身近な人との関わりや生活の中で言葉を獲得していきます。様々な環境の中で、成長と共に言葉を獲得していく子供の姿と一緒に学びましょう。担当者の連絡先は、授業の中でお知らせします。															

授 業 科 目 名	保育内容の理解と方法・音楽表現	教 員 名	坂本 久美子 (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士	選 択												
					幼 稚 園 教 諭	必 修												
ナンバリングコード	UCI-2058-2100000	年次配当	1年後期	卒業要件	小 学 校 教 諭													
					中 学 校 教 諭 ( 英 語 )													
授 業 形 態	演 習	授業科目の 取 扱 い	面接授業科目	卒業要件	高 等 学 校 教 諭 ( 英 語 )													
					特 別 支 援 学 校 教 諭													
単 位 数	1				SPARC 教育プログラム													
教科及び教職に 関 する 科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項																	
教 科 目	選択必修科目 (保育士)																	
系 列	保育の内容・方法に関する科目																	
授 業 テ ー マ	子どもの発達、音楽あそび、幼児歌曲、わらべうた																	
授 業 概 要	乳幼児の音楽的表現が生まれる過程と、それらを見逃さず受け止め共感することの重要性を理解する。基礎的音楽技能である聴く・歌う・動く・演奏するなどの活動に取り組み、身体の諸感覚を通じた音楽あそびの楽しさを感じると共に、音楽力の向上に努める。わらべうたなど、自然・文化・生活における様々な伝承遊びに取り組み、その面白さや文化財としての重要性を理解する。協同して表現することを通して、学生同士が表現の多様性を共有し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。																	
到 達 目 標	1. 領域「表現」の内容やねらいを踏まえ、乳幼児の素朴な表現を受け止める視点を持つことができる。																	
	2. 音楽表現の基礎的な知識や技能を身に付ける。																	
	3. 音楽遊びの楽しさを実感し、楽しさを生み出す要因について分析することができる。																	
	4. 幼児の音楽表現を促す環境構成や、保育者の役割について理解できる。																	
	5. 協同して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感することができる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授 業 計 画																	目標	方法
	1. ガイダンス 領域「表現」のねらいと内容																1	面接
	2. 乳幼児の発達と表現への道筋																1	面接
	3. 表現を育む環境構成																1,4	面接
	4. 表現遊び① (声による感情表現)																2,3,5	面接
	5. 表現遊び② (リズムと身体表現)																2,3,5	面接
	6. 表現遊び③ (音探しと手作り楽器)																2,3,5	面接
	7. 自然・生活における伝承わらべうた遊び																2,3,4,5	面接
	8. 季節や年中行事における伝承わらべうた遊び																2,3,4,5	面接
	9. 音楽遊びと表現する子どもの姿																1,3,4	面接
	10. 音楽表現の題材と展開方法① (身体表現)																2,3,4,5	面接
	11. 音楽表現の題材と展開方法② (楽器演奏)																2,3,4,5	面接
	12. 音楽表現の題材と展開方法③ (言葉遊び)																2,3,4,5	面接
	13. 音楽表現の題材と展開方法④ (絵本と音楽)																2,3,4,5	面接
	14. 音楽表現のグループ発表と意見交換																1,2,3,4,5	面接
15. 全体の振り返りと省察																1,2,3,4,5	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法：①音楽表現 (40%) ②レポート (30%) ③授業の取り組み (30%) により総合的に評価する。 評価の基準：①技能・表現：音楽表現の基礎的スキルを習得する。 ②知識・理解：子どもの表現を支える保育者の役割を理解する。 ③関心・意欲・態度：主体的・積極的に音楽表現に取り組む。																	
フィードバックの方法	実技の評価後にコメントする。																	
時間外の 学習について	予習：授業計画に沿って、次回の教材の譜読みをしておく。(各15分程度) 復習：授業内容を復習し、自己課題の克服に努める。(各30分程度)																	
教材にかかわる 情 報	テキスト：河北邦子・坂本久美子編著 『幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123』(ミネルヴァ書房) 参考書：小西行郎他著 『乳幼児の音楽表現』(中央法規) 参考資料等：本廣明美・加藤照恵共編 『幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版)																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	講義だけでなく演習を通して学ぶため、動きやすい服装で参加すること。 担当者の連絡先・E-mail：sakamoto@y-gakugei.ac.jp (坂本)																	

授業科目名	保育内容の理解と方法・造形表現	教員名	武田 雅行 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UCI-2059-2100000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項																	
教 科 目	選択必修科目(保育士)																	
系 列	保育の内容・方法に関する科目																	
授業テーマ	幼児の造形遊び、平面の基礎技法																	
授業概要	領域「表現」の位置付けやねらい及び内容を理解し、乳幼児期の感性や創造性の働きに着目しながら子どもの発達について考える。造形表現の基本的な材料・用具等の特性や正しい使い方と、造形遊びへの展開を具体的・実践的に学び、保育者としての必要な知識・技能や表現力を身につける。																	
到達目標	1. 幼児の生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を身につける。																	
	2. 造形素材の特性や扱い方(関連する材料・用具を含む)を理解し活用することができる。																	
	3. 色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現することができる。																	
	4. 学んだことを記録して、知識や技術の定着を図り、分かり易くまとめることができる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項	水彩絵の具や筆などの画材は、貸し借りせず各自で準備すること																	
授業計画																	目標	方法
	1. 導入 授業の概要と準備物の説明 幼児の絵の見方 平面技法の概論																1	面接
	2. 平面の基礎技法を用いた造形遊び① にじみ・バチック・ドリッピング																1,2,3	面接
	3. 平面の基礎技法を用いた造形遊び② スパッタリング・スタンピング																1,2,3	面接
	4. 平面の基礎技法を用いた造形遊び③ マーブリング・ステンシル																1,2,3	面接
	5. 平面の基礎技法を用いた造形遊び④ デカルコマニー・フロッタージュ																1,2,3	面接
	6. 平面の基礎技法を用いた造形遊び⑤ スクラッチ・ローリング																1,2,3	面接
	7. 壁面構成(季節の行事)																1,2,3	面接
	8. 紙を使った造形遊び① 折り紙の基本																1,2	面接
	9. 紙を使った造形遊び② 新聞紙で作る(かぶと・ツリー・紙でっぽう・ほうき・帽子)																1,2,3	面接
	10. 紙を使った造形遊び③ 新聞紙を使った造形遊び																1,2,3	面接
	11. 張り子のオブジェ① 構想・張り子制作																1,2,3	面接
	12. 張り子のオブジェ② モデリング																1,2,3	面接
	13. 張り子のオブジェ③ 着彩																1,2,3	面接
	14. 張り子のオブジェ④ ニス塗り 完成																1,2,3	面接
15. まとめ ファイリング・自己評価																4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法:①提出作品(80%)、②授業中の態度、取り組みの姿勢(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①技能・表現:授業での経験や学びを記録として残し、材料用具の特性を理解して作品作りができる。 ②意欲・態度:用具、技法を正しく理解し、積極的に授業に取り組むことができる。																	
フィードバックの方法	学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行う。																	
時間外の学習について	予習:前日に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等、準備をしておくこと。(各20分程度) 復習:時間内に終わらなかった課題は、次回に持ち越すことなく各自で完了しておくこと。(各25分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:コンパクト版 保育内容シリーズ⑥ 造形表現 参考資料等: 随時参考資料及び課題についての説明資料を配付する																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	A3袋ファイルを各自で準備し、その都度、自己評価票と共にまとめる。立体物は写真に記録しファイリングすること。 担当者の連絡先・E-mail:takeda@y-gakugei.ac.jp(武田)																	

授業科目名	子どもと芸術表現Ⅰ	教員名	西村 優子 脇 聖子 山城 麻衣 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UC3-2060-0100000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項																	
授業テーマ	人形劇、造形表現、音楽表現、言語表現																	
授業概要	対象とする子どもたちの発達段階や興味関心などを想定し、テーマや物語の設定を考える。 造形的表現を工夫して舞台装置や棒人形を制作し、人形劇としてふさわしい音楽や効果音・歌について考える。後期の本格的な舞台練習に必要な準備を整える。																	
到達目標	1. 造形・音楽・言語などの表現を、子どもの発達と関連付けながら考えることができる。 2. 子どもが楽しむ表現活動の、企画や制作ができる。 3. 教育者・保育者としての多面的な表現力を高める。 4. 教育・保育現場における表現活動の意義を理解し、実践できるようになる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	○		
履修条件・注意事項	後期の「子どもと芸術表現Ⅱ」を併せて履修すること。																	
授業計画																	目標	方法
	1. オリエンテーション																1,4	面接
	2. 様々な人形劇の人形の特徴と演じ方、劇表現における音楽・音の効果																1,4	面接
	3. 演目の検討																1,2	面接
	4. 脚本の作成																1,2,3	面接
	5. 脚本の検討・推敲(1) 内容や登場者																1,2,3	面接
	6. 脚本の検討・推敲(2) 物語の構成																1,2,3	面接
	7. 脚本の検討・推敲(3) 台詞																1,2,3	面接
	8. 脚本の検討・推敲(3) 効果音や音楽																1,2,3	面接
	9. 人形制作(1) 頭部																1,2,3	面接
	10. 人形制作(2) 本体																1,2,3	面接
	11. 人形制作(3) 手足																1,2,3	面接
	12. 人形制作(4) 衣装																1,2,3	面接
	13. 小道具制作																1,2,3	面接
	14. 舞台制作																1,2,3	面接
15. 棒人形の扱い方																1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法：①制作作品(30%) ②レポート(20%) ③授業への取り組み(50%)を総合的に評価する。 評価の基準：①技能・表現：子どもが楽しめる内容に基づいた脚本を作成し、物語に相応しい造形表現で、人形や小道具などを丁寧に制作する。 ②思考・判断：主体的な活動であったかを自己分析し、今後の課題を明らかにする。 ③関心・意欲・態度：グループ活動に意欲的に取り組み、自分の役割を積極的に果たしている。																	
フィードバックの方法	脚本や製作物について、改善点をコメントする。																	
時間外の 学習について	予習：前回までの活動の概要を踏まえて授業に臨むこと。(各回90分程度) 復習：時間内に終わらなかった課題は次回までに完了しておくこと。(各回90分程度) 日頃から子ども向けの表現作品や音楽等、子ども達の心が動く表現活動に関心をもち、鑑賞しておく。																	
教材にかかわる 情報	テキスト：特になし 参考資料等：適宜プリント配布																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：授業内で周知します。																	

授業科目名	子どもと芸術表現Ⅱ	教員名	西村 優子 脇 聖子 山城 麻衣 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC3-2061-0100000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	領域に関する専門的事項															
授業テーマ	人形劇、造形表現、音楽表現、五領域															
授業概要	人形の動かし方や台詞の言い回しなどを工夫し、劇的效果を高める音楽や歌などを加え、演目の魅力を十分に伝えられるよう、表現豊かに演じる。教育・保育現場での発表を振り返り、その記録から五領域の横断的表現活動である人形劇の発表意義について考察し、今後の課題を考える。															
到達目標	1. 子どもの発達と関連付けた造形表現や音楽表現を、実践することができる。 2. 人形劇に必要な、豊かな表現力を身につける。 3. 教育・保育現場における表現活動の意義を理解し、実践に活用することができる。 4. グループ活動を通して、教育者・保育者として必要な協調性や責任感を身につける。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	前期の「子どもと芸術表現Ⅰ」を履修したものに限る。															
授業計画					目標	方法										
	1. 人形の動きと音楽				1,2,3	面接										
	2. 人形の動きと効果音				1,2,3	面接										
	3. グループ練習(リハーサル)				2,4	面接										
	4. グループ練習(反省会)				2,4	面接										
	5. 授業内発表会				1,2,3,4	面接										
	6. 改善点の検討				2,3,4	面接										
	7. 改善点の修正(脚本)				2,3,4	面接										
	8. 改善点の修正(構成)				2,3,4	面接										
	9. 学内での発表				1,2,3,4	面接										
	10. 改善点の修正(演じ方)				2,3,4	面接										
	11. 改善点の修正(効果音・音楽)				2,3,4	面接										
	12. 保育現場での発表				1,2,3,4	面接										
	13. 教育現場での発表				1,2,3,4	面接										
	14. 発表の振り返りと考察				1,2,3,4	面接										
15. 制作と発表を通してのまとめ				1,2,3,4	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①作品発表(60%)②レポート(20%)③授業中の取り組み(20%)を総合的に評価する。 評価の基準：①技能・表現：表現力の向上に努め、子どもにとっての文化財の意義を踏まえた人形劇の発表をする。 ②思考・判断：活動を振り返り、成果や自己課題を簡潔に述べる。 ③関心・意欲・態度：グループ活動に意欲的に取り組み、自分の役割を積極的に果たしている。															
フィードバックの方法	教育・保育現場での発表について、振り返りの後に講評する。															
時間外の学習について	予習：脚本を熟読し、前回までの活動の概要を踏まえて授業に臨むこと。(各回90分程度) 復習：時間内に終わらなかった課題は、次回までに完了しておく。(各回90分程度) 日頃から、子ども向けの表現作品や音楽等を鑑賞し、自身の表現技能の向上に役立てる。															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料等：適宜プリント配布															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	主体的なグループ活動により成立する授業であり、各自が役割に責任を持ち、活動してほしい。 担当者の連絡先・E-mail：授業内で周知します。															

授業科目名	保育内容の指導法・健康	教員名	増原 恵子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UC2-2062-1100000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
教 科 目	必修科目(保育士)																	
系 列	保育の内容・方法に関する科目																	
授業テーマ	子どもの心身の健康・発達の道筋・発達に即した指導と保育者の役割																	
授業概要	・子どもの育ちと領域「健康」の関係について遊びや生活する姿を通して考え理解を深める ・乳幼児を取り巻く健康に関する現代的課題を踏まえ、健康で安全な生活をつくり出す力を養う具体的な保育を構想し実践する方法を学ぶ。																	
到達目標	1.領域「健康」の視点で子どもの姿や発達について理解し、ねらい及び内容との関係を説明できる。																	
	2.領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成・模擬保育等を通して保育を構想する力を身に付ける																	
	3.他者と積極的にかかわりながら実践や協議をし、発達に即した保育・保育者の役割について考えることができる																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1.領域「健康」のめざすもの																1	面接
	2.幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について																1	面接
	3.乳幼児の身体・運動機能の発達について																1	面接
	4.子どもの健康と遊び(1) 様々な遊びを通して																1,2	面接
	5.子どもの健康と遊び(2) ルールのある遊び																1,2	面接
	6.子どもの健康と遊び(3) 鬼ごっこ(指導案作成)																1,2	面接
	7.子どもの健康と遊び(4) 鬼ごっこ(実践)																1,2,3	面接
	8.園生活と生活習慣(1) 基本的な生活習慣																1,3	面接
	9.園生活と生活習慣(2) 食への関心(情報機器及び教材の活用)																1,3	面接
	10.園生活と生活習慣(3) 生活習慣と家庭との連携(情報機器及び教材の活用)																1,3	面接
	11.子どもの健康と安全教育 健康・安全への関心																1,2	面接
	12.健康で安全な生活をつくり出す保育の実践(1) 安全指導																1,2	面接
	13.健康で安全な生活をつくり出す保育の実践(2) 安全指導模擬保育																1,2,3	面接
	14.健康で安全な生活をつくり出す保育の実践(3) 模擬保育と振り返り																1,2,3	面接
	15.健康で安全な生活を保障するために 保育者の役割																1,3	面接
	定期試験																	
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育																	
成績評価基準	評価の方法:①定期試験(40%)、②レポート(50%)、③ 授業態度・授業への参加度(10%)より総合的に評価します。 評価の基準:①知識・理解:領域「健康」に関する基礎的事項と保育との関連性について深く理解できているか ②思考・判断:幼児理解・保育者の視点に基づいた思考・表現になっているか ③関心・意欲・態度:グループワーク・模擬保育等において主体的に行動し他者と協働できているか																	
フィードバックの方法	個別にコメントを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について示し理解を深められるようにする																	
時間外の学習について	予習:演習課題を検討し、関連情報や教材を準備する (各回20分程度) 復習:授業の振り返り・適宜レポートを課題とする (各回25分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:事例で学ぶ保育内容 領域 健康 倉持清美 編集代表 萌文書林 参考書:幼稚園教育要領、幼児連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 参考資料等:適宜資料を配布する																	
実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに健康で安全な生活を支える保育者の役割について話をします。																	
担当者からのメッセージ等	日頃から子どもの健康や安全な生活について関心を向け、新聞・ニュース等様々な媒体からの情報に対して敏感であってほしいと思います。保育者として「命」を預かる立場であることを常に意識して授業に臨みましょう。 担当教員の連絡先・E-mailアドレスは、授業内で周知します。																	

授業科目名	保育内容の指導法・人間関係	教員名	中原 久子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC2-2063-1100000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)															
教科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	領域「人間関係」の基本的な知識、人とかかわりの具体的保育の実践、保育者の役割															
授業概要	この講義で、領域「人間関係」の「他の人々と親しみ支えあって生活するために自立心を育て人と関わる力を養う」ことを目指し、幼稚園教育で育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させながら理解を深め、幼児の発達に即した主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえた、保育を構想し実践する方法を学ぶ。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。</li> <li>2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案作成・模擬保育・振り返り・保育の改善(PDCA)などを通して保育を構想する力を身につける。</li> <li>3. 幼児期の集団生活を通して、様々な人と関わる経験で培われる人間性と小学校教育との円滑な接続の重要性について学ぶ。</li> <li>4. 具体的な事例をロールプレイにより体験することで、様々な人の気持ちを理解し内面の育ちを重視し、領域「人間関係」の視点をより深める。</li> </ol>															
履修条件・注意事項	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
授業計画															目標	方法
	1. 幼稚園教育において育みたい資質・能力の3つの柱について														1	面接
	2. 幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿と領域「人間関係」の関連について														1,2	面接
	3. 幼稚園教育における評価の考え方について														1,2	面接
	4. 領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取り扱いとその構造について														1,2,3	面接
	5. 領域「人間関係」のねらいと内容(1)ー幼稚園生活を楽しみ主体的に行動することで育つ自立心について														1,2,3	面接
	6. 教師との信頼関係に支えられて自己発揮する姿を想定した保育指導案の作成について														1,2	面接
	7. 領域「人間関係」のねらいと内容(2)ー一人一人を生かした集団形成と人と関わる力の育成について														1,2,3,4	面接
	8. 領域「人間関係」のねらいと内容(3)ー協同性の育ちと人間関係について														1,2,3,4	面接
	9. 共通の目的が実現する喜びを味わう保育を計画し、模擬保育とその振り返り・改善について														1,2,3,4	面接
	10. 領域「人間関係」のねらいと内容(4)ー道徳性と規範意識の芽生えについて														1,2,3,4	面接
	11. 領域「人間関係」のねらいと内容(5)ー地域・社会・家庭の中で育つ人間関係について														1,2,3,4	面接
	12. ロールプレイで考える「人とかかわりが難しい子どもへの支援」と「トラブル」について														1,2,3,4	面接
	13. 領域「人間関係」の特性と幼児の体験との関連を踏まえた教材及び情報機器などの活用について														1,2,3	面接
	14. 領域「人間関係」における小学校「道徳」教育との接続について														1,2,3	面接
	15. 領域「人間関係」をめぐる現代的課題と保育構想の向上について														1,2,3	面接
アクティブ・ラーニング	テーマを決めてのディスカッションやグループワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	<p>評価の方法：①指導案作成・模擬保育(30%)、②試験(70%)より総合的に評価する。</p> <p>評価基準：①知識・理解・関心・意欲：ねらい・内容を理解し意欲的に取り組めたか ②知識・理解：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本と、領域「人間関係」のねらい・内容を深く理解しているか</p>															
フィードバックの方法	コメントをそえて返却する。															
時間外の学習について	<p>予習：テキストや参考文献を読み、次回の授業に備える(各回20分程度)</p> <p>復習：授業での学びを簡単にまとめる(各回25分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：岩立京子・西坂小百合(編著)『保育内容 人間関係』株式会社光生館</p> <p>参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、授業中に適宜資料を配布する。</p>															
実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに保育内容の指導法・人間関係について話をします。															
担当者からのメッセージ等	人が人として生きていく上で欠かすことのできない人とかかわりが乳幼児期からどう育っていくかを具体的に学ぶ中で、保育者・教育者としてどのように子どもや保護者とのコミュニケーションをとっていくか、演習を交えながら進めていきます。担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	保育内容の指導法・環境	教員名	渡邊 二美子 【単独】	免許・資格等との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UC3-2064-1100000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
教科目	必修科目(保育士)																	
系 列	保育の内容・方法に関する科目																	
授業テーマ	環境による教育、領域「環境」の保育の基本的知識・ねらい・内容・内容の取り扱い、保育者の適切な援助																	
授業概要	領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指し、幼稚園教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達に即して、主体的で対話的深い学びのための体験と実感を大切に、領域「環境」の具体的な保育を構想する力を学ぶ。																	
到達目標	1.幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容を説明できる。																	
	2.領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成や模擬保育とその振り返り、改善等を通して保育を構想できる。																	
	3.幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のために、領域「環境」において遊びを通した指導の中で、知識・技能・思考力・判断力などの資質や能力が、小学校において生活し学習していくための基盤をつくっていることを説明できる。																	
	4.子どものおかれた様々な地域の環境の特殊性、文化、伝統などを踏まえ、地域の行事、自然の特徴、公共施設などを深く学び、子どもたちの地域愛につながる保育に取り入れる観点について説明できる。																	
履修条件・注意事項	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
授業計画																	目標	方法
	1. 幼稚園教育の基本-資質・能力の3の柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について																1,2	面接
	2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と領域「環境」の関連について																1	面接
	3. 幼稚園教育における評価の考え方について																1	面接
	4. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造について																1,2	面接
	5. 領域「環境」のねらいと内容(1)-身近な環境に親しみ自然との関わりについて																1,2	面接
	6. 子どもの身近な環境や自然を想定した保育の指導案を作成することについて																1,2	面接
	7. 領域「環境」のねらいと内容(2)-身近な環境の中から子どもの「見つけた」の扱い方とそれを生活に取り入れようとするについて																1,2	面接
	8. 領域「環境」のねらいと内容(3)-身近な事象と思考力の芽生えについて																1,2,3	面接
	9. 領域「環境」のねらいと内容(4)-数量・図形・文字への関心と感覚について																1,2,3	面接
	10. 数量・図形の保育を計画し、模擬保育とその振り返り、保育を改善することについて																1,2,3	面接
	11. 領域「環境」のねらいと内容(5)-社会生活との関わりについて																1,2,4	面接
	12. 様々な地域の環境や行事、公共の場所などの関わりを深めることについて																1,4	面接
	13. 領域「環境」の特性を踏まえ、どのような教材・情報機器などをどのように活用するかについて																1,2	面接
	14. 領域「環境」での小学校教育への接続について																1,3	面接
15. 現代的課題や保育実践の動向について																2	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション																	
成績評価基準	評価の方法:①演習として指導案・模擬保育(30%)、②試験(70%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:意欲をもって取り組んでいるか。 ②知識・理解:幼稚園教育に関する基礎的事項を理解し、領域「環境」を深くとらえることができているか。																	
フィードバックの方法	授業の理解度や定着度がわかる質問について単元ごとに説明させ、理解度が低いところ、定着していない内容については再度解説する。																	
時間外の学習について	予習:テキストや参考文献を読み、ノートにまとめて予習ノートを作成しておく。 復習:授業内容を日々まとめてノートを作成する。(予習20分・復習25分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:柴崎正行・若月芳浩(編)『最新保育講座9 保育内容「環境」』ミネルヴァ書房 参考書:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、授業中に適宜資料を配布する。																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	子どもに様々な環境を用意できるのは保育者です。子どもにとって豊かな環境とはどんな環境かを一緒に考えましょう。 担当教員の連絡先・E-mail アドレスは、授業内で周知します。																	

授業科目名	保育内容の指導法・言葉	教員名	増原 恵子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UC2-2065-1100000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)																	
教科目	必修科目(保育士)																	
系列	保育の内容・方法に関する科目																	
授業テーマ	乳幼児の言葉の発達・発達に即した指導・保育者の役割																	
授業概要	・子どもの育ちと言葉の関係について様々な事例を通して考え、発達の道筋・保育者のかかわりについての理解を深める ・乳幼児を取り巻く言葉に関する現代的課題を踏まえ、幼児の主體的・対話的な学びにつながる保育を構想し実践する方法を学ぶ																	
到達目標	1.乳幼児の言葉の発達の道筋を理解し、領域「言葉」のねらい及び内容との関係を説明できる																	
	2.領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成・模擬保育等を通して保育を構想する力を身に付ける																	
	3.模擬保育の振り返り・グループワーク等を通して発達に即した保育・保育者の役割について考えることができる																	
	4.絵本・ことば遊び等様々な文化財について関心をもち、情報収集や実践に意欲的に取り組むことができる																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1.言葉のもつ意味について																1	面接
	2.乳幼児の言葉の育つ道筋と現代的課題																1	面接
	3.領域「言葉」と保育方法 ねらい・内容・指導上の留意点について																1	面接
	4.言葉の育ちを支える環境 感情体験・文化財																1,2	面接
	5.言葉の育ちを支える保育の実際(1) 自分の気持ちを言葉にする																1,2	面接
	6.言葉の育ちを支える保育の実際(2) 思いを伝えあう																1,2	面接
	7.言葉の育ちを支える保育の実際(3) ごっこ遊びと言葉																1,2	面接
	8.言葉の育ちを支える保育の実際(4) 文字に親しみ関心をもつ																1,2	面接
	9.教材研究と実践 「言葉や文字に親しむ保育」 模擬保育																2,3,4	面接
	10.教材研究と実践 「言葉や文字に親しむ保育」 模擬保育と振り返り																2,3,4	面接
	11.教材研究と実践 絵本から広がる遊び																2,3	面接
	12.教材研究と実践 絵本から広がる遊び(情報機器及び教材の活用) 模擬保育																2,3,4	面接
	13.教材研究と実践 絵本から広がる遊び(情報機器及び教材の活用) 模擬保育と振り返り																2,3,4	面接
	14.言葉をめぐる相談への対応について																1,3	面接
15.保育者自身の言葉について 定期試験																3	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・模擬保育																	
成績評価基準	評価の方法:①定期試験(40%)、②レポート(50%)、③授業態度・授業への参加度(10%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:領域「言葉」に関する基礎的事項と保育との関連性について深く理解できているか ②思考・判断:幼児理解に基づいた論理的思考・表現になっているか ③関心・意欲:グループワーク・模擬保育等に積極的に参加し、他者と協力して進めることができたか																	
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする																	
時間外の学習について	予習:演習課題を検討し、関連情報や教材を準備する (各回20分程度) 復習:授業の振り返り・適宜レポートを課題とする (各回25分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:事例で学ぶ保育内容 領域 言葉 宮里暁美 編集代表 萌文書林 参考書:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 参考資料等:適宜資料を配布する																	
実務経験について	幼稚園教諭としての実務経験をもとに幼児が、人とかわりながら言語表現を豊かにしていく姿、そしてその育ちを支える保育者の役割について話をします。																	
担当者からのメッセージ等	絵本や紙芝居の読み聞かせを随時実践してもらいます。多くの絵本に親しみ自らの感性や言葉を豊かにしていく時間を持ちましょう。 担当教員の連絡先・E-mail アドレスは、授業内で周知します。																	

授業科目名	保育内容の指導法・音楽表現	教員名	坂本 久美子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC2-2066-2100000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	音楽表現、子どもの発達、保育指導案、模擬保育															
授業概要	「幼稚園教育要領」等に示される、領域「表現」のねらいと内容および全体構造を理解すると共に、乳幼児期の発達及び表現の特徴を知る。世界の音楽メソッドや保育音楽教材の実践を通して、自身の音楽的感性を高めると共に、子どもの発達と身に付けていく音楽的内容の関連を考える。具体的な保育指導案を構想する力を身に付け、模擬保育実践とその振り返りを通して具体的な指導や援助の在り方を考え、保育を改善する力を養う。															
到達目標	1. 保育における、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。															
	2. 子どもが経験し身に付けていく音楽的内容と、指導上の留意点を理解する。															
	3. 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な音楽活動を想定した保育指導案を作成できる。															
	4. 指導案に基づいた模擬保育を実践し、評価を基に活動を振り返り、保育を改善する視点を身に付ける。															
	5. 情報機器や音楽教材の活用法を理解し、小学校音楽科へのつながりをもった保育の構想に活用することができる。															
履修条件・注意事項	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
授業計画						目標	方法									
	1. 領域「表現」のねらい及び内容について					1	面接									
	2. 子どもの発達と音楽表現					2	面接									
	3. 音楽メソッドの理論と演習①ダルクローズ					2	面接									
	4. 音楽メソッドの理論と演習②コダーイ					2	面接									
	5. 音楽メソッドの理論と演習③オルフ					2	面接									
	6. 歌う活動の展開方法と援助の留意点					2,3	面接									
	7. 動く活動の展開方法と援助の留意点(情報機器や教材の活用)					2,3,5	面接									
	8. 楽器を用いた活動の展開方法と援助の留意点					2,3	面接									
	9. 保育指導案の作成と小学校音楽科とのつながり					3,5	面接									
	10. グループディスカッションによる指導案の改善					2,3,4	面接									
	11. 模擬保育実践とディスカッション①対象児とねらい					2,3,4,5	面接									
	12. 模擬保育実践とディスカッション②教材と活動内容					2,3,4,5	面接									
	13. 模擬保育実践とディスカッション③活動の展開方法					2,3,4,5	面接									
	14. 模擬保育と実践ディスカッション④保育者の援助					2,3,4,5	面接									
15. 模擬保育のまとめ					1,4	面接										
アクティブ・ラーニング	模擬授業・グループワーク・ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①保育指導案(40%)②模擬保育実践(40%)③授業の取り組み(20%)を総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:題材やねらい、活動内容、援助方法等を子どもの発達と関連付け、保育指導案を作成できる。 ②表現・技能:こどもが主体的に活動できる模擬保育を実践する。 ③関心・意欲・態度:音楽表現に興味を持ち、他者と協働し積極的に授業に取り組む。															
フィードバックの方法	保育指導案及び模擬保育実践については、実践後に個人的に改善点をコメントする。															
時間外の学習について	予習:次回の授業のテーマについて、テキスト等で予め学習しておく。(各15分程度) 復習:毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。(各30分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:河北邦子・坂本久美子編著『幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123』(ミネルヴァ書房) 参考書:幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、今川恭子監修『音楽を学ぶということ』(教育芸術社) 参考資料等:開仁志編著『これで安心 保育指導案の書き方』(北大路書房)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	講義だけでなく、音楽活動や模擬保育等、実践を通して学ぶため、動きやすい服装で参加すること。 担当者の連絡先・E-mail:sakamoto@y-gakugei.ac.jp(坂本)															

授 業 科 目 名	保育内容の指導法・造形表現	教 員 名	小野 素子 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士	必修										
					幼 稚 園 教 諭	必修										
ナンバリングコード	UC2-2067-1100000	年次配当	2年後期	卒業要件	小 学 校 教 諭											
					中 学 校 教 諭 (英 語)											
授 業 形 態	演 習	授業科目の 取 扱 い	面接授業科目	卒業要件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)											
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	1				SPARC 教育プログラム											
教科及び教職に 関 する 科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)															
教 科 目	必修科目 (保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授 業 テ ー マ	模擬保育実践、幼児への関わり方、実践的な能力															
授 業 概 要	幼児の造形表現に関する指導案の作成、模擬保育実践、事後評価をセットで行い、保育実践の基礎的事項について学ぶ。															
到 達 目 標	1. 幼稚園教育要領の基本を理解する。															
	2. 幼児の発達段階に応じた造形表現に関わる保育指導について修得する。															
	3. 幼児造形で用いる主な材料・用具の特性と基本的な扱い方を修得する。															
	4. 保育指導案の書き方を理解し、造形表現の保育のポイントについて修得する。															
	5. 模擬保育の実践を通して環境構成のあり方や幼児への関わり方、及び評価について修得する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授 業 計 画						目標	方法									
	1. 授業説明、授業の目標、題材研究、指導案作成、模擬保育、評価のあり方、内容の関連や小学校教科との関連について					1,2	面接									
	2. ①幼児の造形遊び「新聞紙で遊ぼう」― 題材研究について					2,3	面接									
	3. 保育指導案の作成について					4	面接									
	4. 模擬保育の実践について (情報機器及び教材の活用)					3,5	面接									
	5. 模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて					2,4,5	面接									
	6. ②幼児の造形遊び「コロッコで遊ぼう」― 題材研究について					2,3	面接									
	7. 保育指導案の作成について					4	面接									
	8. 模擬保育の実践について (情報機器及び教材の活用)					3,5	面接									
	9. 模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて					2,3,4,5	面接									
	10. ③幼児の造形遊び「木片で遊ぼう」― 題材研究について					2,3	面接									
	11. 保育指導案の作成について					4	面接									
	12. 模擬保育の実践について (情報機器及び教材の活用)					3,5	面接									
	13. 模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて					2,4,5	面接									
	14. 造形表現の指導法 (造形表現Ⅰ) のまとめ ① 環境構成、指導案作成について					1,2,3,4,5	面接									
15. 造形表現の指導法 (造形表現Ⅰ) のまとめ ② 保育の展開と幼児への援助について					1,2,3,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①保育指導案作成と模擬保育の活動内容 (70%) ②授業態度 (30%) により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：保育実践の基礎的な事柄を理解し、その内容を踏まえた模擬保育を構想できている。 ②関心・意欲：グループワーク及び模擬授業に主体的・協動的に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	授業後の感想、気付きを記述し理解を深める。															
時間外の学習について	予習：テーマにそった実践したい題材研究 (各30分程度) 復習：模擬保育実習後の反省 (各30分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：自作資料 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、「新造形表現 (理論・実践編)、新造形表現 (実技編)」 花篤 實・岡田愨吾編著、「保育の中の造形活動」林 建造・岡田愨吾編著、「乳幼児の絵画指導」松岡義和著書															
実務経験について	幼稚園指導講師としての実務経験をもとに造形表現を通した指導法について話をします。															
担当者からのメッセージ等	保育内容の指導法 (造形表現) を学ぶことで保育実践の基礎を身に付けよう。 担当者の連絡先・E-mail：mokov3@ybb.ne.jp (小野)															

授業科目名	保育内容指導法	教員名	山本 幸子 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	UC4-2068-0200000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)															
授業テーマ	保育内容、幼稚園教育要領の基本と全体構造、幼稚園教育における評価、保育の構想、模擬保育															
授業概要	「幼稚園教育要領」に示された内容とその背景となる専門領域を関連させて理解を深め、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法とその振り返りを身に付ける。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教育要領に示された保育の基本を理解し、各領域のねらいや内容・全体構造を理解し、乳幼児が経験し身に付ける内容と指導上の留意点を理解している。</li> <li>幼稚園教育における評価と、領域ごとに幼児が経験して身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</li> <li>幼児の認識・思考、動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解し、教材や情報機器の活用をすることができる。</li> <li>保育指導案の構成を理解し、模擬保育とその振り返りを通して保育を改善していく視点を身に付ける。各領域の特性に応じた実践動向を知り、模擬保育とその振り返りを通じて保育を改善する視点が身に付き、保育構想の向上に取り組むことができる。</li> </ol>															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 幼稚園教育要領とは				1,2,3	面接										
	2. 領域とは				1,2,3	面接										
	3. 心身の健康に関する領域「健康」				1,2,3	面接										
	4. 人との関わりに関する領域「人間関係」				1,2,3	面接										
	5. 身近な環境との関わりに関する領域「環境」				1,2,3	面接										
	6. 言葉の獲得に関する領域「言葉」				1,2,3	面接										
	7. 感性と表現に関わる領域「表現」				1,2,3	面接										
	8. 子どもの姿ベースの保育構成と指導案				1,2,3,4	面接										
	9. 子どもの姿ベースの振り返りドキュメンテーションとは				1,2,3,4	面接										
	10. 保育指導案作成				1,2,3,4	面接										
	11. 模擬保育と振り返り①				1,2,3,4	面接										
	12. 模擬保育と振り返り②				1,2,3,4	面接										
	13. ドキュメンテーションによる振り返り				1,2,3,4	面接										
	14. 配慮を必要とする子どもと保育内容				1,2,3,4	面接										
15. 幼稚園教育要領の全体構造・小学校との連携				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・模擬保育															
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業への取り組み態度 (20%)、②提出物・発表 (40%)、③レポート (40%) により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①関心・意欲：保育職を目指す態度や意欲をもって授業に取り組めるか。</p> <p>②思考・判断・表現：授業内容を深め、幼稚園教諭を意識した自分として疑問を感じ表明できるか、また具体的な指導場面を意識した、指導案や模擬保育を作成、遂行できるか。</p> <p>③思考・判断：講義内容を理解し保育職としてふさわしい思考などを獲得し、表現することができるか。</p>															
フィードバックの方法	レポートにコメントをつける。ディスカッションやグループワーク、模擬保育と振り返りにコメントを行う。リアクションペーパーを授業の最後に作成してもらい、次の授業の際に皆で共有し、質問に回答する。															
時間外の学習について	予習：前の回に出された課題にそった事前準備をする。初回は『幼稚園教育要領ハンドブック』第1章 総則を読んでおく (90分) 復習：授業の復習と、授業で紹介された書籍を読む (90分)															
教材にかかわる情報	テキスト：適宜プリントを配布します 参考書：『幼稚園教育要領ハンドブック—イラストたっぷり やさしく読み解く』 (Gakken 保育 Books)															
実務経験について	小規模保育園で立ち上げから4年、園長として勤務しました。															
担当者からのメッセージ等	保育学は日本の学校教育のなかで最も進んだアクティブ・ラーニングの実践を持ち、古今東西の学問的知識の集積を根拠としているとても面白い分野です。一緒に学べることを楽しみにしています。 E-mail : yyamamoto@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	幼児教育概論	教員名	松村 納央子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC2-2069-2100000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	幼児教育の基礎、幼児教育の歴史、遊び、環境															
授業概要	幼児教育の基本的概念は何か、また、幼児教育の理念にはどのようなものがあり、幼児教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて19世紀ドイツの幼稚園創設者フレーベルに注目して学ぶとともに、これまでの幼児教育及び幼稚園の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。															
到達目標	1. 幼児教育の基本的概念: 幼児を対象とする教育に関わる諸概念並びに教育の本質、目標を理解する/ 幼児の育ちならびに幼児の生活の場である家庭・幼稚園の諸機能を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する 2. 幼児教育に関する歴史: 幼児を対象とした家庭・社会による教育の歴史を理解している/ 幼稚園の成立と展開を理解する/ 現代社会における幼児教育の課題を歴史的な視点から理解する 3. 幼児教育に関する思想: 家庭での教育、幼児を対象とする教育思想を理解する/ 学校制度の一端を担う幼稚園教育の思想を理解する/ フレーベル及びその周辺の主な幼児教育に関する提唱者の思想を理解する															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 幼児教育とはどのような教育かー幼児教育へのイメージを整理する					1	面接									
	2. 歴史に見る「こども」(1)ー日本における「こども」の捉え方の歴史					1,2	面接									
	3. 歴史に見る「こども」(2)ーヨーロッパ史においてはいつから教育の対象となったか					1,2	面接									
	4. ヨーロッパ幼児教育史の展開(1)ールソー『エミール』に描かれた乳幼児の教育					1,2,3	面接									
	5. ヨーロッパ幼児教育史の展開(2)ーペスタロッチ「居間の教育」					1,2,3	面接									
	6. ヨーロッパ幼児教育史の展開(3)ーフレーベルの登場ー幼年期・青年期の取り組み					1,2,3	面接									
	7. ヨーロッパ幼児教育史の展開(4)ー「幼稚園」設立の背景と実践					1,2,3	面接									
	8. ヨーロッパ幼児教育史の展開(5)ー『母の歌と愛撫の歌』から読み解く「教育する母親(女性)」像と幼稚園教師の資質					1,2,3	面接									
	9. フレーベルの遊戯教育学ー幼児にとって「遊び」とは					1,2,3	面接									
	10. フレーベルの教育遊具(1)ー球、立方体、円柱					1,2,3	面接									
	11. フレーベルの教育遊具(2)ー積み木を手にすることでどんな遊びが生まれるか					1,2,3	面接									
	12. フレーベルの教育遊具(3)ー平面(色板)にヒントを得た遊び					1,2,3	面接									
	13. フレーベルの教育遊具(4)ー線や点を用いた遊び					1,2,3	面接									
	14. フレーベルの教育遊具(5)ー遊び(幼児教育)から学び(初等教育)へ仲介する教育遊具					1,2,3	面接									
15. 現代に連なる幼児教育の諸課題					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法: ①毎回授業終了時の小レポート(30%)、②学修ポートフォリオ(70%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①関心・意欲: 小レポートの記述内容が適切である。 ②(1)知識・理解: 毎回の学びを記録し、資料に基づいた回答ができる。幼児教育に関しての新たな発見や確認した事柄を表明できる。(2)思考・判断: 「自分が幼児を前にしたら」という意識を持って振り返りができる。															
フィードバックの方法	毎回授業終了時にコメントシートに記入、次回の授業にて担当者がコメントを返す。															
時間外の学習について	予習: 前時に提示したキーワードや重要用語を事典類で調べ、ノートに記す。 復習: 発展的な専門用語や課題について、自主的な調査をしノートに記す。(予習・復習とも90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: M. ロックシュタイン(小笠原道雄監訳/木内陽一・松村納央子訳)『遊びが子どもを育てるーフレーベルの〈幼稚園〉と〈教育遊具〉』福村出版、2014年 参考書: 文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』その他、授業中に適宜資料を配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	出席回数、受講態度を重視する。また、ノート(記録)を重要な評価対象とする。毎回A4ノートを持参しメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。 担当者の連絡先・E-mail: matsumura@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	保育者論	教員名	山本 幸子 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UCI-2070-1100000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭 (英語)													
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC 教育プログラム													
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目 (幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	教職である保育職の意義及びその役割・職務内容。チームによる幼児教育 (学校) 運営への対応を含む。																	
教 科 目	必修科目 (保育士)																	
系 列	保育の本質・目的に関する科目																	
授 業 テ ー マ	保育者の意義、役割、質能力、職務内容																	
授 業 概 要	保育者の意義、保育者の役割・資質能力・職務内容について身に付け、保育職への意欲を高め、適正を判断し、進路選択に資する保育職のあり方を理解する。																	
到 達 目 標	1. 幼児教育と保育者 (教員) の社会的意義：公教育の目的を踏まえ、その担い手である保育者の存在意義を理解する／受講生の進路選択に向け、他の職業と比較しつつ保育職の職業的特徴を理解する																	
	2. 保育者 (教員) の役割・資質能力：保育職の変遷を踏まえ、現在求められている保育者の役割を理解する／その役割を担うための基礎的な資質能力について理解する																	
	3. 保育者 (教員) の職務内容の全体像並びに課せられる服務上・身分上の義務：幼児理解に基づく教育活動に関わる職務の全体像を理解する／研修の意義および制度上の位置づけを理解する／保育職に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する																	
	4. 園内外の専門家との連携・分担：保育職の担う役割の拡大や多様化に対応するために、チームとして組織的に諸課題に対応する重要性を理解する																	
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	・	⑤	○	⑥	○	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授 業 計 画																	目標	方法
	1. 保育者の原理・原則																1,2	面接
	2. 保育者の本質と特徴																1,2,3	面接
	3. 幼稚園教諭の仕事とその一日																1,2	面接
	4. 保育士の仕事とその一日																1,2,3	面接
	5. 幼稚園教諭免許・保育士免許その他の資格と採用試験																1,3	面接
	6. 保育の変遷と歴史的背景①																2,4	面接
	7. 保育の変遷と歴史的背景②																2,4	面接
	8. 保育の変遷と歴史的背景③																2,4	面接
	9. 子どもの主体的活動																1,2	面接
	10. 子どもの主体的活動と保育者との共主体																1,2	面接
	11. 地域連携																1,2,4	面接
	12. 多様な子どもの理解と支援																1,2,4	面接
	13. 保護者支援																1,2,4	面接
	14. 成長する保育者と同僚性																3,4	面接
15. 保育者の専門性																1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み態度 (30%)、②提出物・発表 (30%)、③レポート (40%) により総合的に評価する。 評価の基準：①意欲・態度：保育職を目指すことにふさわしい態度や意欲を理解して授業に取り組めるか。 ②思考・判断・表現：授業内容を深め、保育職を意識した自分として疑問を感じ表明できるか ③思考・表現：講義内容を理解し、保育職を意識した思考などを表現することができるか																	
フィードバックの方法	レポートにコメントをつける。リアクションペーパーを授業の最後に作成してもらい、次の授業の際に皆で共有し質問に回答する。																	
時間外の 学習について	予習：事前に配布するプリントを読み、用語や法令などについては各自調べておく。初回は『保育指針ハンドブック』第1章総則を読んでおく (90分) 復習：授業の復習と、授業で紹介された書籍を読む (90分)																	
教材にかかわる 情 報	テキスト：適宜プリントを配布します。 参 考 書：『保育所保育指針ハンドブック—イラストたっぷり やさしく読み解く』(Gakken 保育 Books)・『幼稚園教育要領ハンドブック—イラストたっぷり やさしく読み解く』(Gakken 保育 Books)																	
実務経験について	小規模保育園で立ち上げから4年、園長として勤務しました。																	
担当者からのメッセージ等	保育学は日本の学校教育のなかで最も進んだアクティブ・ラーニングの実践を持ち、古今東西の学問的知識の集積を根拠としているとても面白い分野です。一緒に学べることを楽しみにしています。 E-mail : yyamamoto@y-gakugei.ac.jp																	

授業科目名	保育の心理学	教員名	大田 紀子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC2-2071-1100000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育の基礎的理解に関する科目(幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程															
教科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の対象の理解に関する科目															
授業テーマ	保育実践に関わる心理学的知識、子どもの発達理解、乳幼児期の学びの過程、															
授業概要	保育実践の基盤は子ども理解にあることを踏まえ、子どもの発達に関わる心理学の基礎を学ぶ。また、各発達段階における心理発達の特性を踏まえた主体的な学びを支える援助や指導について学ぶ。															
到達目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解する。															
	2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。															
	3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。															
	4. 発達を踏まえた主体的な学びを支える指導について基礎的な考え方を理解する															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 子どもの発達の理解とその意義					1	面接									
	2. 子どもの発達と環境					1	面接									
	3. 発達観、子ども観と保育観					1,2	面接									
	4. 保育実践の評価					1	面接									
	5. 【小テスト】 社会情動的発達①自己と感情					2	面接									
	6. 社会情動的発達②他者理解					2	面接									
	7. 社会情動的発達③他者とのかわり					2	面接									
	8. 身体機能と運動機能の発達					1	面接									
	9. 【小テスト】 認知の発達①認識の基礎					2	面接									
	10. 認知の発達②数と形					2	面接									
	11. 認知の発達③言葉と文字					2	面接									
	12. 乳幼児の学びにかかわる理論					3	面接									
	13. 乳幼児の学びの過程と特性①認知的学び					3,4	面接									
	14. 乳幼児期の学びの過程と特性②社会情動的学び					3,4	面接									
15. 【小テスト】 まとめ・乳幼児期の学びを支える保育					3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法：①小テスト3回(90%)、②授業への取り組み(10%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②思考・判断、関心・意欲：ディスカッション等において、積極的に発問や発言がきている。															
フィードバックの方法	授業終了時にコメントシートに記入してもらい、次回授業時に応答を行なう。															
時間外の 学習について	予習：テキストの該当ページを一読し、わからない用語や疑問点をあげておく。(90分程度) 復習：ノートを作成し、授業内容を整理する。小テストでは自筆のノートのみ持ち込み可とする。(90分程度) 日頃から保育に関する時事的話題に興味を持ち、テレビやネット、新聞等で情報収集すること。															
教材にかかわる 情報	テキスト：「新基本保育シリーズ⑧ 保育の心理学」中央法規 参考資料：必要に応じて適宜資料を配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail: ota@gakugei.ac.jp (大田)															

授業科目名	保育方法論	教員名	中原 久子 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC3-2072-2100000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC 教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (幼稚園)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)															
教科目	選択必修科目 (保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	乳幼児期、保育内容、保育形態、保育方法															
授業概要	この講義で幼稚園教諭としての基本的な資質を養うとともに、幼児の幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5つの領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を学ぶ。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を説明できる。</li> <li>2. 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を学び、小学校の教科等とのつながりを説明できる。</li> <li>3. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案を作成できる。</li> <li>4. 各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことができる。</li> </ol>															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 幼稚園教育の目的と目標及び今日の幼児教育の在り方について				1	面接										
	2. 幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について				1,2	面接										
	3. 幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取り扱いについて				1,2	面接										
	4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について				1,2,3	面接										
	5. 幼稚園教育要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について				1,2,3,4	面接										
	6. 幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて				1,2,3,4	面接										
	7. 幼稚園教育における評価のとらえ方について				1,2,3	面接										
	8. 保育の計画と実践 (1) - 日案作成と保育実践の評価・反省: 3歳児について				1,2,3,4	面接										
	9. 保育の計画と実践 (2) - 日案作成と保育実践の計画・反省: 4歳児について				1,2,3,4	面接										
	10. 保育の計画と実践 (3) - 日案作成と保育実践の計画・反省: 5歳児について				1,2,3,4	面接										
	11. こどもの「なぜ」「どうやって」が入ってくるような深い学びの活動や遊びの展開についての指導案の立案・模擬保育について				1,2,3,4	面接										
	12. 模擬保育とその振り返り・保育の改善について				1,2,3	面接										
	13. 幼稚園教育における教材の捉え方・情報機器活用について				1,2,3,4	面接										
	14. 幼児が5領域で経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教育との接続について				1,2,3,4	面接										
15. 教師の役割とその専門性について・確認テスト				1,2	面接											
アクティブ・ラーニング	テーマを決めてディスカッション・グループワーク、模擬保育															
成績評価基準	評価方法: ①毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成 (30%)、② 確認テスト (70%) により総合的に評価する。 評価基準: ①関心・意欲: 教職に対する受講生の適性や意欲を表明できるか ②知識・理解: 幼稚園教育に関する基礎的・基本的事項を理解し、保育を構想する方法を修得しているか															
フィードバックの方法	コメントをつけて返却する。															
時間外の学習について	予習: 次の授業で扱う内容を事前に読んでおくこと。製作課題がある場合は事前に下準備をすること。(各回90分程度) 復習: 授業で扱った内容をもう一度見返しておくこと。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 大豆生田啓友・渡邊英則 編著 「保育方法・指導法」 ミネルヴァ書房 参考書: 文部科学省『幼稚園教育要領』/厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。															
実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとにこれからの保育を創造するための保育の方法について話をします。															
担当者からのメッセージ等	幼稚園教諭・保育士が熟知しなければならない保育方法の基本を学ぶとともに、実践事例に接する。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	子どもの理解と援助	教員名	大田 紀子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭	必修												
ナンバリングコード	UC2-2073-1100000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(幼稚園)																	
各科目に含める ことが必要な事項	幼児理解の理論及び方法																	
教科目	必修科目(保育士)																	
系 列	保育の対象の理解に関する科目																	
授業テーマ	子どもの発達、子ども理解、保育実践、子どもの経験や学習の過程、保育における発達援助																	
授業概要	保育実践の基盤は保育者の子ども理解にあると言われるように、保育者がその子どもをどう理解するのかによって保育のありようは大きく異なると考えられる。保育者の子ども理解は保育実践の出発点であると捉え、子ども理解にはじまる保育者の援助とその方法について考えていく。また、保育の心理学で学んだことをもとに、子どもの心身の発達と保育実践についての理解を深める。さらに、観察や保育記録などを通して子どもの心身の状態や行動を把握する技術を高め、子ども理解に基づく適切な発達援助を行う実践力の習得を目指す。																	
到達目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを理解するための知識や理論を身につけ、子ども理解に基づく保育実践の考え方及び基礎的態度を理解する。																	
	2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。																	
	3. 観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等、子どもを理解するための方法を具体的に理解する。																	
	4. 保育における子ども理解に基づく発達援助について理解する。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項	保育の心理学を履修済みであることが望ましい。																	
授業計画																	目標	方法
	1. 保育の方法を支える専門性—養護と教育の一体的展開																1	面接
	2. 子ども理解と保育者の援助																1,4	面接
	3. 子どもの行動の理解と観察法																1,3	面接
	4. 幼児観察演習①:3歳児																1,2,3	面接
	5. 幼児観察演習②:4歳児																1,2,3	面接
	6. 幼児観察演習③:5歳児																1,2,3	面接
	7. 子どもの遊びと発達																2	面接
	8. 子どもの生活と学び 小テスト																2	面接
	9. 保育における子どもの理解と関わり①:個の理解																1,2,4	面接
	10. 保育における子どもの理解と関わり②:集団の理解																1,2,4	面接
	11. 様々な記録から読み取る子どもの発達—エピソード記録																3,4	面接
	12. 子どもの発達とアセスメント—特別な配慮を要する子どもの関わりと援助																4	面接
	13. 保育者の省察とカンファレンス①:省察と保育カンファレンス																2,3,4	面接
	14. 保育者の省察とカンファレンス②:個人と共同の省察																2,3,4	面接
15. 保育者の省察とカンファレンス③:保育者の援助と保護者対応 まとめと確認テスト																2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ																	
成績評価基準	評価の方法:①等授業への取り組み(20%)、②小テスト・確認テスト(50%)、課題・レポート(30%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲・態度:ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができています。 ②知識・理解:授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ③知識・理解、思考・判断:身につけた知識や理論を反映させて自分なりの意見を述べるができる。																	
フィードバックの方法	課題やレポートに対してコメントを出す。																	
時間外の学習について	予習:保育に関する時事的な新聞記事等に目を通す。(各回15分程度) 復習:授業内で完成できなかった課題に取り組む。配布資料をファイリングするとともにノートを作成し、授業内容の整理、復習を行う。 小テスト・確認テストは自筆で書き込みを行った資料と自筆ノートは持ち込み可とする。(各回30分程度) 日頃から保育に関する時事的話題に興味を持ち、テレビやネット、新聞等で情報収集すること。																	
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。適宜資料を配布する。 参考書:「子どもと保育の心理学—発達臨床と保育実践」寺見陽子編著 2004年教育情報出版 「保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解」井戸ゆかり編著 2019年 萌文書林 「3年間の保育記録(DVD)」神長美津子・小田豊監修 2005年 岩波映像株式会社 参考資料等:平成29年告示 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、授業中に適宜資料を配布する。																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail:ota@gakugei.ac.jp(大田)																	

授業科目名	保育原理	教員名	渡邊 二美子 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC1-2074-1000000	年次配当	1年後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	保育の原理(保育の基礎基本)、保育に関する法令や制度の理解、保育の目標・内容・方法、保育の歴史、保育の課題															
授業概要	保育に関する法令や制度を理解する。保育に関する基礎的知識(保育の原理・意義・子ども理解・保育の計画及び内容の理解)を保育所保育指針(幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領)を通して理解するとともに保育の歴史・保育の課題について理解する。															
到達目標	1. 保育の原理・意義について理解する。															
	2. 保育における子ども理解を深める。															
	3. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領における保育の基本、内容、計画について理解する。															
	4. 保育の歴史について知る。															
	5. 保育の現状と今後の課題について考察する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 保育の原理・意義→子ども子育てをめぐる状況と保育の基本・方向性・保育に関する諸法令					1	面接									
	2. 保育の原理・意義→子どももの最善の利益を考慮した保育・保護者との協働					1,3	面接									
	3. 保育所保育指針等(幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領)と保育の基本→養護と教育の一体性・家庭及び地域社会との連携・子育て支援)					1,2,3	面接									
	4. 保育所保育指針等と保育の基本→保育の目標・保育の方法・保育の環境					1,2,3	面接									
	5. 保育所保育指針等と保育の基本→子ども理解(発達の捉え方・子ども観・発達観)					2,3	面接									
	6. 保育所保育指針等と保育の基本→保育で育みたい資質・能力・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					1,2,3	面接									
	7. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法→乳児保育・1歳以上3歳未満児・3歳以上児保育に関わるねらい及び内容(5領域)					2,3	面接									
	8. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法→乳児保育・1歳以上3歳未満児・3歳以上児保育に関わる保育実施上の配慮・留意事項					2,3	面接									
	9. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法→保育所の一日の流れ・保育形態						面接									
	10. 保育所保育におけるさまざまな配慮→健康及び安全・食育・危機管理・災害対策・多様な子どもの保育への対応・園生活における行事について理解する。					1,2,3	面接									
	11. 保育所保育指針等と保育の目標・内容・方法→保育の計画の異議・保育の計画の種類					1,2,3	面接									
	12. 保育指導案について→乳幼児期の生活や遊び(活動)(素材・教材・個と集団)を中心に保育指導案の立案・実践・記録・評価について理解					1,2,3	面接									
	13. 保育の歴史→日本及び海外の保育の先駆者と保育思想					4	面接									
	14. 保育者の専門性→保育者の専門性・資質向上					1,3	面接									
15. 保育の現状と今後の課題・多様な保育ニーズへの対応					1,2,3,5	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法:①提出物・定期試験(80%)、②授業への取り組み姿勢(20%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解・思考・判断・態度:保育の原理・意義・保育の歴史・保育所保育指針についての理解・知識・関心を深めている。授業で扱われた内容に関する問題に解答できる。 ②関心・意欲・態度:ディスカッション等において積極的に発言できている。															
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。															
時間外の学習について	予習:関連する資料・書籍を読む。 復習:「保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」を読む、倉橋惣三著「育ての心」を読む。(予習・復習とも各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:新・基本保育シリーズⅠ 保育原理 中央法規出版 参考資料等: DVD 保育実践事例等適宜紹介															
実務経験について	保育士として保育所に長年勤務。それを基に話をします。															
担当者からのメッセージ等	担当教員の連絡先・E-mail アドレスは、授業内で周知します。															

授業科目名	子ども家庭福祉	教員名	松村 納央子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2075-1000000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	現代社会における子ども家庭福祉の重要性															
授業概要	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ(子育て支援、ひとり親家庭、児童虐待やDVの実態を含む)について理解するとともに、子ども家庭福祉制度の歴史や児童の権利について理解を深める。また、援助活動に必要な子ども家庭福祉制度や、子ども家庭福祉に関連する法律についても理解の上、どのような援助が可能か考察する。															
到達目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 現代社会における子ども家庭福祉への注目ー「少子化」と「子どもの権利」					1,2	面接									
	2. 現代社会における子ども家庭福祉の歴史の変遷					1,2	面接									
	3. 子どもの人権擁護に関わる歴史の変遷					1,2	面接									
	4. 子どもの人権擁護に関わる課題についての諸外国の動向					1,2,3	面接									
	5. 子ども家庭福祉の制度と実施体系					3	面接									
	6. 子ども家庭福祉における援助の基本					3,4,5	面接									
	7. 社会的養護と子ども家庭福祉					3,4,5	面接									
	8. 虐待を受けている子どもと子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	9. 障がいのある子どもと子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	10. 心理的支援の必要な子どもと子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	11. 非行少年と子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	12. 母子保健と子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	13. 子どもの健全育成と子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	14. ひとり親・子どもの貧困と子ども家庭福祉					2,3,4,5	面接									
	15. 子ども家庭福祉サービスの動向と展望					3,5	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	各授業終了時にミニレポートを課す。ロールプレイを行う。															
成績評価基準	評価の方法：①ミニレポート(30%)、②定期試験(70%) 評価の基準：①関心・意欲：ミニレポートの内容が子どもの権利擁護の観点から記されている。 ②知識・理解、思考・判断：授業で扱った知識に関する問いに回答できる。子どもをケアする観点をもって、受講生なりにどのように子ども家庭福祉に関わればよいかを論じることができる。															
フィードバックの方法	ミニレポートから受講生の理解度を解説する。															
時間外の学習について	予習：テキストを一読し、わからない語句を事前に調べる。(各回90分程度) 復習：授業中にテーマとなった語句を、子ども家庭福祉の諸場面を想定して説明する。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：山縣文治『子ども家庭福祉 第2版(シリーズ・福祉を知る 3)』ミネルヴァ書房 参考書：授業中に適宜紹介する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：matsumura@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	社会福祉	教員名	佐藤 真澄 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UCI-2076-1000000	年次配当	1年後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	社会福祉、社会保障、子ども家庭支援、相談援助															
授業概要	社会福祉の理念、社会保障の仕組み、社会福祉における子ども家庭支援の考え方や方法、そのために必要な相談援助の技術について学ぶ。授業は講義が中心となるが、相談援助を扱う回などでは、授業の一部にロールプレイやグループワークなどの演習を取り入れる。															
到達目標	1. 社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の理念、意義、制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉の専門職として求められる相談援助、コミュニケーションの技法を修得する。 4. 社会福祉における利用者(子ども)の人権とその保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解し、地域社会の一員としての役割を自覚できる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	・	⑥	○	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 社会福祉の理念と概念、歴史の変遷					1,2	面接									
	2. 子ども家庭支援と社会福祉					1,4	面接									
	3. 社会福祉の制度と法体系					2	面接									
	4. 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等					2	面接									
	5. 社会福祉の専門職					2	面接									
	6. 社会保障および関連制度の概要					2	面接									
	7. 【小テスト】/相談援助の理論					3	面接									
	8. 相談援助の意義と機能					3	面接									
	9. 相談援助の対象と過程					3	面接									
	10. 相談援助の方法と技術					3	面接									
	11. 【小テスト】/社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み					4	面接									
	12. 少子高齢化社会における子育て支援					1,2,5	面接									
	13. 共生社会の実現と障害者施策					2,5	面接									
	14. 在宅福祉・地域福祉の推進					2,5	面接									
15. 【小テスト】/グループワーク：少子高齢化社会における子育て支援の方策					1,2,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①小テスト3回(80%)、②演習の課題(10%)、③授業への参加度(10%)で総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：教科書および配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。 ②知識・理解、思考・判断：演習課題の記述内容が適切である。 ③関心・意欲、態度：ディスカッションやグループワーク等で積極的に発言できている。															
フィードバックの方法	講義の回では、授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。 演習の回では、演習課題を提出してもらい、次回の授業時にコメントする。															
時間外の学習について	予習：テキストの該当ページを一読し、わからない用語等をピックアップしておく。(各回90分程度) 復習：ノートを作成し、授業内容を整理しておく。テキストの該当ページを読み、重要事項をノートにまとめる。 作成したノートは小テストの際に持ち込み可。(各回90分程度) 日頃から社会福祉の制度や社会問題に関するニュース(テレビ・新聞等)に関心をもち、情報収集をしておく。															
教材にかかわる情報	テキスト：『新・基本保育シリーズ第4巻 社会福祉第2版』中央法規出版 参考資料：必要に応じて都度配布する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	保育士資格に関連した科目であるが、乳幼児期に限定することなく現代社会の福祉課題について扱う。また保護者支援などの相談援助の基本を扱う。保育士以外の進路を目指す者の履修も歓迎する。E-mail：satoh@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	子ども家庭支援論	教員名	松村 納央子 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-2077-1000000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	現代の家族の特質、子育て家庭の抱える困難さ、子育て支援															
授業概要	家庭・家族の諸機能の変化について考察する。そして、子どもにとって最初の環境である家庭・家族支援の実際について、保育所等における支援ならびに地域における支援を取り上げる。最後に、子育て支援を中心としたネットワークの構築の可能性について論じる。これをとおして、今日求められている保育所・幼稚園・認定こども園等における子育て支援の機能と保育者の役割についての認識を深めることを目指す。															
到達目標	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。															
	2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。															
	3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。															
	4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 子ども家庭支援の意義と必要性					1,2,3,4	面接									
	2. 保育士による専門性を活かした家庭支援の基本					1,2,3,4	面接									
	3. 子どもの育ちを共有することの重要性					1,2,3,4	面接									
	4. 保護者の子育て実践力の向上に資するための支援とは					1,2,3,4	面接									
	5. 保育者に求められる基本的態度					1,2,3,4	面接									
	6. 家庭の状況に応じた支援					1,2,3,4	面接									
	7. 子育て家庭の福祉を図るための社会支援					1,2,3,4	面接									
	8. 地域の資源や自治体・関係機関との連携と協力					1,2,3,4	面接									
	9. 子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進					1,2,3,4	面接									
	10. 多様な支援の展開に向けて ①子ども家庭支援の内容と対象					1,2,3,4	面接									
	11. 多様な支援の展開に向けて ②保育所等を利用する子どもの家庭への支援					1,2,3,4	面接									
	12. 多様な支援の展開に向けて ③地域の子育て家庭への支援					1,2,3,4	面接									
	13. 多様な支援の展開に向けて ④要保護児童等及びその家庭に対する支援					1,2,3,4	面接									
	14. 子ども家庭支援に関する現状					1,2,3,4	面接									
	15. 子ども家庭支援に関する今後の課題					1,2,3,4	面接									
定期試験					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	各授業終了時にミニレポートを課す。授業中、ロールプレイを行う。															
成績評価基準	評価の方法：①ミニレポート(30%)、②定期試験(70%) 評価の基準：①関心・意欲：ミニレポートの記述内容が適切である。 ②知識・理解・思考・判断：授業で扱った知識に関する問いに回答できる。子どもをケアする観点をもって、受講生なりに子ども家庭支援に向けて求められている資質や能力を論じることができる。															
フィードバックの方法	ミニレポートから受講生の理解度を解説する。															
時間外の学習について	予習：配布資料を一読し、わからない語句を事前に調べる。(各回90分程度) 復習：授業中にテーマとなった語句を、子ども家庭支援の諸場面を想定して説明する。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：山縣文治・福田公教・石田慎二(監修)『ワイド版社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 参考資料等：授業中適宜紹介する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：matsumura@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	社会的養護 I	教員名	川村 宏司 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UC2-2078-100000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭 (英語)													
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC 教育プログラム													
教科目	必修科目 (保育士)																	
系 列	保育の本質・目的に関する科目																	
授業テーマ	社会的養護の理念と概念、子どもの人権擁護、保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度・法体系・仕組み・支援のあり方、被措置児童等の虐待防止の現状と課題																	
授業概要	子どもを取り巻く社会的状況を理解し、子どもの育ちと家庭を支援する専門職として、子どもの権利を保障する支援のあり方を理解する。社会的養護の理念、制度、方法 (実践) など基本的な内容について理解する。また、現在の社会的養護の課題と今後のあり方について考察する。																	
到達目標	1. 現代社会における社会的養護の必要性和家庭養育推進について理解する。																	
	2. 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。																	
	3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。																	
	4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。																	
	5. 社会的養護の現状と課題について理解する。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 現代社会と社会的養護のあり方について理解し、社会的養護の果たす役割について理解する。																1,2,3	面接
	2. 日本・欧米における社会的養護の歴史の変遷と子ども観の変遷を学ぶ。																1,2	面接
	3. こどもの権利と社会的養護についての基本原則を学ぶ。																2,3,5	面接
	4. 社会的養護体制の現状と新しい養育ビジョンについて学ぶ。																2,3,5	面接
	5. 社会的養護の基本的な考え方について。																2,3,4	面接
	6. 保育士としての資質と倫理について学ぶ。																2	面接
	7. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組について理解し、発生要因と課題について考える。																2,3,4,5	面接
	8. 社会的養護の仕組みと実施体制について学ぶ。																2,3	面接
	9. 社会的養護の対象と支援について学ぶ。																2,4,5	面接
	10. 施設養護・家庭養護、家庭的養護について学ぶ。																2,3	面接
	11. ソーシャルワークの基本を理解し、施設養護でのソーシャルワークの展開について理解する。																2,4	面接
	12. 社会的養護に関わる専門職とその業務内容、求められている専門性について学ぶ。																2,4	面接
	13. 施設の運営管理・費用の仕組み等について学ぶ。																2,3,4	面接
	14. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組について理解し、発生要因と課題について考える。																2,3,4,5	面接
15. 社会的養護と地域福祉について学ぶ。																2,3	面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ																	
成績評価基準	評価の方法：①授業態度 (40%)、②レポート (30%)、③課題 (30%) を総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲、態度：積極的に発言する。グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ②③知識・理解、思考・判断：テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。社会的養護の理念・概要・制度について理解している。子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べるができる。																	
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。																	
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて予め学習しておく。(各回90分程度) 復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。(各回90分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト：「図解で学ぶ保育 社会的養護 I」原田旬哉 (著)、杉山宗尚 (著) 参考書：特になし 参考資料等：適宜配布																	
実務経験について	児童養護施設実務経験：社会的養護の理念、制度、実践内容について、子どもや家庭への支援を通してお話しします。																	
担当者からのメッセージ等	社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。 担当者の連絡先・E-mail：likehome-k@ha-ru-ka.jp																	

授 業 科 目 名	子ども家庭支援の心理学	教 員 名	上村 有平 【単独】	免許・資格等 との 関係	保 育 士	必修												
					幼 稚 園 教 諭													
ナンバリングコード	UC3-2079-1000000	年次配当	3年後期		小 学 校 教 諭													
					中 学 校 教 諭 (英 語)													
授 業 形 態	講 義	授 業 科 目 の 取 扱 い	面 接 授 業 科 目	卒 業 要 件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)													
					特 別 支 援 学 校 教 諭													
単 位 数	2				SPARC 教育プログラム													
教 科 目	必修科目 (保育士)																	
系 列	保育の対象の理解に関する科目																	
授 業 テ ー マ	生涯発達、子育て家庭、子どもの精神保健																	
授 業 概 要	生涯発達のプロセスおよび生涯発達における初期経験の重要性を理解する。また、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題をふまえながら、家族や家庭の意義や機能について理解を深める。子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。																	
到 達 目 標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について説明できる。 2. 子どもとその家庭を包括的に捉えるために、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について、発達的な観点から分析できる。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について説明できる。 4. 子どもの精神保健とその課題について説明できる。																	
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授 業 計 画																	目標	方法
	1. 生涯発達とは何か																1	面接
	2. 乳児期の発達																1,2	面接
	3. 親子関係・家族関係の理解																2	面接
	4. 家族・家庭の意義と機能																2	面接
	5. 幼児期から学童期前期の発達																1	面接
	6. 学童期後期から青年期の発達																1	面接
	7. エリクソンの生涯発達理論																1	面接
	8. 子どもの心の健康に関わる問題																4	面接
	9. ライフコースと仕事・子育て、子育てを取り巻く社会的状況																3	面接
	10. 成人期・老年期における発達																1	面接
	11. 子育ての経験と親としての育ち、特別な配慮を要する家庭																3,4	面接
	12. 子どもに対する共感的理解																1,4	面接
	13. 多様な家庭とその理解																3	面接
	14. 子どもの生活・生育環境とその影響																4	面接
15. まとめ																1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション																	
成績評価基準	評価の方法：①小テスト (40%)、②課題・レポート (40%)、③授業への取り組み (20%) により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②思考・判断、関心・意欲、態度：授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ③関心・意欲、態度：真摯な態度で学習に取り組み、ディスカッション等に積極的に参加して自分の意見を表明することができる。																	
フィードバックの方法	レポート課題は優れている事例を挙げて、その理由を説明する。																	
時間外の学習について	予習：次回の授業テーマについて情報を収集する。(各回 90 分程度) 復習：授業プリントを整理し、授業を振り返る。疑問点があれば調べる。(各回 90 分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。プリントを配布 参 考 書：「子ども家庭支援の心理学 演習ブック」 松本峰雄 (監修) ミネルヴァ書房 「ひと目でわかる 保育者・ソーシャルワーカーのための子ども家庭福祉データブック 2026」 中央法規出版 参考資料等：適宜配布																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。 E-mail: yuemura@yamaguchi-jca.ac.jp																	

授業科目名	子どもの保健	教員名	浜本 史明(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2080-1000000	年次配当	2年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)					初等幼児教育専攻	選択									
系列	保育の対象の理解に関する科目															
授業テーマ	幼児保健の理解、幼児の疾病・事故等予防及び管理															
授業概要	小児保育の実践において、小児保健の基礎と身体発育と生理機能を理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。幼児期から学童期における変化の多い身体・精神を理解させ、健康と病気の違いを認識させる。 小児期における感染症の知識と病気に関しては、集団生活に関する最も重要な問題であり、実際の症例等、スライド・ビデオを利用し病気の実感を覚えることにより、より正確な知識や対処を医学的な見地から学ばせる。															
到達目標	1.小児保健の基礎、身体発育と生理機能の理解(各年代における違い)。 2.小児期の感染症の理解と予防。 3.小児期の病気の理解と知識。 4.小児期の事故と予防 以上の基本的な知識を教え実践できるよう指導する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 子ども保健序論						面接									
	2. 発育						面接									
	3. 子どもの栄養と食生活						面接									
	4. 子どもの心理、知能、情緒、社会性の発達とその保健						面接									
	5. 発達障害					1,3	面接									
	6. 日常生活と環境						面接									
	7. 小児在宅医療					1,3	面接									
	8. 集団の保健						面接									
	9. 主な疾病 小児期の病気、感染症、食中毒、発育と栄養障害、アレルギー、消化器、呼吸器、循環器、血液、泌尿器と生殖器、代謝、内分泌、皮膚、臍、運動器、目・耳・鼻、精神・神経系、悪性腫瘍、その他(川崎病、リウマチ熱、乳幼児突然死症候群) 感染症と予防接種					1,2,3	面接									
	10. 主な症状と救急処置 応急処置、手当、異物事故、救命処置					1,2,3,4	面接									
	11. 子どもの保健に関わる法規と母子保健行政						面接									
	12. 事故とその対策 小児と事故、発生と種類、事故防止、					1,4	面接									
	13. 事故と応急処置 小児と事故、発生と種類、事故防止、応急処置・手当、異物事故、救命処置					1,4	面接									
	14. 感染症と予防接種 感染症、予防接種					2,3	面接									
15. 小児期の病気 感染症、食中毒、発育と栄養障害、アレルギー、消化器、呼吸器、循環器、血液、泌尿器と生殖器、代謝、内分泌、皮膚、臍、運動器、目・耳・鼻、精神・神経系、悪性腫瘍、その他(川崎病、リウマチ熱、乳幼児突然死症候群)					2,3	面接										
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①試験・レポート(60%)、②授業への取り組みと授業態度(40%)を総合判断により評価する。 評価の基準:①知識・理解、思考・判断:授業で扱った内容に解答できる。疾病に対する対処等を理解している。 ②関心・意欲、態度:小児保健に関心をもち課題に取り組んでいる。積極的に発言している。															
フィードバックの方法	レポートの結果を個別に具体的に評価する。															
時間外の学習について	予習:講義の終わりに次回の講義範囲を伝えるので質問事項を考えておくこと。(各回90分程度) 復習:講義内容の重要なキーワードを伝え、それに対して答えられるように復習すること。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:『最新子ども保健』 沢田 淳 細井 創 編(日本小児医事出版社) 参考書:『小児保健実習』佐藤益子 編著 みなみ書房 『保健所・幼稚園児の保健』日本医師会第一法規出版 『日本の子ども資料年鑑』 KTC 中央出版 『学校医の手引き-第4版-』山口県医師会															
実務経験について	小児科医として大学病院等に勤務。その後小児科開業医としての実務経験をもとに小児保健について話をします。															
担当者からのメッセージ等	担当教員の連絡先・E-mail アドレスは、授業内で周知します。															

授業科目名	子どもの食と栄養	教員名	松村 史樹 【単独】	免許・資格等との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2081-100000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の対象の理解に関する科目															
授業テーマ	食生活の意義、栄養の基礎知識、食育、家族・保護者支援、衛生管理、特別な配慮を要する子どもの食															
授業概要	食と栄養の基礎知識、子どもおよび家庭の食生活の現状と課題をもとに、食育を推進する実践力を養う。また、食品衛生、食物アレルギーや疾病、障害のある子どもへの対応、地域・家庭や各職員間の連携等についても学習する。															
到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を説明できる。 2. 子どもの健康や発育・発達と食生活の関連を説明できる。 3. 食育の基本とその内容を理解し、地域社会・文化とのかかわりの中で展開できる実践を構想できる。 4. 家庭や児童福祉施設における子どもと家庭の食生活の現状と課題を説明できる。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について説明できる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 乳幼児の食生活の現状を知る					1,2	面接									
	2. 乳幼児の食生活の問題と対策を学ぶ					1,4	面接									
	3. 消化吸収に関わる体の機能を学ぶ					1,2	面接									
	4. 栄養の基礎知識を学ぶ					1	面接									
	5. 各栄養素と食事摂取基準を学ぶ					1	面接									
	6. 乳幼児の咀嚼および味覚の発達と、消化吸収機能について学ぶ <体験実習>					2	面接									
	7. 乳児期の身体的な発達と乳汁栄養について学ぶ					2	面接									
	8. 離乳食期の食行動に変化と離乳食について学ぶ					2	面接									
	9. 幼児期の身体的、精神的な成長と食行動の発達について学ぶ					2	面接									
	10. 食育に関わる法律および計画を学ぶ					3	面接									
	11. 保育所における食育の計画、実施、評価を学ぶ <食育計画の作成>					3	面接									
	12. 保育所における食に関する保護者の支援について学ぶ					4	面接									
	13. 食中毒の発症状況と予防策を学ぶ					1	面接									
	14. 食に関わる衛生管理について学ぶ <体験実習>					1	面接									
15. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養を学ぶ					5	面接										
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、実習															
成績評価基準	評価の方法：①試験(80%)、②授業への参加度(20%) 評価の基準：①定期試験 *知識・理解の定着度及び考察力・判断力を測定 ・授業で学んだ知識を扱った問題に解答できる。 ・学んだ知識を食への取り組みに応用することができる。 ②授業態度 *関心意欲の測定 ・ディスカッションにおいて、積極的に自分の意見を述べる事ができる。 ・体験実習に興味をもって取り組むことができる															
フィードバックの方法	体験実習や作成した食育計画についての感想をディスカッションする															
時間外の学習について	予習：次回の授業に関連する資料や情報を集め、読んでおくこと。(各回90分程度) 復習：教科書に基づき、授業内容を配布資料に整理し直す。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：子どもの食と栄養 中山書店 2100円+税 参考資料：必要に応じて配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	教育実習・保育実習の際には、子どもの食事の様子や食育の取り組みをよく観察しておくこと。 担当者の連絡先・Email：fumiki@mx5.tiki.ne.jp(松村)															

授業科目名	保育の計画と評価	教員名	中原 久子 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-2082-1000000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC 教育プログラム											
教 科 目	必修科目 (保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授 業 テ ー マ	保育の質の向上、保育の計画、記録と評価の関係															
授 業 概 要	乳幼児の保育は、生涯にわたる生きる力の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、全体的な計画 (保育課程) を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢期の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を講述する。															
到 達 目 標	1. 保育の計画と評価の基本・カリキュラムの基礎を理解する。															
	2. 児童福祉施設における計画と評価の意義を理解する。															
	3. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性を理解する。															
	4. 全体的計画 (保育課程) 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を理解する。															
	5. 長期・短期の指導計画の作成と留意点を理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授 業 計 画						目標	方法									
	1. 保育の計画と評価の基本・カリキュラムの基礎理論					1	面接									
	2. 保育所における保育の計画と評価の意義					1,2,4	面接									
	3. 幼稚園・幼保連携型こども園・児童福祉施設における計画と評価の意義					1,2,3,4	面接									
	4. 計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上					4	面接									
	5. 保育所における保育の計画・保育所保育指針と幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育保育要領					3	面接									
	6. 全体的計画 (保育課程) と指導計画					4	面接									
	7. 全体的計画 (保育課程) の編成と展開					3,4	面接									
	8. 指導計画 (長期・短期) の実際と作成上の留意事項					5	面接									
	9. 指導計画の作成と展開 (月の指導計画)					4,5	面接									
	10. 指導計画の作成と展開 (週の指導計画)					4,5	面接									
	11. 指導計画の作成と展開 (週案から保育指導案へ)					4,5	面接									
	12. 保育の省察及び記録					4	面接									
	13. 保育の計画の再編成					4	面接									
	14. 保育士及び保育所の自己評価					1	面接									
15. 生活と発達の連続性を踏まえた保育所指導保育要録					1	面接										
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワークによるプレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①試験 (50%)、②受講態度 (20%)、③レポート (30%) を総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：授業で扱った内容に関する問題に解答できる。全体的計画 (保育課程) の編成と指導計画の作成について具体的に理解できたか口述する。 ②関心・意欲、態度：積極的に発言している。グループでの活動に積極的である。 ③思考・判断：根拠を明確にして自説を述べている。															
フィードバックの方法	課題にコメントをつけて返却する。															
時間外の学習について	予習：テキストを一読しておく。(各回 90 分程度) 復習：授業での学び (ポイント) を簡単にまとめる。(各回 90 分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：松村和子 近藤幹生 椛島香代 著「就学前教育の計画を学ぶ」 みなみ書房 参考書：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他、授業中に適宜資料を配布する。															
実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに保育・教育を支える柱、保育の計画と評価について話をします。															
担当者からのメッセージ等	保育は「計画」と「実践」と「評価」をサイクルにしてつくられていくことが基本である。この三つを一体にして考える視点を養ってほしい。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	保育内容総論	教員名	山本 幸子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2083-1000000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	保育内容・保育方法・保育所保育指針・保育の全体構造															
授業概要	「保育所保育指針」の構造と根幹的な考え方を、「子ども主体」、「環境を通して」や「遊び」といった基本的な考え方を元に理解する。事例などに対するディスカッションやグループワークで自分の考えや意見を表現することを通じて、実際に保育に応用できる深い理解を獲得する。															
到達目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的な背景及び保育の内容の社会的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	○	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 園生活をイメージし保育所・認定こども園を知る					1,3	面接									
	2. 保育所保育指針とは					1,2	面接									
	3. 保育所保育指針の関連法令と歴史					1,2,3	面接									
	4. 保育の目標とねらい及び内容(5領域)					1,2	面接									
	5. 育みたい資質・能力					1,2	面接									
	6. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)					1,2	面接									
	7. 乳児保育に関わるねらい及び内容					1,2,4	面接									
	8. 保育の計画及び評価① 全体的な計画・年間計画					2,3,4	面接									
	9. 保育の計画及び評価② 月案					2,3,4	面接									
	10. 保育の計画及び評価③ 週案・日案—指導案					2,3,4	面接									
	11. 保育の計画及び評価④ 3歳未満児の月案・週案					2,3,4	面接									
	12. 健康及び安全					1,2,4	面接									
	13. 職員の資質向上					1,2,4	面接									
	14. 子育て支援					1,2,4	面接									
	15. 保育所保育指針の全体構造					1,2,3,4	面接									
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み態度(20%)、②提出物・発表(30%)、③定期試験(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲、態度：積極的に発言している。 ②知識・理解、思考・判断：保育所保育指針を理解し、試験において自分の意見を表現することができる。 ③知識・理解：授業で扱った内容に関する問題に解答できる。															
フィードバックの方法	ディスカッションやグループワークにコメントを行い、リアクションペーパーを授業の最後に作成してもらい、次の授業の際に皆で共有し、質問に回答する。															
時間外の学習について	予習：事前に配布するプリントを読み、用語や法令などについては各自調べる。初回は『保育所保育指針ハンドブック』第1章総則を読んでおく(各回15分) 復習：授業の復習と、授業で紹介された書籍を読む(各回30分)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。適宜プリントを配布します 参考書：『保育所保育指針ハンドブック—イラストたっぷりやさしく読み解く』(Gakken 保育 Books)															
実務経験について	小規模保育園で立ち上げから4年、園長として勤務しました。															
担当者からのメッセージ等	保育学は日本の学校教育のなかで最も進んだアクティブラーニングの実践を持ち、古今東西の学問的知識の集積を根拠としているとても面白い分野です。一緒に学べることを楽しみにしています。 E-mail: yyamamoto@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	乳児保育 I	教員名	渡邊 二美子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修									
					幼稚園教諭										
ナンバリングコード	UC1-2084-1000000	年次配当	1年後期		小学校教諭										
					中学校教諭(英語)										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)										
					特別支援学校教諭										
単位数	2				SPARC教育プログラム										
教科目	必修科目(保育士)														
系列	保育の内容・方法に関する科目														
授業テーマ	乳幼児(0・1・2歳児)の発達、保育の内容														
授業概要	乳幼児保育の意義と必要性や乳幼児保育の現状を理解し、乳児期の発達を理解した上で「乳児保育」や「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容や保育者との関わり的重要性について学ぶ。グループでの学び合いを中心にプレゼンテーションや模擬保育を行う。														
到達目標	1. 乳幼児保育の意義と必要性・乳幼児保育の現状を知る。 2. 乳幼児の発達を理解し、発達一覧表を作って、より発達の連続性を確かにする。 3. 保育所が目指す目標や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、0・1・2歳児として考えてみる。 4. 「乳児保育(0歳児)」に関わるねらい及び内容について学びその指導案を作成してみる。 5. 「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容について学びその指導案を作成してみる。														
学修成果との関係	①	・	②	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	発達理解のための一覧表を作成することが望ましい。														
授業計画					目標	方法									
	1. 本科目の目標や概要について知り、本科目に興味・関心を持ち、予習の必要性を知り積極的に学ぶ	1,2,3,4,5	面接												
	2. 予習したことをもとに乳幼児保育の意義・必要性、乳幼児保育の現状について深く考えてみる	2	面接												
	3. 0歳児の発達を理解する①発達の一覧表の作成(身体運動・手指の操作)	2	面接												
	4. 0歳児の発達を理解する②発達の一覧表の作成(対人関係・言葉・認識・生理的特徴)	2	面接												
	5. 1・2歳児の発達を理解する①発達一覧表の作成(身体運動・手指の操作)	2	面接												
	6. 1・2歳児の発達を理解する②発達一覧表の作成(対人関係・言葉・認識・生理的特徴)	2	面接												
	7. 0・1・2歳児の発達を自分で作成した発達一覧表をもとに、映像を見ながら実際を確認し発達のイメージをつかむ	2	面接												
	8. 保育所が目指す目標について養護と教育が一体的に行われることの大事さをグループで学び合い子どもの「最善の利益」最もふさわしい生活場はどのようなものかを考え合う	3	面接												
	9. 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を0・1・2歳児として考え、保育のあり方、保育者としてののはたらきかけ方を考えてみる	3	面接												
	10. 乳児保育(0歳児保育)に関わるねらい及び内容を学び、保育のねらいとしての「3つの視点」について、また養護についてグループで深め合う	4	面接												
	11. 乳児保育(0歳児保育)の指導案を各自作成してみる	4	面接												
	12. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容を学び5領域をまとめ、発達の特性と重なっていることをグループで深め合う	5	面接												
	13. 1歳以上3歳未満児の保育の指導案を各自作成してみる	5	面接												
	14. 0・1・2歳児の健康・安全や保育所の衛生、食育(アレルギーを含む)について、また災害についての備え等、保育者として特に知っておいて欲しいことを、子どもを守る立場で考え、調べたことを発表する	4,5	面接												
15. 0・1・2歳児の保育の今後の課題について考え、本科目のまとめとして0・1・2歳児の保育を担当する時、特に大切にしたいことを発表する	1,2,3	面接													
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、模擬保育														
成績評価基準	評価の方法:①ノートの内容(予習・復習)(30%)、②グループ討議の取組(30%)、③発達一覧表(10%)、④指導案(10%)、⑤まとめの発表(20%)を総合的に判断する。 評価の基準:①知識・理解:授業内容をわかりやすくまとめている。 ②関心・意欲・態度:グループでの活動に積極的である。 ③知識・理解:発達一覧表を作成し、発達を理解している。 ④知識・理解、思考・判断:発達段階に合った指導案を立案することができる。 ⑤思考・判断、態度:根拠を計画にして自分の考えを発表することができる。														
フィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の定着度を確認、解説。授業に終わりに質問を受け、解説する。														
時間外の学習について	予習:参考文献を読み、ノートにまとめて予習ノートを作成しておく。(各回90分程度) 復習:授業内容を日々まとめてノートを作成する。(各回90分程度)														
教材にかかわる情報	テキスト:『乳児保育』 民秋言・小田豊・朽尾勲・無藤隆編集、増田まゆみ編著 参考書:『保育所保育指針』														
実務経験について	保育士として保育所に長年勤務。それを基に話をします。														
担当者からのメッセージ等	人間が生まれて、成長発達しながら大きくなりますが、0・1・2歳の時にしか育たないことがあります。それは一生にかかわることです。それを一緒に学びましょう。担当教員の連絡先・E-mailアドレスは、授業内で周知します。														

授業科目名	乳児保育Ⅱ	教員名	今川 久美子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2085-1000000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	乳児一人一人の発達を促す環境、生活と遊び、保育の計画、記録、評価、乳児の指導案の立案について学ぶ。また、地域社会との連携、保健衛生及び安全についての専門知識を身につける。(専門的知識・技能、創造的思考力)															
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだことを基に、実践事例を通して個々の発達を促す生活と遊びについて理解を深める。また、保育の計画、記録、評価について学び、乳児の保育指導案作成に取り組む。また、乳児の健康・安全、家庭や地域との連携について理解を深める。 *本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す															
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの方の基本的考え方について理解する。															
	2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ。															
	3. 乳児保育における配慮の実践について具体的に学ぶ。															
	4. 乳児保育における計画の作成について具体的に学ぶ。															
	5. 保育者の資質と専門性について理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 乳児保育の基本 -子どもの主体性を尊重する保育とは-					1	面接									
	2. 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 -子どもの主体性を引き出す環境構成-					1	面接									
	3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -食事①(調乳と授乳)-					1	面接									
	4. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -食事②(離乳食)-					1	面接									
	5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -排泄-					1	面接									
	6. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -睡眠-					2	面接									
	7. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -着脱・清潔-					2	面接									
	8. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 -手あそび・手作りおもちゃ・絵本-					2	面接									
	9. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 【発表】手遊び					2	面接									
	10. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 【発表】絵本					2	面接									
	11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 【発表】手作りおもちゃ					1,2	面接									
	12. 乳児保育における計画の実践 -長期的・短期的な指導計画、個別的な指導計画と集団の指導計画					3	面接									
	13. 乳児保育における配慮の実践 -集団での生活における配慮(子どもの安全を守る)-					3	面接									
	14. 乳児保育における配慮の実践 -子どもの心身の健康(子どもの病気と対応)-					3	面接									
15. 【総復習】-保育者の資質と専門性について-					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	実技、グループワーク、発表、グループディスカッション															
成績評価基準	<p>評価の方法: ①レポート・提出課題・発表 70% ②授業態度 30% により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準: ①レポート・提出課題・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*知識・理解/思考・判断/技能・表現の測定</li> <li>・理論や知識について整理し、それに基づいて自身の考えや意見を述べるができる。</li> <li>・実技や発表について省察し、その内容を適切に述べるができる。</li> </ul> <p>②授業態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*関心・意欲/技能・表現/その他(協調性)の測定</li> <li>・グループ活動(実技や発表等)に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>・仲間と協調して活動に取り組み、グループの活動に貢献することができる。</li> </ul>															
フィードバックの方法	学んだことや考えたことを振り返り、レポートに記述して提出する。レポートの内容で優れた内容や気づきがあれば、講師のコメントとともに授業内で共有する。															
時間外の学習について	<p>予習: 事前にテキストを読む、参考資料等を確認するなど実技や発表、講義に臨むための準備をする(45分)</p> <p>復習: ノートや配布資料を再読して学んだことを整理する。実技や発表について省察し自身の考えをまとめる。(45分)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 「見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ」ChaCha Children &amp; Co. 萌文書林、2019 ¥2,090</p> <p>参考書: 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 幼稚園教育要領「チャイルド社」</p> <p>参考資料: 適宜紹介する。(文献、映像、資料など)</p>															
実務経験について	乳児期の保育や子どもの発達についての知識と理解を確かなものとし、理論を実践に結びつける力を養えるよう保育現場でのエピソードを交えながら、お話ししていきたいと思っております。															
担当者からのメッセージ等	心身ともに大きく成長する0.1.2歳児。その後の発達においても、この時期の保育者の働きかけやかかわりは非常に重要です。質の高い保育が実践できるように、乳児期の発達過程を踏まえながら実技の面を充実させていきたいと思います。 Email:nicoyoppi@gmail.com															

授業科目名	子どもの健康と安全	教員名	金子 正枝 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2086-1000000	年次配当	3年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	保育における保健、保育における衛生、保育における危機管理															
授業概要	厚労省の関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における保育環境や衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。更に、保育における保健的対応、子どもの体調不良等に対する適切な対応、及び感染症対策について理解する。															
到達目標	1. 保育における感染症対策、事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインや近年のデータに基づく危機管理について理解し、行動に移すことができる。 2. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について説明できる。 3. 子どもの発達や状態等に即した対応について具体的に説明できる。 4. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に説明できる。 5. 保育所における危機管理・災害への備えに関わる組織的取組の計画及び評価について説明できる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 保育における厚労省に関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保健及び危機管理の重要性を理解できる。					1,2,3,4,5	面接									
	2. 子どもの保健に関する個別対応と子どもの集団全体の健康と安全・衛生管理について理解できる。(健康観察)					1,2,3,4	面接									
	3. 感染症の集団発生の予防、感染症発症時と罹患後の対応について理解できる。					1,2,5	面接									
	4. 子どもの発育状態の測定と評価ができる。(身長、体重、胸囲、頭囲測定) 実技					2,3	面接									
	5. 子どもの体調不良の早期発見ができる。(バイタルサイン測定) 実技					2,3,4	面接									
	6. 子どもに多い症状への対応ができる。(発熱、熱中症、けいれん)					1,2,3,4	面接									
	7. 子どもに多い症状への対応ができる。(嘔吐、脱水、下痢、便秘)					1,2,3,4	面接									
	8. 子どもに多い症状への対応ができる。(アレルギー、アナフィラキシーショック) 実技					1,2,3,4,5	面接									
	9. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(外傷、熱傷)					1,2,3,4,5	面接									
	10. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(頭部打撲、骨折、異物の誤飲・誤嚥)					1,2,3,4,5	面接									
	11. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(衛生材料の使用法、保育所での与薬) 実技					1,2,3,4,5	面接									
	12. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(心肺蘇生法、窒息時の応急処置の基本)					1,2,3,4,5	面接									
	13. 保育における危機管理について理解できる。					1,5	面接									
	14. 事故(災害)発生時の対応について理解できる。					1,4,5	面接									
15. 事故防止の組織的取組や事故対応について分析・評価できる。					1,5	面接										
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(70%)、②小テスト・課題・授業への取組(30%) 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：目標の内容を理解し、授業で扱った内容に関する問題に解答できる。根拠を明確にして自説を述べている。 ②関心・意欲、態度：積極的に発言している。積極的に実技を行っている。															
フィードバックの方法	授業後、小テストを実施。実技後、レポートを提出。小テスト、レポートはその後授業にて教員がコメントして返却する。															
時間外の学習について	予習：授業計画の項目について、テキスト等を使い事前学習しておく。(各回15分程度) 復習：小テストを行うので、復習をしておく。(各回30分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：大西文子編集／執筆「子どもの健康と安全」中山書店 参考書：添田久美子/石井拓児編著「事例で学ぶ学校の安全と事故防止」ミネルヴァ書房															
実務経験について	助産師経験：子どもの接し方について具体的に話します。高等学校教員経験：教師としての対応について話します。															
担当者からのメッセージ等	・報道されている新しい情報は、資料として配布します。 ・科学的に考える習慣をつけましょう。科学的な根拠をもって行う技術は、自信につながります。 ・実技では、準備から後始末まで積極的に関わり、指示待ちにならないようにしましょう。 ・担当教員の連絡先・E-mailアドレスは、授業内で周知します。															

授業科目名	障害児保育 I	教員名	岡本 実 (実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2087-1000000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC 教育プログラム											
教科目	必修科目 (保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	インクルーシブ保育、発達期の障害と発達支援、ストレングス視点、障害の社会モデル															
授業概要	保育所や幼稚園、児童発達支援センターなどにおける障害児保育の意義を知り、現状を把握する。また、障害をもつ子どもの援助法や指導法について、具体的かつ実践的に学習する。															
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児およびその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解援助の方法、環境構成等について学ぶ。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション、障害のとらえ方 (医学モデルと社会モデル)、発達障害とは					1	面接									
	2. 障害児保育を支える理念、障害児保育の歴史と現状、課題					1	面接									
	3. 障害児保育に関わる関係機関との連携と保護者支援					1	面接									
	4. 知的障害の理解と援助					2	面接									
	5. 自閉症スペクトラム障害の理解と援助①: 障害概念の変遷、自閉症スペクトラム障害の特性理解					1	面接									
	6. 自閉症スペクトラム障害の理解と援助②: 自閉症スペクトラム障害の発達特性、構造化による支援					1	面接									
	7. 自閉症スペクトラム障害の理解と援助③: 自閉症スペクトラム障害のある児童の保育指導					1	面接									
	8. 運動障害の理解と援助: 主な運動障害 (脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィーなど) の理解と援助					2	面接									
	9. コミュニケーション障害の理解と援助: ことば、コミュニケーションの発達、主なコミュニケーション障害					2	面接									
	10. てんかんのある子どもの理解と援助: てんかんとは、てんかんをもつ子どもの生活指導、発作時の対応					2	面接									
	11. 障害のある子どものアセスメント①: アセスメントの方法、発達検査の実施					2	面接									
	12. 障害のある子どものアセスメント②: 発達検査結果の検討、保育へのフィードバック					2	面接									
	13. 障害のある子どもの保育指導①: 身辺自立の支援					2	面接									
	14. 障害のある子どもの保育指導②: 対人関係の援助					2	面接									
15. まとめと確認テスト					1,2	面接										
定期試験																
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法: ①定期試験 (50%)、②ワークシート・レポート (20%)、③授業への取り組み (30%) を総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解: 授業で扱った内容に関する問題に解答できる。 ②知識・理解、思考・判断: 様々な障害の種類や特徴を理解し、適切な支援方法を考えることができる。 ③意欲・関心、態度: 積極的に発言している。グループでの活動に積極的に参加している。															
フィードバックの方法	ワークシート、レポートについてコメントをする。															
時間外の学習について	予習: 次回の学習内容について、テキストの関連個所に目を通し、ポイントを整理する。(各回 15 分程度) 復習: 授業内容の整理、復習を行う。(各回 30 分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 「障害のある子どもの保育・教育の実践」中山智哉編著 2022 年 学文社 ISBN:978-4-7620-3121-2 参考書: その都度紹介します。 参考資料: その都度紹介します。															
実務経験について	障害のある子の早期支援、家族支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。															
担当者からのメッセージ等	近年、障害児支援の分野では、障害者権利条約の批准と国内法の大幅な改正、発達障害者支援法の成立、特別支援教育や障害児通所支援の創設など大きな変化の中にあります。今後の障害児保育のありかたについて共に学んでいきましょう。 連絡先メールアドレス: T0004@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	障害児保育Ⅱ	教員名	岡本 実(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-2088-1000000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	保育計画、保育における個別支援、保護者支援、関係機関との連携、障害児保育の課題															
授業概要	乳幼児期の障害の種類・特徴を知り、その子どもたちをどのように保育の中で支援するのか、また支援すればよいのかを見出し、保育実践に生かせるようにする。また、障害のある子どもがいることにより、他の子どもの反応、家族、特にきょうだいの気持ちを実践例・アンケート等により探り、その現状と課題について理解する。															
到達目標	1. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。 2. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 3. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	・	⑤	○	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション：障害の社会モデル、保育における合理的配慮の提供					1	面接									
	2. 障害のある子どものコミュニケーション指導：保育者のコミュニケーション感度向上の視点から					1	面接									
	3. 発達障害児の理解と援助①：DSM-Vの神経発達症の概要					1	面接									
	4. 発達障害児の理解と援助②：自閉症スペクトラム障害のある子の支援ツールの作成①					1	面接									
	5. 発達障害児の理解と援助③：自閉症スペクトラム障害のある子の支援ツールの作成②					1	面接									
	6. 障害のある子どもの保育に関する諸課題①：保護者や家族の支援<特別講義>					2,3	面接									
	7. 障害のある子どもの保育に関する諸課題②：早期支援の現状と課題①					2,3	面接									
	8. 障害のある子どもの保育に関する諸課題③：早期支援の現状と課題②					2,3	面接									
	9. 障害のある子どもの保育に関する諸課題④：保育機関と療育機関の連携と課題					2,3	面接									
	10. 障害のある子どもの保育に関する諸課題⑤：就学指導及び移行支援の現状と課題					2,3	面接									
	11. 障害のある子どもの保育に関する諸課題⑥：ASDのある子の保育の現状と課題					2,3	面接									
	12. 保育計画の作成①：発達障害のある児童のアセスメントと保育計画の作成					1	面接									
	13. 保育計画の作成②：知的障害のある児童のアセスメントと保育計画の作成					1	面接									
	14. 保育計画の作成③：運動障害のある児童のアセスメントと保育計画の作成					1	面接									
15. まとめ、障害のある子どものソーシャルインクルージョンに向けて、確認テスト					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイング、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①定期試験(50%)、②ワークシート・レポート(20%)、③授業への取り組み(30%) 評価の基準：①知識・理解：授業で扱った内容に関する問題に解答できる。 ②知識・理解、思考・判断：様々な障害の種類や特徴を理解し、適切な支援方法を考えることができる。 ③意欲・関心、態度：積極的に発言している。グループでの活動に積極的に参加している。															
フィードバックの方法	ワークシート、レポートについてコメントをする。															
時間外の学習について	予習：次回の学習内容について、テキストの関連箇所や行政資料等に目を通し、ポイントを整理する。(各回15分程度) 復習：授業内容の整理、復習を行う。(各回30分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：「障害のある子どもの保育・教育の実践」中山智哉編著 2022年 学文社 ISBN:978-4-7620-3121-2 参考書：その都度紹介します。 参考資料：その都度紹介します。															
実務経験について	障害のある子の早期支援、家族支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。															
担当者からのメッセージ等	近年、障害児支援の分野では、国連の障害者権利条約の批准と国内法の大幅な改正、発達障害者支援法の成立、特別支援教育や障害児通所支援の創設など、大きな変化の中にあります。今後の障害児保育のありかたについて、共に学んでいきましょう。 連絡先メールアドレス：T0004@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	社会的養護Ⅱ	教員名	安村 裕美 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2089-1000000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
科目	必修科目(保育士)															
系列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	社会的養護の方向性、家族・子どもへの支援のあり方、子どもの最善の利益															
授業概要	子どもの権利や保育士等の倫理や責務について理解を深め、施設養護と家庭養護の実際を学ぶ。事例を通して、日常生活支援・治療的支援・自立支援の支援内容を具体的に検討し考察後の振り返りを行う。相談援助の知識・技術・方法を理解し、具体的な実践の場を想定し、ソーシャルワークの知識や視点を持った対応の方法を学ぶ。家庭支援・児童家庭福祉・地域福祉について理解や認識を深め、社会的養護の課題と展望について検証、考察を行う。															
到達目標	1. 社会的養護における子どもの権利擁護と保育士等の倫理について説明できる。 2. 施設養護及び家庭養護の生活特性を説明できる。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価について説明できる。 4. 社会的養護におけるソーシャルワークの方法・技術について理解し、事例について説明できる。 5. 社会的養護の課題とこれからの展望について、児童家庭福祉、地域福祉について説明できる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 子どもの権利擁護について理解し、その取り組みや支援の質の向上を図るための方法について学ぶ。					1,3	面接									
	2. 社会的養護における子どもの理解について学ぶ。					1,3,4	面接									
	3. 日常生活支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。					1,3,4	面接									
	4. 治療的支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。					1,3,4	面接									
	5. 自立支援に関する事例分析を通してグループ討議等を行い、理解を深める。					2,3	面接									
	6. 施設養護の生活特性及び実際(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)について理解する。					2,3	面接									
	7. 施設養護の生活特性及び実際(児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設)について理解する。					2,3	面接									
	8. 家庭養護の生活特性及び実際(里親・ファミリーホーム事業・養子縁組制度)について理解する。					2,3	面接									
	9. 自立支援計画策定について理解し、アセスメントを行う上での視点を学ぶ。					1,2,3,4	面接									
	10. 事例をもとに、自立支援計画の策定を通して、子どもの自立への理解を深める。					1,2,3,4	面接									
	11. 記録の意義と役割・自己評価について学び、理解を深める。					1,2,3	面接									
	12. 児童福祉施設における保育士の位置づけを理解し、社会的養護における保育士の専門性について学ぶ。					1	面接									
	13. ソーシャルワークの意味、必要性、知識を理解し、実践におけるソーシャルワークについて考察する。					1,3,4	面接									
	14. 社会的養護における家庭支援について理解を深める。					1,3,4	面接									
15. 社会的養護の課題と展望について理解を深め、考察する。					2,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法：①授業態度(40%)、②レポート(20%)、③課題提出(40%)を総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲、態度：積極的に発言する。グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ②知識・理解、思考・判断：テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べることができる。															
フィードバックの方法	講義後のコメントシートに対して、次回の授業冒頭に講評等を行う。															
時間外の学習について	予習：次回の授業のキーワードを提示し、それについて調べておく。(各回15分程度) 復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。(各回30分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ」原田旬哉(著)、杉山宗尚(著) 参考書：特になし 参考資料等：適宜配布															
実務経験について	児童養護施設実務経験：子どもとのかかわりを通して、子どもがどのように感じていたか等のエピソードを話します。															
担当者からのメッセージ等	社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。 担当者の連絡先・E-mail：hyasumura@yamaguchi-jca.ac.jp															

授業科目名	子育て支援	教員名	野村 不二子(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	必修													
					幼稚園教諭														
ナンバリングコード	UC4-2090-1000000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭														
					中学校教諭(英語)														
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)														
					特別支援学校教諭														
単位数	1				SPARC教育プログラム														
教科目	必修科目(保育士)																		
系 列	保育の内容・方法に関する科目																		
授業テーマ	保育者の専門性、保護者支援、子育て支援																		
授業概要	保育士の専門性を背景とした保護者支援について理解を深める。また、実践例やロールプレイ等を通して保育士の行う子育て支援について具体的に理解することを目指す。																		
到達目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者支援について、その特性と展開を理解する。 2. 保育士の行う子育て支援の内容と方法および技術を理解する。 3. 実践例等を通して、子育て支援について具体的に理解する。																		
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・			
履修条件・注意事項																			
授業計画																	目標	方法	
	1. 子どもの保育とともにを行う保護者支援																	1,2	面接
	2. 日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成																	1,2	面接
	3. 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解																	1,2	面接
	4. 子どもおよび保護者の状況・状態の把握																	1,2	面接
	5. 支援の計画と環境の構成																	2,3	面接
	6. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス																	2,3	面接
	7. 職員間の連携・協働																	3	面接
	8. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働																	2,3	面接
	9. 保育所等における支援																	1,2,3	面接
	10. 地域の子育て家庭に対する支援																	3	面接
	11. 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援																	2,3	面接
	12. 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援																	2,3	面接
	13. 子ども虐待の予防と対応																	2,3	面接
	14. 要保護児童等の家庭に対する支援																	2,3	面接
15. 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解、まとめと確認テスト																	1,2,3	面接	
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション																		
成績評価基準	評価の方法：①授業態度(10%)、②演習やロールプレイ等(40%)、③確認テスト・課題・レポート(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：身につけた知識や理論を活用して積極的に演習へ参加している。 ②知識・理解：身につけた知識や実践を通して問題に取り組み、他者と協力して学びを深めようとしている。 ③思考・判断：根拠を明確にして自説を述べている。																		
フィードバックの方法	課題やレポート、ロールプレイ等に対してコメントをする。																		
時間外の学習について	予習：子育てに関する時事的な新聞記事等に目を通す。(各回15分程度) 復習：授業内で完成できなかった課題および確認テストに向けて授業内容の整理、復習を行う。(各回30分程度)																		
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：「新保育シリーズ19 子育て支援」公益財団法人児童育成協会＝監修／西村重稀、青井夕貴＝編集 2019年中央法規出版 参考資料等：適宜紹介・配布する。																		
実務経験について	保育士経験をもとに、子育て支援について話をします。																		
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：fnomura@yamaguchi-jca.ac.jp(野村)																		

授業科目名	特別支援教育総論	教員名 年次配当	河村佐和子(実務経験) 佐藤真澄 松田信夫(実務経験)、 川間弘子(実務経験)、 松岡勝彦、林田真志、 須藤邦彦、船橋篤彦	免許・資格等 との関係	保育士 幼稚園教諭 小学校教諭 中学校教諭(英語) 高等学校教諭(英語) 特別支援学校教諭 SPARC教育プログラム											
ナンバリングコード	UC2-2091-0000010	年次配当	2年前期(集中講義含む)		特別支援学校教諭	必修										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	初等幼児教育専攻 英語教育専攻	選択										
単位数	2															
特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目(特別支援学校)															
授業テーマ	特別支援教育、インクルーシブ教育システム、障害、合理的配慮、自立活動															
授業概要	本科目では、特別支援教育の理念・歴史・制度等に関する基礎的内容を解説する。また、対象となる各障害の障害特性や指導方法、特別支援教育を支えるシステムやツール等、実践的な内容について解説し、事例検討等の演習も行う。最後に、特別支援教育を巡る最新の動向を解説し、今後の課題について考察する。															
到達目標	1. 特別支援教育の理念・歴史・制度等に関する基礎的な内容を理解する。 2. 特別支援教育の対象である各障害の障害特性やアセスメント、指導方法について理解する。 3. 特別支援教育を支えるシステムやツールについて理解する。 4. 最新の特別支援教育政策の動向について理解する。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	.	⑦	.	⑧	.
履修条件・注意事項																
授業計画	※随時、グループワークや事例検討等の演習を行う。					目標	方法									
	1. イントロダクション(担当教員:河村佐和子) 特別支援教育制度の対象や特別支援学校の機能・役割について簡単に解説するとともに、本科目の概要や予定を説明する。					1	面接									
	2. 特別支援教育の歴史の変遷と障害者の権利に関する条約(担当教員:河村佐和子) 特別支援教育の歴史や制度、障害者施策について、特殊教育と対比しながら解説する。					1	面接									
	3. 特別支援教育の理念・思想とその背景にある障害観(担当教員:河村佐和子) 障害観の変遷についてICIDHやICFの観点から解説し、特別支援教育の理念や思想について解説する。					1	面接									
	4. 学習指導要領と教育課程(担当教員:松田信夫) 特別支援学校学習指導要領をはじめとして、学習指導要領と教育課程の内容(自立活動の指導、重複障害者等に関する教育課程を含む)について解説する。					3	面接									
	5. 視覚障害(担当教員:門脇弘樹) 視覚障害の障害特性やアセスメント、指導法等について解説する。					2	面接									
	6. 聴覚障害(担当教員:林田真志) 聴覚障害の障害特性やアセスメント、指導法等について解説する。					2	同時双方向									
	7. 言語障害(担当教員:川間弘子) 言語障害の障害特性やアセスメント、指導法等について解説する。					2	面接									
	8. 知的障害(担当教員:松田信夫) 知的障害の障害特性やアセスメント、教科の指導法等について解説する。					2	面接									
	9. 肢体不自由と病弱(担当教員:船橋篤彦) 肢体不自由と病弱の障害特性やアセスメント、指導法等について解説する。					2	オンデマンド									
	10. 自閉症と情緒障害(担当教員:須藤邦彦) 自閉症(高機能自閉症等を含む)と情緒障害の障害特性やアセスメント、指導法等について解説する。					2	面接									
	11. LD(学習障害)・ADHD(注意欠陥多動性障害)(担当教員:松岡勝彦) LD(学習障害)とADHD(注意欠陥多動性障害)の障害特性やアセスメント、指導法等について解説する。					2	面接									
	12. 個別の指導計画と個別の教育支援計画(担当教員:河村佐和子) 個別の指導計画と個別の教育支援計画の意義や作成手順等について解説する。					3	面接									
	13. 通常の学校における特別支援教育(担当教員:河村佐和子) 特別支援学級や通級指導教室とともに、通常の学級での支援の在り方についても解説する。					3	面接									
	14. 校外連携の在り方(担当教員:佐藤真澄) 医療、福祉、労働等、校外機関との連携の在り方について解説する。					3	面接									
	15. インクルーシブ教育システムと合理的配慮(担当教員:河村佐和子) インクルーシブ教育システムと合理的配慮について、近年の特別支援教育政策の動向から解説する。					4	面接									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①授業態度・リアクションペーパー(10%)、②定期試験(90%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:リアクションペーパーの記述内容が十分かつ適切である。 ②知識・理解:特別支援教育の理念や制度、各障害の障害特性と指導方法等に関する設問に回答できる。															
フィードバックの方法	各回でふりかえりの時間を設け、出された質問・意見についてコメントする。															
時間外の学習について	予習:テキストや適宜配布する資料を読んでおく。各回90分程度 復習:テキストや適宜配布する資料を中心に復習する。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:「特別支援教育総論—インクルーシブ時代の理論と実践」川合紀宗・若松昭彦・氏間和仁・林田真志編著 2023年 北大路書房 参考書:特別支援学校学習指導要領(平成29年4月) // 解説(総則編) // 解説(各教科等編) // (自立活動編) 参考資料等:各授業において適宜資料を配布する。															
実務経験について	河村佐和子:特別支援学校教員の経験をもとに実践的な話を交えて進めます。															
担当者からのメッセージ等	第6回および第9回の授業は、オンライン(同時双方向・オンデマンド)を活用して実施します。 担当者の連絡先:skawamura@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理	教員名	松岡 勝彦 元山 将 【オムニバス】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2092-0000010	年次配当	3年前後期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目															
授業テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障害の特性、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と行動面・心理面及び生理面の特徴</li> <li>知的障害の特性及び心身の発達の段階等を踏まえたアセスメント法(直接行動観察法・インタビュー法を含む)</li> <li>家庭・医療機関を含む他機関との連携</li> <li>教師としての心構え</li> </ul>															
授業概要	知的障害教育の対象となる子供の心理、生理、病理の基礎的内容(併存症、合併症を含む)について具体的な事例を概観しながら理解を深める。その際には、疾病のみならず人的・物的・制度的環境や治療上の制約といった知的障害児を取り巻く状況と関係付けるとともに、家庭や医療機関等との連携にも着目しながら、知的障害児の心理・生理・病理が理解できることをねらいとする。授業にはDVD等の映像を適宜使用する。															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>知的障害教育の対象となる子供の病理・生理の基礎的内容(併存症等)について説明できる。</li> <li>知的障害のある子供の心理と求められる指導手続き・指導方略について事例をあげながら説明できる。</li> <li>家庭・医療機関等との連携について事例を挙げながら説明できる。</li> </ol>															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	○	⑦	○	⑧	.
履修条件・注意事項																
授業計画												目標	方法			
	1. 知的障害児の心理的・行動的特徴とそれに応じた基礎的対応法(指示の仕方他)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	2. 知的障害教育の対象となる子どもの病理・生理と併存症・合併症	(担当:元山将)						1	面接							
	3. 知的障害児の理解①(知的障害理解の枠組みと併存症・合併症)	(担当:松岡勝彦)						1	面接							
	4. 知的障害児の理解②(認知的特徴/代替コミュニケーション手段/教育の場等)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	5. 知的障害児の理解③(行動問題の査定法/指導法/効果検証法/指導の改善ほか)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	6. 知的障害児の心理と指導法①(行動目標の立て方/スモールステップの原理ほか)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	7. 知的障害児の心理と指導法②(行動記録の仕方/結果の表し方/指導の改善ほか)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	8. 知的障害児の心理と指導法③(適切行動を増やす指導/トークンエコノミー法ほか)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	9. 知的障害児の心理と指導法④(不適切行動を減らす指導/レスポンスコスト法ほか)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	10. 知的障害児の心理と指導法⑤(行動問題のアセスメント/指導方略の策定方法ほか)	(担当:松岡勝彦)						2	面接							
	11. 家庭・他機関等との連携事例の紹介(知的障害児の排泄指導に関する連携事例)	(担当:松岡勝彦)						1,2,3	面接							
	12. 家庭・他機関等との連携事例の紹介(自閉スペクトラム症児の排泄指導に関する連携事例)	(担当:松岡勝彦)						1,2,3	面接							
	13. 知的障害児に対する日常生活スキルの指導(衣服の着脱/準備と後片付けほか)	(担当:松岡勝彦)						2,3	面接							
	14. 知的障害児に対する日常生活スキルの指導(睡眠・食事・移動スキルほか)	(担当:松岡勝彦)						1,2,3	面接							
15. 知的障害児に対する言語行動(要求/報告/質問応答/サイン/ほか)の指導	(担当:松岡勝彦)						2,3	面接								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション グループワーク 意見発表 ロールプレイ															
成績評価基準	<p>評価の方法:①授業参加度・授業態度(10%)、②最終レポート(90%)により、総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:①関心・意欲:積極的に参加している。</p> <p>②思考・判断、技能・表現:根拠を明らかにして、自説を書いている。</p>															
フィードバックの方法	授業中にコメントする															
時間外の学習について	<p>予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。各回90分程度</p> <p>復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。各回90分程度</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト:特になし</p> <p>参考書:授業の中で適宜紹介する。</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理	教員名	川間 健之介 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2093-0000010	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻											
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目															
授業テーマ	肢体不自由、心理・生理・病理、発達支援															
授業概要	肢体不自由教育の対象となる子どもの心理・生理・病理の内容を解説したうえで、肢体不自由児の発達と学習並びに家庭や関係機関との連携について理解を深める。															
到達目標	1. 肢体不自由児の生理・病理について説明できる。															
	2. 肢体不自由児の心理に関する姿勢・運動、認知、コミュニケーションなどについて説明できる。															
	3. 姿勢・運動を支える感覚系と姿勢反射反応の神経生理について説明できる。															
	4. 肢体不自由児の発達における相互関連と調和的発達の重要性について説明できる。															
	5. 家庭や医療機関との連携の重要性について説明できる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	○	⑦	.	⑧	.
履修条件・注意事項																
授業計画												目標	方法			
	1. オリエンテーション：肢体不自由児の心理・生理・病理を学ぶ意義											1	面接			
	2. 肢体不自由教育の対象となる子どもの病理・生理①：脳原性疾患他											1	面接			
	3. 肢体不自由教育の対象となる子どもの病理・生理②：脊髄疾患・末梢神経疾患他											1	面接			
	4. 姿勢・運動の発達											2,3	面接			
	5. 姿勢・運動の発達を支える感覚											2,3	面接			
	6. 姿勢・運動の発達を支える姿勢反射反応											2,3	面接			
	7. 肢体不自由児の身体の動き(姿勢・運動)とその発達											2,3	面接			
	8. 肢体不自由児の環境の把握(認知)とその発達											2	面接			
	9. 肢体不自由児のコミュニケーションとその発達											2	面接			
	10. 肢体不自由児の人間関係とその発達											2	面接			
	11. 肢体不自由児の心理的安定とその発達											2	面接			
	12. 肢体不自由児の健康の保持とその発達											2	面接			
	13. 肢体不自由児の学習行動と障害による困難											2	面接			
	14. 肢体不自由児の各発達領域における相互関連と調和的発達の重要性											4	面接			
15. 家庭や医療機関との連携の重要性											5	面接				
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①授業態度(10%)、②授業中に提示した課題の提出(30%)、③最終レポート(60%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：積極的に授業に参加する。 ②思考・判断：記述内容が適切である。 ③思考・判断、技能・表現：授業で扱った内容を理解している。根拠を明確にして自説を述べている。															
フィードバックの方法	課題回収後、解説を行う。															
時間外の学習について	予習：テキストや講義資料を読んでおく。各回90分程度 復習：テキストや講義資料を中心に復習する。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：川間健之介・徳永亜希雄(編著)肢体不自由児の教育 NHK出版 参考書：授業中に適宜紹介する。															
実務経験について	川間健之介 特別支援学校の校長として学校の取り組みを紹介する。															
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	病弱児の心理・生理・病理	教員名	河村 佐和子 佐藤 真澄 深澤 美華恵 元山 将 (実務経験) 前場 進治 (実務経験) 【オムニバス】	免許・資格等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2094-0000010	年次配当	3年後期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目															
授業テーマ	病弱、心理・生理・病理、疾病、医療的ケア															
授業概要	病弱教育の対象となる子どもの心理・生理・病理の基礎的内容を解説したうえで、病弱児の心理について具体的な事例を概観しながら理解を深める。また、家庭や学校間、関係機関との連携について理解を深める。															
到達目標	1. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理の基礎的内容について理解し、具体例を挙げて説明できる。 2. 病弱児を取り巻く状況と心理的特性、社会性の発達及び認知の特性について関連付けて説明できる。 3. 家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性を理解し、実践方法を説明できる。 4. 病弱児の心理と求められる支援について自分なりの意見を述べるができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. イントロダクション「病弱児とは」(担当:深澤美華恵)					1	オンデマンド									
	2. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理①:呼吸器疾患(担当:前場進治)					1	面接									
	3. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理②:循環器疾患(担当:元山将)					1	面接									
	4. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理③:消化器疾患(担当:前場進治)					1	面接									
	5. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理④:腎・泌尿器疾患(担当:元山将)					1	面接									
	6. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理⑤:血液・腫瘍疾患(担当:元山将)					1	面接									
	7. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理⑥:内分泌疾患、生活習慣病(担当:前場進治)					1	面接									
	8. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理⑦:神経疾患(担当:前場進治)					1	面接									
	9. 病弱教育の対象となる子どもの生理・病理⑧:心の病(担当:河村佐和子)					1	面接									
	10. 病弱児の心理的特性、社会性の発達及び認知の特性(担当:深澤美華恵)					2	オンデマンド									
	11. 病弱児を取り巻く状況と心理①:乳・幼児期の心理社会的課題(担当:深澤美華恵)					2	オンデマンド									
	12. 病弱児を取り巻く状況と心理②:児童期・思春期の心理社会的課題(担当:深澤美華恵)					2	オンデマンド									
	13. 病弱児を取り巻く状況と心理③:病弱教育における心理的支援の実際(担当:深澤美華恵)					2	オンデマンド									
	14. 家庭や学校間、医療、福祉及び保健機関との連携の重要性(担当:佐藤真澄)					3	面接									
15. 総括「病弱児を取り巻く状況と求められる支援とは」(グループワークを含む)(担当:佐藤真澄)					4	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①レポート等の提出物(70%)、②授業への参加度(グループワークを含む)(30%)により評価する。 評価の基準:①知識・理解、思考・判断:レポートでは、根拠を明らかにして、自説を書いている。 ②関心・意欲、態度:グループワーク・ディスカッションに積極的に参加している。															
フィードバックの方法	授業中にコメントする															
時間外の学習について	予習:テキストや事前配布する資料を、講義までに読んでおく。毎回90分程度 復習:授業中の配付資料を復習し、要点や質問をまとめておく。毎回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:『特別支援教育に生かす 病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房 参考書:適宜、都度紹介する。															
実務経験について	前場・元山…小児科専門医として、実践的な話を交えて進めます。															
担当者からのメッセージ等	各担当教員への連絡方法については授業内で周知する。															

授業科目名	発達障害の心理アセスメント	教員名	須藤 邦彦 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2095-0000010	年次配当	2年前後期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
特別支援教育に 関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目															
授業テーマ	心理検査、性格検査、発達検査、社会生活能力検査、知能検査															
授業概要	知的障害を含む発達障害の臨床・支援場面で利用される心理検査の理論、実施法、活用事例に関する講義と演習を行う。															
到達目標	1. 心理アセスメントとは何かを理解している。															
	2. 性格検査について理解している。															
	3. 発達検査や社会生活能力検査について理解している。															
	4. 発達障害に関する検査について理解している。															
	5. 知能検査について理解している。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	○	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 心理アセスメント概説—心理アセスメントの意義・留意点、心理アセスメントの方法(心理検査・面接・行動観察)、心理検査における倫理					1	面接									
	2. パーソナリティ面のアセスメント—バウムテスト・動的家族画・人物画					2	面接									
	3. 発達面や社会生活面のアセスメント—遠城寺式乳幼児分析的発達検査法(九大小児科改訂版)・KIDS乳幼児発達スケール・新版K式発達検査2020・新版S-M社会生活能力検査					3	面接									
	4. 発達障害に関するアセスメント—日本語版M-CHAT・日本版感覚プロファイル					4	面接									
	5. 発達障害に関するアセスメント—CAARS日本語版・Conners3日本語版・STRAW-R					4	面接									
	6. 知能・認知面のアセスメント 田中ビネー知能検査V①—検査概要と下位検査					5	面接									
	7. 知能・認知面のアセスメント 田中ビネー知能検査V②—下位検査と結果分析					5	面接									
	8. 知能・認知面のアセスメント WISC-IV①—検査概要と下位検査					5	面接									
	9. 知能・認知面のアセスメント WISC-IV②—下位検査と結果分析					5	面接									
	10. 知能・認知面のアセスメント WISC-IV③—結果分析と支援					5	面接									
	11. 知能・認知面のアセスメント K-ABC①—検査概要と下位検査					5	面接									
	12. 知能・認知面のアセスメント K-ABC②—下位検査と結果分析					5	面接									
	13. 知能・認知面のアセスメント DN-CAS①—検査概要と下位検査					5	面接									
	14. 知能・認知面のアセスメント DN-CAS②—下位検査と結果分析					5	面接									
15. 知能・認知面のアセスメント DN-CAS③—結果分析と支援					5	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法:①レポート(70%)、②授業中の態度・取り組みの姿勢(30%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①思考・判断:根拠を明確にして自説を述べている。 ②態度:積極的に発言する。															
フィードバックの方法	課題やレポートに対してコメントする。															
時間外の学習について	予習:次回の授業について予め学習しておく。各回90分程度 復習:自分なりのまとめのノートを作る。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。 参考書:授業のなかで適宜紹介する。 参考資料等:資料は授業のなかで適宜配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	可能な限りいろいろなテストを実際にやってもらいます。授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	知的障害教育論	教員名	松田 信夫 (実務経験) 河村 佐和子 (実務経験) (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-2096-0000010	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭 (英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目 (特別支援学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目															
授業テーマ	知的障害、教育課程、指導法、学習指導要領															
授業概要	授業概要としては「教育課程」に関する内容と「指導法」に関する内容とで構成する。「教育課程」の内容としては、学習指導要領を基準として特別支援学校 (知的障害) において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を講義する。そして、児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階、特別支援学校 (知的障害) の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方を講義する。「指導法」の内容としては、知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について講義するとともに、自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の指導の授業設計を行う方法を講義する。															
到達目標	1. 特別支援学校学習指導要領に示された各教科等の目標・内容と教育課程編成を理解している。															
	2. 年間指導計画を踏まえた個別の指導計画の作成とカリキュラム・マネジメントを理解している。															
	3. 各教科等の指導、各教科等を合わせた指導を理解し、最適な指導形態を組織する意義を理解している。															
	4. ICT及び興味・関心に着目した教材・教具を活用し、かつ生活力の育成に結びつく具体的な学習活動を指導の中心に据えることを理解している。															
	5. 自立活動の指導を理解し、自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の指導を理解している。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 特別支援教育の意義・歴史 (古代～中世) (担当: 松田信夫)					1	面接									
	2. 特別支援教育の意義・歴史 (近代～現代) (担当: 松田信夫)					1, 4	面接									
	3. 人の成長と発達～「知的障害」をとらえる～ (担当: 松田信夫)					1	面接									
	4. 個に応じた指導の必要性 (担当: 松田信夫)					2	面接									
	5. 「生活の自立」という目標への道 (担当: 松田信夫)					2	面接									
	6. 各教科等を合わせた指導 (1)～単元の設計～ (担当: 松田信夫)					3	面接									
	7. 各教科等を合わせた指導 (2)～単元の改善～ (担当: 松田信夫)					3	面接									
	8. 国語科の指導 (1)～事例と「個別の指導計画」～ (担当: 松田信夫)					3	面接									
	9. 国語科の指導 (2)～事例と学習指導要領～ (担当: 松田信夫)					3	面接									
	10. 算数・数学科の指導～事例と学習指導要領～ (担当: 松田信夫)					3	面接									
	11. 特別支援教育を支えるICTの活用 (担当: 河村佐和子)					4	面接									
	12. 授業研究を通じた学習指導の評価と改善 (担当: 松田信夫)					3	面接									
	13. 自立活動の指導 (1)～事例と「個別の指導計画」～ (担当: 松田信夫)					5	面接									
	14. 自立活動の指導 (2)～事例とカリキュラム・マネジメント～ (担当: 松田信夫)					5	面接									
	15. 自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成と学習指導 (担当: 松田信夫)					5	面接									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	評価の方法: ①授業態度・取組の姿勢 (20%)、②授業外レポート (30%)、③定期試験 (50%) により総合的に評価する。 評価の基準: ①関心・意欲・積極的に発言及び質疑応答する。 ②知識・理解・思考・判断: 根拠を明確にして自説を述べ、かつ他者からの意見を柔軟に取り入れる。 ③知識・理解・思考・判断: 講義で扱った内容を理解し、応用レベルの問題に解答する。															
フィードバックの方法	次回の授業の際に、コメント (受講生からの質問への回答) を述べる。															
時間外の学習について	予習: 講義で使用する資料を読んでおく (毎回90分程度)。 復習: 講義で使用する資料を中心に復習する (毎回90分程度)。															
教材にかかわる情報	テキスト: 講義用に作成した資料を使用する。 参考書: 授業時に随時紹介する。															
実務経験について	小学校特別支援学級教員経験: 児童の姿を想像できる実践的な話を交えて進めます。															
担当者からのメッセージ等	松田信夫のメールアドレス: <a href="mailto:nmatsuda@y-gakugei.ac.jp">nmatsuda@y-gakugei.ac.jp</a>															

授業科目名	肢体不自由教育論	教員名	川間 健之介 (実務経験) 川間 弘子 (実務経験)  【オムニバス】	免許・資格等との関係	保育士													
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UC4-2097-0000010	年次配当	3年後期4年前期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	講義	授業科目の取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭	必修												
単位数	2				SPARC教育プログラム													
					初等幼児教育専攻	選択												
					英語教育専攻													
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)																	
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目																	
授業テーマ	肢体不自由、教育課程と教育支援																	
授業概要	肢体不自由教育の歴史や制度、在籍児の実態などを概観した上で、特別支援学校における教育課程の編成の方法やカリキュラム・マネジメントの考え方について講義する。また、肢体不自由のある子どもの障害の状態や発達の特性を踏まえた配慮事項について事例をもとにして解説するとともに、自立活動および各教科等の指導に関する具体的な授業設計の方法について講義する。																	
到達目標	1. 肢体不自由教育の歴史・制度に関する基礎的な内容について説明できる。 2. 特別支援学校における教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメントの考え方について説明できる。 3. 肢体不自由教育における自立活動および各教科等の指導に関する具体的な授業設計の方法について説明できる。																	
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	・		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 肢体不自由教育の歴史・制度	(担当: 川間健之介)											1	面接				
	2. 肢体不自由の理解	(担当: 川間健之介)											1	面接				
	3. 個々の実態に応じた授業設計の考え方	(担当: 川間健之介)											3	面接				
	4. 各教科の指導における配慮事項	(担当: 川間健之介)											3	面接				
	5. 肢体不自由のある子どもの授業設計(1) 各教科の指導	(担当: 川間健之介)											2,3	面接				
	6. 肢体不自由のある子どもの授業設計(2) 個別の指導計画と年間指導計画	(担当: 川間健之介)											2,3	面接				
	7. 肢体不自由のある子どもの授業設計(3) 自立活動の指導	(担当: 川間健之介)											2,3	面接				
	8. 肢体不自由教育における教育課程編成の考え方と実際	(担当: 川間健之介)											2	面接				
	9. 肢体不自由特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメント	(担当: 川間健之介)											2	面接				
	10. インクルーシブ教育システムと肢体不自由特別支援学校の使命	(担当: 川間健之介)											1,2,3	面接				
	11. 肢体不自由の特性に応じた指導(1) 基礎的な概念の形成と運動発達	(担当: 川間弘子)											3	面接				
	12. 肢体不自由の特性に応じた指導(2) 摂食指導	(担当: 川間弘子)											3	面接				
	13. 肢体不自由の特性に応じた指導(3) コミュニケーション指導とATの導入	(担当: 川間弘子)											3	面接				
	14. 自立活動および各教科等の指導におけるICTや教材・教具の活用	(担当: 川間弘子)											3	面接				
15. 肢体不自由のある子どものライフステージに応じた教育支援の在り方	(担当: 川間弘子)											2,3	面接					
アクティブ・ラーニング	グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法: ①授業態度(10%)、②授業中に提示した課題の提出(30%)、③最終レポート(60%)により、総合的に評価する。 評価の基準: ①関心・意欲: 積極的に参加している。 ②思考・判断: 根拠を明確にして自説を述べている。 ③知識・理解、思考・判断: 根拠を明確にして自説を述べている。 思考・判断: 記述内容が適切である。																	
フィードバックの方法	授業中にコメントする																	
時間外の学習について	予習: 授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。各回90分程度 復習: 授業中の配付資料を次回までに復習しておく。各回90分程度																	
教材にかかわる情報	テキスト: 「肢体不自由児の教育」川間健之介・徳永亜希雄古編著 2026年 NHK出版 特別支援学校学習指導要領(平成29年4月) // 解説(総則編) // (自立活動編)																	
実務経験について	川間弘子・川間健之介: 養護学校・特別支援学校教員経験をもとに実践的な内容を交えて進めます。																	
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。																	

授業科目名	病弱教育論	教員名	深澤 美華恵(実務経験) 河村 佐和子(実務経験) 【オムニバス】	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UC4-2098-0000010	年次配当	3年後期4年前期 (集中講義)		小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	遠隔授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭	必修												
単位数	2				SPARC教育プログラム													
特別支援教育に関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)																	
各科目に含める ことが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目																	
授業テーマ	病弱、教育課程と教育支援																	
授業概要	病弱教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程とカリキュラム・マネジメント、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び病弱児教育の実際についてふれる。さらに、病弱児の病気や障害の状態、発達段階等を踏まえた指導上の配慮事項について具体的に解説する。なお、講義内容に関する質疑応答は、メール(深澤・河村)または面接(河村)で実施する。																	
到達目標	1. 病弱教育の概要を理解し、説明できる。																	
	2. 病弱児の教育課程とカリキュラム・マネジメント、教育支援について理解し、概要を説明できる。																	
	3. 特別支援教育における病弱教育の実際について理解し、事例を挙げて説明できる。																	
	4. 病弱児の病気等の状態及び発達段階等を踏まえた具体的な授業設計の方法について、具体例を挙げて説明できる。																	
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	.	⑦	.	⑧	.		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 病弱教育における対象児と疾患の理解(担当:深澤美華恵)																1	オンデマンド
	2. 病弱教育の歴史(担当:深澤美華恵)																1	オンデマンド
	3. 病弱児の理解(1)～概念と就学基準～(担当:深澤美華恵)																1	オンデマンド
	4. 病弱児の理解(2)～心理と行動特性～(担当:深澤美華恵)																1	オンデマンド
	5. 病弱教育の教育形態(担当:深澤美華恵)																1	オンデマンド
	6. 病弱教育の教育課程とカリキュラム・マネジメント(担当:深澤美華恵、河村佐和子)																2	オンデマンド
	7. 病気等の状態及び発達段階を踏まえた指導(授業設計等)(1)～アレルギー疾患等～(担当:深澤美華恵)																3,4	オンデマンド
	8. 病気等の状態及び発達段階を踏まえた指導(授業設計等)(2)～小児がん等～(担当:深澤美華恵)																3,4	オンデマンド
	9. 病気等の状態及び発達段階を踏まえた指導(授業設計等)(3)～心疾患・腎疾患・糖尿病等～(担当:深澤美華恵)																3,4	オンデマンド
	10. 病気等の状態及び発達段階を踏まえた指導(授業設計等)(4)～心身症・精神疾患等～(担当:深澤美華恵)																3,4	オンデマンド
	11. 特別支援学級における病弱児教育の実際(担当:深澤美華恵)																3	オンデマンド
	12. 特別支援学校における病弱児教育の実際(担当:深澤美華恵)																3	オンデマンド
	13. 自立活動や自立活動の指導との関連を踏まえた学習指導案の作成(担当:深澤美華恵)																4	オンデマンド
	14. 病弱教育のこれから—情報機器の活用や仮想体験の導入—(担当:深澤美華恵)																4	オンデマンド
15. 病弱教育にかかわる専門性(担当:深澤美華恵、河村佐和子)																4	オンデマンド・面接	
アクティブ・ラーニング	グループワーク																	
成績評価基準	評価の方法:①授業態度(10%)、②授業中に提示した課題の提出(60%)、③最終レポート(30%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:積極的に参加している。 ②思考・判断:根拠を明確にして自説を述べている。 ③知識・理解、思考・判断:根拠を明確にして自説を述べている。																	
フィードバックの方法	授業中にコメントする																	
時間外の学習について	予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。各回90分程度 復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。各回90分程度																	
教材にかかわる情報	テキスト:講義用に作成した資料を使用する。 参考書:授業時に随時紹介する。																	
実務経験について	深澤・河村 特別支援学校教員経験:実践的な話を交えて進めます。																	
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。																	

授業科目名	知的障害教育指導論	教員名	松岡 勝彦 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-2099-000010	年次配当	3年後期4年前期 (集中講義)		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
特別支援教育に 関する科目	特別支援教育領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目															
授業テーマ	・知的障害の特性、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と行動面・心理面及び生理面の特徴 ・知的障害特別支援学校における教育課程の意義 ・知的障害の特性及び心身の発達の段階等を踏まえた教育課程、アセスメント法/指導法/効果検証法(自立活動を含む授業場면을想定した指導計画の設計) ・家庭・医療機関を含む他機関との連携 ・個別の指導計画の作成と内容の取扱い、必要に応じた改善、保護者との連携 ・教師としての心構え															
授業概要	知的障害のある人たちを支える「応用行動分析」の基礎について学習した後、知的障害(ダウン症、自閉症スペクトラムを含む)の特性ほか、日常生活スキル及びコミュニケーション並びに行動問題の理解と指導について、自立活動を含む具体的実践場面を通して基本を抑える。授業にはDVD等の映像を適宜使用する。															
到達目標	1.知的障害の特性、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と行動面・心理面及び生理面の特徴について説明できる。 2.知的障害の特性及び心身の発達の段階等を踏まえた教育課程、アセスメント法/指導法/効果検証法(自立活動を含む授業場면을想定した指導計画の設計)、個別の指導計画の作成等、また、家庭・医療機関を含む他機関との連携事例について説明できる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画							目標	方法								
	1. 応用行動分析の基礎(応用行動分析の社会への貢献/行動の定義/ABC分析ほか)						2	面接								
	2. 応用行動分析の基礎(強化/罰(罰の危険性)/消去ほか)						2	面接								
	3. 応用行動分析の基礎(行動目標の設定/行動の指標ほか)						2	面接								
	4. 教育現場で使える指導方法(プロンプト法/トークンエコノミー法/レスポンスコストほか)						2	面接								
	5. 教育現場で使える指導方法(モデリング/課題分析/チェイニングほか)						2	面接								
	6. 教育現場で使える指導方法(回復過剰修正法/タイムアウトほか)						2	面接								
	7. 教育課程と研究計画(特別支援教育における教育課程と現場で応用できる研究計画ほか)						2	面接								
	8. 知的障害の特性、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症						1	面接								
	9. 知的障害の行動面・心理面の特性(行動的・心理的特徴と配慮事項)						1	面接								
	10. 知的障害の生理面の特性(有病率/症状/ほか)						1	面接								
	11. 自閉症スペクトラムの特性、自閉スペクトラム症の併存症・合併症						1	面接								
	12. 自閉スペクトラム症の行動面・心理面の特性(行動的・心理的特徴と配慮事項)						1	面接								
	13. 知的障害のある人への指導事例(指導の前に/教師としての心構え、個別の指導計画の作成・保護者との連携等)						1,2	面接								
	14. 知的障害のある人への指導事例(自立活動場面等における日常生活及びコミュニケーションの指導、家庭・医療機関との連携事例を含む)						1,2	面接								
15. 知的障害のある人への指導事例(自立活動場面等における行動問題のアセスメントとその結果に基づいた指導、家庭・医療機関との連携事例を含む)						1,2	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション グループワーク 意見発表															
成績評価基準	評価の方法:①授業参加度・授業態度(10%)、②レポート(90%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:積極的に参加している。 ②知識・理解・思考・判断:根拠を明確にして自説を書いている。															
フィードバックの方法	授業中にコメントする。															
時間外の 学習について	予習:授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。各回90分程度 復習:授業中の配付資料を次回までに復習しておく。各回90分程度															
教材にかかわる 情報	テキスト:講義で使用する資料はこちらで準備します。 参考書:松岡勝彦(2023)「発達障害とは?」現場で役立つ教育相談入門。春日由美・五十嵐亮(編著)。北樹出版。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	発達障害・重複障害 教育総論		教員名	田原卓浩(実務経験) 宮木秀雄(実務経験) 川間健之介 (オムニバス)	免許・資格等 との関係	保育士										
						幼稚園教諭										
ナンバリングコード	UC2-2100-0000010		年次配当	2年後期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭										
						中学校教諭(英語)										
授業形態	講義		授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)										
						特別支援学校教諭	必修									
単位数	2					SPARC教育プログラム										
授業テーマ	発達障害、特別の教育課程、通級指導、自立活動、重複障害、教育課程の取扱い															
授業概要	<p>・学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症を中心とした発達障害や、重複障害を有する子どもたちの心理や病理・生理(相互作用並びに二次的障害等も含む)について、適切な支援と指導も含めて論ずるとともに、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携の重要性についても述べる。</p> <p>・発達障害教育、重複障害教育において、教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントについて教育実践に即して述べるとともに、自立活動や、自立活動の指導を踏まえた各教科等の指導について、実践事例に基づき具体的に講義する。</p>															
到達目標	1. 発達障害・重複障害の定義と心理・生理・病理の特徴、相互作用や二次障害等について説明できる。															
	2. 家庭や関係機関との連携の重要性を理解している。															
	3. 発達障害における特別の教育課程や重複障害教育における教育課程の取扱いを理解している。															
	4. 発達障害・重複障害教育における個別の指導計画とカリキュラム・マネジメントについて理解している。															
	5. 発達障害・重複障害のある子どもの授業設計ができ、授業改善についても説明できる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	○	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画							目標	方法								
	1. 発達障害と心理・病理・生理、及びそれらの相互作用並びに二次障害・併存症 (担当:田原卓浩)						1	面接								
	2. 発達障害の感覚・認知・行動特性 (担当:宮木秀雄)						1	面接								
	3. 発達障害教育の場と特別の教育課程の編成の意義・方法 (担当:宮木秀雄)						3	面接								
	4. 発達障害のある子どもへの行動支援(1)～問題行動の分析と、センター的機能 (担当:宮木秀雄)						1,2	面接								
	5. 発達障害のある子どもへの行動支援(2)～望ましい行動と、家庭や関係機関との連携 (担当:宮木秀雄)						1,2	面接								
	6. 発達障害のある子どもへの行動支援(3)～事例検討:通常の学級と特別支援学級 (担当:宮木秀雄)						3	面接								
	7. 発達障害のある子どもへの学習支援(1)～個別の指導計画とカリキュラム・マネジメント (担当:宮木秀雄)						4	面接								
	8. 発達障害のある子どもへの学習支援(2)～各教科等の指導(ICT等の活用を含む) (担当:宮木秀雄)						5	面接								
	9. 発達障害のある子どもへの学習支援(3)～自立活動の指導(ICT等の活用を含む)及び自立活動の指導を踏まえた授業改善の方策 (担当:宮木秀雄)						5	面接								
	10. 発達障害のある子どもへの集団支援～集団随伴性やポジティブ行動支援、三層モデル等 (担当:宮木秀雄)						5	面接								
	11. 重複障害の教育(1)～重複障害の定義と心理・生理・病理の特徴、及び重複障害児に対する教育課程 (担当:川間健之介)						1,3	面接								
	12. 重複障害児の学習・行動支援～自立活動の必要性和家庭や関係機関との連携、並びに個別の指導計画及びカリキュラム・マネジメント (担当:川間健之介)						4	面接								
	13. 重複障害児の指導の実際(1)～自立活動の指導(ICT等の活用を含む)と授業づくり (医療的ケア児の指導を含む) (担当:川間健之介)						5	面接								
	14. 重複障害児の指導の実際(2)～各教科等の指導(ICT等の活用を含む)と自立活動を踏まえた授業改善 (担当:川間健之介)						5	面接								
15. 重複障害児の指導の実際(3)～言語・コミュニケーション支援(ICT等の活用を含む)とまとめ (担当:川間健之介)						5	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	<p>評価の方法:①学習指導案(30%)、②レポート(40%)、③合計3回程度の小テスト(30%)により、総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:①技能・表現:授業の内容を踏まえて、指導案を作成できる。</p> <p>②思考・判断:根拠を明確にして自説を述べている。</p> <p>③知識・理解:発達障害及び重複障害の授業実践に必要な基礎的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。</p>															
フィードバックの方法	小テストの結果をコメントする。レポートに対してコメントする。															
時間外の学習について	<p>予習:次回の授業について予め学習しておく。各回90分程度</p> <p>復習:自分なりのまとめのノートを作る。各回90分程度</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト:特になし。</p> <p>参考書:資料は授業のなかで適宜紹介する。</p> <p>参考資料等:資料は授業のなかで適宜紹介する。</p>															
実務経験について	実践的な話を交えて進めます。															
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	視覚障害児教育総論	教員名	門脇 弘樹 牟田口 辰己(実務経験) 【オムニバス】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2101-0000010	年次配当	3年前期 (集中講義)	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻											
特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含めることが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目															
授業テーマ	視覚障害、心理・生理・病理、教育課程、指導法、特別支援学校															
授業概要	視覚障害教育の教育課程とカリキュラム・マネジメントを解説するとともに、特別支援学校(視覚障害)において展開されている授業の実践について、障害に応じた授業の特色を理解し、授業を構成するために必要な知識や技能、授業設計のための基礎的な事項について理解を深めることをねらいとする授業である。															
到達目標	1. 視覚障害教育の基本的な内容について説明できる。 2. 視覚障害児の教育課程とカリキュラム・マネジメントについて説明できる。 3. 盲児と弱視児に対する指導法について具体例をそれぞれ三つ以上挙げるができる。 4. 家庭や関係機関との連携の重要性について事例を踏まえて説明できる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	・	⑤	・	⑥	○	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画												目標	方法			
	1. 視覚障害に関する心理・生理・病理学的特徴(担当:門脇弘樹)											1	面接			
	2. 視覚障害児童生徒の就学基準と特別支援学校、弱視特別支援学級、弱視通級指導教室の概要(担当:門脇弘樹)											1,2	面接			
	3. 視覚障害教育の発展のあゆみ(担当:門脇弘樹)											1,2,3	面接			
	4. 視覚障害教育における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント(担当:牟田口辰己)											2	面接			
	5. 視覚障害教育における年間指導計画と個別の指導計画の作成(担当:牟田口辰己)											2	面接			
	6. 盲児に対する指導の配慮と工夫(1)学習指導要領で指摘される各教科に共通した配慮事項(担当:牟田口辰己)											2,3	面接			
	7. 盲児に対する指導の配慮と工夫(2)点字教科書の編集(担当:牟田口辰己)											3	面接			
	8. 弱視児に対する指導の配慮と工夫(1)視覚補助具やICTの活用(担当:牟田口辰己)											3	面接			
	9. 弱視児に対する指導の配慮と工夫(2)拡大教科書の概要(担当:牟田口辰己)											3	面接			
	10. 教科指導の実践(1)国語における漢字・漢語の指導と自立活動の指導との関連(担当:牟田口辰己)											2,3	面接			
	11. 教科指導の実践(2)算数における計算・図形の指導と自立活動の指導との関連(担当:牟田口辰己)											2,3	面接			
	12. 自立活動の指導の実践(1)日本点字の発明と6点字の概要(担当:牟田口辰己)											2,3	面接			
	13. 自立活動の指導の実践(2)点字の読み書きの指導(担当:牟田口辰己)											2,3	面接			
	14. 自立活動の指導の実践(3)視覚障害者と歩行(担当:門脇弘樹)											2,3	面接			
	15. 家庭や医療機関との連携の重要性(担当:門脇弘樹)											4	面接			
	◎定期試験															
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	評価の方法:①授業態度(20%)、②筆記試験(80%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:講義内の演習等に積極的に取り組んでいる。 ②知識・理解:視覚障害教育における教育課程や指導法等に関する問題に解答できる。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。															
時間外の学習について	予習:授業に関する配布資料を講義までに読んでおく。各回90分程度 復習:授業に関する配布資料を次回までに復習しておく。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。適宜資料を配布する。 参考書:講義の中で適宜紹介する。															
実務経験について	盲学校での教員経験をもとに、実践的な話を交えて進めます。															
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	聴覚障害児教育総論	教員名	林田 真志 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-2102-0000010	年次配当	3年前期 (集中講義)		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	遠隔授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭	必修										
単位数	2				SPARC教育プログラム											
特別支援教育に関する科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目(特別支援学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目</li> <li>・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目</li> </ul>															
授業テーマ	聴覚障害、心理・生理・病理、教育課程・指導法															
授業概要	聴覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、聴覚の解剖学的構造と機能、聴覚機能の発達と評価、聴覚障害の原因やきこえの特徴について解説する。また、教育課程と指導法に関する内容として、特別支援学校・学級(聴覚障害)等における教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメント、ならびに環境把握やコミュニケーション、言語発達、教科学習・自立活動、個々の実態に応じた授業設計、肯定的な障害認識、社会性の育成に関する指導の実践について解説するとともに、聴覚障害教育における個別の指導計画と年間指導計画、家庭や関係機関との連携について解説する。															
到達目標	1. 聴覚障害の心理・生理・病理に関する基礎的事項について説明できる。															
	2. 聴覚障害教育における教育課程の編成について説明できる。															
	3. 聴覚障害のある子どもにむけた指導を実践するための知識や技能について説明できる。															
	4. 聴覚障害のある子どもの家庭や関係機関との連携の重要性について説明できる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	○	④	.	⑤	.	⑥	○	⑦	.	⑧	.
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. きこえにくさの理解ときこえの仕組み					1,2,3	同時双方向									
	2. 聴覚の発達と評価					1,2	同時双方向									
	3. 聴覚障害の原因ときこえの特徴					1,2	同時双方向									
	4. 聴覚障害の程度とその分類					1,2	同時双方向									
	5. 補聴器の機能と活用方法					1,2	同時双方向									
	6. 人工内耳の機能と活用方法					1,2	同時双方向									
	7. 聴覚障害のある子どもをもつ保護者の支援と多職種連携					4	同時双方向									
	8. 聴覚障害幼児児童生徒に対するコミュニケーション指導とICTの活用					2,3	同時双方向									
	9. 聴覚障害児童生徒に対する書記言語指導と教科指導					2,3	同時双方向									
	10. 聴覚障害児童生徒に対する自立活動の指導					2,3	同時双方向									
	11. 聴覚障害生徒の肯定的な障害認識にむけた指導					2,3	同時双方向									
	12. 聴覚障害幼児児童生徒の社会性の発達を促す指導					2,3	同時双方向									
	13. 個々の実態に応じた授業設計の考え方					2,3	同時双方向									
	14. 聴覚障害教育における個別の指導計画と年間指導計画					2,3	同時双方向									
	15. 聴覚障害教育における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメント					1,2	同時双方向									
◎定期試験																
アクティブ・ラーニング	グループワーク															
成績評価基準	<p>評価の方法：①授業への参加意欲・態度(20%)、②レポート(80%)により、総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①関心・意欲：意見や回答を求められた際や、協議の場で積極的に発言する。</p> <p>②思考・判断、技能・表現：映像視聴シートやレポートにおいて自身の意見を論理的に記述する。</p>															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。															
時間外の学習について	<p>予習：配布する資料について、読んでおく。各回90分程度</p> <p>復習：配布した資料を中心に、復習する。各回90分程度</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：適宜資料を配布する。</p> <p>参考書：・井澤信三他(2010)『障害児心理入門』、ミネルヴァ書房、ISBN 9784623058143</p> <p>・脇中起余子(2009)『聴覚障害教育これまでとこれから』、北大路書房、ISBN 9784762826900</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	授業内で連絡先を周知します。															

授業科目名	現代教育課題Ⅰ	教員名	檜垣 英夫(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-2103-000000	年次配当	3年後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	教育的課題、変化の激しい社会、学校を取り巻く環境、複雑化・多様化、実践的指導力、深い教育的愛情、課題解決能力															
授業概要	グローバル化や情報化の進展など社会を取り巻く環境が急速に変化する中、国が示す学習指導要領や教育振興基本計画、中教審答申などについて、その概要を把握した上で、今、社会に求められるグローバル人材や、ICT活用指導力を備えた教員の育成をはじめ、いじめ・不登校等の児童生徒指導上の諸課題への対応や、教員の多忙化や不祥事等の様々な教育課題について理解を深める。															
到達目標	1. 社会を取り巻く教育課題について説明できる。 2. 教育課題等の解決に向けての国や県の動きを説明できる。 3. 教育課題等の解決に向けて、学校現場で実践されていることについて説明できる。 4. 教育課題等の解決に向けての支援や対応について説明できる。 5. 教育課題等の解決に向けての支援や対応について自分の意見を述べるができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	小・中・高等学校・特別支援学校の教員を希望している者															
授業計画					目標	方法										
	1. 教育をめぐる現状と課題①—国の教育課題[第4期教育振興基本計画、令和の日本型学校教育等]				1,2,3	面接										
	2. 教育をめぐる現状と課題②—国の教育課題 [令和の日本型学校教育]				1,2,3	面接										
	3. 教育をめぐる現状と課題③—山口県の教育課題 [山口県第4期教育振興基本計画、県教育推進の手引]				1,2,3,4,5	面接										
	4. 学習指導要領がめざす教育				1,2,3	面接										
	5. 生徒指導の現状と課題[生徒指導提要]				1,2,3,4,5	面接										
	6. 生徒指導①				1,2,3	面接										
	7. 生徒指導②				1,2,3,4,5	面接										
	8. 特別支援教育における現状と課題				1,2,3	面接										
	9. いじめへの対応				1,2,3,4,5	面接										
	10. 不登校児童・生徒への対応				1,2,3,4,5	面接										
	11. 虐待の現状と課題(子どもの問題)				1,2,3,4	面接										
	12. 人権教育における現状と課題				1,2,3	面接										
	13. 体罰・セクハラ・パワハラ等の現状				1,2,3,4	面接										
	14. 教育の情報化における現状と課題				1,2,3,4	面接										
15. 教員の働き方改革				1,2,3,4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等															
成績評価基準	評価の方法：①小テスト(60%)、②レポート(30%)、③発表・グループワーク等への参加度(10%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：テキストやプリントに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ②思考・判断、表現：レポートの記述内容が適切である。 ③関心・意欲、表現：グループワークや発表に積極的に参加し、明確に表現できる。															
フィードバックの方法	小テスト時、教育課題等の発表後や随時プリント等にて還元指導															
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を把握しておく。前時学修した内容の小テストの準備。各回90分程度 復習：既習内容を理解し自分の意見を述べるができるようにする。次回の小テストに向けて知識の定着を図る。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：資料配布 参考書：『生徒指導提要』文部科学省 『文部科学省白書』文部科学省 国が示す各種答申(中教審答申)、通知文等 参考資料等：随時プリント配布															
実務経験について	授業者は、学校現場及び教育行政機関での経験をもとに、様々な教育課題への対応等について話をします。また、教員採用試験の対策にもなります。															
担当者からのメッセージ等	学校教育の直接の担い手となる皆さんには、様々な教育課題に柔軟に対応する力が求められています。日頃から新聞や関係書籍等で教育課題に触れ、児童生徒の視点に立った教育支援や対応を考え、授業に臨んでください。Email:hhigaki@y-gakugei.ac.jp(檜垣)															

授業科目名	現代教育課題Ⅱ	教員名	檜垣 英夫(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM4-2104-000000	年次配当	4年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻	選択										
授業テーマ	教育的課題、変化の激しい社会、学校を取り巻く環境、複雑化・多様化、実践的指導力、深い教育的愛情、課題解決能力															
授業概要	グローバル化や情報化の進展など社会を取り巻く環境が急速に変化する中、国が示す学習指導要領や教育振興基本計画、中教審答申などについて、その内容を理解した上で、今、社会に求められるグローバル人材や、ICT活用指導力を備えた教員の育成をはじめ、いじめ・不登校等の児童生徒指導上の諸課題への対応や、教員の多忙化や不祥事等の様々な教育課題について理解を深めるとともに、課題解決に向けて、何をすべきかについて自分の考えをもち、他者へ口頭または紙上で意見を述べる機会を設ける。															
到達目標	1. 社会を取り巻く教育課題について理解することができる。															
	2. 教育課題等解決に向けての国や県の動きを理解するとともに、その背景について考えることができる。															
	3. 教育課題解決に向けての支援や対応について、自分の意見を述べるすることができる。															
	4. 教育課題解決に向けて、チーム学校の一員として支援や対応について考えることができる。															
	5. 教育課題等に対して、家庭、地域・関係機関との連携を視野に入れ、支援や対応を発表することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	小・中・高等学校・特別支援学校の教員を希望している者															
授業計画						目標	方法									
	1. 教育をめぐる現状と課題、国の教育改革[第4期教育振興基本計画の概要、令和の日本型学校教育]					1,2,3,4	面接									
	2. 新学習指導要領の方向性 [育成すべき資質・能力/主な改定項目 他]					1,2,3,4	面接									
	3. 生徒指導[規範意識の向上 他]					1,2,3,4,5	面接									
	4. 地域と連携した学校づくり [コミュニティスクール/郷土愛の育成 他]					1,2,3,4,5	面接									
	5. 家庭と連携した学校づくり [保護者との円滑な関係づくり 他]					1,2,3,4,5	面接									
	6. 道徳教育 [道徳性の向上] ①					1,2,3,4,5	面接									
	7. 道徳教育 [道徳性の向上] ②					1,2,3,4,5	面接									
	8. いじめ、不登校の問題					1,2,3,4,5	面接									
	9. 人権教育					1,2,3,4,5	面接									
	10. 教員に求められる資質・能力					1,2,3,4,5	面接									
	11. 学力の問題					1,2,3,4,5	面接									
	12. キャリア教育					1,2,3,4,5	面接									
	13. 学校安全・学校自己・学校防災					1,2,3,4,5	面接									
	14. 共生社会の形成 [インクルーシブ教育/合理的配慮 他]					1,2,3,4,5	面接									
15. 働き方改革の動向					1,2,3,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等															
成績評価基準	評価の方法：①小テスト(60%)、②レポート(30%)、③発表・グループワーク等への参加度(10%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：テキストやプリントに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ②思考・判断、表現：レポートの記述内容が適切である。 ③関心・意欲、表現：グループワークや発表に積極的に参加し、明確に表現できる。															
フィードバックの方法	小テスト時、教育課題等の発表後や随時プリント等にて還元指導															
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を理解しておく。前時学修した内容の小テストの準備。各回90分程度 復習：既習内容を理解し、自分の考えを発表できるようにする。次回的小テストに向けて知識の定着を図る。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：資料配布 参考書：『生徒指導提要』 『文部科学省白書』文部科学省 国が示す各種答申(中教審答申)、通知文等 参考資料等：随時プリント配布															
実務経験について	授業者は、学校現場及び教育行政機関での経験をもとに、様々な教育課題への対応等について話をします。また、教員採用試験の対策にもなります。															
担当者からのメッセージ等	学校教育の直接の担い手となる皆さんには、様々な教育課題に柔軟に対応する力が求められています。日頃から新聞や関係書籍等で教育課題に触れ、児童生徒の視点に立った教育支援や対応を考え、授業に臨んでください。 Email:hhigaki@y-gakugei.ac.jp(檜垣)															

授業科目名	資格英語 I	教員名	二五 義博 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	CMI-2105-0000000	年次配当	1 年前期	卒業要件	小学校教諭	
					中学校教諭 (英語)	
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)	
					特別支援学校教諭	
単位数	2				初等幼児教育専攻	選択
					英語教育専攻	選択
授業テーマ	教育者に求められる英語運用力、TOEIC、英検、音読					
授業概要	2020年度より小学校で英語が教科になりました。小学校教諭はCEFRの基準でB1、中高英語教員はB2以上の英語力を持つことが望ましいとされています。この授業を通じて、総合的な英語運用力の向上を目指します。					
到達目標	以下の3点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。					
	1. CEFRでB1相当の英語力を獲得している。					
	2. 自分の考えを英語で表現しようとするができる。					
到達目標	3. 与えられた英文をその意味を考えながら正しく調音化することができる。					
	①	○	②	◎	③	○
	④	○	⑤	・	⑥	・
学修成果との関係	⑦	・	⑧	・	⑨	・
履修条件・注意事項						
授業計画					目標	方法
	1. 授業についての説明				1,2,3	面接
	2. 語彙問題演習 (B1 レベル) /テキストUnit 1				1,2,3	面接
	3. 語彙問題演習 (B2 レベル) /テキストUnit 1				1,2,3	面接
	4. Reading (B1 レベル) /テキストUnit 2				1,2,3	面接
	5. Reading (B2 レベル) /テキストUnit 2				1,2,3	面接
	6. Writing (B1 レベル) /テキストUnit 3				1,2,3	面接
	7. Writing (B2 レベル) /テキストUnit 3				1,2,3	面接
	8. Listening (B1 レベル) /テキストUnit 4				1,2,3	面接
	9. Listening (B2 レベル) /テキストUnit 4				1,2,3	面接
	10. Speaking (B1 レベル) /テキストUnit 5				1,2,3	面接
	11. Speaking (B2 レベル) /テキストUnit 5				1,2,3	面接
	12. 英語面接練習 (B1 レベル) /テキストUnit6				1,2,3	面接
	13. 英語面接練習 (B2 レベル) /テキストUnit6				1,2,3	面接
	14. 文法演習 (B2 レベル)				1,2,3	面接
15. まとめ・到達目標の確認				1,2,3	面接	
◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表を中心とした授業を行う。					
成績評価基準	評価の方法：①ペア (グループ) ワーク等への参加態度 (20%)、②授業内で実施する小テストおよび定期試験 (60%)、③発表 (20%) により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：音読やペア (グループ) ワーク等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・理解：TOEIC や英検のリスニングおよびリーディング (語彙も含む) 問題を解くことができる。 ③思考・判断：自分の考えを口頭またはライティングにて適切に表現できる。					
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う。					
時間外の学習について	予習：授業内で指定された箇所を予習した上で授業に臨むこと。(各回90分程度) 復習：授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：角山照彦・Simon Capper. (2016). 『音読で極める基礎英語 Let's Read Aloud More!』 東京：成美堂 ISBN9784791947867 ¥2,200 参考資料等：授業内でプリント等を配布する。					
実務経験について						
担当者からのメッセージ	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp					

授業科目名	資格英語Ⅱ	教員名	檜垣英夫(実務経験) (単独)	免許・資格等 との関係	保育士		
					幼稚園教諭		
ナンバリングコード	CMI-2106-0000000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭		
					中学校教諭(英語)		
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)		
					特別支援学校教諭		
単位数	2				SPARC教育プログラム		
授業テーマ	教育者に求められる英語運用力、TOEIC、英検、音読						
授業概要	2020年度より小学校で英語が5・6年生で教科になり、外国語(英語)活動が3・4年生に前倒しとなりました。小学校教員はCEFRの基準でB1, 中高英語教員はB2以上の英語力を持つことが望ましいとされています。この授業を通じて、総合的な英語運用力の向上を目指します。						
到達目標	以下の4点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。						
	1.CEFRでB1相当の英語力を獲得している。						
	2.自分の考えを英語で表現しようとするができる。						
	3.与えられた英文をその意味を考えながら正しく音読することができる。						
学修成果との関係	①	・	②	◎	③	・	
	④	・	⑤	・	⑥	・	
履修条件・注意事項							
授業計画						目標	方法
	1. 授業についての説明					1,2,3,4	面接
	2. 語彙問題演習 (B1~B2 レベル) /テキストUnit 7					1,2,3,4	面接
	3. 語彙問題演習 (B2 レベル) /テキストUnit 7					1,2,3,4	面接
	4. Reading (B1~B2 レベル) /テキストUnit 8					1,2,3,4	面接
	5. Reading (B2 レベル) /テキストUnit 8					1,2,3,4	面接
	6. Writing (B1~B2 レベル) /テキストUnit 9					1,2,3,4	面接
	7. Writing (B2 レベル) /テキストUnit 9					1,2,3,4	面接
	8. Listening (B1~B2 レベル) /テキストUnit 10					1,2,3,4	面接
	9. Listening (B2 レベル) /テキストUnit 10					1,2,3,4	面接
	10. Speaking (B1~B2 レベル) /テキストUnit 11					1,2,3,4	面接
	11. Speaking (B2 レベル) /テキストUnit 11					1,2,3,4	面接
	12. 英語面接練習 (B1~B2 レベル) /テキストUnit 12					1,2,3,4	面接
	13. 英語面接練習 (B2 レベル) /テキストUnit 12					1,2,3,4	面接
	14. 文法演習 (B2 レベル) /テキストUnit 13					1,2,3,4	面接
	15. まとめ・到達目標の確認/テキストUnit 13					1,2,3,4	面接
◎定期試験							
アクティブ・ラーニング	グループワーク、発表を中心とした授業を行う。						
成績評価基準	<p>評価の方法：①ペア(グループ)ワーク等への参加姿勢[attitude](20%)、②授業内で実施する小テスト(60%)、③発表(20%)等により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①関心・意欲：音読やペア(グループ)ワーク等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>②知識・理解：英検等の資格試験を意識して構成されているテキストに掲載されているリスニングやリーディング(語彙も含む)等の基礎的な知識・技能に関する問題を解くことができる。</p> <p>③思考・判断：自分の考えを口頭またはライティングにて適切に表現できる。</p>						
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う。						
時間外の学習について	<p>予習：授業内で指定された箇所を予習した上で授業に臨むこと。</p> <p>復習：授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。(予習・復習とも各回90分程度)</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト：角山照彦・Simon Capper. (2016). 『音読で極める基礎英語 Let's Read Aloud More!』</p> <p>東京：成美堂 ISBN9784791947867 ¥2,200 参考資料等：授業内でプリント等を配布する。</p>						
実務経験について	高校教員の経験をもとに、高校から大学にかけての英語学習の動機づけとして資格取得が重要であることに触れます。						
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。Email:hhigaki@y-gakugei.ac.jp						

授業科目名	障害の理解と支援	教員名	佐藤 真澄 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2107-0000000	年次配当	1年前期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
					初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻	選択										
授業テーマ	障害者福祉の思想・理念、障害者福祉の理論・制度、共生社会															
授業概要	「障がい」とは何かを、思想・理論の両面から理解したうえで、現代の障がい者を取り巻く諸問題とそれを克服しようとする実践事例、制度・政策について体系的に学ぶ。 さらに、障がいのある当事者との交流を通して、体験的に「障がい」とは何かを理解する。															
到達目標	1. 障害者福祉の思想や基本理念、人権意識について理解できる。 2. 障害者福祉の理論、制度について理解できる。 3. 障害児・者を取り巻く現代社会の状況や諸課題について理解できる。 4. ライフステージに応じた支援のあり方や、障害特性に応じたコミュニケーションの技法について理解できる。 5. 共生社会の実現のために、地域社会の一員としてどうあるべきか自分の考えを述べることができる。															
学修成果との関係	①	○	②	◎	③	・	④	○	⑤	○	⑥	○	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画							目標	方法								
	1. 障害論：「障がいとは何か」を多面的に考察し、自分自身の障がい観を振り返る、						1,5	面接								
	2. 障害論：国際生活機能分類からみた「障がい」						2	面接								
	3. 障害論：制度上の「障がい」の定義と障がい児・者の実態						2,3	面接								
	4. 障害者福祉の思想、基本理念：人権思想、エンパワメント、自己決定etc.						1	面接								
	5. 障害者福祉の思想、基本理念：ノーマライゼーション、インクルージョンetc.						1	面接								
	6. 障害者福祉の制度：制度の歴史の変遷						2	面接								
	7. 障害者福祉の制度：障害者福祉の新たな制度の動向						2	面接								
	8. 障害児・者を取り巻く状況と支援実践：早期療育、障害児教育						1,2,3,4	面接								
	9. 障害児・者を取り巻く状況と支援実践：地域生活支援、相談支援事業						1,2,3,4	面接								
	10. 障害児・者を取り巻く状況と支援実践：自立生活、就労支援						1,2,3,4	面接								
	11. 障がいのある人との交流：知的障害						1,4,5	面接								
	12. 障がいのある人との交流：身体障害						1,4,5	面接								
	13. 障がいのある人との交流：精神障害／発達障害						1,4,5	面接								
	14. 障がいのある人との交流：視覚障害／聴覚障害						1,4,5	面接								
	15. 総括：これからの障害者福祉のあり方						1,2,3,4,5	面接								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①レポート等の課題(50%)、②授業への参加度(50%)で総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断：学んだ内容を踏まえて自説を述べている。 ②関心・意欲、思考・判断：レスポンスカードの記述内容が適切である。ディスカッション等で積極的に発言している。															
フィードバックの方法	授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。															
時間外の学習について	予習：各回のテーマに沿って、文献やインターネット等を活用して情報収集しておく。(各回90分程度) 復習：配布した資料に沿って、授業内容をノートに整理すること。(各回90分程度) 日頃から関連するニュースや文献等に興味を持ち、情報収集しておく。															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：『よくわかる障害者福祉』 ミネルヴァ書房 参考資料等：都度適宜配布する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	「障がい」とはなにかを一緒に考える授業です。障がいのある当事者との交流を図りながら、実践的に学びます。 特別支援教育、障害児保育に興味を持っている学生には受講をお勧めします。 E-mail : satoh@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	自主課題演習 I	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2108-0000001	年次配当	1 年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC 教育プログラム	必修 ①-a										
授業テーマ	創造的研究、個性的研究、個人発表															
授業概要	図書館所蔵の書籍、インターネットから興味深い課題を発見し、それを自分なりに調べ、深く検討する。さらにそれを分かりやすく、面白さを含めて他者に伝える。練習を重ねて最後のプレゼンにつなげる。															
到達目標	1. 思想・政治・社会・文化・生活など多方面に興味関心を持つことができる。 2. 自分なりの課題を見つけ、自ら調べ、まとめることができる。 3. 分かりやすく発表し、聞き手の興味関心を高める発表ができる。															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. イントロダクション				1,2,3	面接										
	2. 自主活動および議題提供(勇気と恐怖)				1,2,3	面接										
	3. 自主活動および議題提供(アイデンティティと喪失)				1,2,3	面接										
	4. 自主活動および議題提供(笑い、ナンセンス)				1,2,3	面接										
	5. 自主活動および議題提供(心の強さ、レジリエンス)				1,2,3	面接										
	6. 自主活動および議題提供(恋愛と結婚)				1,2,3	面接										
	7. 中間報告会および振り返り				1,2,3	面接										
	8. 自主活動および議題提供(美しさ、かっこよさ)				1,2,3	面接										
	9. 自主活動および議題提供(友情と協力)				1,2,3	面接										
	10. 自主活動および議題提供(将来の夢、大人になること)				1,2,3	面接										
	11. 自主活動および議題提供(宮沢賢治の世界)				1,2,3	面接										
	12. 自主活動および議題提供(死ぬこと)				1,2,3	面接										
	13. 自主活動および議題提供(宇宙の不思議)				1,2,3	面接										
	14. 準備				1,2,3	面接										
15. 最終報告会および振り返り				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法： ①最終報告の成果(70%)、②毎時の小課題(30%)により総合的に評価する。 評価の基準： ①知識・理解・技能・表現：自分が納得できるまで十分に調べている。調べたことを他者に分かりやすく興味を持たせるようにプレゼンできる。 ②関心・意欲：興味関心をもって考察している。															
フィードバックの方法	学生のプレゼンについて、改善のためのアドバイスをする。															
時間外の学習について	授業中はグループワークやディスカッションを行います。 資料を読み、調べて準備するのは授業時間以外で行ってください。 予習： 資料を読む、まとめる。各回90分程度 復習： プレゼンについて振り返り、再度修正する。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料等：末永幸歩著『13歳からのアート思考』ダイヤモンド社、2020年。 狩野みさ著『自分で考える力』の授業』PHP文庫、2020年。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	1年生の科目であるが、過年度生も遠慮なく受けて欲しい。 E-mail:kawano@gakugei.ac.jp															

授業科目名	自主課題演習Ⅱ	教員名	川野 哲也 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CMI-2109-0000000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	創造的研究、共同的研究、グループによる発表															
授業概要	図書館所蔵の書籍、インターネットから興味深い課題を発見し、それを自分なりに調べ、深く検討する。必要に応じて学内外のより詳しい人にインタビューをする。さらにそれをグループで意見交換を行い、グループ単位での発表を行う。															
到達目標	1. 思想・政治・社会・文化・生活など多方面に興味関心を持つことができる。 2. 自分なりの課題を見つけ、自ら調べ、まとめることができる。 3. 他者と意見交換を行い、グループ単位で良いプレゼンを行うことができる。															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. イントロダクション				1,2,3	面接										
	2. 自主活動および議題提供(資本主義と貨幣)				1,2,3	面接										
	3. 自主活動および議題提供(戦争と平和)				1,2,3	面接										
	4. 自主活動および議題提供(ジェンダー)				1,2,3	面接										
	5. 自主活動および議題提供(社会の一員としての責任)				1,2,3	面接										
	6. 自主活動および議題提供(医療の進歩と老い)				1,2,3	面接										
	7. 中間報告会および振り返り				1,2,3	面接										
	8. 自主活動および議題提供(正義と犯罪)				1,2,3	面接										
	9. 自主活動および議題提供(差別、ルッキズム)				1,2,3	面接										
	10. 自主活動および議題提供(対話と会話)				1,2,3	面接										
	11. 自主活動および議題提供(人々のつながり)				1,2,3	面接										
	12. 自主活動および議題提供(まちづくり)				1,2,3	面接										
	13. 自主活動および議題提供(数の不思議)				1,2,3	面接										
	14. 準備				1,2,3	面接										
15. 最終報告会および振り返り				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①最終報告の成果(70%)、②毎時の小課題(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解・技能・表現：自分が納得できるまで十分に調べている。調べたことを他者に分かりやすく興味を持たせるようにプレゼンできる。 ②関心・意欲：興味関心をもって考察している。															
フィードバックの方法	学生のプレゼンについて、改善のためのアドバイスをする。															
時間外の学習について	授業中はグループワークやディスカッションを行います。 資料を読み、調べて準備するのは授業時間以外で行ってください。 予習：資料を読む、まとめる。各回90分程度 復習：プレゼンについて振り返り、再度修正する。各回90分程度															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料等：『文藝春秋オピニオン2022年の論点100』文藝春秋、2021年。 出口治明ほか『高校生と考える日本の論点2020-30』左右社、2020年。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	1年生の科目であるが、過年度生も遠慮なく受けて欲しい。 E-mail:kawano@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	デザインと造形	教員名	西村 優子 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-2110-000001	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修 ① -b										
					初等幼児教育専攻	選択										
					英語教育専攻											
授業テーマ	イラストレーション、構成、作品制作、パソコンの機能を使った表現															
授業概要	様々な造形・創作活動を通じて美術・造形の楽しさを知り、それらを生活や教育・保育現場で活かせる授業を展開する。廃材を活用した造形作品や、PCを使った Word の描画機能による表現にも挑戦する。															
到達目標	1. 創造すること、描くこと、物を作り上げることの喜びをもって表現できる。 2. 造形物の制作にあたり用具の扱い方(関連する材料・用具を含む)、知識・技術を身につけて表現することができる。 3. 色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現することができる。 4. 制作物をまとめ、学んだことを記録して、知識や技術の定着を図ることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	水彩絵の具や筆などの画材は、貸し借りせず各自で準備すること。															
授業計画					目標	方法										
	1. 授業概要 デザインとは(各種デザイン)				1,2	面接										
	2. 明かりのデザイン① 発想・構想				1,2	面接										
	3. 明かりのデザイン② 制作				1,2	面接										
	4. 明かりのデザイン③ 仕上げ				1,2	面接										
	5. 布のデザイン① 基礎				1,2	面接										
	6. 布のデザイン② 発想・構想				1,2,3	面接										
	7. 布のデザイン③ 制作				1,2,3	面接										
	8. 布のデザイン④ 仕上げ				1,2,3	面接										
	9. スプーンの制作① 発想・構想				1,2,3	面接										
	10. スプーンの制作② 制作				1,2	面接										
	11. ポートフォリオの制作① 発想・構想				1,2	面接										
	12. ポートフォリオの制作② 制作				1,2	面接										
	13. 名刺の制作① 発想・構想				1,2	面接										
	14. 名刺の制作② 制作				1,2	面接										
15. まとめ 自己評価				4	面接											
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①提出作品(80%)、②授業中の態度、取り組みの姿勢(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①技能・表現：課題の意図を理解し、創造性を発揮して丁寧に作品制作に取り組むことができる。 ②意欲・態度：創造性を発揮し積極的に授業に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行う。															
時間外の学習について	予習：前日に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等の準備をしておくこと。 復習：時間内に終わらなかった課題は、次回に持ち越すことなく各自で完了しておくこと。															
教材にかかわる情報	参考資料等：随時参考資料及び課題についての説明資料を配付する。 13回目、14回目はノートPCを使用する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	A3袋ファイルを各自で準備し、その都度、自己評価票と共にまとめる。立体物は写真に記録しファイリングすること。 担当者の連絡先・E-mail：授業内で周知します。															

授業科目名	器楽アンサンブル	教員名	松田 和寛(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-2111-0000000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	器楽、吹奏楽、アンサンブル、管楽器、打楽器															
授業概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、チューニング、ロングトーン、音階練習などを行う。曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、曲の構成や楽器の編成などを理解できるように進めていく。															
到達目標	1. 正しく楽器を構えて演奏できる。 2. 楽器の特性に応じた身体の使い方を基に合理的な演奏ができる。 3. 自然で安定した音を持続して出すことができる。 4. 相対的な音程感覚から他者の音に対する自身の音程の高低を認識し、調整することができる。 5. 各調性の音階を正確に演奏することができる。															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. 各楽器のメンテナンス方法と楽器の構え方、演奏姿勢				1	面接										
	2. 呼吸法、アンブッシュア、バジニング				2,3	面接										
	3. 各楽器のチューニング				3,4	面接										
	4. 全体のチューニング				3,4	面接										
	5. 発音の練習				2,3	面接										
	6. ロングトーン				2,3	面接										
	7. ユニゾンの練習				2,4	面接										
	8. 変ロ長調の音階練習				5	面接										
	9. 半音音階の練習				5	面接										
	10. ユニゾンによる半音音階の練習				4,5	面接										
	11. 短2度音程のフィンガリングの練習				3,5	面接										
	12. 長2度音程のフィンガリングの練習				3,5	面接										
	13. 各調の音階練習				3,5	面接										
	14. ユニゾンによる各調の音階練習				4,5	面接										
15. 総合練習				1,2,3,4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み(50%) ②課題演習(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：協働で行う演奏活動に関心・意欲をもって積極的に参加できる。 ②知識・技能、思考・判断：学んだ知識・技能を活かして効果的に表現できる。															
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う。 フィードバックプリントを活用して個別に振り返りを行う。															
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習と、課題プリント(各回90分程度) 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、および個人・パート練習(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：JBC バンドスタディ 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する															
実務経験について	演奏家経験：実践的な演奏法に対するアプローチについて講義します。															
担当者からのメッセージ等	管楽器や打楽器でハーモニーを共に奏でる喜びを感じましょう。 担当者の連絡先・Email：kmatsuda@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	ピアノ奏法Ⅰ	教員名	本廣 明美 ほか (複数)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	UC1-2112-2200000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	ピアノの基礎的な知識及び奏法、イメージの育成															
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノの技術に合わせて、様々なピアノ曲や童謡にイメージを抱き、楽しみながら学習する。															
到達目標	1. 音楽の構成要素である音符、拍子、調、奏法について、基礎的な知識や技術を習得する。															
	2. イメージを持って、表現する。															
	3. 子どもの動きを表現する曲(歩く、走る、飛ぶ・ジャンプ、ゆれる状態を表す曲)について、想像豊かに演奏する。															
	4. 保育や教育現場で必要な弾き歌いについての、基礎的な知識と技術を学び、弾き歌いに慣れる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 音楽構成要素Ⅰ(読譜、音符と休符)の学習					1	面接									
	2. 音楽構成要素Ⅱ(基礎的なリズムと拍子の関係)の学習					1	面接									
	3. 音楽構成要素Ⅲ(基礎的な調、奏法)の学習					1	面接									
	4. 音楽構成要素Ⅳ(メロディ、基礎的なハーモニー)の学習					1	面接									
	5. 基礎的な動きの表現Ⅰ(歩く曲の演習)					2,3	面接									
	6. 基礎的な動きの表現Ⅱ(走る曲の演習)					2,3	面接									
	7. 基礎的な動きの表現Ⅲ(とぶ、ジャンプの曲の演習)					2,3	面接									
	8. 基礎的な動きの表現Ⅳ(ゆれる曲の演習)					2,3	面接									
	9. 童謡の弾き歌いⅠ(弾き歌いの仕方)					4	面接									
	10. 童謡の弾き歌いⅡ(基礎的なこどもの歌)					4	面接									
	11. 童謡の弾き歌いⅢ(基礎的な文科省唱歌)					4	面接									
	12. ペダルの使い方					1,2	面接									
	13. 応用的ピアノ曲の演習					1,2,3	面接									
	14. 基本的弾き歌い曲の演習					1,4	面接									
15. ピアノ曲と弾き歌い曲の実技演習					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法:①ピアノ演奏(80%)、②弾き歌い演奏(10%)、③授業への取り組み(10%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解:ピアノの基礎的な知識及び技術などを学び、イメージを持って感性豊かに弾くことができる。 ②技能・表現:イメージ豊かに弾き歌いをしたりすることができる。 ③関心・意欲:授業に意欲的に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用して、不得意なところや課題の解決に努める。															
時間外の学習について	予習:日々課題曲について練習をする。(各回30分程度) 復習:同上(各回15分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう(CD付)』 /『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集 /『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる ピアノ1,2,3』(ドレミ楽譜出版社)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	教育や保育現場における音楽の基礎となる授業です。不断の努力が必要です。 担当者の連絡先・メールアドレス motohiro@y-gakugei.ac.jp(本廣)															

授業科目名	ピアノ奏法Ⅱ	教員名	本廣 明美 ほか (複数)	免許・資格等 との関係	保育士													
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UC2-2113-000000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	1				SPARC教育プログラム													
授業テーマ	ピアノの基礎的な知識及び技術、イメージを表現、自己表現力																	
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノの技術に合わせて、様々なピアノ曲や童謡・唱歌にイメージを持ちながら表現することを学習し、音楽を表現する喜びや楽しさを味わう。																	
到達目標	1. 音楽構成要素の音符、拍子、調、奏法について理解を深め、基礎的な知識・技術を習得する。																	
	2. イメージ豊かに表現することを学ぶ。																	
	3. 自由表現の曲(動物、乗り物、感情、物語・情景描写を表す曲)について想像豊かに演奏する。																	
	4. 保育や教育現場で必要な弾き歌いについての、基礎的な知識と技術を学び、弾き歌いを高める。																	
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・		
履修条件・注意事項	ピアノ奏法Ⅰの単位を取得していることが望ましい。																	
授業計画																	目標	方法
	1. 音楽構成要素Ⅰ(読譜の仕方)の学習																1	面接
	2. 音楽構成要素Ⅱ(様々なリズムと拍子の関係)の学習																1	面接
	3. 音楽構成要素Ⅲ(様々な調、奏法)の学習																1	面接
	4. 音楽構成要素Ⅳ(メロディとフレーズの関係、様々な和音)の学習																1	面接
	5. 自由表現Ⅰ(動物の曲の演習)																2,3	面接
	6. 自由表現Ⅱ(乗り物の曲の演習)																2,3	面接
	7. 自由表現Ⅲ(感情の曲の演習)																2,3	面接
	8. 自由表現Ⅳ(物語・情景描写の曲の演習)																2,3	面接
	9. 童謡の弾き歌いⅠ(弾き歌いの奏法)																4	面接
	10. 童謡の弾き歌いⅡ(子どもの歌)																4	面接
	11. 童謡の弾き歌いⅢ(文科省唱歌)																4	面接
	12. ペダルの生かし方																1,2	面接
	13. 応用的ピアノ曲の演習																1,2,3	面接
	14. 基本的弾き歌い曲の演習																1,4	面接
15. ピアノ曲と弾き歌い曲の実技演習																1,2,3,4	面接	
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション																	
成績評価基準	評価の方法:①ピアノ演奏(80%)、②弾き歌い演奏(10%)、③授業への取り組み(10%)により総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解・技能:ピアノの基礎的な知識及び技術などが習得でき、イメージを持ち、それを表現に生かすことができる。 ②技能・表現:イメージを持ち感性豊かに弾き歌いをすることができる。 ③関心・意欲:授業に意欲的に取り組むことができる。																	
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用して、不得意なところや課題の解決に努める。																	
時間外の学習について	予習:日々課題曲について練習する。(各回30分程度) 復習:同上(各回15分程度)																	
教材にかかわる情報	テキスト:本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい ピアノ名曲でこどもと遊ぼう(CD付)』 ／『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集 ／『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる ピアノ1,2,3』(ドレミ楽譜出版社)																	
実務経験について																		
担当者からのメッセージ等	教育や保育現場における音楽の基礎となる授業です。不断の努力が必要です。 担当者の連絡先・メールアドレス motohiro@y-gakugei.ac.jp(本廣)																	

授業科目名	即興伴奏法 I	教員名	本廣 明美 ほか (複数)	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	UC2-2114-2200000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系 列	保育の内容・方法に関する科目															
授業テーマ	読譜力、歌唱教材の簡易伴奏付け、伴奏変奏、ピアノ及び弾き歌い表現															
授業概要	グレード別の少人数クラスで行う授業で、基礎的な音楽の知識や読譜力を身につける。また、基本的な調の伴奏付けや伴奏変奏の方法を学びながら、並行してピアノ曲や弾き歌い曲の演奏を学ぶ。															
到達目標	1. 基礎的な読譜力を身につける。															
	2. ハ長調とト長調の伴奏付けができる。															
	3. 簡単な伴奏変奏ができる。															
	4. カデンツに合ったメロディが作れる。															
	5. ピアノ曲の演奏力を高め、弾き歌いに慣れる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. クラス分け検査・オリエンテーション					1	面接									
	2. プロローグ・ハ長調の伴奏付け(音階とカデンツ) ピアノ曲・弾き歌い(かっこう)					1,2,5	面接									
	3. ハ長調の伴奏付け(ステップ1・I Vの和音) ピアノ曲・弾き歌い(ぶんぶんぶん)					1,2,5	面接									
	4. ハ長調の伴奏付け(ステップ2・I V V7の和音) ピアノ曲・弾き歌い(日の丸)					1,2,3,5	面接									
	5. ハ長調の伴奏付け(ステップ3・I IV V7の和音) ピアノ曲・弾き歌い(おすんでひらいて)					1,2,3,5	面接									
	6. ハ長調の伴奏付け(ステップ4・いろいろなリズム) ピアノ曲・弾き歌い(どんぐりころころ)					1,2,3,5	面接									
	7. ハ長調の伴奏付け(ステップ4・いろいろなリズム) カデンツ					1,2,3,4	面接									
	8. 中間テスト1及びハ長調の伴奏付け・伴奏変奏のまとめ					1,2,3	面接									
	9. ハ長調の復習 ピアノ曲・弾き歌い(ふしぎなポケット)					1,2,3,5	面接									
	10. ト長調の伴奏付け(ステップ1・I IV V V7) ピアノ曲					1,2,5	面接									
	11. ト長調の伴奏付け(ステップ2・I IV V V7) ピアノ曲・弾き歌い(かえる)					1,2,3,5	面接									
	12. カデンツ即興 ピアノ曲・弾き歌い					4,5	面接									
	13. 中間テスト2及びピアノ・弾き歌い演奏のまとめ					5	面接									
	14. ト長調の新曲伴奏付け					1,2,3	面接									
15. 期末試験及びト長調の伴奏付けのまとめ					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション															
成績評価基準	<p>評価の方法：①中間テスト1(20%)、②中間テスト2(40%)、③期末試験(20%)、④授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識・理解：ハ長調の簡単な伴奏付けができ基礎的な伴奏変奏ができる。 ②技能・表現：基礎的なピアノ曲・弾き歌いの演奏ができる。 ③知識・理解：ト長調の簡単な伴奏付けができ、基礎的な伴奏変奏ができる。 ④意欲・関心：授業に意欲的に取り組むことができる。</p>															
フィードバックの方法	各小テストの後にコメントをする。															
時間外の学習について	<p>予習：レッスンが受けられよう事前の練習をして授業に臨むこと。(各30分程度)</p> <p>復習：習ったことは次の授業までに理解し弾けるよう練習しておくこと。(各15分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：本廣明美・加藤照恵編著 『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』、『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』、『幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社)、『最新 初等科音楽教育法』(音楽之友社)</p>															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	<p>教育・保育現場における音楽の実践力の基礎を学ぶ授業です。時間をかけた予・復習が大切な科目です。</p> <p>担当者の連絡先・メールアドレス motohiro@y-gakugei.ac.jp(本廣)</p>															

授業科目名	即興伴奏法Ⅱ	教員名	松田 和寛(実務経験) 脇淵 陽子 ほか 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士 幼稚園教諭 小学校教諭 中学校教諭(英語) 高等学校教諭(英語) 特別支援学校教諭 SPARC教育プログラム											
ナンバリングコード	UC3-2115-000000	年次配当	3年前期													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	初等幼児教育専攻 英語教育専攻	選択										
単位数	1															
授業テーマ	歌唱教材の簡易伴奏付け、両手伴奏、コード伴奏、ピアノ及び弾き歌い演奏															
授業概要	グレード別の少人数クラスで行う授業で、即興伴奏法Ⅰに引き続きソルフェージュカおよびピアノ力を高めるとともに、基本的な調の伴奏付けを学ぶ。また、即興的に演奏できることを目指して、カデンツやコードによる伴奏付けを習得し、併せてピアノ曲や弾き歌い曲の演奏を学ぶ。															
到達目標	1. へ長調の伴奏付けができる。 2. ピアノ演奏力及び即興的なピアノ表現を身につける。 3. 弾き歌いの技術を身につける。 4. コードのカデンツの理解と基礎的なコード奏ができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	◎	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	即興伴奏法Ⅰの単位を取得していることが望ましい。															
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション、へ長調・ト長調の伴奏付け(前期の復習)				1	面接										
	2. へ長調の伴奏付け(ステップ1)の伴奏付け				1	面接										
	3. へ長調の伴奏付け(ステップ1)、カデンツ即興6、ピアノ曲・弾き歌い(ゆきのこぼうず)				1,2,3,4	面接										
	4. へ長調の伴奏付け(ステップ2)ピアノ曲・弾き歌い(ぞうさん)				1,2,3	面接										
	5. へ長調の伴奏付け(ステップ2)いろいろなリズム、ピアノ曲・弾き歌い(ゆき)				1,2,3	面接										
	6. へ長調の伴奏付け(ステップ2)、弾き歌い(たなばたさま)				1,3	面接										
	7. へ長調の伴奏付け教科書課題復習、カデンツ即興7、ピアノ曲				1,2,4	面接										
	8. まとめ1 へ長調の教科書課題・カデンツ即興				1,4	面接										
	9. 両手伴奏(カデンツ)、弾き歌い(きらきら星)				3,4	面接										
	10. 両手伴奏(コードCFG7)、ピアノ曲・弾き歌い(とんぼのめがね、富士山)				2,3,4	面接										
	11. コードの知識(コードネーム)、ベースでの伴奏付け、弾き歌い(こぶためきつねこ)				3,4	面接										
	12. 3和音の伴奏付け、ピアノ曲・弾き歌い(ふるさと)				2,3,4	面接										
	13. まとめ2 ピアノ曲・弾き歌い演奏				2,3	面接										
	14. 3和音の伴奏付けと両手伴奏の練習				4	面接										
	15. まとめ3 コード理解と奏法				4	面接										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法: ①まとめ1(20%)、②まとめ2(40%)、③まとめ3(20%)、④授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。 評価の基準: ①知識・理解: へ長調に簡単な伴奏付けや、カデンツ即興ができる。 ②技能・表現: 基礎的なピアノ曲・弾き歌い演奏ができる。 ③知識・理解: コード理解と基礎的なコード奏法ができる。 ④意欲・関心: 授業に意欲的に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	各テストの後にコメントをする。															
時間外の学習について	予習: レッスンが受けられるように事前の練習をして授業に臨むこと。(各30分程度) 復習: 習ったことは次の授業までに理解し、弾けるよう練習しておくこと。(各15分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 本廣明美・加藤照恵編著 『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』、『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』、『幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社)、『最新 初等科音楽教育法』(音楽之友社)															
実務経験について	松田和寛…演奏家経験: 実践的な演奏法に対するアプローチについて講義します															
担当者からのメッセージ等	教育・保育現場における音楽の実践力の基礎を学ぶ授業です。時間をかけた予復習が大切な科目です。 担当者の連絡先・メールアドレス: kmatsuda@gakugei.ac.jp(松田)															

授業科目名	子どもとリトミックⅠ	教員名	植山 典子(実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-2116-0000000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	リトミック、リズム運動、ピアノ演奏法、指導法(3歳児)、理論															
授業概要	子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような楽しさに包まれた指導力を身につける。															
到達目標	1. リズムを表現する基礎的な動きができる。															
	2. リトミック指導における基礎的なピアノ演奏ができる。															
	3. 3歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できる。															
	4. リトミックの理論を説明できる。															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	・	④	◎	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。															
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション、リトミックについて、楽しいリトミックの経験(1)				1,4	面接										
	2. 楽しいリトミックの経験(2)、強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎的な動き(1)、基礎リズム(1) (2拍子)				1	面接										
	3. 3歳児指導法:共通項目・春				3	面接										
	4. リズムの演奏法:3歳児指導法-共通項目・春				2	面接										
	5. 楽しいリトミックの経験(3)、基礎的な動き(2)、基礎リズム(2)(2拍子)、拍子(1)				1	面接										
	6. 3歳児指導法:夏・秋(No.1~6)				3	面接										
	7. リズムの演奏法:3歳児指導法-夏・秋(No.1~6)				2	面接										
	8. 楽しいリトミックの経験(4)、基礎リズム(3)(2拍子)、拍子(2)				1	面接										
	9. 3歳児指導法:秋(No.7~11)・冬				3	面接										
	10. リズムの演奏法:3歳児指導法-秋(No.7~11)・冬				2	面接										
	11. 楽しいリトミックの経験(5)、基礎リズム(4)(3・4拍子)、拍子(3)				1	面接										
	12. 楽しいリトミックの経験(6)、リズムカノン(1)(導入)、リズムフレーズ(1)				1	面接										
	13. リズムの演奏法(3歳児指導法-春・夏・秋・冬)				2	面接										
	14. 試験課題練習				1,2,3	面接										
15. リトミックの理論とダルクローズについて(1)、まとめ				1,2,3,4	面接											
	◎定期試験→資格認定試験・14回と15回の間に行う。															
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	<p>評価の方法:①試験(60%)、②課題に対する取組み(20%)、③授業態度、授業への参加度(20%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準:①知識・理解、技能・表現:「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の認定条件(70点以上)をクリアしている。</p> <p>②思考・判断、関心・意欲・態度:授業内容を踏まえて、実践できる。</p> <p>③関心・意欲・積極性:活動に意欲的である。</p>															
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入															
時間外の学習について	<p>予習:毎回の授業計画を確認し、「3歳児指導法・リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。(各回30分程度)</p> <p>復習:実技小テストを行うので練習しておくこと。(各回15分程度)</p>															
教材にかかわる情報	テキスト:『園児のためのリトミック3歳~幼稚園、保育園、子ども園で活かす』(リトミック研究センター)															
実務経験について	リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会、講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとにリトミック指導について話し、実践をします。															
担当者からのメッセージ等	<p>実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。</p> <p>担当者の連絡先・E-mail:nonnonnon20001008@gmail.com(植山)</p>															

授業科目名	子どもとリトミックⅡ	教員名	植山 典子 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
ナンバリングコード	UC3-2117-0000000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	
					中学校教諭 (英語)	
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭 (英語)	
					特別支援学校教諭	
単位数	1				SPARC教育プログラム	
授業テーマ	リトミック、リズム運動、ピアノ演奏法、指導法 (4歳児及び5歳児)、理論					
授業概要	子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような楽しさに包まれた指導力を身につける。					
到達目標	1. リズムを表現する実践的な動きができる。 2. リトミック指導における実践的なピアノ演奏ができる。 3. 4歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できる。 4. 5歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できる。 5. リトミックの理論を説明できる。					
学修成果との関係	①	○	②	・	③	・
履修条件・注意事項	「子どもとリトミックⅠ」の単位を取得済みの者。 動きやすい服装 (スカートのみは不可) と、素足、又はバレエシューズで受講すること。					
授業計画					目標	方法
	1. 4歳児指導法 - 共通項目、4歳児指導法 - 春				3	面接
	2. 4歳児指導法 - 夏・秋				3	面接
	3. 楽しいリトミックの経験 (7)、リズムカノン (2) 〈3拍子〉、リズムフレーズ (2) 〈2・3拍子〉				1	面接
	4. リズムの演奏法 (4歳児指導法 - 共通項目・春・夏・秋)				2	面接
	5. 4歳児指導法 - 冬、5歳児指導法 - 春				3,4	面接
	6. 5歳児指導法 - 夏・秋 (No.1~6)				4	面接
	7. 楽しいリトミックの経験 (8)、リズムカノン (3) 〈3拍子〉、複リズム (1) Ostinato (J)				1	面接
	8. リズムの演奏法 (4歳児指導法 - 冬、5歳児指導法 - 春・夏・秋 (No.1~6))				2	面接
	9. 5歳児指導法 - 秋 (No.7~11、冬)				4	面接
	10. 4歳児指導法総括 - 春・夏・秋・冬				3	面接
	11. 楽しいリトミックの経験 (9)、リズムカノン (4) 〈3拍子〉、複リズム (2) Ostinato (J)				1	面接
	12. 楽しいリトミックの経験 (10)、基礎リズム (5) 〈3・4拍子〉、拍子 (4)				1	面接
	13. リズムの演奏法 (5歳児総括 - 春・夏・秋・冬)				2	面接
	14. 試験課題練習				1,2	面接
15. リトミックの理論とダルクローズについて (2)・まとめ				1,2,3,4,5	面接	
◎定期試験→資格認定試験…14回と15回の間に行う。						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法：①試験 (60%)、②課題に対する取組み (20%)、③授業態度、授業への参加度 (20%) により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、技能・表現：「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の認定条件 (70点以上) をクリアしている。 ②思考・判断、関心・意欲・態度：授業内容を踏まえて、実践できる。 ③関心・意欲・積極性：活動に意欲的である。					
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入					
時間外の学習について	予習：毎回の授業計画を確認し、「4歳児指導法、5歳児指導法・リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。(各回30分程度) 復習：実技小テストを行うので練習しておくこと。(各回15分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：『園児のためのリトミック4・5歳～幼稚園、保育園、子ども園で活かす』(リトミック研究センター)					
実務経験について	リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会、講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとにリトミック指導について話し、実践をします。					
担当者からのメッセージ等	実習先でリトミックをしたら、その報告をしてください。毎日ピアノに向かう習慣をつけましょう。 担当者の連絡先・E-mail：nonnonnon20001008@gmail.com (植山)					

授業科目名	子ども表現実践演習	教員名	川野 哲也, 大田 紀子 森 俊博, 山本 幸子 河村 佐和子 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	CMI-3001-0100000	年次配当	1年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)															
授業テーマ	教育実習・保育実習に向けた準備、教育者・保育者としての資質能力、見学実習															
授業概要	遊びや表現などを繰り返し練習することで基礎的な実践力を形成する。さらに教育現場や保育現場で実践することで基礎的な実践力の定着をはかる。															
到達目標	1. 実習生としての心構えや意識、意欲を形成する。															
	2. 子どもや入所者とのかかわりを深めるための技術(遊びや表現)を修得する。															
	3. 自己の課題を明確化し、他者と協力しながら、自らの資質を高める。															
	4. 福祉施設の一日の様子や課題について基礎的な事項について理解する。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	○	⑥	◎	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. 教職員への挨拶、記録					1,2,3	面接									
	2. 子ども向け自己紹介					1,2,3	面接									
	3. 歌遊び					1,2,3	面接									
	4. 絵本読み					1,2,3	面接									
	5. 模擬的コミュニケーション					1,2,3	面接									
	6. 身体表現					1,2,3	面接									
	7. グループでのレクリエーション					1,2,3	面接									
	8. グループでの劇					1,2,3	面接									
	9. 福祉施設の概要と見学の準備					1,2,3,4	面接									
	10. 福祉施設での見学実習					4	面接									
	11. 見学実習の振り返り、グループでの討議、発表					4	面接									
	12. ボランティア体験についての考察					1,2,3	面接									
	13. 漫才・コント等の表現					1,2,3	面接									
	14. 壁絵の制作					1,2,3	面接									
15. 全体の振り返り、グループでの討議、発表					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業、課題解決型学習、等による															
成績評価基準	評価の方法：①プレゼンテーションによるテスト(70%)、②見学実習での取り組み(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①技能・表現：遊びや表現の基礎的な技術を修得できる。 ②関心・意欲、思考・判断：実習に向けた態度を修得できる。															
フィードバックの方法	発表について振り返り、講評する。課題等について改善点をコメントする。															
時間外の学習について	予習：次回の課題の準備をしておく。(各回90分程度) 復習：授業内に出された課題について、グループで練習をすること。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：適宜プリントを配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	子ども実地研究 I	教員名	川野 哲也 大田 紀子 森 俊博 山本 幸子 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-3002-0000000	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	実地調査、資料収集と分析、実践的取り組み、成果のまとめと発表															
授業概要	グループごとに課題やテーマを設定し、資料収集、教材づくり、学外ボランティア活動を通して、分析・考察する。															
到達目標	1. 自ら課題やテーマについて調べたり、考察したり、整理したりする。															
	2. 現実の子どもや子どもをめぐる環境と向き合い、いっそう深い課題やテーマを発見する。															
	3. 他者と協力し、議論し、グループとして意見をまとめたりする。															
	4. 子どもとの豊かなかかわり方について実践力と分析力を形成する。															
学修成果との関係	①	.	②	.	③	.	④	.	⑤	○	⑥	◎	⑦	.	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	1. グループごとにテーマや課題を設定				1,2,3,4	面接										
	2. 資料の収集と分析、グループごとに討論1				1,2,3,4	面接										
	3. 資料の収集と分析、グループごとに討論2				1,2,3,4	面接										
	4. 発表と討論 今後の課題を明確化				1,2,3,4	面接										
	5. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査1 (幼稚園・保育園・小学校・福祉施設・NPO 団体その他)				2,4	面接										
	6. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査2				2,4	面接										
	7. グループ討議1				1,2,3,4	面接										
	8. グループ討議2 今後の課題を明確化				1,2,3,4	面接										
	9. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査3				2,4	面接										
	10. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査4				2,4	面接										
	11. グループ討議3				1,2,3,4	面接										
	12. 資料の収集と分析				1,2,3,4	面接										
	13. 報告書または作品の製作1				1,2,3,4	面接										
	14. 報告書または作品の製作2				1,2,3,4	面接										
15. 発表と討論				1,2,3,4	面接											
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク等を中心に実施する															
成績評価基準	評価の方法：①取り組みの状況(50%)、②レポート(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：授業の活動に、積極的かつ協力的に取り組むことができる。 ②思考・判断：深い課題やテーマを発見し、その課題について自分なりに追究できる。															
フィードバックの方法	活動や発表について振り返り、講評する。															
時間外の学習について	予習：活動や発表の準備をする。十分に下調べをする。(各回45分程度) 復習：授業の中で見出した課題について、さらに調べ、自分の考えをまとめておく。(各回45分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	この授業に限らず、各種ボランティア活動に取り組むことを勧める。その情報は適宜紹介する。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	子ども実地研究Ⅱ	教員名	川野 哲也 大田 紀子 森 俊博 山本 幸子 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-3003-000000	年次配当	2年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	実地調査、資料収集と分析、実践的取り組み、成果のまとめと発表															
授業概要	グループごとに課題やテーマを設定し、資料収集、教材づくり、学外ボランティア活動を通して、分析・考察する。															
到達目標	1. 自ら課題やテーマについて調べたり、考察したり、整理したりする。															
	2. 現実の子どもや子どもをめぐる環境と向き合い、いっそう深い課題やテーマを発見する。															
	3. 他者と協力し、議論し、グループとして意見をまとめたりする。															
	4. 子どもとの豊かなかわり方について実践力と分析力を形成する。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	・	⑤	○	⑥	◎	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画											目標	方法				
	1. グループごとにテーマや課題を設定										1,2,3,4	面接				
	2. 資料の収集と分析、グループごとに討論1										1,2,3,4	面接				
	3. 資料の収集と分析、グループごとに討論2										1,2,3,4	面接				
	4. 発表と討論 今後の課題を明確化										1,2,3,4	面接				
	5. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査1 (幼稚園・保育園・小学校・福祉施設・NPO団体その他)										2,4	面接				
	6. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査2										2,4	面接				
	7. グループ討議1										1,2,3,4	面接				
	8. グループ討議2 今後の課題を明確化										1,2,3,4	面接				
	9. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査3										2,4	面接				
	10. 学外のボランティア活動等を通じた実地調査4										2,4	面接				
	11. グループ討議3										1,2,3,4	面接				
	12. 資料の収集と分析										1,2,3,4	面接				
	13. 報告書または作品の製作1										1,2,3,4	面接				
	14. 報告書または作品の製作2										1,2,3,4	面接				
15. 発表と討論										1,2,3,4	面接					
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク等を中心に実施する															
成績評価基準	評価の方法：①取り組みの状況(50%)、②レポート(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：授業の活動に、積極的かつ協力的に取り組むことができる。 ②思考・判断：深い課題やテーマを発見し、その課題について自分なりに追究できる。															
フィードバックの方法	活動や発表について振り返り、講評する。															
時間外の学習について	予習：活動や発表の準備をする。十分に下調べをする。(各回45分程度) 復習：授業の中で見出した課題について、さらに調べ、自分の考えをまとめておく。(各回45分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	この授業に限らず、各種ボランティア活動に取り組むことを勧める。その情報は適宜紹介する。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	子どもと英語	教員名	二五 義博 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-3004-0000000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	子どもの第二言語習得、小学校英語の特徴、コミュニケーション能力、授業実践															
授業概要	子どもが第二言語を習得するプロセスについての理解を深めます。															
到達目標	以下の5点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。															
	1. 子どもの言語習得のプロセスについて説明することができる。															
	2. 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。															
	3. 他の人と協力して課題に取り組むことができる。															
	4. 英語の音声的特徴について説明することができる。															
	5. 子どもの発達段階を考慮したコミュニケーション活動を立案することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	○	④	○	⑤	・	⑥	◎	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画													目標	方法		
	1. 授業の目標及び進め方についての説明												1,2,3,4,5	面接		
	2. 子どもの言語習得プロセス												1,3,5	面接		
	3. 小学校の外国語授業：授業づくりの5つの視点と授業の振り返りのポイント												1,2,3,4,5	面接		
	4. 小学校の外国語授業：文字の指導												2,3,4,5	面接		
	5. 小学校の外国語授業：小中連携の工夫												2,3,4,5	面接		
	6. 英語音声のしくみ：英語の強勢とイントネーション												2,3,4,5	面接		
	7. 英語音声のしくみ：日本語を母語とする学習者にとって難しい英語の音												2,3,4,5	面接		
	8. コミュニケーション能力の高め方：表現力の向上												2,3,4,5	面接		
	9. コミュニケーション活動立案												2,3,4,5	面接		
	10. 模擬授業(前半)												1,2,3,4,5	面接		
	11. 模擬授業(後半)												1,2,3,4,5	面接		
	12. 教授法に対する理解：5技能の指導												1,2,3,4,5	面接		
	13. 授業実践に対する理解：授業案・授業運営												1,2,3,4,5	面接		
	14. 異文化リテラシーの必要性												1,2,3,5	面接		
15. 小学校における異文化交流実践例												1,2,3,5	面接			
アクティブ・ラーニング	課題解決、グループワークや発表、模擬授業および観察を中心とした授業を行う。															
成績評価基準	評価の方法：①グループワーク等への参加態度と発表(20%)、②模擬授業および観察シートへの記入(50%)、③レポート(30%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：グループワーク等の授業内の活動に積極的に取り組んでいる。 ②知識・技能：子どもの言語習得プロセスや小学校英語の特徴について理解し、適切な模擬授業ができる。 ③思考・判断：授業で扱ったテーマについてさらに深め、自分の意見を述べる事ができる。															
フィードバックの方法	振り返りシートを用いて行う。															
時間外の学習について	予習：授業内でディスカッションが予定されている場合は、各自の意見をまとめておくこと。(各回90分程度) 復習：授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：教員による配布資料 参考書：小川隆夫(2011).『高学年のための小学校英語』 mpi 村野井仁(2018).『小学校英語教育の基礎知識』東京：大修館書店 参考資料等：小学校英語指導者のポートフォリオ(J-POSTL エレメンタリー)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	面接授業を基本とするが、状況によっては同時方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。 Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	子どもと教育	教員名	森 俊博 (実務経験) 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-3005-000000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
授業テーマ	ボランティア活動, 親和的関係, 心理的安全性															
授業概要	本講義では、小学校でのボランティア活動を通して、学級における親和的関係の形成を学ぶ。学級内の親和的な関係は心理的安全性を生み、対話や協働を促進する基盤となる。授業では、学級担任の関わり方や活動の工夫を検討し、信頼関係を構築する方法を学ぶ。さらに、受講者相互の活動を通して関係形成のプロセスを体験的に理解し、その学びを実践に活かすことを目指す。															
到達目標	1.学級における親和的関係の形成の背景について説明できる。 2.学級における親和的関係の形成過程を説明できる。 3.学級における親和的関係の形成に関する指導の在り方を例示できる。 4.心理的安全性を考慮した具体的な指導を立案できる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	・	⑤	・	⑥	◎	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画												目標	方法			
	1. オリエンテーション											1	面接			
	2. 学級における関係形成の理論と関係形成を促す活動											1,3	面接			
	3. 関係形成を促す活動設計											1,4	面接			
	4. 関係形成を促す活動体験											1,3	面接			
	5. ボランティア事前指導①											1,2,3	面接			
	6. ボランティア活動①											2	面接			
	7. 心理的安全性の観点からの解釈											1,3	面接			
	8. ボランティア活動②											2	面接			
	9. 成功場面/困難場面の分析・教師の介入の意味づけ											1,2	面接			
	10. ボランティア活動③											2	面接			
	11. 親和的関係の形成プロセスの可視化と改善点の抽出											2,3	面接			
	12. 関係形成を阻害する要因											3,4	面接			
	13. 実践プラン設計											3,4	面接			
	14. 実践提案発表											3,4	面接			
15. まとめ・レポート											1,2	面接				
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク															
成績評価基準	評価の方法：①授業態度(30%)、②受講者の発表内容(30%)④授業内レポート(40%) により総合的に評価する。 評価の基準：①態度：積極的に話し合いに参加している。コメントカードの記述内容が適切である。 ②技能・表現：指導の理論を踏まえたかかわり方の指導の在り方を例示できる。 ③思考・判断：根拠を明確にして論理的に自説を述べるができる。															
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。															
時間外の学習について	予習：テキストの次回の内容にかかわる部分を読み込んでおくこと。授業内の発表の事前準備を行うこと。(各回90分程度) 復習：授業内で示した指導方法についての書籍や論文などで調べ、まとめること。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で適宜資料を配布する。 参考書：特になし。 参考資料等：必要に応じて配布する。															
実務経験について	小学校教員経験：コミュニケーションや表現力等の今日的な課題への対応についての話を講義の中で行う。															
担当者からのメッセージ等	グループ活動を行うため、欠席をする際は事前連絡が望ましい。 担当者の連絡先・E-mail：tmori@gakugei.ac.jp(森)															

授業科目名	子どもの遊びと心理	教員名	大田 紀子 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	CM3-3006-2200000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系列	保育の対象の理解に関する科目															
授業テーマ	保育、乳幼児心理学、子どもの遊び、子ども理解															
授業概要	子どもになりきって思いきり遊ぶ経験をを通して子どもにとっての遊びの意味を理解する。幼児を対象とした様々な遊びを盛り込んだ遠足を計画し、学外で実施するロールプレイングを行う。これらの振り返りを通して出た課題をもとに議論を行う。															
到達目標	1. 子どもにとっての遊びの意味を考え、自分の意見を述べることができる。 2. 遊びを通して子どもの心理発達について考え、課題意識を持つことができる。 3. 子どもの心理発達を踏まえた指導計画を立案・実施することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	・	⑥	◎	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション：子どものあそびについて					1,2	面接									
	2. 子ども遊び体験①：子どもになりきって遊ぶ					1,2	面接									
	3. 子ども遊び体験②：運動遊び					1,2	面接									
	4. 子ども遊び体験③：自然物を使った遊び					1,2	面接									
	5. ロールプレイ：遠足の計画①目的地の移動手段の選定					2,3	面接									
	6. ロールプレイ：遠足の計画②目的地での活動計画の作成					2,3	面接									
	7. ロールプレイ：遠足の計画③雨天時の活動計画の作成					2,3	面接									
	8. ロールプレイ：遠足の計画④目的地及び移動手段の確認と下見					2,3	面接									
	9. ロールプレイ：遠足の実施①目的地への到着と活動					1,2,3	面接									
	10. ロールプレイ：遠足の実施②目的地での活動及び帰着					1,2,3	面接									
	11. ロールプレイ：遠足の振り返り					2,3	面接									
	12. 子ども遊び体験⑥：表現遊び					1,2	面接									
	13. 子ども遊び体験⑥：言葉遊び					1,2	面接									
	14. 子ども遊び体験⑥：お正月の遊び					1,2	面接									
15. まとめと今後の課題					2	面接										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ															
成績評価基準	評価の方法：①ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ等への参加度(50%)、②事前事後課題・レポート(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、関心・意欲、態度：子どもにとっての遊びの意味を理解した上で模擬保育を計画・実施し、他者と協力して学びを深めようとしている。ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができて いる。 ②知識・理解、思考・判断：子どもの遊びと心理発達について、自分なりの考えを述べるができる。															
フィードバックの方法	レポートや発表内容およびロールプレイについてコメントや助言を行う。															
時間外の学習について	予習：教材研究や関連する文献を読む。子どもの遊びについて書籍やインターネットで調べ、試す。(各回90分程度) 復習：授業内で完成できなかった課題および授業内容の整理、復習を行う。(各回90分程度) 子どもの心理発達に関する書籍を読み、発達段階への理解を深めておくこと。															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考資料：授業内で適宜配付する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail：ota@gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	子どもと福祉	教員名	佐藤 真澄 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	CM3-3007-2200000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目(幼稚園)															
教科目	選択必修科目(保育士)															
系列	保育の本質・目的に関する科目															
授業テーマ	福祉教育、障がい理解教育、共生社会															
授業概要	障がいの有無や年齢等に関わらず、すべての人々が助け合い、共に生きていく共生社会を実現するためには、幼少期からさまざまな人とかわりながらお互いを理解し合う機会を創ることが大切であり、それを担うのが福祉教育です。この授業では、子どもたちに「福祉」をどう伝えていくのかについて考えていきます。模擬授業を通じて、福祉教育の研修の流れや教材づくりについて考えます。															
到達目標	1. 地域社会の現状と課題を知り、福祉教育が求められている背景を説明できる。 2. 子どもたちへの福祉教育の方法について自分の考えを述べることができる。 3. 子どもたちに「福祉」をどう伝えていくのかについて、自分の考えを述べることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	・	⑤	○	⑥	◎	⑦	○	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画													目標	方法		
	1. 共生社会の思想と実現に向けた取り組み、課題												1	面接		
	2. 福祉教育の理論と方法												2	面接		
	3. 福祉教育の実践事例—山口県「あいサポート運動」について												1,2	面接		
	4. 福祉教育の実践事例—「あいサポーターキッズ研修」の考え方と流れについて												1,2	面接		
	5. 福祉教育の実践事例—「あいサポーターキッズ研修」で用いるテキストと教材について												1,2	面接		
	6. 模擬授業のための授業案の作成												2,3	面接		
	7. 模擬授業のための教材研究												2,3	面接		
	8. 模擬授業・ディスカッション① 疑似体験を用いた研修 ①高齢者疑似体験												2,3	面接		
	9. 模擬授業・ディスカッション② 疑似体験を用いた研修 ②車いす体験												2,3	面接		
	10. 模擬授業・ディスカッション③ 疑似体験を用いた研修 ③「見えない」体験												2,3	面接		
	11. 模擬授業・ディスカッション④ 疑似体験を用いた研修 ④「聞こえない」体験												2,3	面接		
	12. 模擬授業・ディスカッション⑤ 障がい理解のための基礎知識 ①ユニバーサルデザイン												2,3	面接		
	13. 模擬授業・ディスカッション⑥ 障がい理解のための基礎知識 ②点字												2,3	面接		
	14. 模擬授業・ディスカッション⑦ 障がい理解のための基礎知識 ③手話												2,3	面接		
15. 総括のディスカッション：子どもたちに「福祉」をどう伝えていくのか												1,2,3	面接			
アクティブ・ラーニング	模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①模擬授業・ディスカッション等への参加度(50%)、②事前・事後課題(50%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲、思考・判断、態度：模擬授業ではテーマに応じた教材や手法を選択できる。 ディスカッションでは積極的に発言できる。 ②思考・判断、知識・理解：子どもをめぐる福祉課題や福祉教育について根拠を明確にしたうえで、 自説を述べることができる。															
フィードバックの方法	ディスカッション、プレゼンテーションでは振り返りの時間を設けてコメントする。 模擬授業では各回振り返りシートを記載・提出してもらう。その内容について次回の授業時にコメントする。															
時間外の学習について	予習：担当する模擬授業や総括のディスカッションに向けて、授業案や教材を準備する。(各回90分程度) 復習：模擬授業の受講者、実施者それぞれの立場で振り返りシートを記入し、提出する。(各回90分程度) 日頃から福祉教育に関連する文献や新聞、インターネット等に関心をもち、教材として活用できそうな情報を収集しておく。															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし(都度適宜資料を配布する) 参考書：新福祉教育実践ハンドブック(原田正樹・上野谷加代子著、全国社会福祉協議会) 参考資料等：都度適宜配布する															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	山口県が行っている「あいサポート運動」と連携して授業を組み立てています。あいメッセンジャーとして、教材づくりや子ども向けの研修を担える人材の育成をめざしています。 E-mail : satoh@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	地域課題解決演習 (PBL) I	教員名	高下 正明 松村 納央子 河村 佐和子 船場 大資 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士		
					幼稚園教諭		
ナンバリングコード	CM2-4001-000000	年次配当	2年前期		小学校教諭		
					中学校教諭(英語)		
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)		
					特別支援学校教諭		
単位数	1				SPARC教育プログラム		
授業テーマ	PBL、地域課題、グループワーク、ICT活用						
授業概要	教育現場で広く取り入れられつつあるPBLの概要について、実践を通して学びます。パートナーである地域の課題を見出し、地域課題の解決に向けた取り組みを実践します。パートナーとのコミュニケーション、情報活用、フィールドワーク、グループワーク等を通して、地域課題に対する理解を深めるとともに、省察的な実践方法を身に付けます。受講生には、地域課題を自分の事として捉え、広い視野で課題に向き合う主体性が求められます。						
到達目標	1. 教育手法としてのPBLの概要を理解し、事例を挙げながら説明することができる。 2. 多様な他者とコミュニケーションをとりながら、自分の役割を果たすことができる。 3. 論理的に思考し、自分の取組を省察(リフレクション)することができる。 4. 情報収集やプレゼンテーションの手法を身に付け、要点を分かりやすく伝えることができる。						
学修成果との関係	①	・	②	・	③	○	
履修条件・注意事項	地域課題解決演習IとIIは通年で受講するものとします(成績は前期・後期に分けて評価します)。 地域における活動(フィールドワーク)は、授業外学習時間にカウントすることがあります。 講義にはPCまたはタブレット端末を持参することが推奨されます。 授業の実施方法:面接授業に加えて、一部フィールドワークを実施します。パートナーの実情に応じて、授業計画の順序や内容の一部が変更されることがあります。						
授業計画	授業内容					目標	方法
	1. オリエンテーション:「PBLとは」授業の説明・ルーブリックによる自己評価					1	面接
	2. 講義・演習:「PBLの実際」先輩学生による事例紹介・座談会					1.2.3	面接
	3. 講義・演習:「地域課題の発見」チーム編成・住民対象のアンケート結果の分析・情報収集					1.2.3.4	面接
	4. 講義・演習:「地域課題の理解」文献検討・疑問点の抽出					1.2.3.4	面接
	5. フィールドワーク:地域との交流・散策					1.2	面接
	6. 講義・演習:フィールドワークの振り返り・地域イベントの企画考案①					1.2.3	面接
	7. 講義・演習:地域イベントの企画考案②・プレゼンテーション					1.2.3.4	面接
	8. グループワーク:イベントに向けた準備①(役割分担・予算案作成)					1.2.3	面接
	9. グループワーク:イベントに向けた準備②(コンテンツ制作)					1.2.3	面接
	10. グループワーク:イベントに向けた準備③(コンテンツ制作)					1.2.3	面接
	11. グループワーク:イベントに向けた準備④(コンテンツ制作)					1.2.3	面接
	12. フィールドワーク:イベントに向けた準備⑤(会場設営)					1.2	面接
	13. フィールドワーク:イベントに向けた準備⑥(前日準備)					1.2	面接
	14. フィールドワーク:イベント参加・アンケートやヒアリング					1.2	面接
15. 講義・演習:振り返り・ディスカッション					1.2.3.4	面接	
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等)						
成績評価基準	評価の方法:①リアクションペーパー(30%)、②ワークシート(30%)、③プレゼンテーション(10%)、④講義やグループワークへの貢献度(20%)、⑤期末課題(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①②【知識・理解】リアクションペーパー・ワークシート等の記載の内容が十分かつ妥当である。 ③【技能・表現】プレゼンテーションの内容が妥当で相手に伝わりやすいプレゼンができる。 ④【関心・意欲・態度】地域課題を自己との関係において捉え、グループワーク等の活動に主体的に取り組むことができる。 ⑤【思考・判断】経験を通して考えたことを論理的にまとめることができる。						
フィードバックの方法	授業中にコメントするほか、必要に応じて授業外での指導を行う。						
時間外の学習について	予習:授業の終了時に学習課題(グループ活動を含む)を提示する(各回90分程度を想定する) 復習:学習した内容のまとめ・グループワークの続きを行う(各回90分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト:特になし。適宜資料を配付する。 参考書:藤原さと『「探求」する学びをつくるー社会とつながるプロジェクト型学習』平凡社、2020年 参考資料等:適宜資料を配付する。						
実務経験について	該当なし						
担当者からのメッセージ等	【担当者の連絡先】mtakashita@y-gakugei.ac.jp(高下)						

授業科目名	地域課題解決演習 (PBL) II	教員名	高下 正明 松村 納央子 河村 佐和子 船場 大資 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士		
					幼稚園教諭		
ナンバリングコード	CM2-4002-000000	年次配当	2年後期		小学校教諭		
					中学校教諭(英語)		
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)		
					特別支援学校教諭		
単位数	1				SPARC教育プログラム		
授業テーマ	PBL、地域課題、協働、グループワーク、ICT活用						
授業概要	PBL I の実践の省察を基に引き続きグループワークに取り組み、PBLに関する知識を深めます。パートナーに対し、地域課題の解決に向けた企画案を提案し、実践します。パートナーからのフィードバックを基に改善を実現することで、より実践的な経験を積みます。実践した内容から論理的に考察したことをまとめ、他者に伝えるスキルの習得も目指します。受講生には、創造的に考え、他者と関係性を構築し、協働していく姿勢が求められます。						
到達目標	1. 教育手法としてのPBLの実践方法を理解し、学校現場におけるPBLの計画を立案できる。 2. 多様な他者と円滑にコミュニケーションをとり、協働することができる。 3. グループの取組に対する省察(リフレクション)を基に、改善を実行することができる。 4. 実践を論理的に考察し、まとめた内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。						
学修成果との関係	①	・	②	・	③	○	
履修条件・注意事項	地域課題解決演習 I と II は通年で受講するものとします(成績は前期・後期に分けて評価します)。 地域における活動(フィールドワーク)や調査研究活動は、授業外学習時間にカウントすることがあります。 講義にはPCまたはタブレット端末を持参することが推奨されます。 授業の実施方法: 面接授業に加えて、一部フィールドワークを実施します。パートナーの実情に応じて、授業計画の順序や内容の一部が変更されることがあります。						
授業計画	授業内容					目標	方法
	1. グループワーク: イベント企画案の作成①					1.2	面接
	2. グループワーク: イベント企画案の作成②・プレゼン準備					1.2	面接
	3. フィールドワーク: パートナーへの提案・プレゼンテーション					1.2.3.4	面接
	4. グループワーク: イベント企画案の検討・改善					1.2.3	面接
	5. グループワーク: イベントへの参加準備①					1.2	面接
	6. グループワーク: イベントへの参加準備②					1.2	面接
	7. フィールドワーク: イベントへの参加・アンケートやヒアリングの実施					1.2.3	面接
	8. グループワーク・講義: イベントの振り返り・「ポスター発表とは」「データ分析の手法」					1.2.3.4	面接
	9. グループワーク: ポスター制作①					1.2.3.4	面接
	10. グループワーク: ポスター制作②					1.2.3.4	面接
	11. グループワーク: ポスター制作③					1.2.3.4	面接
	12. グループワーク: ポスター制作④ 発表リハーサル					1.2.3.4	面接
	13. フィールドワーク: 地域住民対象のPBL成果報告会(プレゼンテーション)					1.2.3.4	面接
	14. グループワーク: 他大学と合同で行うPBL成果報告会(プレゼンテーション)					1.2.4	面接
15. 1年間の振り返り・ディスカッション・自己評価					1.2.4	面接	
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等)						
成績評価基準	評価の方法: ①リアクションペーパー(30%)、②企画案・ポスター(20%)、③プレゼンテーション(20%)、④講義やグループワークへの貢献度(20%) ⑤期末課題(10%)により、総合的に評価する。 評価の基準: ①②【知識・理解】リアクションペーパー・ポスター等の記載内容が十分かつ論理が明快である。 ③【技能・表現】相手が納得するプレゼンテーションができる。 ④【関心・意欲・態度】講義やグループワークに主体的に取り組み、省察を基に改善しようとしている。 ⑤【思考・判断】自分の考えや意見を持ち、論理的にまとめて書くことができる。						
フィードバックの方法	授業中にコメントするほか、必要に応じて授業外での指導を行う						
時間外の学習について	予習: 授業の終了時に学習課題(グループ活動を含む)を提示する(各回90分程度を想定する) 復習: 学習した内容のまとめ・関連文献の精読・グループワークの続き等を行う(各回90分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし。適宜資料を配付する。 参考書: 藤原さと『「探求」する学びをつくるー社会とつながるプロジェクト型学習』平凡社、2020年 参考資料等: 適宜資料を配付する。						
実務経験について	該当なし						
担当者からのメッセージ等	【担当者の連絡先】mtakashita@y-gakugei.ac.jp(高下)						

授業科目名	Global English	教員名	尊田 望 【単独】	免許・資格等 との関係	保育士			
					幼稚園教諭			
ナンバリングコード	CM3-4003-0000000	年次配当	3年前期		小学校教諭			
					中学校教諭(英語)			
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)			
					特別支援学校教諭			
単位数	2				SPARC教育プログラム			
授業テーマ	グローバルな英語、コミュニケーション能力、自己表現							
授業概要	世界中の多様な人たちの文化や習慣、問題や課題について知り、それについて考え、ディスカッションする。他者の意見に耳を傾け、間違いを恐れずに自分の意見を述べる。							
到達目標	1. 英語が世界中で誰により、どのように使われているか理解して他者に説明し、自分の英語学習に役立てられる。							
	2. 間違いを恐れずに進んで英語を使い、コミュニケーションを取ることができる。							
	3. 与えられたテーマについて他者と会話や意見交換ができる。							
学修成果との関係	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
履修条件・注意事項								
授業計画						目標	方法	
	1. Introduction to Global English					1,2,3	面接	
	2. Travel Abroad: Which country would you like to travel? Why? What would you do there?					1,2,3	面接	
	3. Race and Ethnicity: Choose one racial/ethnic issue, explain it, and give your opinion.					1,2,3	面接	
	4. Language: What should be the international language for the whole world?					1,2,3	面接	
	5. Population: How can we stop the decline of Japan's population?					1,2,3	面接	
	6. Religion: What is the average Japanese attitude towards religion? Do you agree with it?					1,2,3	面接	
	7. Science and technology: What should be the right attitude towards modern technology?					1,2,3	面接	
	8. Mid-term project: Give a PowerPoint presentation on "What kind of a world do I want to live in?"					1,2,3	面接	
	9. Happiness: What is happiness to you?					1,2,3	面接	
	10. Food lifestyle: What is your healthy food lifestyle?					1,2,3	面接	
	11. Mysteries: Choose one mystery, explain it, and give your opinion.					1,2,3	面接	
	12. Ethics & morality: Choose one ethical/moral issue, explain it, and give your opinion.					1,2,3	面接	
	13. Invention: What is the greatest invention of all time? Why do you say so?					1,2,3	面接	
	14. Study abroad: How can college education be improved?					1,2,3	面接	
	15. Globalization: What is globalization? How can you be a global person?					1,2,3	面接	
	定期試験(中間・期末)							
アクティブ・ラーニング	ペアワークまたはグループワーク及び発表を中心とした授業を行う。							
成績評価基準	<p>評価の方法: ①授業演習(20%)、②プレゼンテーション(20%)、③宿題(20%)、④中間試験(20%)、⑤期末試験(20%)により総合的に評価する。</p> <p>評価の基準: ①関心・意欲、態度: ペアワーク、グループワーク及び発表等に積極的に参加している。  ②知識・理解、思考・判断、技能・表現: 与えられたテーマについて、適切にプレゼンができる。  ③知識・理解、思考・判断: 宿題を確実に実施できている。  ④知識・理解: 達成目標を確実に遂行しようとしている。  ⑤知識・理解: 達成目標を確実に遂行しようとしている。</p>							
フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業の振り返りを行う; (教員) 宿題を評価し、返却する; (履修生) 授業後にふり振り返りコメントを提出する。							
時間外の学習について	予習: 授業内で指定された課題をした上で授業に臨むこと。(各回60分程度) 復習: 授業内で発表した内容や学んだことについて振り返りしておくこと。(各回60~90分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト: Nozomu Sonda 著 Global English (first edition) (One World International) ISBN 4-948773-22-6							
実務経験について								
担当者からのメッセージ等	英語はグローバルなコミュニケーションのツールです。世界中の多様な背景の人たちが使っています。誰でも参加できる世界です。恐れずに楽しく使ってみましょう。注: 対面授業を基本としますが、状況によっては遠隔授業を実施する場合があるので、念のためにネットワーク環境を整えておいてください。 担当者の連絡先は授業内で周知します。							

授業科目名	国際論	教員名	芹澤 隆道 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-4004-0000001	年次配当	2年後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム	必修 ①-b										
授業テーマ	20世紀初めから現在に至るまで、アメリカ合衆国が行ってきた戦争が、どのような影響を世界にもたらしてきたのかについて幅広く取り上げる。															
授業概要	20世紀初頭アメリカ合衆国は、最初の海外植民地としてフィリピンを支配した際、「恩恵の同化」というイデオロギーを打ち出した。「茶色で小さな」フィリピン人たちが、「独立した大人」になるまでアメリカ合衆国が後見するという考えである。アメリカ合衆国は、第二次世界大戦後日本を占領した際にも、類似したイデオロギーを打ち出した。すなわち「軍人に支配された戦中期日本」を「悪」とし、アメリカ合衆国によって「民主化がもたらされた戦後日本」を「善」と位置付けたからである。アメリカ合衆国は、このような発展史観や善悪二分化に基づき、自らの戦争を正当化してきた。現代社会において、アメリカのこのようなイデオロギーは説得的であると世界に受けとめられるだろうか？とりわけ911以降掲げられた「テロとの戦い」は、中東情勢をいっそう不安定にさせてきた。また近年台頭してきた中国との経済的、政治的摩擦は緊張関係を増している。冷戦崩壊後、グローバル・パワーとして君臨してきたアメリカ合衆国は現在、岐路に立たされている。アメリカ人歴史家アルフレッド・マッコイは、2030年を境に中国がアメリカ合衆国のGDPを抜き、2050年を境に中国とアメリカ合衆国の間で第三次世界大戦が始まるが、アメリカ合衆国はどのような手段を取っても敗れると予想する。このマッコイの予言が事実とならないために、私たちは歴史から何を学ぶことができるだろうか？これが本講義を貫く問題関心である。															
到達目標	1. アメリカ合衆国が、自ら行ってきた戦争をどのように正当化してきたのか、理解できるようになる。 2. 戦争と平和は対義語というよりも、「平和をもたらす」という正義の下、戦争が行われてきたことを理解できるようになる。 3. 戦後日本の「平和ナショナリズム」を批判的に考察することができるようになる。 4. 歴史を学ぶことによって、未来を見据えた思考力を鍛えることができるようになる。															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	○	④	○	⑤	○	⑥	○	⑦	◎	⑧	○
履修条件・注意事項																
授業計画														目標	方法	
	1. ガイダンス(アメリカ帝国の光と影)													1,4	面接	
	2. フィリピン・アメリカ戦争(1898-1910)													1,2	面接	
	3. GHQ/SCAPによる日本占領(1945-1952)													1,3	面接	
	4. 沖縄米軍基地													1,3	面接	
	5. 朝鮮戦争(1950-1953)													1,2	面接	
	6. ベトナム戦争(1965-1975)①													1,2	面接	
	7. ベトナム戦争(1965-1975)②													4	面接	
	8. 地域研究とアカデミック帝国①													4	面接	
	9. 地域研究とアカデミック帝国②													4	面接	
	10. 冷戦とアジアの開発独裁													1	面接	
	11. アメリカにとっての中東の味方と敵													1	面接	
	12. 冷戦崩壊とグローバル資本主義の台頭													1,4	面接	
	13. 米中関係の緊張化と日本の立場①													1,3,4	面接	
	14. 米中関係の緊張化と日本の立場②													1,3,4	面接	
	15. まとめ													4	面接	
	◎定期試験(最終レポート提出)															
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、課題解決型学習															
成績評価基準	評価の方法: ①最終レポート(50%)、②授業への参加度(50%=毎回、講義の最後にリアクションペーパーを書く)により総合的に評価する。 評価の基準: ①序論、本論、結論の構成に沿って書いている ②授業内のアクティブ・ラーニングにおいて、積極的に発言する。															
フィードバックの方法	授業時に質問を受ける。															
時間外の学習について	予習: 次回の授業の内容について調べて理解しておくこと。(各回90分程度) 復習: 本時のまとめを復習しておくこと。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト: 授業の進行に応じて、プリントを配布する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	英語で書かれた教科書や文献を必要に応じて紹介します。日本史やアジア史が英語でどのように書かれているのかを知りたいという好奇心のある学生を歓迎します。さらに本講義は、出来事や年代を記憶することに重きを置いていません。例えばアジア太平洋戦争が、アジア諸国やアメリカ合衆国の教科書ではどのように描かれているのか、複眼的に考えることに関心がある学生を歓迎します。担当者の連絡先・メールアドレス tserizawa@yp4.yamaguchi-pu.ac.jp															

授業科目名	DX概論	教員名	湯浅 修一（実務経験） （単独）	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
小学校教諭																
中学校教諭（英語）																
高等学校教諭（英語）																
特別支援学校教諭																
ナンバリングコード	CM2-5001-0000001	年次配当	2年前期	卒業要件	SPARC連携プログラム		必修	⑤								
授業形態	講義	授業科目の 取扱い			初等幼児教育専攻		選択									
単位数	2			英語教育専攻		選択										
授業テーマ	デジタル・トランスフォーメーション（DX）															
授業概要	デジタル・トランスフォーメーション（DX）の背景、概念、重要性などを理解した上で、DXの具体的な取り組み事例を学ぶ。また、企業がどのようにデジタル技術とデータを活用して新しい価値を創出し、課題解決に取り組んでいるのか（競争力を高めようとしているのか）を学ぶ。															
到達目標	<p>1. DXはデジタルツールの導入ではなく、課題解決のための取り組みであり、データやデジタル技術はそのための手段にすぎないことを理解し、説明できる。</p> <p>2. DXの背景、概念、重要性を理解し、説明できる。</p> <p>3. 自身がDXに主体的に取り組む役割を担うことを想定した上で、課題解決においてデータやデジタル技術、各種ツールを活用する場面をイメージし、それを説明できる。</p>															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	◎	⑧	・
履修条件・注意事項	連携開設科目・SPARC教育プログラム履修者のみ履修可能															
授業計画								目標	方法							
	1. DXとは何か							1,2	同時双方向							
	2. DXと社会変化							1,2	同時双方向							
	3. DXの素材としてのデータ1（データ化の意義、データドリブン）							1,2	同時双方向							
	4. DXの素材としてのデータ2（データ分析・活用の例）							1,2	同時双方向							
	5. デジタル技術と企業1（OA化の進展、AIの活用事例）							1,2	同時双方向							
	6. デジタル技術と企業2（デジタル技術がビジネスにもたらすもの）							1,2	同時双方向							
	7. DXの進め方1（経営理念と経営戦略、DX）							1,3	同時双方向							
	8. DXの進め方2（企業の成長とDX、デジタル化のステップ）							1,3	同時双方向							
	9. DXの進め方3（イノベーションとDX、DXの成功事例、失敗事例）							1,3	同時双方向							
	10. DXの進め方4（DXで求められる人材像、DXリーダーに求められるもの）							1,3	同時双方向							
	11. 事例に学ぶDX1（実際にDXを推進している企業の事例紹介1）							1,2,3	同時双方向							
	12. 事例に学ぶDX2（実際にDXを推進している企業の事例紹介2）							1,2,3	同時双方向							
	13. 事例に学ぶDX3（実際にDXを推進している企業の事例紹介3）							1,2,3	同時双方向							
	14. 事例に学ぶDX4（実際にDXを推進している企業の事例に基づく討議）							1,2,3	同時双方向							
	15. まとめ（地域発のDX、これからのDX）							1,3	同時双方向							
	定期試験															
アクティブ・ラーニング	ディスカッション															
成績評価基準	<p>評価の方法：①定期試験(70%)、②小テスト・授業内レポート(20%)、③授業態度・授業への参加度(10%)により、総合的に評価する。</p> <p>評価の基準：①知識・理解、思考・判断、技能・表現：DXの取り組みについてその目的と提供している価値、価値を提供するための変革、変革のために活用されているデジタル技術やデータについて、論理的に整合した説明ができる。</p> <p>②関心・意欲、技能・表現：授業で学修した内容を踏まえ、自身の考えを述べている。</p> <p>③関心・意欲、態度：授業に参加し、授業外指示事項に対するレポートを提出している。</p> <p>ケーススタディや外部講師による授業にも積極的に参加し、貢献している。</p>															
フィードバックの方法	授業内レポートはオンラインにて担当教員からコメント等を返信する。															
時間外の学習について	<p>予習：担当教員の指示する項目の予習(各回120分程度)</p> <p>復習：担当教員の指示する項目の復習(各回120分程度)</p>															
教材にかかわる情報	<p>テキスト：なし</p> <p>参考書：なし</p> <p>参考資料等：授業の折に担当教員から配布する。</p>															
実務経験について	企業での実務経験：大手素材メーカーでDX企画、戦略立案に携わってきた経験も踏まえ、講義を行う。															
担当者からのメッセージ等	<p>オンラインを活用し、課題提示、質疑応答等を行います。</p> <p>Email：shuichi.yuasa@yamaguchi-u.ac.jp（湯浅）</p> <p>：hkawamoto@y-gakugei.ac.jp（河本）※SPARC教育プログラム担当者</p>															

授業科目名	地域学	教員名	藏田 典子 岩野 雅子 芹澤 隆道 末本 哲雄 長田 和美 荒木 麻耶 有山 結花	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM2-5002-0000001	年次配当	2年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC連携プログラム	必修 ④										
授業テーマ	地域学、国際文化実践論															
授業概要	国際的な教養や行動力を身に付けるためには「地域に出て実践的・主体的な学びを行う」ことが必要となる。そこで実際に地域に出るための知識や技能、態度や行動力を育むことを目的とし、フィールドワークの手法について理解し、倫理的・実践的な課題を把握する。また、企業や行政、民間団体からみた地域課題の発見や解決に向けた事例を取りあげ、具体的にどのような課題に対してどのような人々が、どういったアイデアや手法を用いて解決しようとしているのかについて学ぶ。特にデータサイエンスやデジタルなどを活用して社会や暮らしの改善に向けた新たなしくみづくりを行っている事例に着目しつつ、他者と協働しながら課題に対する適切かつ複数の解決策を示すことを目指す。															
到達目標	1. 国際的な教養や行動力の基礎力となる「地域に出て実践的な学びを行う」ためのフィールドワークの基礎的知識とスキルを理解しており、地域社会の特性や特色を理解し、データやデジタル等をふまえて自ら課題を抽出する力が身に付いている。 2. さまざまな地域社会の特性や特色について多角的な観点から理解し、課題解決に向けた提案に対して主体的に行動したり、異なる立場の人々と協働したりしようとする態度が身に付いている。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	◎	⑧	・
履修条件・注意事項	連携開設科目・SPARC教育プログラム履修者のみ履修可能															
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション				1.2.	同時双方向										
	2. フィールドから考える地域				1.2.	同時双方向										
	3. フィールドから考える地域				1.2.	同時双方向										
	4. データから考える地域				1.2.	同時双方向										
	5. データから考える地域				1.2.	同時双方向										
	6. 国際的な視点から考える地域	グローバルとローカル			1.2.	同時双方向										
	7. 国際的な視点から考える地域	グローバルとローカル			1.2.	同時双方向										
	8. ディスカッション(グループワーク)				1.2.	同時双方向										
	9. ゲスト(企業・行政)				1.2.	同時双方向										
	10. ゲスト(企業・行政)				1.2.	同時双方向										
	11. ゲスト(企業・行政)				1.2.	同時双方向										
	12. ディスカッション(グループワーク)				1.2.	同時双方向										
	13. 歴史から考える地域				1.2.	同時双方向										
	14. 文化から考える地域				1.2.	同時双方向										
15. まとめ				1.2.	同時双方向											
アクティブ・ラーニング	グループワークなどを通して実施する。															
成績評価基準	評価の方法：①レポート(80%)、②プレゼンテーション(20%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①「地域に出て実践的な学びを行う」ためのフィールドワークの基礎的知識とスキルを理解している。 ②地域の特性や特色について理解し、データやエビデンスを用いた課題分析や課題解決策の抽出方法について理解している。 ③フィールドワークの基礎的知識とスキルをふまえて地域の特性や特色を理解し、自ら課題を抽出し分析した上で、他者に説明し討論する力が身に付いている。															
フィードバックの方法	授業で実施します。															
時間外の学習について	予習：ゲストスピーカーへの質問などを集めます。(各回90分程度) 復習：各講義を通して学んだことを定着できるような事後課題を設定します。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：授業時に指示します。 参考書： 参考資料等：															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	ゲストスピーカーとして、山口市役所や山口県庁、山口県の企業の方をお呼びします。 地域課題解決に向けたプロジェクト演習を行うための基礎力を身につけましょう。 Email：nkurata@yamaguchi-pu.ac.jp (藏田) ：hkawamoto@y-gakugei.ac.jp (河本) ※SPARC教育プログラム担当者															

授業科目名	DXによる地域課題解決 (PBL) I	教員名	星野 晋 松村 納央子 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士					
					幼稚園教諭					
ナンバリングコード	CM3-5003-0000001	年次配当	3年前期		小学校教諭					
					中学校教諭(英語)					
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)					
					特別支援学校教諭					
単位数	2				SPARC連携プログラム	必修 ⑥				
授業テーマ	DX(データ活用やデジタル技能を用いて新たな価値を創造すること)、PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)									
授業概要	DXをもたらすような課題解決・価値提案の試みに求められる視点と方法について、プロジェクト活動とおして実践的に学修します。やまぐち SPARC では、AI やロボット等の技術を駆使して新たな価値やライフスタイルを創造し、ウェルビーイングの維持・向上に貢献できる文系 DX 人材の育成を推進しています。本授業では、実社会に課題を見だし、上記技術を用いて課題解決・価値創造すべく、自らプロジェクトを立ち上げ、行政、企業、地域住民等と協力しながら、調査、企画、試行、評価、提案の反復過程を実践します。									
到達目標	1. 文献調査や社会調査にもとづいて課題を発見し、その背景や構成要因をデータと論理を駆使して分析・解釈できる。 2. 課題に関連する AI、IoT、ロボット等を用いた先行事例を収集し適切に評価できる。 3. 適切なコミュニケーションやチームマネジメントができる。 4. プロジェクトの活動と成果を説得力のある報告書やプレゼンテーションにまとめあげることができる。									
学修成果との関係	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
履修条件・注意事項	DXによる地域課題解決(PBL) IとIIは通年で受講するものとします(成績は前期・後期で分けてつけます)。郊外活動(フィールドワーク)や調査研究活動は、授業外学習時間にカウントすることがあります。授業の実施方法:①面接授業 ②フィールドワーク(学生が自主的にフィールドワークをする場合もあります) SPARC教育プログラム履修者のみ履修可能。									
授業計画	授業内容				目標	方法				
	1. ガイダンス				1,2	面接				
	2. 少子高齢化・人口減時代の日本とウェルビーイング				1,2	面接				
	3. チーム編成・プロジェクトとは?				1,2,3	面接				
	4. 課題設定(仮)				1,2,3	面接				
	5. 課題の背景・要因分析(文献、Web情報)				1,2,3	面接				
	6. 課題に関連するDX先行事例の評価				1,2,3	面接				
	7. 連携・協力先の選定、プロジェクトのロードマップ作成				1,2,3	面接				
	8. 調査計画				1,2,3	面接				
	9. 社会調査実施				1,2,3	面接				
	10. 課題の背景・要因分析(社会調査にもとづく)				1,2,3	面接				
	11. 解決案の検討・企画案作成				1,2,3	面接				
	12. 中間報告準備				3,4	面接				
	13. 中間報告準備				3,4	面接				
	14. 中間報告				3,4	面接				
15. 振り返り・夏期休暇中の計画				3,4	面接					
*プロジェクトは4~6名のグループで立ち上げ、それぞれのスケジュールで進める場面もあります。										
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習(フィールドワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等)									
成績評価基準	評価の方法:①授業態度(25%)、②グループ活動(25%)、③提出課題(25%)、④プレゼンテーション(25%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:観察をもとに主体的に課題を発見・立案し、グループの行動に貢献できる。 ②発想・構想:課題を新たな視点から捉えなおし、解決方法を提案、試行錯誤できる。 ③思考・判断:ICTを活用し幅広く、他者の多様な意見も受け入れながら、自らの考えを深められる。 ④技能・表現:非言語的な表現も交えながらプレゼンテーションをまとめ、積極的に表現できる。									
フィードバックの方法	パートナー企業・行政組織からのフィードバックを月1回のミーティングで受ける。									
時間外の学習について	予習:自ら設定した課題に関する先行事例などを調査する(各回90分程度)。 復習:授業内容を学習ファイルなどで振り返り、次の活動に生かす(各回90分程度)、場合によって制作活動も行う。									
教材にかかわる情報	テキスト:特に定めない。 参考書:授業内で適宜提示する。 参考資料等:授業内で適宜提示する。									
実務経験について										
担当者からのメッセージ等	授業外でも随時ICT等を活用して情報共有や打ち合わせ会議を行います。 プロジェクトの内容によっては、授業時間外の主体的な活動が必要になります。 Email:shoshino@y-gakugei.ac.jp(星野)									

授業科目名	DXによる地域課題解決 (PBL) II	教員名	星野 晋 松村 納央子 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士			
					幼稚園教諭			
ナンバリングコード	CM3-5004-000001	年次配当	3年後期		小学校教諭			
					中学校教諭(英語)			
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)			
					特別支援学校教諭			
単位数	2				SPARC連携プログラム	必修 ⑥		
授業テーマ	DX(データ活用やデジタル技能を用いて新たな価値を創造すること)、PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)							
授業概要	DXをもたらしようとする課題解決・価値提案の試みに求められる視点と方法について、プロジェクト活動をとおして実践的に学修します。やまぐち SPARC では、AI やロボット等の技術を駆使して新たな価値やライフスタイルを創造し、ウェルビーイングの維持・向上に貢献できる文系 DX 人材の育成を推進しています。本授業では、実社会に課題を見だし、上記技術を用いて課題解決・価値創造すべく、自らプロジェクトを立ち上げ、行政、企業、地域住民等と協力しながら、調査、企画、試行、評価、提案の反復過程を実践します。							
到達目標	1. 文献調査や社会調査にもとづいて課題を発見し、その背景や構成要因をデータと論理を駆使して分析・解釈できる。 2. 課題に関連する AI、IoT、ロボット等を用いた先行事例を収集し適切に評価できる。 3. 適切なコミュニケーションやチームマネジメントができる。 4. プロジェクトの活動と成果を説得力のある報告書やプレゼンテーションにまとめあげることができる。							
学修成果との関係	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
履修条件・注意事項	DXによる地域課題解決(PBL) IとIIは通年で受講するものとします(成績は前期・後期で分けてつけます)。 郊外活動(フィールドワーク)や調査研究活動は、授業外学習時間にカウントすることがあります。 授業の実施方法:①面接授業 ②フィールドワーク(学生が自主的にフィールドワークをする場合もあります) SPARC 教育プログラム履修者のみ履修可能。							
授業計画	授業内容				目標	方法		
	1. プロジェクトの進捗および活動計画の確認				1,2,3	面接		
	2. 追加調査・分析、プロトタイプ(もしくは実装)準備等				1,2,3	面接		
	3. 追加調査・分析、プロトタイプ(もしくは実装)準備等				1,2,3	面接		
	4. 追加調査・分析、プロトタイプ(もしくは実装)準備等				1,2,3	面接		
	5. プロトタイプ(もしくは実装)の評価・分析等				1,2,3	面接		
	6. プロトタイプ(もしくは実装)の評価・分析等				1,2,3	面接		
	7. プロトタイプ(もしくは実装)の評価・分析等				1,2,3	面接		
	8. 活動の総括および提案の決定				1,2,3,4	面接		
	9. プレゼンテーションおよび最終報告書執筆の計画				1,2,3,4	面接		
	10. 解決案・提案の検討				1,2,3,4	面接		
	11. 最終報告概要版作成				1,2,3,4	面接		
	12. 最終報告会準備、最終報告書執筆				1,2,3,4	面接		
	13. 最終報告会準備、最終報告書執筆				1,2,3,4	面接		
	14. 最終報告会				3,4	面接		
15. 振り返り				3,4	面接			
*9~11月の間に実装期間を設定します。また、2月中旬にSPARC合同発表会があります。								
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習(グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等)							
成績評価基準	評価の方法:①授業態度(25%)、②グループ活動(25%)、③提出課題(25%)、④プレゼンテーション(25%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:観察をもとに主体的に課題を発見・立案し、グループの行動に貢献できる。 ②発想・構想:課題を新たな視点から捉えなおし、解決方法を提案、試行錯誤できる。 ③思考・判断:ICTを活用し、幅広く、他者の多様な意見も受け入れながら、自らの考えを深められる。 ④技能・表現:非言語的な表現も交えながらプレゼンテーションをまとめ、積極的に表現できる。							
フィードバックの方法	パートナー企業・行政組織からのフィードバックを月1回のミーティングで受ける。							
時間外の学習について	予習:自ら設定した課題に関する先行事例などを調査する(各回90分程度)。 復習:授業内容を学習ファイルなどで振り返り、次の活動に生かす(各回90分程度)、場合によっては制作活動も行う。							
教材にかかわる情報	テキスト:特に定めない。 参考書:授業内で適宜提示する。 参考資料等:授業内で適宜提示する。							
担当者からのメッセージ等	授業外でも随時ICT等を活用して情報共有や打ち合わせ会議を行います。 プロジェクトの内容によっては、授業時間外の主体的な活動が必要になります。 Email:shoshino@y-gakugei.ac.jp(星野)							

授業科目名	教育実習指導(幼・小)	教員名	松村納央子 紀村 修一 川野 哲也 吉鶴 修 森 俊博 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC3-6001-0120000	年次配当	3年前後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園・小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習の意義、教育実習の準備、															
授業概要	教育実習の目標、意義、内容、方法などを理解し、実習生として学校の教育活動に参加する意識をもつ。実習後はそこの経験や現場の課題について深く考察する。振り返りの中で、今後の課題を認識する。															
到達目標	1.教育実習の目標、意義、実習生としての義務を理解し、説明できる。 2.教育実習に参加する意欲と態度を備え、表現できる。 3.教育実習の内容、方法について理解し、説明できる。 4.教育実習の内容を振り返り、今後における自らの課題を自覚し、説明できる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。															
授業計画					目標	方法										
	1.教育実習の目的、意義				1,2	面接										
	2.観察と記録の視点① 学校の状況、課題				3	面接										
	3.観察と記録の視点② 子どもの課題、子どもとのかかわり				3	面接										
	4.観察と記録の視点③ 担任教師の教育観、学級経営、授業				3	面接										
	5.指導案① ねらい、発問、教材など				3	面接										
	6.指導案② 授業展開、支援のあり方				3	面接										
	7.指導案③ 教材研究、ICT機器の活用				3	面接										
	8.実習準備、心構え、自己課題の明確化 (実習Ⅰ)				3	面接										
	9.振り返り、反省① 観察記録より				4,5	面接										
	10.振り返り、反省② 子どもとのかかわり				4,5	面接										
	11.模擬授業とその検討(導入を中心に)				4,5	面接										
	12.模擬授業とその検討(展開を中心に) (実習Ⅱ)				4,5	面接										
	13.振り返り、反省① 子どもとのかかわり				4,5	面接										
	14.振り返り、反省② 授業				4,5	面接										
15.全体の発表、振り返り				4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①レポートおよびノート50%、②グループワーク50%により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断：教育実習の目的や内容等について理解しているか。 実習後に、自己の体験について深く考察しているか。 ②関心・意欲、態度：実習に向けた意欲や態度を備えているか。															
フィードバックの方法	指導案・レポート・模擬授業について改善点を指摘する。必要に応じて個別指導を行う。															
時間外の学習について	予習：関連書籍を読んでおくこと、関連する講義の学修内容を振り返っておくこと。(45分程度) 復習：講義内容について、自分なりに説明できるようにすること。自らの実践について振り返りをする。(45分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：名須川知子(監修)『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』萌文書房。 玉川大学教師教育リサーチセンター『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』時事通信社。 参考書：幼稚園教育要領(幼保連携型認定こども園教育・保育要領)、小学校学習指導要領 参考資料等：「実習に関するガイドブック」「教育実習実施に当たってのガイドライン」(山口県教育委員会)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	教育実習(幼・小) I	教員名	松村納央子 紀村 修一 川野 哲也 吉鶴 修 森 俊博 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC3-6002-0120000	年次配当	3年前後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園・小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習、教育活動についての観察、															
授業概要	幼児、児童の様子、学習環境、指導者の様子等について観察を行い、それらの実際と課題について把握する。実習校(園)の方針や特色を理解するとともに学校実務の補助的な役割を担う。															
到達目標	1. 教育実習校(園)の方針や特徴、組織体制を理解し、説明できる。															
	2. 指導教諭等の授業を観察し、ねらい、内容、方法等について理解し、説明できる。															
	3. 幼児、児童との関わりを通して、実態や課題を把握し、説明できる。															
	4. 指導教諭等の補助的な役割を担うことができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。															
授業計画						目標	方法									
	10日間の実習期間において、以下の項目に取り組む。															
	1. 実習校(園)の教育方針や特色を理解する。					1	面接									
	2. 指導教諭等の授業・教育活動、学習環境を観察し、記録する。					2	面接									
	3. 幼児・児童と教育的愛情をもってかかわる。					3	面接									
	4. 幼児・児童の実態や課題について記録する。					3	面接									
	5. 指導教諭等の補助的な役割を担う。					4	面接									
6. 指導教諭等の指導を受け、教諭としてふさわしい言動ができたか自らのかかわり方を振り返る。					3	面接										
アクティブ・ラーニング	教育実習															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況60%、②実習日誌およびレポート40%により、総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲：態度：教職への強い情熱をもって取り組み、教育活動(校務を含む)に積極的にかかわったか ②知識・理解、思考・判断：学校(園)の現状や実態について理解したか 教育現場における日々の課題や諸事象の意味などについて考察したか															
フィードバックの方法	学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。															
時間外の学習について	予習：実習校について情報を集める、実習に必要な資質能力を高めておく。実習先でのオリエンテーションに参加する。 復習：日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：幼稚園教育要領(幼保連携型認定こども園教育・保育要領)、小学校学習指導要領 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠く言動をしたと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	教育実習(幼・小)Ⅱ	教員名	松村納央子 紀村 修一 川野 哲也 吉鶴 修 森 俊博 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	必修										
ナンバリングコード	UC3-6003-0120000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)											
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園・小学校)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習、指導案作成、授業実践															
授業概要	これまで学んできた専門的知識や技能を教育現場で実践する。幼児、児童と関わりながら教員の役割、職務内容について理解する。															
到達目標	1. 適切な指導案を作成し、教育実践を行うことができる。 2. 教育活動に必要な基礎的技術(情報機器の活用を含む)を修得し、実践できる。 3. 教員の役割、職務内容を理解し、補助的な役割を担うことができる。 4. 教育者としての責任と自覚をもち、幼児・児童と適切にかかわることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。															
授業計画						目標	方法									
	10日間の実習期間において、以下の項目に取り組む。															
	1. 教育的愛情を基に、幼児・児童と適切にかかわる。					3,4	面接									
	2. 幼児・児童理解、教材研究ならびに教育技術の向上に努め、指導案を作成する。					1,2,3	面接									
	3. 指導案に基づき適切な教育活動(授業・設定保育)をする。					1,2,3	面接									
	4. 指導教諭等の指導を受け、教育活動を振り返る。					1,2,3,4	面接									
	5. 改善を加えた上で、新たに実践する。					1,2,3,4	面接									
6. 自らの教育活動を振り返り、教職に向けて自らの今後の課題を把握する。					1,2,3,4	面接										
アクティブ・ラーニング	教育実習															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況60%、②実習日誌およびレポート40%により総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、技能・表現：教職への強い情熱をもって取り組み、効果的に実践できたか。 取組の中で自らの技能を向上させることができたか。 ②思考・判断：実践について考察できたか。振り返りの中で自らの課題を明確にできたか。															
フィードバックの方法	学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。															
時間外の学習について	予習：実習に向けて教育内容を確認し、必要な教材研究を行う。実習先でのオリエンテーションに参加する。 復習：日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：幼稚園教育要領(幼保連携型認定こども園教育・保育要領)、小学校学習指導要領 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠く言動をしたと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	教育実習指導(小・中)	教員名	川野 哲也 吉鶴 修 森 俊博 二五 義博 檜垣 英夫 渡部 靖徳 【複数】	免許・資格 等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-6004-0022000	年次配当	3年前後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				初等幼児教育専攻	選択										
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(小学校)(中学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習の意義、教育実習の準備															
授業概要	教育実習の目標、意義、内容、方法などを理解し、実習生として学校の教育活動に参加する意識をもつ。実習後はそこの経験や現場の課題について深く考察する。振り返りの中で、今後の課題を認識する。															
到達目標	1. 教育実習の目標、意義、実習生としての義務を理解し、説明できる。 2. 教育実習に参加する意欲と態度を備え、表現できる。 3. 教育実習の内容、方法について理解し、説明できる。 4. 教育実習の内容を振り返り、今後における自らの課題を自覚し、説明できる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。															
授業計画					目標	方法										
	1. 教育実習の目的、意義				1,2	面接										
	2. 観察と記録の視点① 学校の状況、課題				3	面接										
	3. 観察と記録の視点② 児童生徒の課題、児童生徒とのかかわり				3	面接										
	4. 観察と記録の視点③ 担任教師の教育観、学級経営、授業				3	面接										
	5. 指導案① ねらい、発問、教材など				3	面接										
	6. 指導案② 授業展開、支援のあり方				3	面接										
	7. 指導案③ 教材研究、ICT 機器の活用				3	面接										
	8. 実習準備、心構え、自己課題の明確化 (実習Ⅰ)				3	面接										
	9. 振り返り、反省① 観察記録より				4,5	面接										
	10. 振り返り、反省② 児童生徒とのかかわり				4,5	面接										
	11. 模擬授業とその検討(導入を中心に)				4,5	面接										
	12. 模擬授業とその検討(展開を中心に) (実習Ⅱ)				4,5	面接										
	13. 振り返り、反省① 児童生徒とのかかわり				4,5	面接										
	14. 振り返り、反省② 授業				4,5	面接										
15. 全体の発表、振り返り				4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況60%、②実習日誌およびレポート40%により、総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲・態度：教職への強い情熱をもって取り組み、教育活動(校務を含む)に積極的に関わったか ②知識・理解、思考・判断：学校(園)の現状や実態について理解したか 教育現場における日々の課題や諸事象の意味などについて考察したか															
フィードバックの方法	指導案・レポート・模擬授業について改善点を指摘する。必要に応じて個別指導を行う。															
時間外の学習について	予習：関連書籍を読んでおくこと、関連する講義の学修内容を振り返っておくこと。(45分程度) 復習：講義内容について、自分なりに説明できるようにすること。自らの実践について振り返りを行うこと。(45分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：玉川大学教師教育リサーチセンター『小学校・中学校・高等学校版 教育実習ガイド』時事通信社。 参考書：小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 参考資料等：「実習に関するガイドブック」「教育実習実施に当たってのガイドライン」(山口県教育委員会)															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	教育実習(小・中) I	教員名	川野 哲也 吉鶴 修 森 俊博 二五 義博 檜垣 英夫 渡部 靖徳 【複数】	免許・資格等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-6005-0022000	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	実習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(小学校)(中学校 英語)															
各科目に含めることが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習、教育活動についての観察、															
授業概要	児童、生徒の様子、学習環境、指導者の様子等について観察を行い、それらの実際と課題について把握する。実習校の方針や特色を理解するとともに学校実務の補助的な役割を担う。															
到達目標	1. 教育実習校の方針や特徴、組織体制を理解し、説明できる。															
	2. 指導教諭等の授業を観察し、ねらい、内容、方法等について理解し、説明できる。															
	3. 幼児、児童との関わりを通して、実態や課題を把握し、説明できる。															
	4. 指導教諭等の補助的な役割を担うことができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。															
授業計画						目標	方法									
	10日間の実習期間において、以下の項目に取り組む。															
	1. 実習校(園)の教育方針や特色を理解する。					1	面接									
	2. 指導教諭等の授業・教育活動、学習環境を観察し、記録する。					2	面接									
	3. 児童生徒と教育的愛情をもってかかわる。					3	面接									
	4. 児童生徒の実態や課題について記録する。					3	面接									
	5. 指導教諭等の補助的な役割を担う。					4	面接									
6. 指導教諭等の指導を受け、教諭としてふさわしい言動ができたか自らのかかわり方を振り返る。					3	面接										
アクティブ・ラーニング	教育実習															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況60%、②実習日誌およびレポート40%により、総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲・態度：教職への強い情熱をもって取り組み、教育活動(校務を含む)に積極的にかかわったか ②知識・理解、思考・判断：学校(園)の現状や実態について理解したか 教育現場における日々の課題や諸事象の意味などについて考察したか															
フィードバックの方法	学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。															
時間外の学習について	予習：実習校について情報を集める、実習に必要な資質能力を高めておく。実習先でのオリエンテーションに参加する。 復習：日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠く言動をしたと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	教育実習(小・中)Ⅱ	教員名	川野 哲也 吉鶴 修 森 俊博 二五 義博 檜垣 英夫 渡部 靖徳 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM3-6006-0022000	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育実践に関する科目(小学校)(中学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習、指導案作成、授業実践															
授業概要	これまで学んできた専門的知識や技能を教育現場で実践する。児童、生徒と関わりながら教員の役割、職務内容について理解する。															
到達目標	1. 適切な指導案を作成し、教育実践を行うことができる。 2. 教育活動に必要な基礎的技術(情報機器の活用を含む)を修得し、実践できる。 3. 教員の役割、職務内容を理解し、補助的な役割を担うことができる。 4. 教育者としての責任と自覚をもち、幼児・児童と適切にかかわることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修要件については「実習に関するガイドブック」に記載。															
授業計画						目標	方法									
	10日間の実習期間において、以下の項目に取り組む。															
	1. 教育的愛情を基に、児童生徒と適切にかかわる。						3,4	面接								
	2. 児童生徒理解、教材研究ならびに教育技術の向上に努め、指導案を作成する。						1,2,3	面接								
	3. 指導案に基づき適切な教育活動(授業等)をする。						1,2,3	面接								
	4. 指導教諭等の指導を受け、教育活動を振り返る。						1,2,3,4	面接								
	5. 改善を加えた上で、新たに実践する。						1,2,3,4	面接								
6. 自らの教育活動を振り返り、教職に向けて自らの今後の課題を把握する。						1,2,3,4	面接									
アクティブ・ラーニング	教育実習															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況60%、②実習日誌およびレポート40%により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、技能・表現：教職への強い情熱をもって取り組み、効果的に実践できたか。 取組の中で自らの技能を向上させることができたか。 ②思考・判断：実践について考察できたか。振り返りの中で自らの課題を明確にできたか。															
フィードバックの方法	学生の実習の様子(記録、レポート)に関して、学びとしての良い点、改善点等を指摘する。															
時間外の 学習について	予習：実習に向けて教育内容を確認し、必要な教材研究を行う。実習先でのオリエンテーションに参加する。 復習：日誌等の記録を整理し、課題を明確にする。															
教材にかかわる 情報	テキスト：なし 参考書：小学校学習指導要領、中学校学習指導要領 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠く言動をしたと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	教育実習指導(中・高)	教員名	二五 義博 檜垣 英夫 渡部 靖徳 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-6007-0002100	年次配当	3年前後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習の準備・振り返り、教育実習の意義、実習心得、教材研究、学習指導案、生徒理解・生徒指導															
授業概要	中学校または高等学校での教育実習を、充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、中学校または高等学校の英語教育の特色や現状・課題等を十分に理解して、教育実習に備える。実習後は、実習先での経験を省察し、振り返ることによって今後の課題を認識し、学校現場における実践的な指導力を身につける。															
到達目標	1. 中・高等学校での教育実習の意義・心得・責務を理解し説明することができる。															
	2. 中・高等学校での教育実習の目標・内容・活動を把握し、説明することができる。															
	3. 中・高等学校での教育実習の特色と課題を説明することができる。															
	4. 自分の成長に活かせるよう、実習体験からの学びを省察することができる。															
	5. 今後の学習課題を理解し、その課題を解決するための方策を計画することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	場合によっては遠隔授業															
授業計画						目標	方法									
	事前指導															
	1. 教育実習の意義と心得(実習生としての行動・態度・遵守事項)					1	面接									
	2. 授業観察の視点と方法(授業とは・教師の出す指示)					1,2	面接									
	3. 日本における英語教育の特色と課題					3	面接									
	4. 学級経営の重要性					3	面接									
	5. 教材研究の基本:教材と学習内容・ICTの効果的な活用					2,3	面接									
	6. 学習指導案作成の基本(授業の組み立て)					2,3	面接									
	7. 生徒理解と生徒指導					3	面接									
	8. 実習校理解					2	面接									
	9. 模擬授業Ⅰ					1,2,3	面接									
	10. 模擬授業Ⅱ					1,2,3	面接									
	事後指導															
	11. 教育実習報告Ⅰ(教科指導)					4,5	面接									
	12. 教育実習報告Ⅱ(教科指導)					4,5	面接									
13. 教育実習報告Ⅰ(学級経営・生徒指導)					4,5	面接										
14. 教育実習報告Ⅱ(学級経営・生徒指導)					4,5	面接										
15. 今後の課題					4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	模擬授業、グループディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①授業での発表・貢献(30%)、②グループワーク(30%)、③レポート(40%)により総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲等:教育実習の意義を理解し、事前・事後指導に主体的に取り組んでいる。 ②思考・判断、技能・表現:生徒の発達段階に応じた対応ができる。 ③知識・理解:授業実践・教材研究・生徒理解・生徒指導等についての知識を有している。															
フィードバックの方法	指導案等について授業内での全体還元及び個別還元指導															
時間外の学習について	予習:事前配布資料及び関係分野について概要を理解しておく。(各回45分程度) 復習:還元レポートの振り返り及び既習内容を実際に実践できるようにする。(各回45分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:なし 参考書:中学校学習指導要領(外国語編) 高等学校学習指導要領(外国語編 英語編) 参考資料等:必要に応じて適宜資料配布															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	学校現場における実践的な指導力を身につけるということを絶えず意識して取り組んでください。 Email: ynigo@gakugei.ac.jp															

授業科目名	教育実習(中・高) I	教員名	二五 義博 檜垣 英夫 渡部 靖徳 【複数】	免許・資格 等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-6008-0002200	年次配当	3年前期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育実践に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習、指導案作成、授業実践															
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技能を、実際の学校現場での教育活動に主体的に適用する機会とする。教職員・生徒等との交流を通して、教員の役割や職務内容についての理解を深めるとともに、自分自身の教職適性を再確認する。															
到達目標	1. 学校現場と生徒の実態に触れ、理解したことを言語化できる。 2. 中学校または高等学校の役割、機能について説明できる。 3. 教育者の職務内容、役割について説明できる。 4. 実習の体験を通して教育の方法や技術を習得し、説明することができる。 5. 実践と理論を統合し、学習課題を発見することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	「実習に関するガイドブック」による履修要件を満たすこと 授業担当者が教職適性を欠いていると判断した場合は、実習へ行く許可を与えないことがある。															
授業計画					目標	方法										
	10日間の実習期間において、主に次の項目に取り組む。															
	1. 実習校の教育目標や教職員の職務内容等を理解する。				1,2,3	面接										
	2. 指導教諭の指導のもと、指導案の立案やそれに伴う教材の選定の在り方について学ぶ。				3,4	面接										
	3. 授業を通して、発問や説明、板書、生徒への対応等の基本的な指導技術を身につける。				3,4	面接										
	4. 授業後に、教材研究の在り方や評価方法等について積極的に指導を受け、授業改善に努める。				4	面接										
	5. 授業外においても、生徒との人間関係の構築に努める。				4,5	面接										
6. 様々な教育活動に積極的に取り組む。				1,2,3,4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	実習															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況(60%)、②教育実習日誌及びレポート(40%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲・技能・表現：教職への強い情熱をもって取り組み、生徒の発達段階に応じた授業実践及び人間関係の構築ができる。 ②知識・理解・思考・判断等：学習指導、生徒理解・生徒指導等の知識を有し、授業を実践できる。															
フィードバックの方法	実習校評価・実習日誌及び実習見学担当教員から改善点を指摘するとともに、必要に応じては模擬授業を再演させる。															
時間外の学習について	予習：実習校のオリエンテーション前に、実習校の教育方針等を確認するとともに、不明な点があれば当該オリエンテーションで質問し解消しておく。 復習：実習の振り返りを十分行い、自分の課題を明確にして教育実習Ⅱまでに解決に取り組む。															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：中学校学習指導要領(外国語編) 高等学校学習指導要領(外国語編 英語編) 参考資料等：必要に応じて適宜資料配布															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習生であっても生徒にとってみれば先生です。教師としての自覚を忘れずに実習に取り組んでください。教師になる強い意志のない人は、教育実習へ行くことはできません。 原則として2週間、慶進中・高等学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。 Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	教育実習(中・高)Ⅱ	教員名	二五 義博 檜垣 英夫 渡部 靖徳 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UL3-6009-0002200	年次配当	3年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に 関する科目	教育実践に関する科目(中学校・高等学校 英語)															
各科目に含める ことが必要な事項	教育実習															
授業テーマ	教育実習、教材研究、授業実践、生徒指導・生徒支援															
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技能を、実際の学校現場での教育活動に主体的に適用する機会とする。教職員・生徒等との交流を通して、教員の役割や職務内容についての理解を深めるとともに、実践的な指導力を身につける。															
到達目標	1. 学校現場と生徒の実態に触れ、理解したことを言語化できる。 2. 中学校または高等学校の役割、機能を説明できる。 3. 教育者の職務内容、役割を説明できる。 4. 実習の体験を通して教育の方法や技術を習得し、説明することができる。 5. 実践と理論を統合し、学習課題を発見し、実践的な指導をすることができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	「実習に関するガイドブック」による履修要件を満たすこと 授業担当者が教職適性を欠いていると判断した場合は、実習へ行く許可を与えないことがある。															
授業計画					目標	方法										
	10日間の実習期間において、主に次の項目に取り組む。															
	1. 実習校の教育目標や教職員の職務内容等を理解し、実習へ主体的に取り組む。				1,2,3	面接										
	2. 指導教諭からの助言を改善に繋げ、積極的に生徒の実態に応じた指導方法について学ぶ。				3,4	面接										
	3. ALTやICTの効果的な活用の在り方について学ぶ。				3,4	面接										
	4. 生徒に対して受容的・共感的な態度で接し、良好的な人間関係を構築するなど、生徒支援・理解に努める。				4,5	面接										
	5. 様々な教育活動に主体的に取り組む、指導教諭以外からも指導・助言を積極的に受け、実践的な指導力を身につけるよう取り組む。				1,2,3,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	実習															
成績評価基準	評価の方法：①実習校における取組状況(60%)、②教育実習日誌及びレポート(40%)により総合的に評価する。 評価の基準：①関心・意欲・技能・表現：教職への強い情熱をもって取り組み、生徒の発達段階に応じた授業実践及び人間関係の構築ができる。 ②知識・理解・思考・判断等：学習指導・生徒理解・生徒指導等の知識を有し、授業を実践できる。															
フィードバックの方法																
時間外の学習について	予習：実習校のオリエンテーション前に、実習校の教育方針等を確認するとともに、不明な点があれば当該オリエンテーションで質問し解消しておく。 復習：実習の振り返りを十分行い、自分の課題を明確にして教育実習Ⅱまでに解決に取り組む。															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：中学校学習指導要領(外国語編) 高等学校学習指導要領(外国語編 英語編) 参考資料等：必要に応じて適宜資料配布															
実務経験について	高等学校教員・県教委指導課・教職員課での実務経験をもとに学校現場で必要とされる資質・能力等について指導します。															
担当者からのメッセージ等	学校現場に出る前の最後の実習となります。実践的な指導力を身につけるために、積極的に授業以外の教育活動にも取り組んでください。 実習生の評価が本学の評価となります。一人ひとりが本学の代表であるという意識でのぞむことが必須です。 Email: ynigo@y-gakugei.ac.jp															

授業科目名	特別支援教育実習指導	教員名	田村 知津子 (実務経験)	免許・資格等との関係	保育士											
			松田 信夫 (実務経験)		幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC4-6010-000010	年次配当	川間 健之介 (実務経験)	(複数)	小学校教諭											
					河村 佐和子 (実務経験)	中学校教諭(英語)										
授業形態	演習	授業科目の取扱い	4年前後期	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					面接授業科目	特別支援学校教諭										
単位数	1				必修											
授業科目に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習(特別支援学校)															
授業テーマ	特別支援教育、教育実習の意義、事前準備と振り返り															
授業概要	限られた期間の特別支援学校教育実習を充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、特別支援学校の特色・課題等を把握して、実習に備える。実習体験後、実習を省察し、今後の課題を認識する。															
到達目標	1. 特別支援学校教育実習の意義・心得・責務・目標を理解し、説明することができる。															
	2. 特別支援学校教育実習の内容・活動を把握し、説明することができる。															
	3. 特別支援学校教育実習の特色と実際に把握し、指導案の作成や実習先での指導等に生かすことができる。															
	4. 実習体験からの学びを省察し、自分の成長に生かすことができる。															
	5. 今後の学習課題を認識し、その課題を解決するための方策を計画することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	実習の履修要件を満たしていること。 特に、原則2年次の通算GPAが2.5以上で、2年次の免許状必修科目のGPAが2.0以上に留意のこと。															
授業計画					目標	方法										
	事前指導															
	1. 教育実習の意義と心構え、サービスと遵守事項、実習日誌の作成				1	面接										
	2. 特別支援学校の授業構成と授業参観の視点、学習指導案の様式				2,3	面接										
	3. 個別の教育支援計画や個別の指導計画、IT、環境調整などの活用				2,3	面接										
	4. 教材教具やICTの活用				2,3	面接										
	5. 学習指導案の検討①(日常生活の指導、生活単元学習、自立活動)				2,3	面接										
	6. 学習指導案の検討②(作業学習、生活単元学習、自立活動)				2,3	面接										
	7. 模擬授業① 日常生活の指導				3	面接										
	8. 模擬授業② 生活単元学習(小学部・中学部)				3	面接										
	9. 模擬授業③ 生活単元学習(中学部・高等部)				3	面接										
	10. 模擬授業④ 自立活動(小学部・中学部)				3	面接										
	11. 模擬授業⑤ 自立活動(中学部・高等部)				3	面接										
	12. 模擬授業⑥ 各教科				3	面接										
	事後指導															
13. グループワークによる教育実習の振り返り				4,5	面接											
14. グループワークによる教育実習の学びの整理と課題の認識				4,5	面接											
15. グループ毎の討論結果の発表による学びや課題の共有と深化				4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、グループワーク、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法:①グループワークや発表への取組(10%)、②学習指導案の作成(30%)、③最終レポートの提出(60%)により、総合的に評価する。 評価の基準:①関心・意欲:実習校の事前研究に意欲的に取り組み、明確な実習テーマや目標を設定できる。 ②知識・理解:特別支援学校の教育や児童生徒の特徴を理解し、授業設計の工夫ができる。 ③思考・判断:実習体験を整理し、学びを深め、今後の課題を発見できる。															
フィードバックの方法	学習指導案、レポート、模擬授業について改善点をコメントする。発表について、授業内に講評する。															
時間外の学習について	予習:授業内容に関する情報収集・整理をし、意見交換できるようにしておく。または学習指導案を作成し解説できるようにしておく。(60分) 復習:授業後の課題や実習後の学びをまとめる。(30分)															
教材にかかわる情報	テキスト:『アクティブ・ラーニングで学ぶ特別支援教育』一芸社(藤田久美編著) 参考書:『実習に関するガイドブック』『教育実習実施にあたってのガイドライン(山口県教育委員会)』															
実務経験について	4名とも、特別支援学校での勤務経験を活かして実践的に指導します。															
担当者からのメッセージ等	教育実習の一環として大学内で実施される授業科目です。課題を自覚して積極的な姿勢で受講してください。 担当者の連絡先: E-mail: tamura@y-gakugei.ac.jp (田村) nmatsuda@y-gakugei.ac.jp (松田) skawamura@y-gakugei.ac.jp(河村)															

授業科目名	特別支援教育実習	教員名	田村 知津子(実務経験)	免許・資格等との関係	保育士													
			松田 信夫(実務経験)		幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UC4-6011-0000010	年次配当	川間 健之介(実務経験)	(複数)	小学校教諭													
					4年前後期	中学校教諭(英語)												
授業形態	実習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件		高等学校教諭(英語)												
					特別支援学校教諭	必修												
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科及び教職に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習(特別支援学校)																	
授業テーマ	特別支援学校、実態把握、実践と理論の統合																	
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、特別支援学校の教育活動に主体的に適用する機会である。経験豊かな指導教諭のもと、児童生徒との直接的な交流を通して、大学の学習では不足する部分を体験的に習得する場でもある。																	
到達目標	1. 障害のある児童生徒の発達特性や学校生活の実態に触れ、その理解を深める。																	
	2. 特別支援学校の組織、役割、機能を理解し、通常の学校との共通点及び相違点を説明できる。																	
	3. 特別支援学校の教員の職務内容、役割を理解し、特別支援学校の教員として必要な能力を具体的にイメージできる。																	
	4. 実習の体験を通して特別支援教育の方法や技術を習得し、学習指導案の作成や実地授業の実施に生かすことができる。																	
	5. 実践と理論の統合をめざし、自身の学習課題を発見することができる。																	
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	◎		
履修条件・注意事項	実習の履修要件を満たしていること。特に、原則2年次の通算GPAが2.5以上で、2年次の免許状必修科目のGPAが2.0以上に留意のこと。																	
授業計画																	目標	方法
	1. 実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。																1,2	面接
	2. テーマを持って児童生徒を観察し、積極的に活動に参加する。																1,2	面接
	3. 個別の教育支援計画について確認する。																1,2,4	面接
	4. 個別の指導計画について確認する。																1,3,4	面接
	5. 授業参観をする。																1,3,4	面接
	6. 学習指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について確認する。																4,5	面接
	7. 教材研究をする。																4,5	面接
	8. ICT活用の現状や学習環境の整備について確認する。																4,5	面接
	9. 実習校の教育課程に基づき指導を経験する。																1,3,4	面接
	10. 実施する授業の学習指導案を立案する。																1,3	面接
	11. 学習指導案に基づいた授業を実施する。																1,3,4	面接
	12. 実施した授業の指導方法及び評価について指導を受ける。																3,4,5	面接
	13. 実施した授業の検討後、反省に基づいた学習指導案を立案する。																3,4,5	面接
	14. 実習校の実習担当者・学級担任による指導を受ける。																2,4,5	面接
15. 実習日誌に総合的な反省と今後の課題を記述する。																5	面接	
アクティブ・ラーニング	教育実習																	
成績評価基準	評価の方法:①実習日誌等の記録(30%)、②実習中の取組状況(70%)により総合的に評価する。 評価の基準:① 関心・意欲、態度:実態把握の意欲が高く、実践を真摯に振り返り、課題を整理しようとする姿勢が十分にみられる。 ② 知識・理解:優れた学習指導案を作成、実践している。思考・判断:深い考察に基づき、工夫して授業を改善している。																	
フィードバックの方法	課題回収後、個別事項についてはコメントを記入し、全体で共有する事項については、次回確認する。																	
時間外の学習について	予習:実習校の実態や担当学級の幼児児童生徒の実態を日々観察し、記録し、理解を深めること。 復習:日誌等の記録を整理して課題を明確にするとともに、その評価を踏まえて改善策を考えること。																	
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:『特別支援学校幼稚部教育要領』、『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』、『特別支援学校高等部学習指導要領』(文部科学省)(各平成29年度版) 参考資料等:特別支援学校学習指導要領解説自立活動編、総則等編(幼・小・中)、総則等編(高)(文部科学省)																	
実務経験について	4名とも、特別支援学校での勤務経験を活かして、実践的に指導します。																	
担当者からのメッセージ等	2週間、各特別支援学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。 主体的に取り組むこと。また、幼児児童生徒にとっては「先生」であることを常に意識して責任ある言動に努めること。障害のあるなしにかかわらず、また障害の程度や実態にかかわらず、子どもたちは実習生を实によく見えています。 担当者の連絡先・E-mail:tamura@y-gakugei.ac.jp(田村) nmatsuda@y-gakugei.ac.jp(松田) skawamura@y-gakugei.ac.jp(河村)																	

授業科目名	保育実習指導 I	教員名	大田 紀子 佐藤 真澄 船場 大資 (複数)	免許・資格 等との関係	保育士	必修												
					幼稚園教諭													
ナンバリングコード	UC2-7001-1000000	年次配当	2年前後期	卒業要件	小学校教諭													
					中学校教諭(英語)													
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)													
					特別支援学校教諭													
単位数	2				SPARC教育プログラム													
教科目	必修科目(保育士)																	
系 列	保育実習																	
授業テーマ	保育実習の意義、保育実習の内容、保育実習の課題、自己評価																	
授業概要	<p>保育所実習と施設実習の事前および事後指導である。事前指導では、実習の意義・目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。実習手帳や保育指導案の書き方についても学ぶ。</p> <p>VTR 視聴や現場の実習指導者による特別講義により、施設の概要、実習生としての基本的な心構えや姿勢を学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、保育所および施設に対する認識を深めるとともに、今後の実習における自己課題を見出す。</p>																	
到達目標	<p>1. 保育実習の意義・目的を理解できる。</p> <p>2. 実習の内容を理解し、自らの課題が明確になる。</p> <p>3. 実習生としての基本的な心構えや姿勢を理解できる。</p> <p>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価等について理解できる。</p> <p>5. 事後指導を通して、実習を総括、自己評価し、今後の課題が明確になる。</p>																	
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	○		
履修条件・注意事項																		
授業計画																	目標	方法
	1. 保育実習の意義・目標・展開																1	面接
	2. 保育所の機能と保育士の役割																2	面接
	3. 実習テーマの設定/記録類の取り扱い																2,4	面接
	4. 保育指導案の考え方①: ねらいについて																2,4	面接
	5. 保育指導案の考え方②: 環境構成について																2,4	面接
	6. 保育指導案の立案と保育の技術①: 部分保育																2,4	面接
	7. 保育指導案の立案と保育の技術②: 設定保育																2,4	面接
	8. 保育所実習にむけての心構え																1,2,3,4	面接
	9. 保育所実習エピソード記録の書き方																4,5	面接
	10. エピソード記録を用いた総括・自己評価																5	面接
	11. 実習レポートの書き方																4,5	面接
	12. 実習レポートを用いた総括・自己評価																4,5	面接
	13. 個人面談/グループ討議による総括①: エピソード																5	面接
	14. 個人面談/グループ討議による総括②: 実習レポート																5	面接
	15. 討議による保育所実習での学びの共有																5	面接
	16. 福祉施設の機能と保育士の役割																2	面接
	17. 施設実習の意義・目標・展開																1	面接
	18. 児童養護施設の機能・役割																2,3	面接
	19. 障害児/障害者支援施設の機能・役割																2,3	面接
	20. 児童発達支援センターの機能・役割																2,3	面接
	21. 乳児院の機能・役割																2,3	面接
	22. 福祉施設の利用者の特性と支援方法																2,3	面接
	23. 実習テーマの設定																2,4	面接
	24. 記録類の取り扱い																2,4	面接
	25. 外部講師による講義: 児童養護施設																2,3	面接
	26. 外部講師による講義: 障害者支援施設																2,3	面接
	27. 外部講師による講義: 児童発達支援																2,3	面接
	28. 先輩の実習体験からの学び																2,3	面接
	29. 巡回教員との面談																1,2,3	面接
30. 施設実習にむけての心構え																1,2,3,4	面接	

アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：①授業態度（50%）、②レポート等の提出物（50%）を総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、関心・意欲、態度：ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができています。 ②知識・理解、思考・判断：保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。 VTR視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習：保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する。実習施設についてホームページ等で理解を深める。（各回45分程度） 復習：毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する。（各回45分程度） 日頃から社会福祉の制度や保育に関するニュースに関心を持ち、テレビやネット、新聞等で情報収集しておくこと。
教材にかかわる情報	テキスト：『保育者になる人のための実習ガイドブックA to Z』萌文書林 参考書：『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料等：福祉小六法
実務経験について	
担当者からのメッセージ等	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席することが望ましい。 毎授業時実践が行えるよう、ハサミ、のり、マーカー、クレパスを持参すること。 担当者の連絡先・E-mail：sato@y-gakugei.ac.jp（佐藤） ota@y-gakugei.ac.jp（大田）

授業科目名	保育実習 I	教員名	大田 紀子 佐藤 真澄 船場 大資 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC2-7002-100000	年次配当	2年前後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	4				SPARC教育プログラム											
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	保育実習															
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象の理解、施設の理解															
授業概要	保育実習 I は保育所での 10 日間の実習と児童福祉施設等の施設での 10 日間の実習で構成される。見学・観察・参加実習を中心に、保育所実習では、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。施設実習では、子ども(利用者)への理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。															
到達目標	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解することができる。 2. 乳幼児の発達や利用者等の個別のニーズを理解することができる。 3. 保育や養護等のねらいについて実践を通して理解することができる。 4. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	保育実習指導 I を履修していること															
授業計画						目標	方法									
	【保育所実習】															
	1. 実習園の方針や概要についての説明を受ける					1	面接									
	2. 保育の一日の流れを理解し、参加する					2, 3, 4	面接									
	3. 環境構成、子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録する					2, 3, 4	面接									
	4. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達や個人差について考察する					2, 3, 4	面接									
	5. 手遊びや絵本の読み聞かせなどの部分保育を行う					2, 3, 4	面接									
	6. 保育指導案を立案し、実践する					2, 3, 4	面接									
	【施設実習】															
	1. 施設の方針や概要についての説明を受ける					1	面接									
	2. 養護等の一日の流れを理解し、参加する					2, 3, 4	面接									
	3. 環境構成、利用者の生活場面、職員の支援について観察し、記録する					2, 3, 4	面接									
	4. 利用者の観察や関わりを通して利用者の個別のニーズや社会的背景について考察する					2, 3, 4	面接									
	5. 生活場面における利用者への援助を行う					2, 3, 4	面接									
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク															
成績評価基準	評価の方法：①実習施設の評価(60%)、②実習日誌等の記録(40%)を総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度、技能・表現：積極性、主体性を持って実習に取り組み、対象施設や対象者の理解に努めている。知識や経験をもとに対象者と関わり、保育実践を行っている。 ②知識・理解、思考・判断：実習経験をもとに省察できている、課題を明確にできている。															
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する(保育実習指導 I・II もしくは II で行う)。															
時間外の学習について	予習：実習指導(事前)の内容について整理しておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。															
教材にかかわる情報	テキスト：実習に関するガイドブック 参考書：『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』萌文書林 参考資料等：福祉小六法															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠くと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先・E-mail：sato@y-gakugei.ac.jp(佐藤) ota@y-gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	教員名	大田 紀子 佐藤 真澄 船場 大資 【オムニバス】	免許・資格等との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-7003-2000000	年次配当	3年前後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科目	選択必修科目(保育士)															
系 列	保育実習															
授業テーマ	保育実習の意義、保育実習の内容、保育実習の課題、自己評価															
授業概要	事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを行うなかで、保育実習Ⅱの意義、目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。VTR視聴や現場の実習指導者による特別講義により、保育士の専門性について学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、保育所に対する認識を深めるとともに、保育士の果たす社会的役割について考察する。															
到達目標	1. 保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅱの意義・目的を述べることができる。 2. 保育所の役割や機能、および保育士の専門性について説明することができる。 3. 保育課程を踏まえた保育計画の考え方や方法を説明することができる。 4. 事後指導を通して実習を総括、自己評価し、保育士の専門性について自分なりの考え方を述べるができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	2、3、4、11、13、14、15回は保育実習指導Ⅲと同時開講															
授業計画							目標	方法								
	1. 保育実習の意義・目標・展開と保育実習Ⅱの位置づけ(担当教員:大田紀子)						1	面接								
	2. 実習レポートを用いた保育実習Ⅰの総括・自己評価(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						1	面接								
	3. 個人面談/グループ討議による保育実習Ⅰの総括①:実習経験の共有(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						1	面接								
	4. 個人面談/グループ討議による保育実習Ⅰの総括②:実習を通して学んだこと(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						1	面接								
	5. 保育実習Ⅱの意義・目標・内容(担当教員:大田紀子)						1,2	面接								
	6. 保育士の専門性について(担当教員:大田紀子)						1,2	面接								
	7. 保育実習Ⅱの実習課題と実習テーマの設定(担当教員:大田紀子)						1,2,3	面接								
	8. 保育課程と保育計画の連続性(担当教員:大田紀子)						2,3	面接								
	9. 保育指導案立案:設定保育(担当教員:大田紀子)						2,3	面接								
	10. 保育指導案立案:全日保育(担当教員:大田紀子)						2,3	面接								
	11. 模擬保育実践(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						2,3	面接								
	12. 保育実習Ⅱに向けた心構え(担当教員:大田紀子)						1,2,3	面接								
	13. 実習レポートを用いた実習の総括・自己評価(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						4	面接								
	14. 個別面談による実習の総括(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						4	面接								
15. 討議による保育実習での学びの共有(担当教員:大田紀子・佐藤真澄・船場大資)						4	面接									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法:①授業態度(50%)、②レポート等の提出物(50%)を総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解、関心・意欲、態度:ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができています。 ②知識・理解、思考・判断:保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。															
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。 VTR視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。															
時間外の学習について	予習:保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する。実習で使用する教材(パネルシアター、ペーパーサート等)を作成する。(各回45分程度) 復習:毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する(期限厳守)。(各回45分程度) 日頃から福祉、保育に関する時事的話題に興味を持ち、テレビやネット、新聞等で情報収集すること。															
教材にかかわる情報	テキスト:『保育者になる人のための実習ガイドブックA to Z』萌文書林 参考書:『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料等:福祉小六法															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席することが望ましい。 担当者の連絡先・E-mail: sato@y-gakugei.ac.jp(佐藤) ota@y-gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	保育実習Ⅱ	教員名	大田 紀子 佐藤 真澄 船場 大資 【複数】	免許・資格等 との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-7004-2000000	年次配当	3年前後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	実習	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	選択必修科目(保育士)															
系 列	保育実習															
授業テーマ	保育内容、保育技術、乳幼児理解、保護者支援															
授業概要	認可保育所における10日間の保育実習															
到達目標	1. 保育所の役割や機能について、実践を通して理解したことを言語化できる。															
	2. 乳幼児理解を通じた保育者の援助について説明できる。															
	3. 保育指導案を立案し、実践することができる。															
	4. 保育実践の振り返りを通して、乳幼児理解について深めたことを言語化できる。															
	5. 保育所保育士としての自己の課題を自分の言葉で述べるができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	保育実習Ⅰを履修していること 保育実習指導Ⅱを履修していること															
授業計画						目標	方法									
	1. 養護と教育が一体となった保育に参加し、観察・記録する。					1,2,3,4	面接									
	2. 入所している子どもの保護者や地域の子育て家庭への支援について観察し、理解する。					1	面接									
	3. 関わりなどの援助を通して、乳幼児理解を深める。					2,4	面接									
	4. 保育指導案を立案・実践し、振り返りを行う。					3,4	面接									
5. 記録や実践の振り返りを通して、保育所保育士の専門性について考察する。					1,2,4,5	面接										
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク															
成績評価基準	評価の方法：①実習施設の評価(60%)、②実習日誌等の記録(40%)を総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度・表現：積極性、主体性を持って実習に取り組み、対象施設や対象者の理解に努めている。知識や経験をもとに対象者と関わり、責任感を持って保育実践を行っている。 ②知識・理解、思考・判断：実習経験をもとに保育を省察できている、課題を明確にできている。															
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する(保育実習指導Ⅱで行う)。															
時間外の学習について	予習：実習指導(事前)の内容について整理しておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。															
教材にかかわる情報	テキスト：実習に関するガイドブック 参考書：『保育者になる人のための実習ガイドブックA to Z』萌文書林 参考資料等：福祉小六法															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠くと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先・E-mail：sato@y-gakugei.ac.jp(佐藤) ota@y-gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	保育実習指導Ⅲ	教員名	佐藤 真澄 大田 紀子 船場 大資 【オムニバス】	免許・資格等との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-7005-2000000	年次配当	3年前後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム											
教科目	選択必修科目(保育士)															
系列	保育実習															
授業テーマ	保育実習の意義、保育実習の内容、保育実習の課題、自己評価															
授業概要	事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを行うなかで、保育実習Ⅲの意義、目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。VTR視聴や現場の実習指導者による特別講義により、保育士の専門性について学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、社会福祉施設に対する認識を深めるとともに、保育士の果たす社会的役割について考察する。															
到達目標	1. 保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲの意義・目的を述べることができる。 2. 社会福祉施設の社会的意義と保育士の果たす役割について説明することができる。 3. 社会福祉施設における支援の考え方と方法について説明することができる。 4. 事後指導を通して実習を総括、自己評価し、保育士の専門性について自分なりの考え方を述べるができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	2、3、4、11、13、14、15回は保育実習Ⅱと同時開講															
授業計画					目標	方法										
	1. 保育実習の意義・目標・展開と保育実習Ⅲの位置づけ(担当教員:船場大資)				1	面接										
	2. 実習レポートを用いた保育実習Ⅰの総括・自己評価(担当教員:担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				1	面接										
	3. 個人面談/グループ討議による保育実習Ⅰの総括①:実習経験の共有(担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				1	面接										
	4. 個人面談/グループ討議による保育実習Ⅰの総括②:実習を通して学んだこと(担当教員:担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				1	面接										
	5. 保育実習Ⅲの意義・目標・内容(担当教員:船場大資)				1,2	面接										
	6. 保育士の専門性について(担当教員:船場大資)				1,2	面接										
	7. 施設における保育士の役割(担当教員:船場大資)				1,2	面接										
	8. 実習を行う社会福祉施設の制度的位置づけ、機能、設置基準(担当教員:船場大資)				2,3	面接										
	9. 保育実習Ⅲの実習課題と実習テーマの設定(担当教員:船場大資)				1,2,3	面接										
	10. レクリエーションの企画(担当教員:船場大資)				2,3	面接										
	11. レクリエーションの実践(担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				2,3	面接										
	12. 保育実習Ⅲにおけた心構え(担当教員:船場大資)				1,2,3	面接										
	13. 実習レポートを用いた実習の総括・自己評価(担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				4	面接										
	14. 個別面談による実習の総括(担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				4	面接										
15. 討議による保育実習での学びの共有(担当教員:佐藤真澄・大田紀子・船場大資)				4	面接											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業															
成績評価基準	評価の方法:①授業態度(50%)、②レポート等の提出物(50%)を総合的に評価する。 評価の基準:①知識・理解、関心・意欲、態度:ディスカッション等において、積極的に発問や発言ができているか ②知識・理解、思考・判断:保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマを設定できる。実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。															
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。 VTR視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。															
時間外の学習について	予習:保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する。実習施設で行うレクリエーション等の企画書を作成する。(各回45分程度) 復習:毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する(期限厳守)。(各回45分程度) 日頃から福祉、保育に関する時事的話題に興味を持ち、テレビやネット、新聞等で情報収集すること。															
教材にかかわる情報	テキスト:『保育者になる人のための実習ガイドブックA to Z』萌文書林 参考書:適宜指示する。 参考資料等:福祉小六法															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席することが望ましい。 担当者の連絡先・E-mail: sato@y-gakugei.ac.jp(佐藤) ota@y-gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	保育実習Ⅲ	教員名	佐藤 真澄 船場 大資 大田 紀子 【複数】	免許・資格等との関係	保育士	選択										
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	UC3-7006-2000000	年次配当	3年前後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	実習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科目	選択必修科目(保育士)															
系 列	保育実習															
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象の理解、地域社会の理解															
授業概要	児童厚生施設又は知的障害児通園施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で10日間の実習を行う。保育実習Ⅰ(施設実習)での体験的な学びを基礎として、専門職としての知識、技術、倫理等を高め、実践力を身につける。さらには、多職種間、地域社会(家族を含む)との連携の方法についても学ぶ。															
到達目標	1. 利用者の個別のニーズについて、障害特性や社会的背景に関連付けて理解したことを言語化できる。 2. 利用者の最善の利益を具体化する方法について説明できる。 3. 地域社会との連携の方法について具体的に説明できる。 4. 保護者支援、家庭支援のための方法について具体的に説明できる。 5. 社会福祉の専門職としての自己の課題を自分の言葉で述べるができる。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	○	⑤	◎	⑥	・	⑦	・	⑧	○
履修条件・注意事項	保育実習Ⅰを履修していること。 保育実習指導Ⅲを履修していること。															
授業計画					目標	方法										
	1. 施設における養護・療育・支援等の全般に観察・参加し、記録する。				1,2,3,4	面接										
	2. 利用者の個人差や個別の事情について情報を収集し、考察することができる。				1,2,3,4	面接										
	3. 行事や日常的な交流への参加、記録等を通して、地域社会との連携の方法について学ぶ。				1,2,3,4	面接										
	4. カンファレンスや記録等を通して、保護者支援や家庭支援の方法について学ぶ。				1,2,3,4	面接										
5. 関わった事例や支援の経験を振り返り、社会福祉の専門職としてのあり方を考察する。				1,2,3,4	面接											
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク															
成績評価基準	評価の方法：①実習施設の評価(60%)、②実習日誌等の記録(40%)を総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度・表現：積極性、主体性を持って実習に取り組み、対象施設や対象者の理解に努めている。知識や経験をもとに対象者と関わり、責任感を持って支援を行っている。 ②知識・理解、思考・判断：実習経験をもとに支援を省察できている、課題を明確にできている。															
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する(保育実習指導Ⅲで行う)。															
時間外の学習について	予習：実習指導(事前)の内容について整理しておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。															
教材にかかわる情報	テキスト：実習に関するガイドブック 参考書：『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』萌文書林 参考資料等：福祉小六法															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	実習中の取り組みにおいて「社会人としての倫理」、「コミュニケーション力」、「教育的愛情」を著しく欠くと評価された場合、単位を認定しないことがある。 担当者の連絡先・E-mail：sato@y-gakugei.ac.jp(佐藤) ota@y-gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	教職実践演習	教員名	川野 哲也 二五 義博 森 俊博 山本 幸子 河村 佐和子 吉鶴 修 渡部 靖徳 (複数)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	CM4-8001-0211100	年次配当	4年後期	卒業要件	小学校教諭	必修										
					中学校教諭(英語)	必修										
授業形態	演習	授業科目の 取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)	必修										
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園、小学校、中学校・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教職実践演習															
授業テーマ	教員としての資質能力、実践的課題															
授業概要	これまでの学びを振り返り、教職員としての資質能力を高めていく。議題に即して自分なりに考えたり、グループで意見交換を行ったり、さらにはプレゼンテーションを行ったりする。															
到達目標	以下の資質能力の修得を確認する。															
	1. 使命感や責任感、教育的愛情等、															
	2. 社会性や対人関係能力、															
	3. 児童生徒の理解や学級経営の能力、															
	4. 教科の指導力、															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	・	④	○	⑤	○	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項	履修条件：教員免許取得予定の者、															
授業計画					目標	方法										
	1. オリエンテーション、教職実践演習について。				1,2,3,4,5	面接										
	2. 個人課題(教育法規、幼稚園教育要領、学習指導要領)				1,2,3,4	面接										
	3. 個人課題(使命感、責任感、教育的愛情)				1,2,3	面接										
	4. 個人課題(学校運営、地域とのかかわり、危機管理)				1,2,3	面接										
	5. 個人課題(情報機器の活用)				3,4,5	面接										
	6. 役割演技(子どものトラブルへの対応)				1,2,3	面接										
	7. 役割演技(学級経営)				1,2,3	面接										
	8. 役割演技(保護者対応)				1,2,3	面接										
	9. 模擬授業(子どもの発達に合わせたねらいの設定)				1,2,3,4,5	面接										
	10. 模擬授業または模擬保育(アクティブラーニング)				1,2,3,4,5	面接										
	11. 模擬授業または模擬保育(ICT機器の活用)				1,2,3,4,5	面接										
	12. 模擬授業または模擬保育(学習規律、学級経営との関連)				1,2,3,4,5	面接										
	13. 発展課題または模擬保育(豊かな表現)				1,2,3,4,5	面接										
	14. 発展課題または模擬保育(深い教材研究)				1,2,3,4,5	面接										
15. 発展課題または模擬保育(新任教師の成長)				1,2,3,4,5	面接											
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ディスカッション・ロールプレイ・模擬授業															
成績評価基準	評価の方法：①レポート50%、②ロールプレイ・グループワーク50%により総合的に評価する。 評価の基準：①思考・判断：これまでの学び、活動について深く考察ができていないか。 ②思考・判断、技能・表現：優れた授業実践を目指して計画を立案できるか。より現実的で効果的な実践のあり方が表現できるか。															
フィードバックの方法	指導案・レポート・模擬授業について改善点を指摘する。必要に応じて個別指導を行う。															
時間外の学習について	予習：事項につき十分に調べる事、過去の学修内容を復習すること、与えられた課題に取り組むこと。(90分程度) 復習：振り返りを行うこと。自らの課題を克服するためのボランティア活動に参加すること。関連する書籍を読むこと。(90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：赤井悟ほか著『教師力を鍛えるケースメソッド123：学校現場で生じる事例とその対応』ミネルヴァ書房、2014年。 参考資料等：平成29年度版学習指導要領、平成29年度版幼稚園教育要領 中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』平成17年															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先は授業内で周知します。															

授業科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)	教員名	松村納央子 佐藤 真澄 大田 紀子 村中 李衣 (複数)	免許・資格等との関係	保育士	必修										
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	UC4-8002-1200000	年次配当	4年後期	卒業要件	小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	2				SPARC教育プログラム											
教科及び教職に関する科目	教育実践に関する科目(幼稚園)															
各科目に含めることが必要な事項	教職実践演習															
教科目	必修科目(保育士)															
系 列	総合演習															
授業テーマ	保育者としての資質能力の形成・定着、保育実践力の向上															
授業概要	大学での授業や実習を通して習得してきた知識や技術等が、保育士、幼稚園教諭として最小限必要な資質能力として形成されているかを確認する。また、模擬保育等のロールプレイングやディスカッションを通してこれまでの学びを振り返り、保育における現代的な課題も含めた新たな課題を見出す。これらを踏まえ、自己の課題を明確化し、保育実践において必要となる資質を高めていくことを目指す。															
到達目標	1. 保育士、幼稚園教諭として必要な専門的知識及び技術、判断力、倫理観等が習得、形成されているか確認する。															
	2. 授業や実習等を通じた体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的な課題について現状分析・検討・考察する。															
	3. 自己の課題を明確にし、保育士、幼稚園教諭として保育実践において必要となる基礎的な資質能力の定着と向上を図る。															
学修成果との関係	①	・	②	○	③	・	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	◎
履修条件・注意事項																
授業計画						目標	方法									
	1. オリエンテーション					1,2	面接									
	2. 特別講義「保育のマナーとコミュニケーション」					1,3	面接									
	3. 子ども理解-個の理解と集団づくり					1,3	面接									
	4. ロールプレイング①:4・5月の模擬保育					1,2,3	面接									
	5. ロールプレイング②:6・7月の模擬保育					1,2,3	面接									
	6. ロールプレイング③:8・9月の模擬保育					1,2,3	面接									
	7. ロールプレイング④:10・11月の模擬保育					1,2,3	面接									
	8. ロールプレイング⑤:12・1月の模擬保育					1,2,3	面接									
	9. ロールプレイング⑥:2・3月の模擬保育					1,2,3	面接									
	10. ロールプレイングの振り返り①:個人の省察					1,2,3	面接									
	11. ロールプレイングの振り返り②:共同の省察					1,2,3	面接									
	12. ICT活用について					2,3	面接									
	13. 保育における相談援助について					2,3	面接									
	14. 特別講義「関係機関・地域との連携・協働」					2,3	面接									
15. まとめと今後の課題					1,2,3	面接										
アクティブ・ラーニング	ロールプレイング、ディスカッション															
成績評価基準	評価の方法:①ロールプレイング・ディスカッションへの参加度(50%)、②課題・レポート(50%)により評価する。 評価の基準:①知識・理解、関心・意欲、態度:これまで習得してきた保育者として必要な知識や技術を用いて保育実践を行うことができる、自分なりの意見を述べるができる。 ②知識・理解、思考・判断、態度:自己を振り返ることで課題を明確化し、保育者としての資質を向上させようとしている。															
フィードバックの方法	ロールプレイングやディスカッションした内容を振り返り、コメントをする。															
時間外の学習について	予習:資料収集、模擬保育に関する教材研究や準備を行い、保育指導案を推敲する。(各回90分程度) 復習:授業内容を整理する。自分や他者の模擬保育を振り返り、改善点や課題を見出す。(各回90分程度)															
教材にかかわる情報	テキスト:平成29年度告示 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考書・参考資料等:適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	担当者の連絡先・E-mail:matsumura@y-gakugei.ac.jp(松村) satoh@y-gakugei.ac.jp(佐藤) ota@y-gakugei.ac.jp(大田)															

授業科目名	卒業研究	教員名	松田 信夫 他	免許・資格等との関係	保育士											
					幼稚園教諭											
ナンバリングコード	CM4-9001-0000000	年次配当	4年前後期		小学校教諭											
					中学校教諭(英語)											
授業形態	演習	授業科目の取扱い	面接授業科目		高等学校教諭(英語)											
					特別支援学校教諭											
単位数	4	卒業要件	初等幼児教育専攻	必修												
			英語教育専攻	必修												
授業テーマ	論文の執筆、研究発表、討論															
授業概要	本学での学びの集大成として、子どもに関わるテーマを設定し、各自の論点の明確化と整理、参考文献・資料収集、論文としての表現に関する指導を行う。受講者各自の卒業論文の論旨及び重要部分に関する報告を踏まえて討論をおこなう。															
到達目標	1. 教育研究活動を企画・立案し、効果的に実践し、その意義を明確にすることができる。 2. 自らの研究内容を整理した上で、その成果と主張を明確に伝える。 3. 研究成果を報告し、質疑応答をすることで相互のコミュニケーションを確保して、建設的に議論し合うことができる															
学修成果との関係	①	・	②	・	③	○	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	○	⑧	◎
履修条件・注意事項																
授業計画					目標	方法										
	授業としては概ね 30 時間、学生の進行状況に応じて担当教員から以下の項目に関する学習支援を受ける。それを基に論文を執筆する。															
	・ 教育学が解明の対象とする諸現象を文化的社会的な観点やグローバルな観点から広く理解する				1	面接										
	・ 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、ウェブアーカイブなどを駆使して情報を収集する				1	面接										
	・ 外国語運用能力、統計分析、史料解析、観察法、情報処理など研究手法の基礎を習得する				1	面接										
	・ 具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味する				1	面接										
	・ グループワークに必要となる協働的態度を習得する				1,2,3	面接										
	・ 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得する				1,2,3	面接										
・ 研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得する				1,2,3	面接											
・ 研究成果への自他の評価を踏まえて、発展的に研究・実践を継続する				1,2,3	面接											
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション															
成績評価基準	評価の方法：①指導教員(主査)による総合的評価(80%)、②副査による研究成果の評価(20%)により総合的に評価する。 評価の基準：①②態度、思考・判断、技能・表現：履修者自身の明確でオリジナルなテーマ設定がなされているか、先行研究が適切に把握されているか、論文構成・また各部分の立論や記述に論理性があるか、適切な参考文献・資料が引用されているか、建設的な議論が展開されているか。															
フィードバックの方法	受講生それぞれに個別の課題に対し、その都度助言を行う。															
時間外の学習について	予習： } 受講生それぞれの課題に応じて資料の整理と分析を行う(各回90分以上) 復習： }															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：適宜紹介する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	自学自習の態度で臨むこと。また調査・研究・討論にあたっては人権等に配慮し、誠実な態度で臨むこと。 担当者の連絡先は授業内で周知します。															

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号

電話(083)972-3288

F A X(083)972-4145

URL <https://www.y-gakugei.ac.jp>